

蒲郡市
男女共同参画に関する意識調査
報告書

令和7年3月
蒲 郡 市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
II. 調査結果の総括	3
1. 市民調査結果の総括	3
2. 事業所調査の総括	7
III. 調査結果（一般市民）	9
1. あなた自身に関することについて	9
2. 男女平等に関する意識について	15
3. 家庭生活について	40
4. あなたの仕事の状況や女性の活躍に関することについて	45
5. 仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について	50
6. 地域活動・防災対策等について	61
7. 男女の人権について	66
8. 多様性について	80
9. 男女共同参画のまちづくりについて	86
IV. 調査結果（事業所）	91
1. 貴事業所について	91
2. ワーク・ライフ・バランスについて	93
3. 育児・介護について	95
4. 女性の活躍推進について	100
5. 多様性について	105
6. ハラスメント対策について	106
7. 男女共同参画全体について	108
V. 自由意見集	109
VI. 調査票	119
市民意識調査票	119
事業所調査票	135

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和8年度から開始する「第4次蒲郡市男女共同参画プラン」策定の基礎資料として、市民・事業所の男女共同参画に関する意識や普段の行動などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査概要

区分	一般市民調査	事業所調査
調査対象者	蒲郡市在住の18歳以上の市民	蒲郡市内の事業所
抽出方法	各年代で250人ずつを無作為抽出 (年代：10～20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上)	蒲郡商工会議所議員企業100社
調査方法	郵送配布・郵送回収 WEB回答	郵送配布・郵送回収 WEB回答
調査期間	令和6年10月25日(金)～ 令和6年11月15日(金)	令和6年10月25日(金)～ 令和6年11月15日(金)
配布数	1,500件	100件
有効回収数	709件	51件
有効回収率	47.3%	51.0%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- グラフにおける設問の選択肢については簡略化している場合があります。

II. 調査結果の総括

1. 市民調査結果の総括

男女平等に関する意識について

- 男女共同参画に関する言葉の認知度では、「ジェンダー」や「選択的夫婦別氏（姓）制度」については9割弱が言葉を知っている一方で、「アンコンシャス・バイアス」や「アウティング」は2割未満となるなど、言葉によって認知度の差が非常に大きい。
- あらゆる分野の男女の地位について、「学校教育の場」以外では全体的に男性優遇の傾向が強く、特に、「政治の場」では全体の8割強が男性優遇だと感じている。女性は各分野で「男性優遇」の割合が男性に比べて大幅に高いことから、特に女性は社会のあらゆる場面において「男性優遇」を強く感じている傾向にある。
- 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について、『反対派』が『賛成派』を18.7ポイント上回っている。また、令和1年度調査と比較すると、令和6年度調査では『反対派』が5.9ポイント多くなっている。
- 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきだ」という考え方に『賛成派』の理由として、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変」が60.2%と多くなっており、固定的性別役割分担意識が高い人は、妻が家庭の役割を担うことが当然だという前提があることがうかがえる。
- 自分の子どもに望むこと（3つまで選択）では、女の子・男の子ともに「思いやり・優しさをもつこと」が望まれている。一方で、最も望むこと（1つだけ選択）は、女の子では「思いやり・優しさをもつこと」、男の子では「自立心をもつこと」となっており、子どもに最も望むことは性別によって異なる。
- 男女のイメージについて尋ねたところ、「女性は感情的になりやすい」という思い込みを持つ人が59.1%いることがわかった。また、「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきだ」という考え方に『反対派』であるにもかかわらず、様々な場面において性別による無意識の思い込みがある層が3割半ばいる。

家庭生活について

- 家庭での役割分担において、「妻」は家事の役割、「夫」は生活費を稼ぐ役割を担う傾向にある。共働きの家庭においてもその傾向は変わらないことから、蒲郡市の家庭では、「夫は仕事で生活費を稼ぎ、妻は家事を中心に負担し仕事は家計の補助的に行う」という役割分担がされている現状がうかがえる。
- 共働きの家庭や子育て中の家庭について、1日のうちで家事に費やす時間は男性より女性の方が圧倒的に長いことから、女性の家事負担が大きいことがわかる。

仕事の状況や女性の活躍に関することについて

- 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすにあたり障害となるものについて、男女ともに「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が最も多くなっており、女性の家事負担が大きいことが女性リーダーを輩出することの阻害要因になっていると考えられる。
- 仕事をするうえでの悩みでは、男女ともに「収入が少ない」が最も多い。また、男性は女性より「労働時間が長い」が、女性は男性より「家庭生活との両立が難しい」が約 10.0 ポイント多くなっており、男女で違いが見られた。
- 管理職以上に昇進することについて、男女ともに「責任が重くなる」が最も多いが、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」が男性より 19.4 ポイント多くなっており、仕事と家庭の両立を懸念する傾向が強い。

仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について

- 生活の中の優先度について、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先させたいという希望があるが、現実では「仕事」を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。一方で、女性は希望でも現実でも「家庭生活」を優先させている結果となった。
- 女性、男性が仕事をもつことについて、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が女性では 52.0%、男性では 90.4%となった。女性では、「子供ができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 30.7%となっており、出産を機に仕事をやめることを望む層も一定数いることがわかる。
- 女性が出産や介護などを機に離職しないために必要なことでは、「保育サービスの充実」「家事・子育て支援サービスの充実」といった子育て支援を求める意見と、「職場の同僚の理解促進」といった職場への理解を求める意見が多くなっている。
- 男性が家事・子育て・介護等を行うことについて、「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が 73.8%と多くなっている。しかし、「仕事と両立させることは現実として難しい」も 48.1%となっていることから、男性が家事等を行うことは当然という意識はありつつも、仕事によってそれが阻まれている現状がうかがえる。
- 男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加していくために必要なことでは、「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 66.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解を深めること」が 52.8%となっている。

地域活動・防災対策等について

- 地域活動に参加している割合は43.2%となり、男女で大きな差はみられない。
- 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについて、『必要派』が男性では95.0%、女性では86.9%と、女性より男性の方が必要だと感じている。また、『必要派』に対してどのようにすれば女性が参画できると思うか尋ねたところ、「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が最も多くなった。一方、『不要派』に不要だと思う理由を尋ねたところ、「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が最も多くなったことから、家事の役割は女性が担うものという前提があることがうかがえる。
- 男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるために必要な取り組みでは、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が68.1%と最も多くなった。
- 災害時の避難所運営に必要だと思うことでは、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が78.3%と最も多くなった。

男女の人権について

- DVにあたる行為のうち、身体的な行為（なぐる、けるなど）を暴力だと認識する割合は9割以上と高いが、「何を言っても長時間無視し続ける」や「携帯電話やメールをチェックしたり、外出や人付き合いを制限したりする」といった行為を暴力だと認識する割合は5割半ばとなった。
- DVにあたる行為のうち、すべての項目について「どんな場合でも暴力にあたる」と認識している割合は41.3%となった。暴力にあたらない場合があると回答した人に対しその理由を尋ねたところ、「夫婦またはパートナーの喧嘩の範囲だと思う」が43.6%となった。
- DVを受けたことがある割合は13.7%となり、そのとき「だれ（どこ）にも相談しなかった」割合が48.5%となった。理由として、「自分にも悪いところがあった」と思った人が42.6%となった。
- 蒲郡市の相談窓口について、法律相談やこども家庭センターの認知度は5割以上となったが、DV相談窓口や外国人相談窓口の認知度は3割強にとどまっている。また、相談窓口の情報入手方法としては、「市の広報誌」が62.8%と最も多くなっている。
- 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律のために市が取り組む必要があることでは、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が51.3%と最も多くなっている。

多様性について

- 結婚、家庭、離婚についての考え方では、それぞれ個人の自由であるという意見に『賛成派』の割合が6割以上となっている。
- 自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがある割合は3.0%となった。また、周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人がいるかについて、「いる」が11.1%となった。
- 身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、「自分の親」や「自分の子ども」といった血縁関係にある人より、「友人」や「職場の人」といった他人の方が、変わらずに接することができると思う割合が多くなっている。
- 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会を作るために必要なことでは、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が52.6%と最も多く、次いで「教育現場での啓発活動（性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など）」が45.8%となっている。

男女共同参画のまちづくりについて

- 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきことは、「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が57.0%と最も多く、次いで「学校において男女平等教育を浸透させる」が45.8%、「男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる」が33.7%となっている。
- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことについて、「市の広報誌」が66.1%と最も多く、次いで「小・中学校の教育」が47.8%、「市の公式ホームページ」が43.6%となっている。

2. 事業所調査の総括

従業員の状況について

- 従業員の正規・非正規雇用割合について、正規雇用の男性は 82.3%、女性は 53.7%となっており、女性従業員の非正規割合が多くなっている。
- 管理職に占める女性の割合は、10.3%となっている。

ワーク・ライフ・バランスについて

- ワーク・ライフ・バランス施策では、有給休暇の半日単位での利用を実施中の割合が 80.4%となっている一方で、フレックスタイム勤務や在宅勤務（テレワーク）制度の導入、育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入については実施予定がない割合が 6 割以上となっている。
- ワーク・ライフ・バランス支援を進めていくうえでの課題は、「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまふ」が 51.0%、「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が 47.1%と、人手不足が課題に挙がっている。

育児・介護について

- 令和 5 年度の育児休業の取得割合について性別で見ると、「取得した」割合は女性で 100.0%の一方、男性で「取得した」割合は 55.4%となっている。
- 令和 5 年度の介護休業の取得人数は、男性は 0 人、女性は 6 人となっている。
- 令和 4 年 4 月からの育児・介護休業法の改正後の取り組みについて、「個別の制度周知・休業取得意向確認」や「育児休業を取得しやすい雇用環境の整備の措置」を実施していない割合が 4 割以上となっている。また、令和 4 年 10 月から創設された「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」について、制度に対応していない割合が 33.4%となっている。
- 育児・介護休業制度を定着させるために行っていることでは、「従業員への制度に関する情報提供」「制度を利用しやすい雰囲気づくり（上司の理解や同僚の協力など）」が 39.2%と最も多くなっている。
- 育児・介護休業制度の利用を進めていくうえで課題となることでは、「育児・介護休業期間中の代行要員の確保及び費用」が 52.9%と最も多くなっている。
- えるぼし認定やくるみん認定などといった国や県が定めている認証制度について、全項目について「知らないが」6 割以上となっており、認知度が低いことがわかる。

女性の活躍推進について

- 女性の活躍推進への取り組み状況では、「女性職員の採用拡大」「昇進・昇格基準の明確化」「出産・育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」について実施中の割合が4割以上となっている。
- 女性従業員の働き方として最も多いケースは「育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける」が58.8%となっている。また、女性従業員にどのように働いてほしいかについては、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を継続してほしい」が56.9%となっている。
- 女性従業員が活躍するメリットとして、「人的資源の有効活用ができる」「労働力の確保ができる」というメリットが挙げられている。また、「女性だからというわけではなく、男女が対等な職場である」も52.9%と多くなっている。
- 管理職への女性登用について、「積極的に登用していきたい」が54.9%、「特に増やしていく考えはない」が39.2%となっている。女性の管理職を増やすために必要なことでは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が50.0%と最も多い。

多様性について・ハラスメント対策について

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の従業員への取り組みについては、「特に何もしていない」が52.9%と最も多くなっている。
- セクシュアル・ハラスメント対策、パワー・ハラスメント対策では、就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にすることや、相談先を設けるといった対策方法が多くなっている。

男女共同参画全体について

- 男女共同参画を進めるにあたって市が力を入れていくべきことについて、「保育施設や保育サービスの充実」が58.8%と最も多く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」が41.2%となった。
- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことについて、「市の広報誌」が56.9%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が43.1%、「セミナーやシンポジウム」が29.4%となっている。

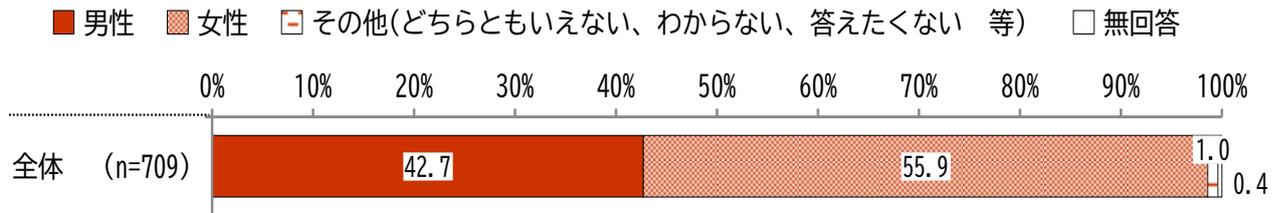
Ⅲ. 調査結果（一般市民）

1. あなた自身に関することについて

問1 性別【〇は1つ】

➤ 回答者の性別は、「女性」が55.9%、「男性」が42.7%となっている。

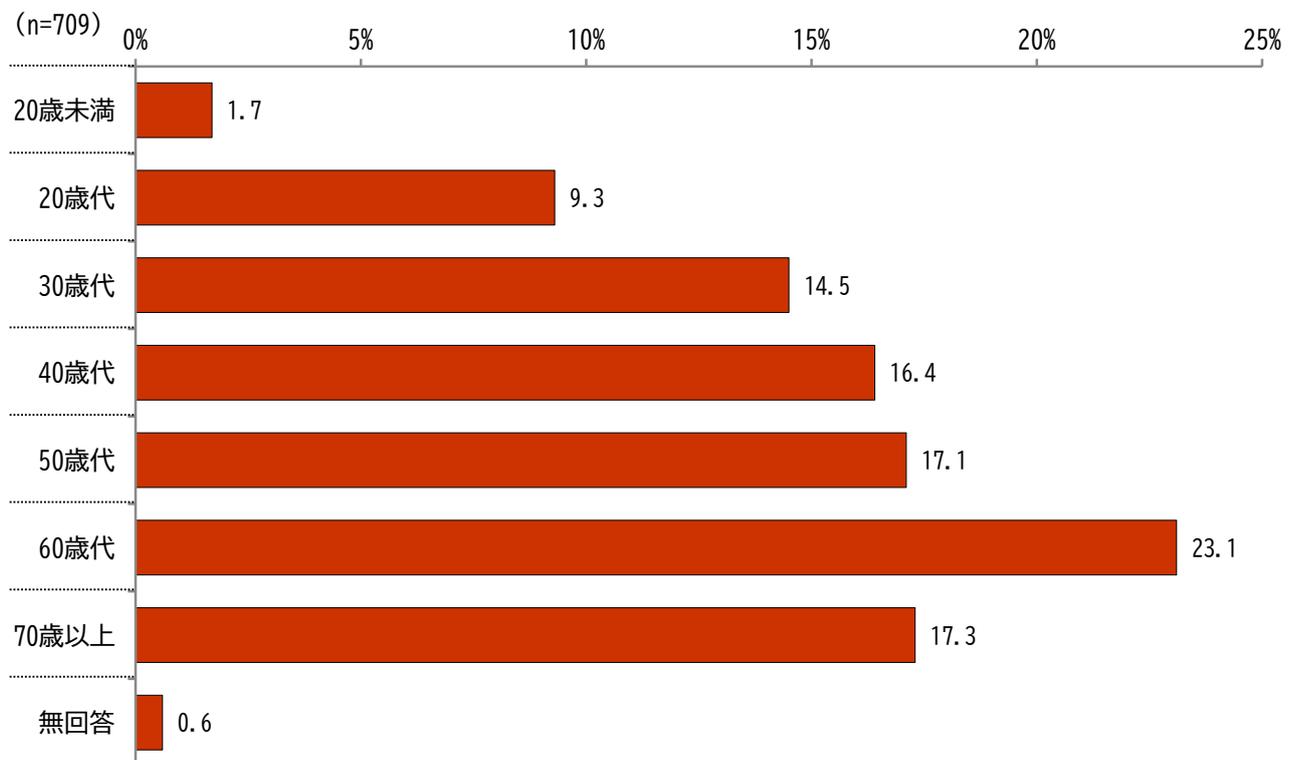
図表1 性別



問2 年齢※令和6年10月1日現在【〇は1つ】

➤ 回答者の年齢は、「60歳代」が23.1%と最も多く、次いで「70歳以上」が17.3%、「50歳代」が17.1%となっている。

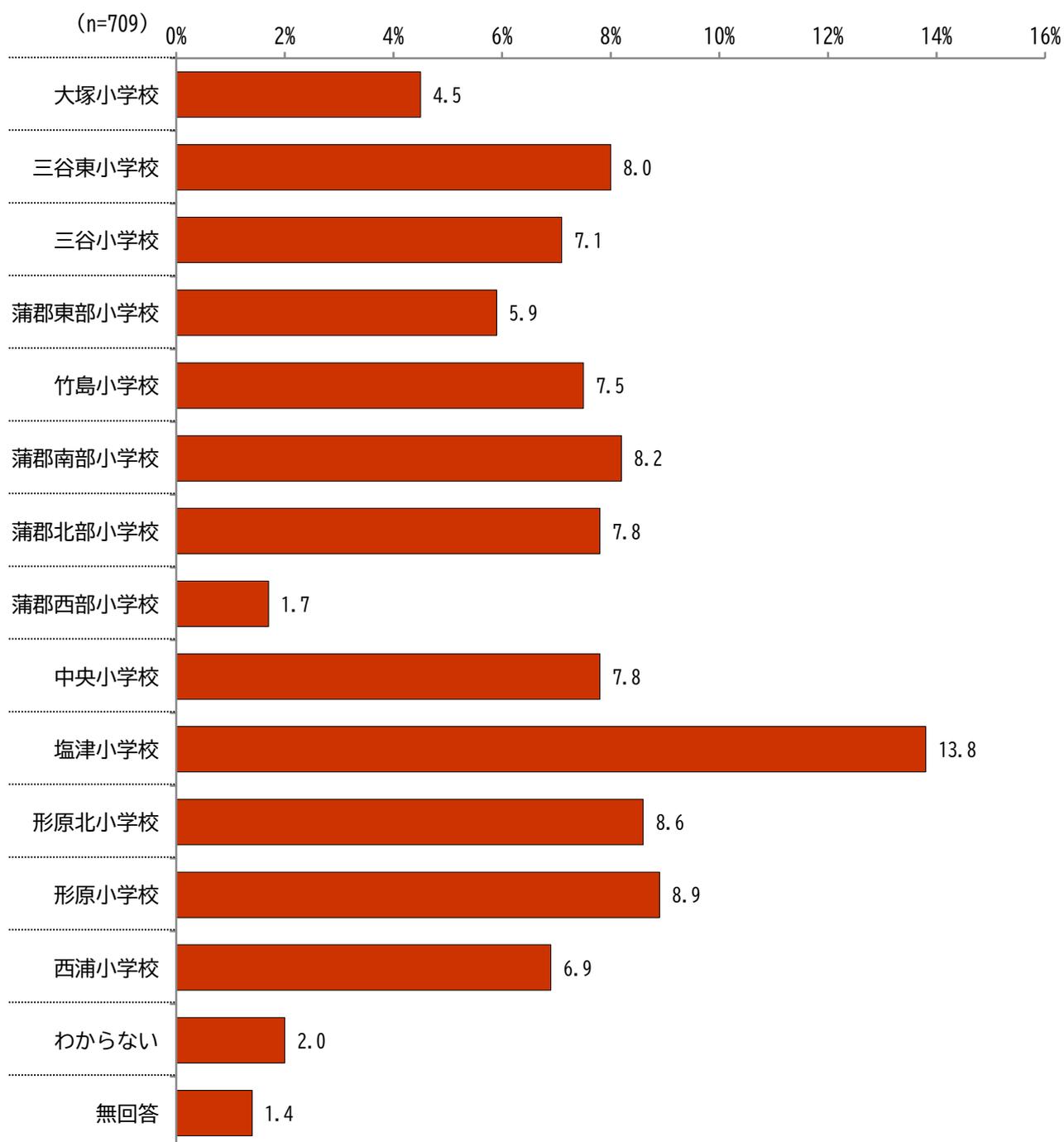
図表2 年齢



問3 お住まいの小学校区【〇は1つ】

- 回答者の住んでいる小学校区は、「塩津小学校」が13.8%と最も多く、次いで「形原小学校」が8.9%、「形原北小学校」が8.6%となっている。

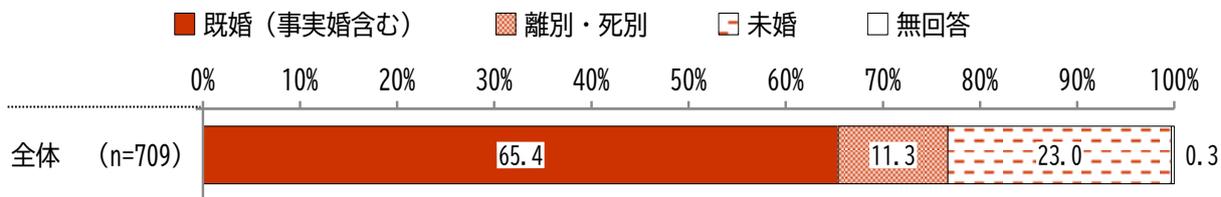
図表3 お住まいの小学校区



問4 婚姻状況【〇は1つ】

- 回答者の婚姻状況は、「既婚（事実婚含む）」が65.4%、『未婚』（「離婚・死別」+「未婚」）が34.3%となっている。

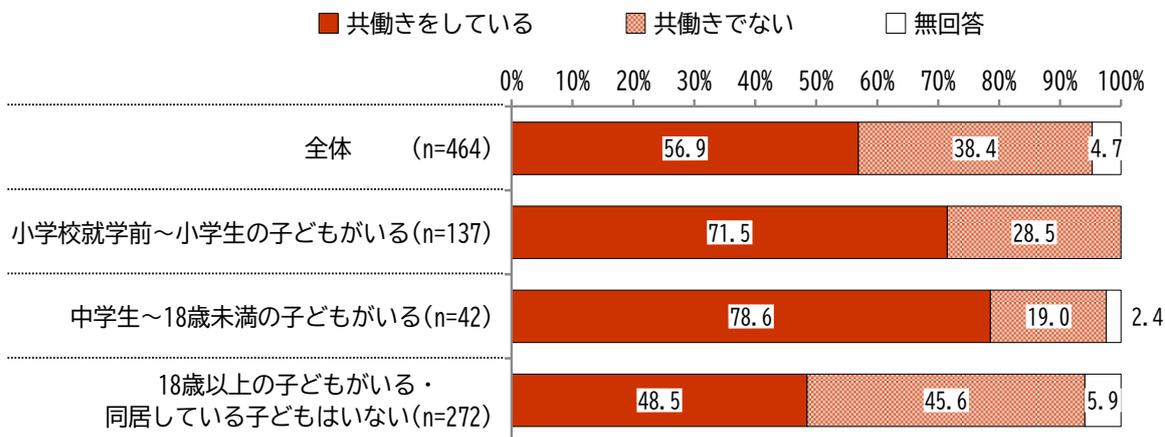
図表4 婚姻状況



問4-1 共働きについて（子どもの年齢別）【〇は1つ】

- 既婚者のうち、全体で見ると、「共働きをしている」が56.9%、「共働きでない」が38.4%となっている。
- 子どもの年齢別で見ると、18歳未満の子どもがいる家庭では「共働きをしている」が約7割以上となっている。

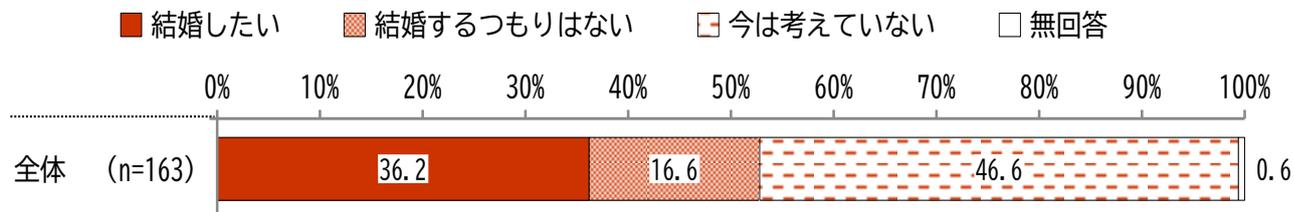
図表5 共働きについて（子どもの年齢別）



問5 結婚の希望（未婚の方のみ）【〇は1つ】

- 未婚者に結婚の希望について尋ねたところ、「今は考えていない」が46.6%、「結婚したい」が36.2%となっている。

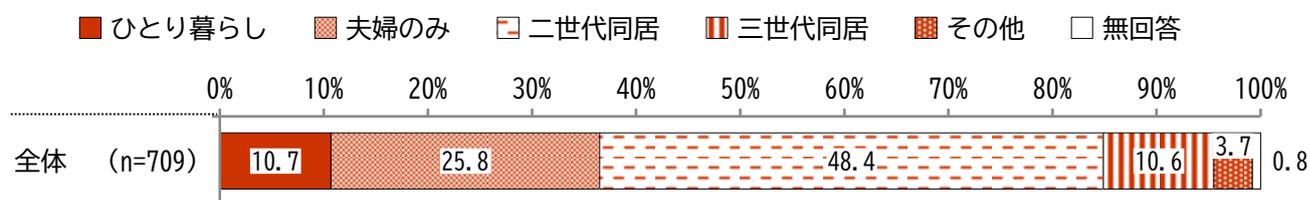
図表 6 結婚の希望（未婚者のみ）



問6 世帯構成【〇は1つ】

- 回答者の世帯構成は、「二世世代同居」が48.4%、「夫婦のみ」が25.8%となっている。

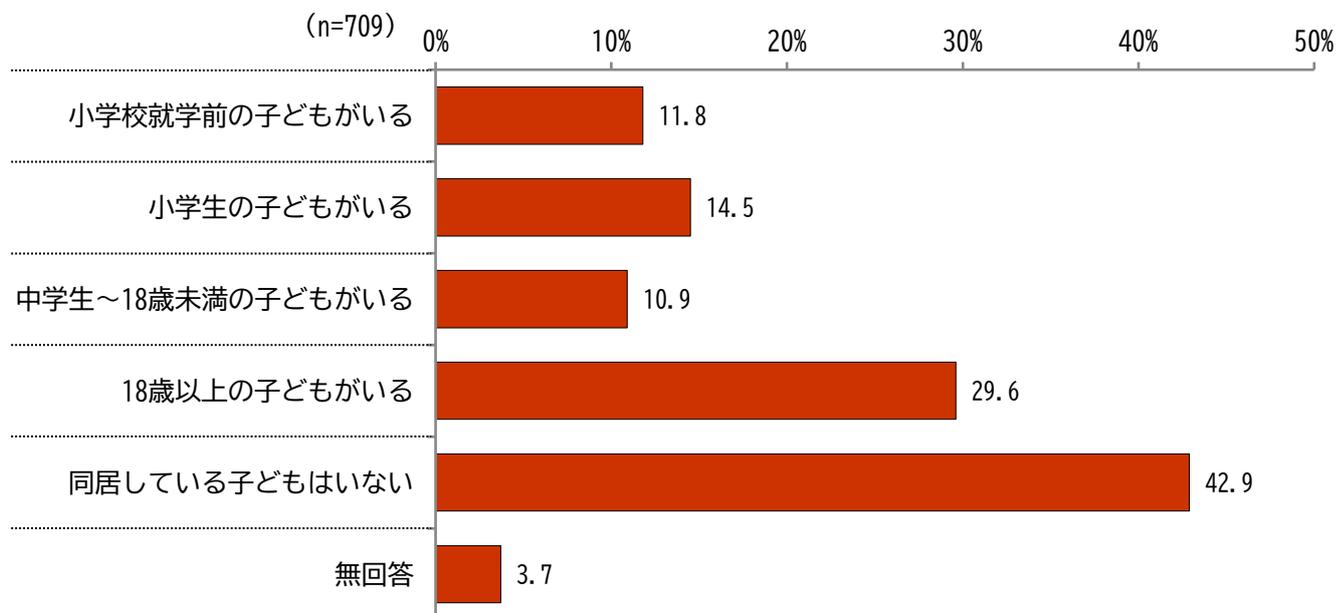
図表 7 世帯構成



問7 子どもの有無【〇はいくつでも】

➤ 同居の子どもの有無については、「同居している子どもはいない」が42.9%と最も多く、次いで「18歳以上の子どもがいる」が29.6%、「小学生の子どもがいる」が14.5%となっている。

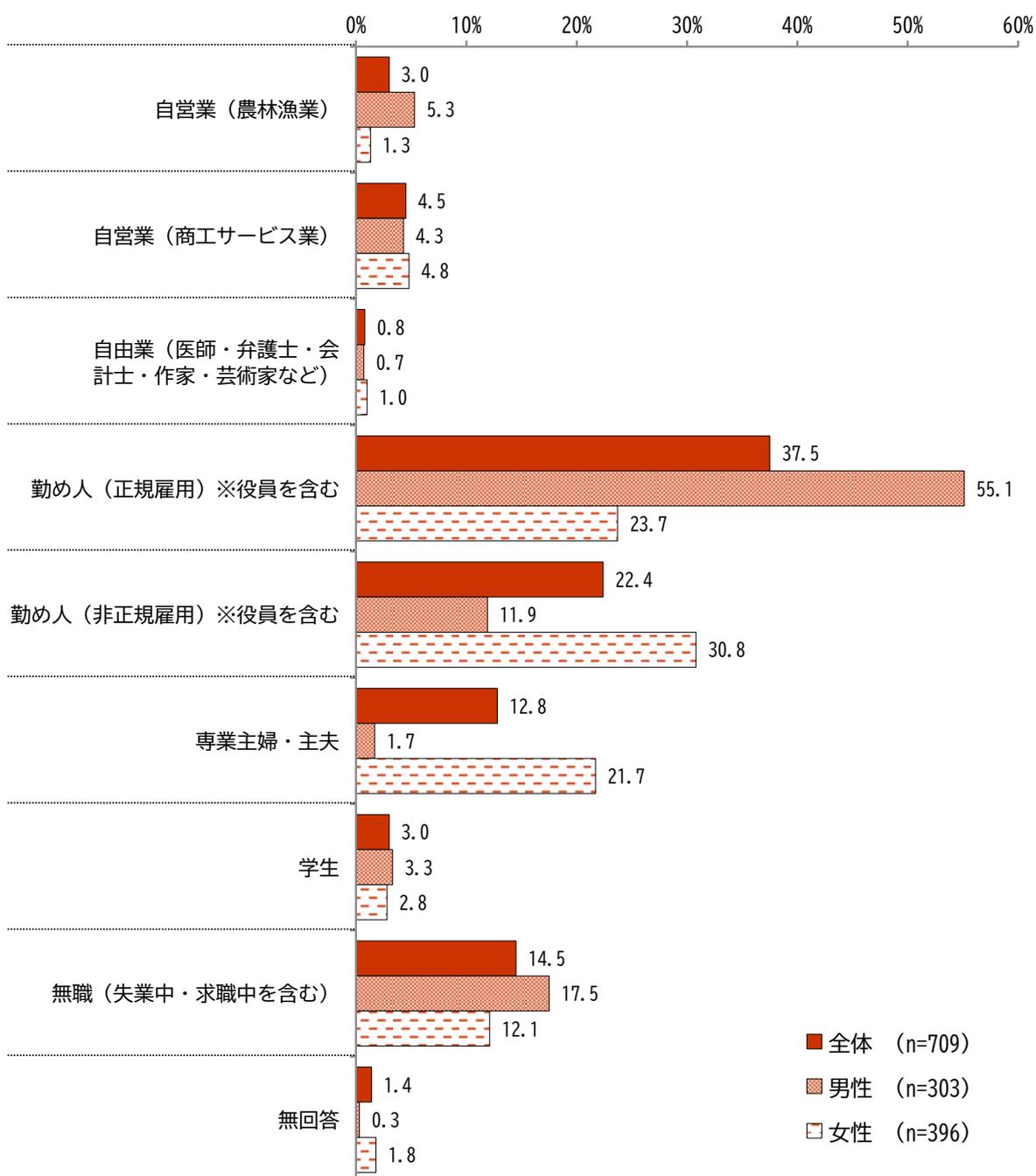
図表8 子どもの有無



問8 就労状況【〇は1つ】

- 回答者の就労状況は、「勤め人（正規雇用）※役員を含む」が37.5%と最も多く、次いで「勤め人（非正規雇用）※役員を含む」が22.4%、「無職（失業中・求職中を含む）」が14.5%となっている。
- 性別で見ると、男性では「勤め人（正規雇用）※役員を含む」が55.1%と半数を超えている一方で、女性では「勤め人（非正規雇用）※役員を含む」が30.8%と最も多くなっている。また、「専業主婦・主夫」では、男性が1.7%、女性が21.7%と女性が男性より20.0ポイント多く、専業主婦・主夫の割合は男女で大きな差がある。

図表9 就労状況（性別）



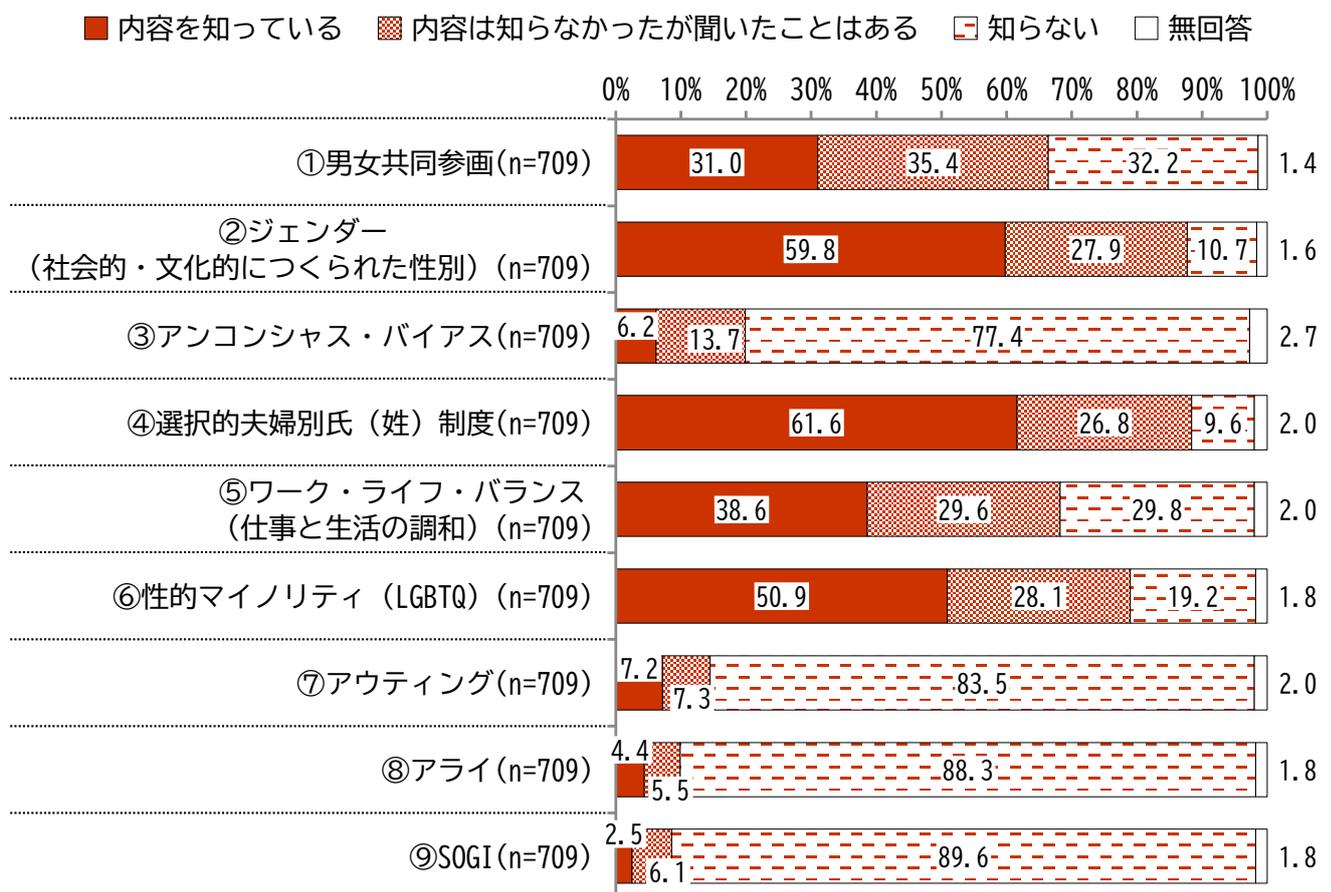
2. 男女平等に関する意識について

問9 次にあげる①から⑨までの言葉について、それぞれ該当する番号を選んでください。

【①～⑨のそれぞれについて〇は1つ】

- 男女共同参画に関わる言葉の認知について、「②ジェンダー」「④選択的夫婦別氏（姓）制度」では『知っている』（「内容を知っている」＋「内容は知らなかったが聞いたことはある」）が9割弱と特に多くなっている。
- 「①男女共同参画」「⑤ワーク・ライフ・バランス」「⑥性的マイノリティ」では『知っている』が6割以上となっている。
- 「③アンコンシャス・バイアス」「⑦アウティング」では『知っている』が2割未満、「⑧アライ」「⑨SOGI」では1割未満と認知度が低い。

図表 10 男女共同参画に関わる言葉の認知

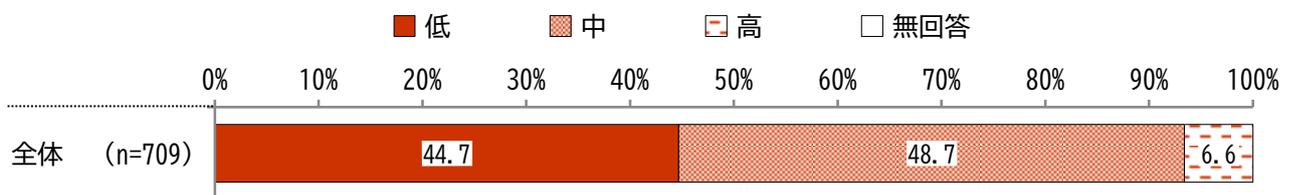


問9 言葉の理解度

- 問9の各言葉に対して、「内容を知っている」と回答した場合2点、「内容は知らなかったが聞いたことはある」と回答した場合1点、「知らない」と回答した場合0点とする。
- ①～⑨の各得点の合計得点について、0～6点を「低」、7～12点を「中」、13～18点を「高」とし、理解度に応じてクラス分けを行った。

➤ 男女共同参画に関する言葉の理解度に応じてクラス分けを行うと、「低」が44.7%、「中」が48.7%、「高」が6.6%となっている。

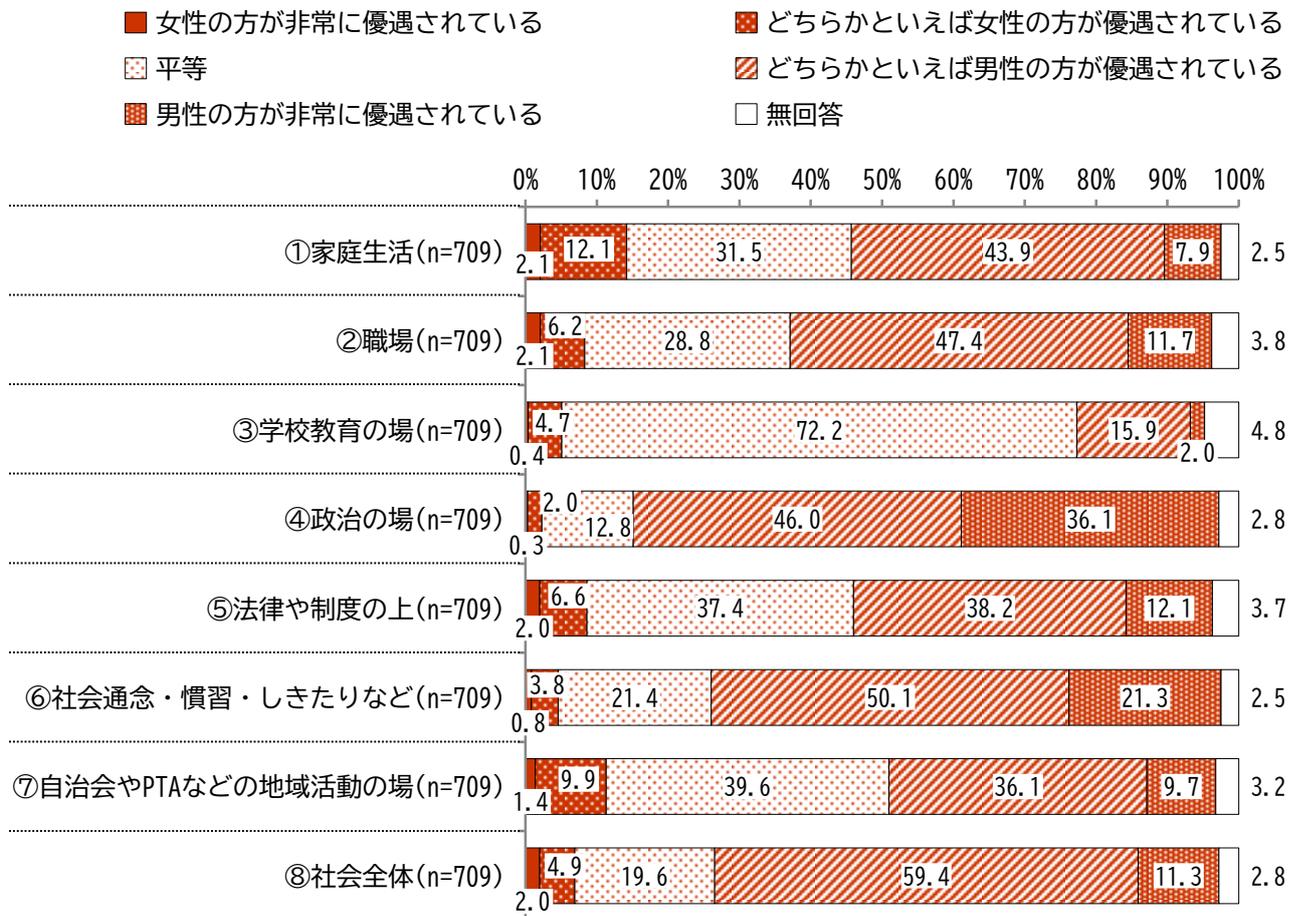
図表 11 言葉の理解度 (問9)



問 10 次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて〇は1つ】

- 「③学校教育の場」と「⑦自治会や PTA などの地域活動の場」以外のすべての項目で、『男性優遇』（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」＋「男性の方が非常に優遇されている」）が半数以上を占めている。特に、「④政治の場」では『男性優遇』が8割強、「⑥社会通念・慣習・しきたりなど」「⑧社会全体」では約7割と非常に多い。
- 「③学校教育の場」では、「平等」が72.2%と最も多い。

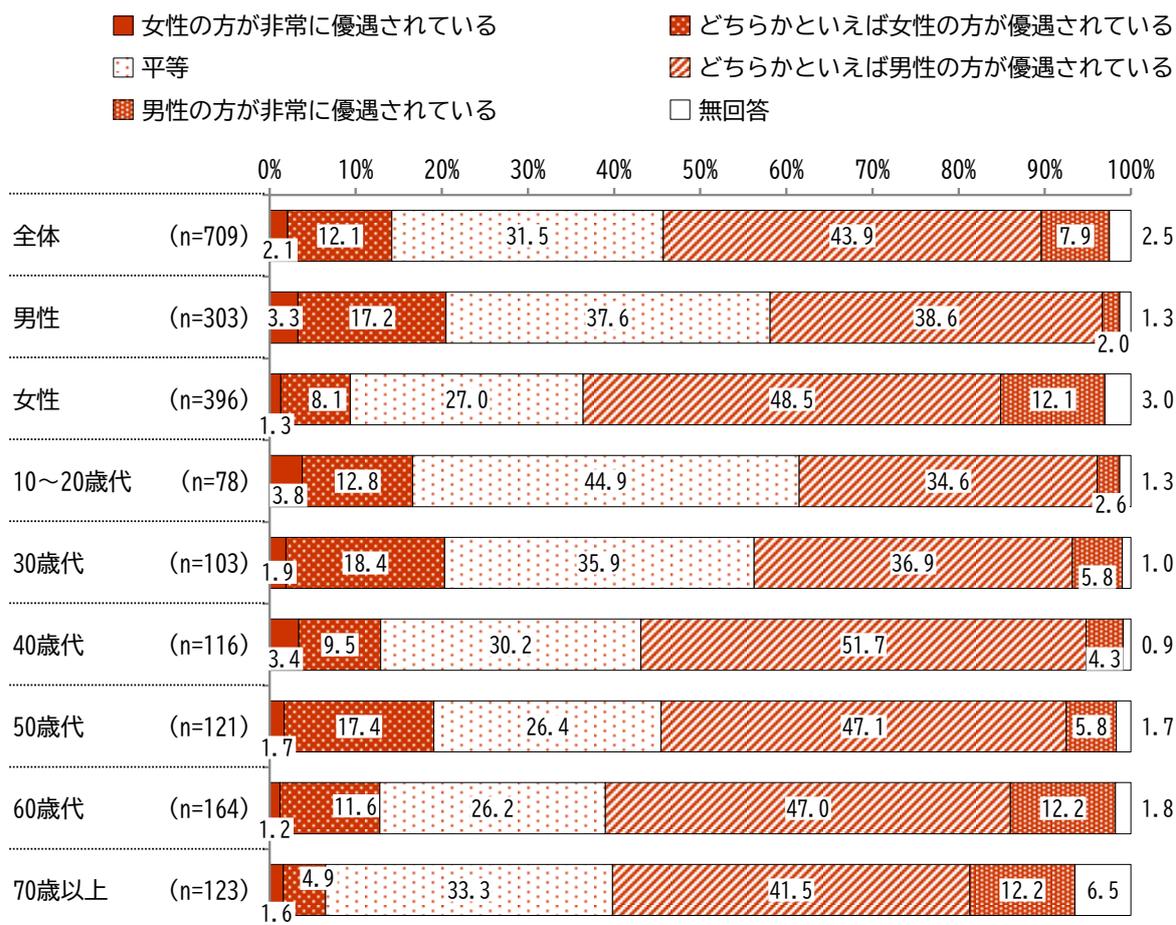
図表 12 男女の地位



①家庭生活

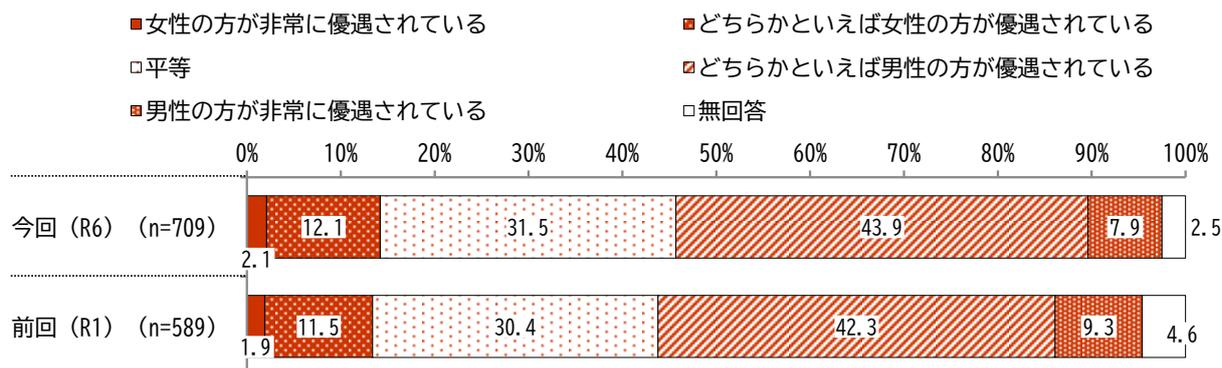
- ▶ 性別で見ると、『男性優遇』については男性で 40.6%、女性で 60.6%と、女性が男性より 20.0 ポイント多い。一方で、「平等」については男性が 37.6%、女性が 27.0%と、男性が女性より 10.6 ポイント多く、男女で家庭生活における地位について感じ方に大きな差がみられる。
- ▶ 年代別で見ると、年齢が高いほど『男性優遇』と感じている人が多い傾向にある。また、10～20 歳代では「平等」が 44.9%と最も多い。

図表 13 男女の地位①家庭生活（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

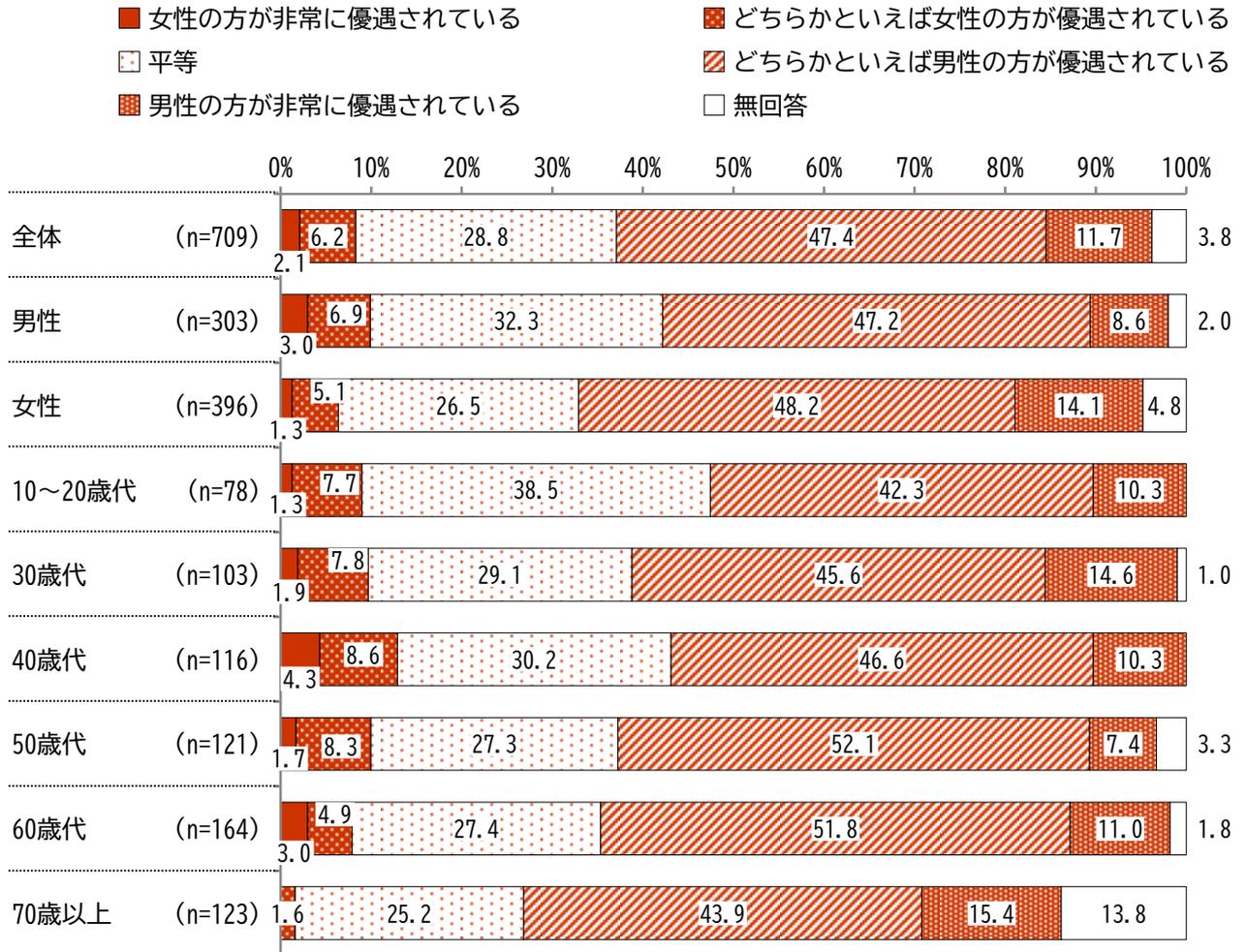
図表 14 男女の地位①家庭生活（経年比較）



②職場

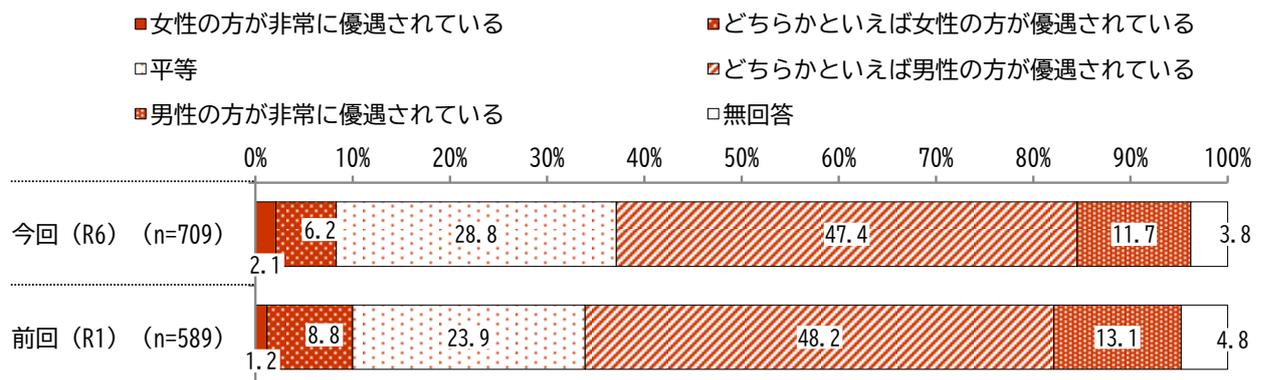
- ▶ 性別で見ると、男女共に『男性優遇』が最も多く、男性で 55.8%、女性で 62.3%となっている。
- ▶ 年代別で見ると、すべての年代で『男性優遇』が半数以上を占め、年齢が高いほど『男性優遇』の割合が多い傾向にある。

図表 15 男女の地位②職場（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

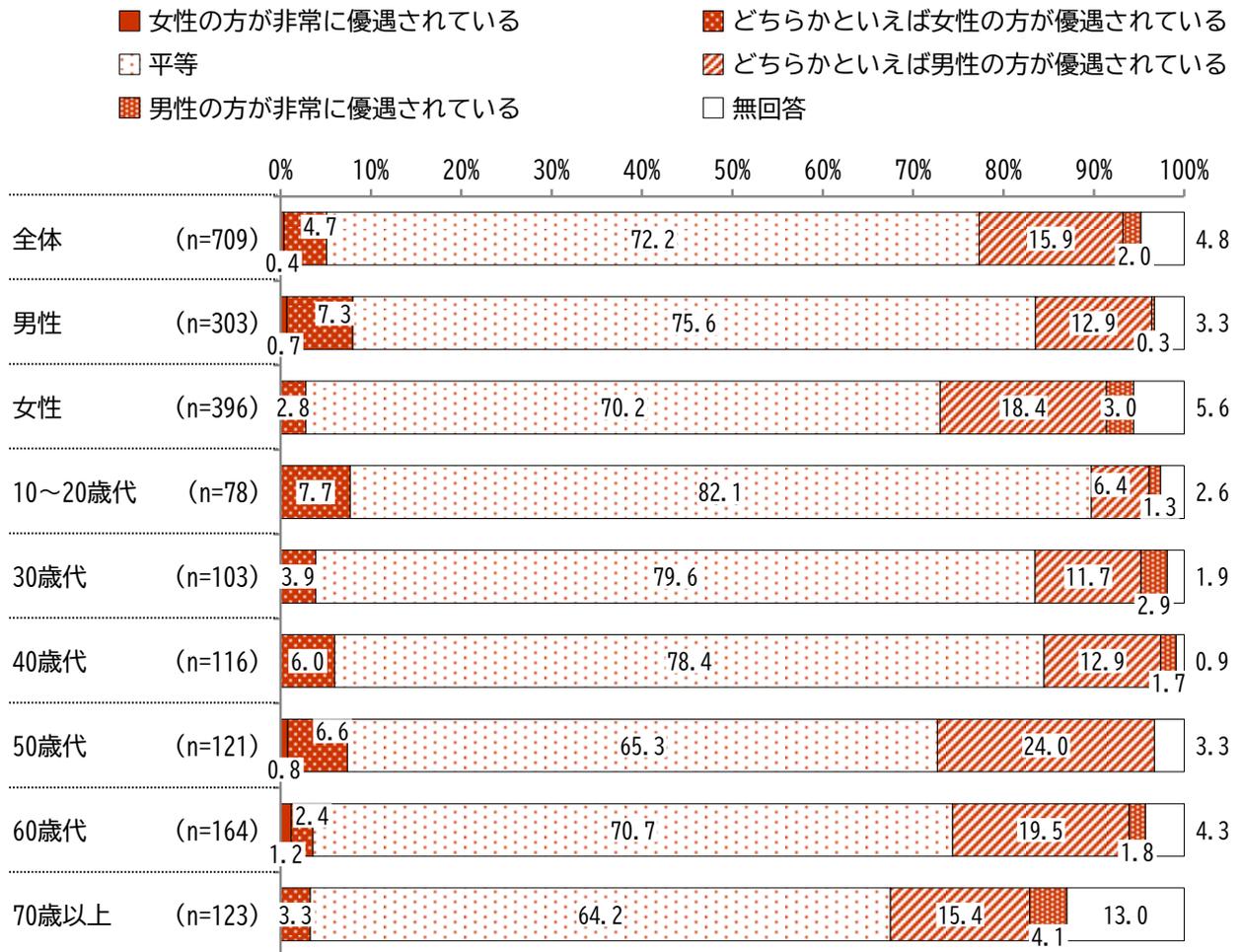
図表 16 男女の地位②職場（経年比較）



③学校教育の場

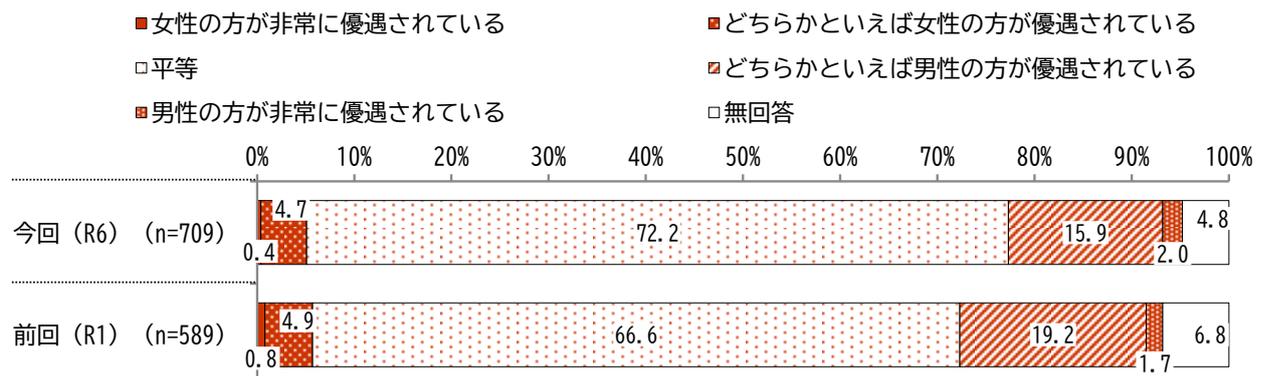
- ▶ 性別で見ると、男女共に「平等」が7割以上と最も多い一方で、『男性優遇』については男性で13.2%、女性で21.4%と、女性が男性より8.2ポイント多い。
- ▶ 年代別で見ると、全年齢で「平等」が最も多いが、年齢が高いほど『男性優遇』の割合が多い傾向にある。

図表 17 男女の地位③学校教育の場（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

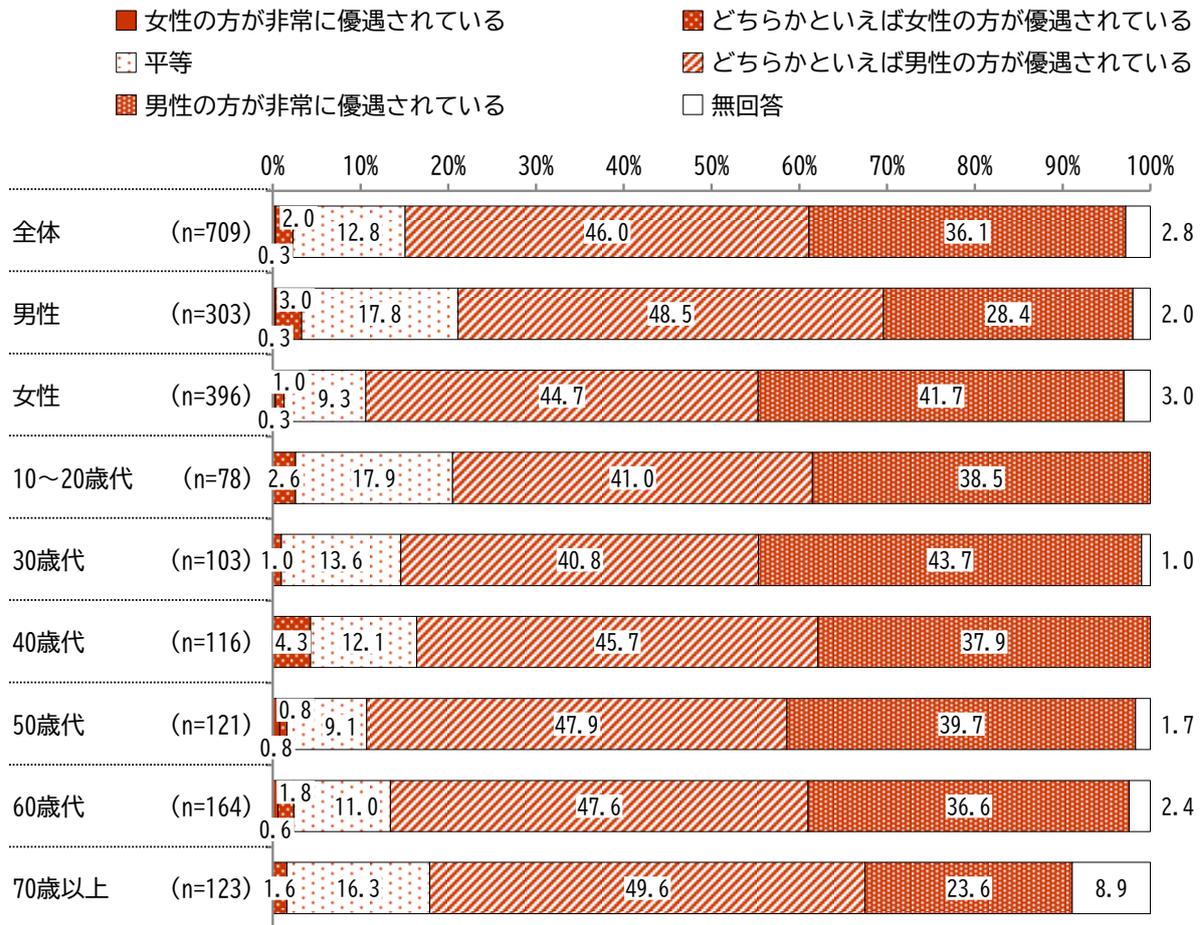
図表 18 男女の地位③学校教育の場（経年比較）



④政治の場

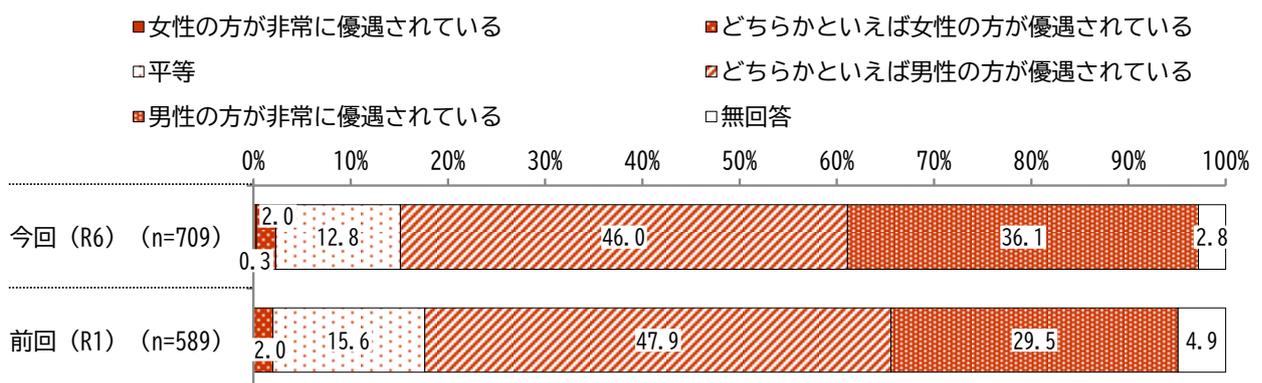
- 性別で見ると、男女共に『男性優遇』が最も多く、女性は86.4%、男性は76.9%と、女性が男性より9.5ポイント多い。
- 年代別で見ると、30～60歳代で『男性優遇』が8割を超えている。

図表 19 男女の地位④政治の場（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられないが、『男性優遇』で前회가77.4%、今回が82.1%と、今回が前回に比べて4.7ポイント多くなっている。

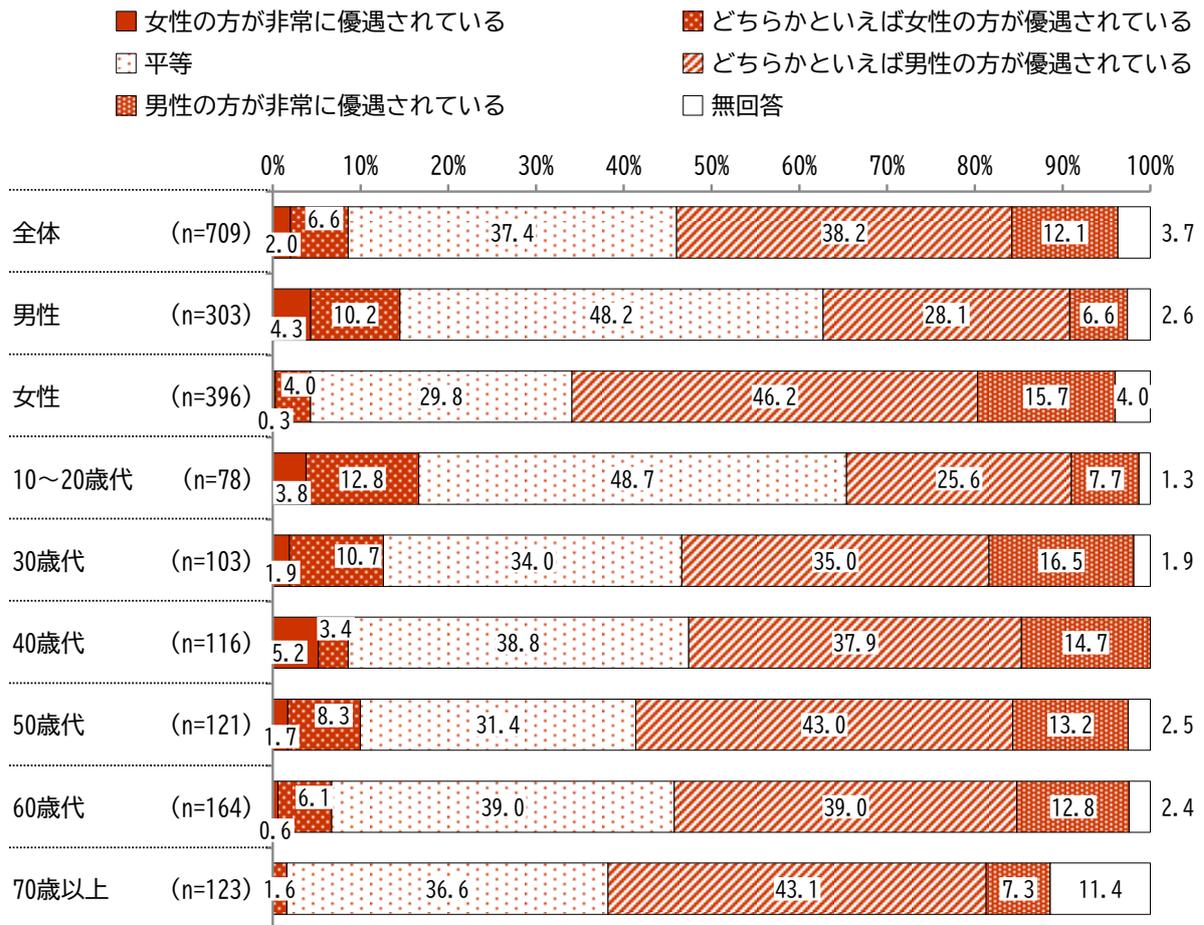
図表 20 男女の地位④政治の場（経年比較）



⑤法律や制度の上

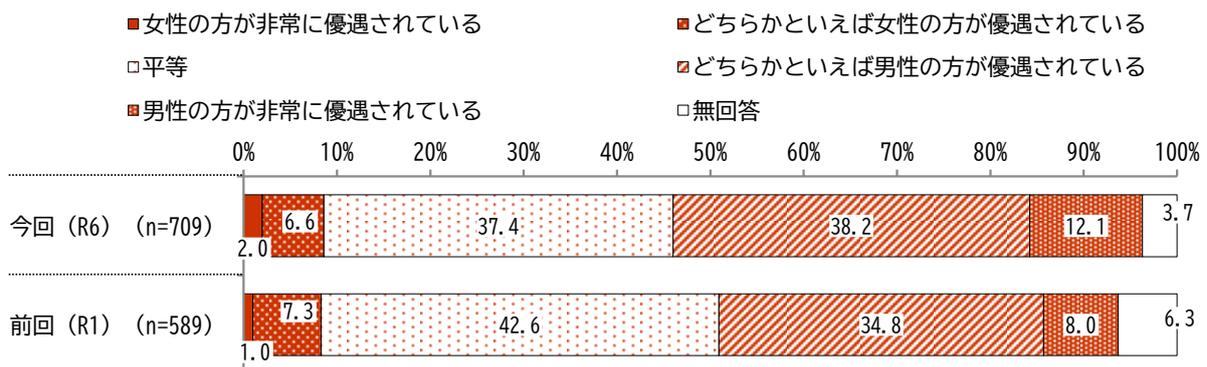
- ▶ 性別で見ると、『男性優遇』が男性は34.7%、女性は61.9%と、女性が男性より27.2ポイント多く、男女で法律や制度の上での地位について感じ方に大きな差がみられる。
- ▶ 年代別で見ると、10～20歳代以外のすべての年代で『男性優遇』が最も多く、年齢が高いほど割合が多くなる傾向にある。10～20歳代では、「平等」が48.7%と最も多くなっている。

図表 21 男女の地位⑤法律や制度の上（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられないが、『男性優遇』で前회가42.8%、今回が50.3%と、今回が前回に比べて7.5ポイント多くなっている。

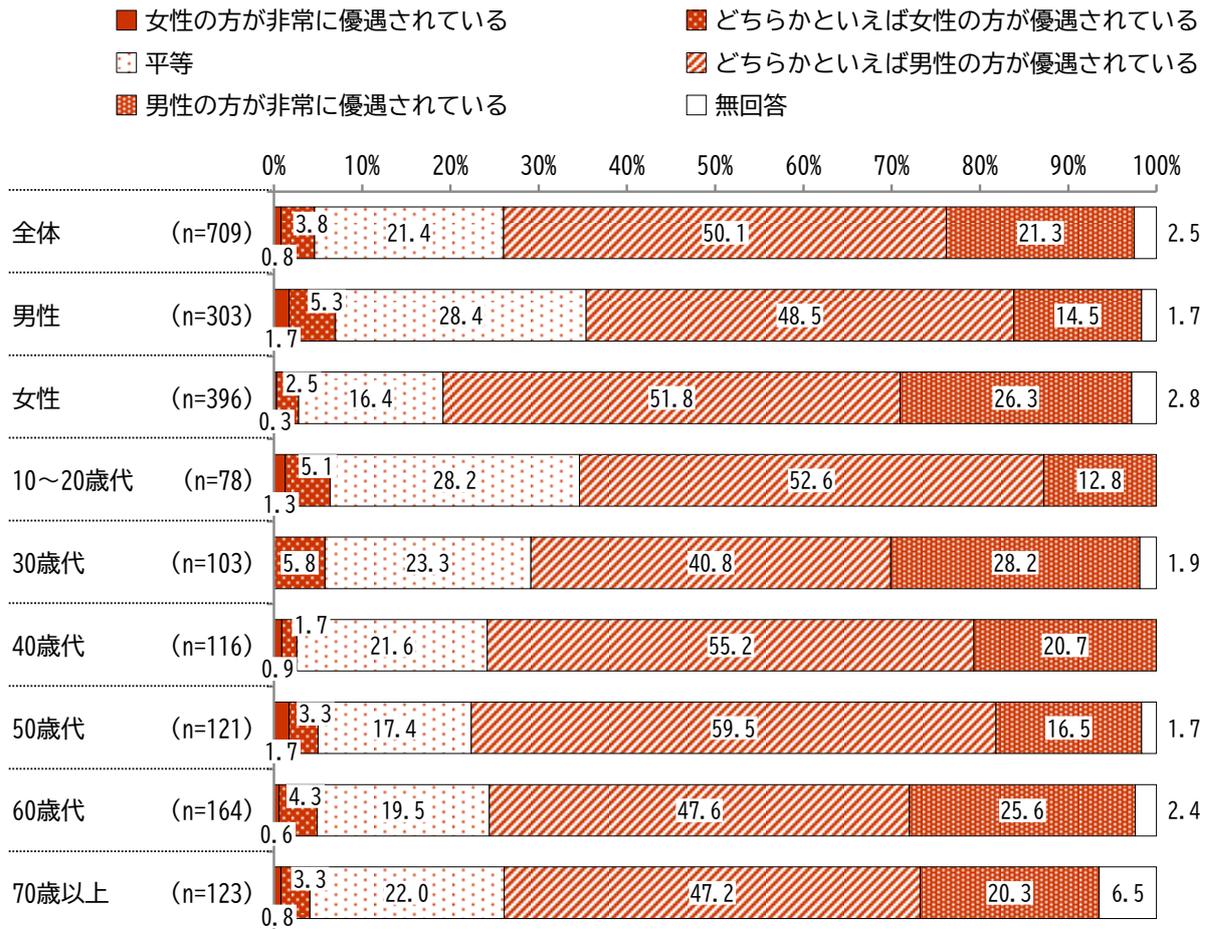
図表 22 男女の地位⑤法律や制度の上（経年比較）



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

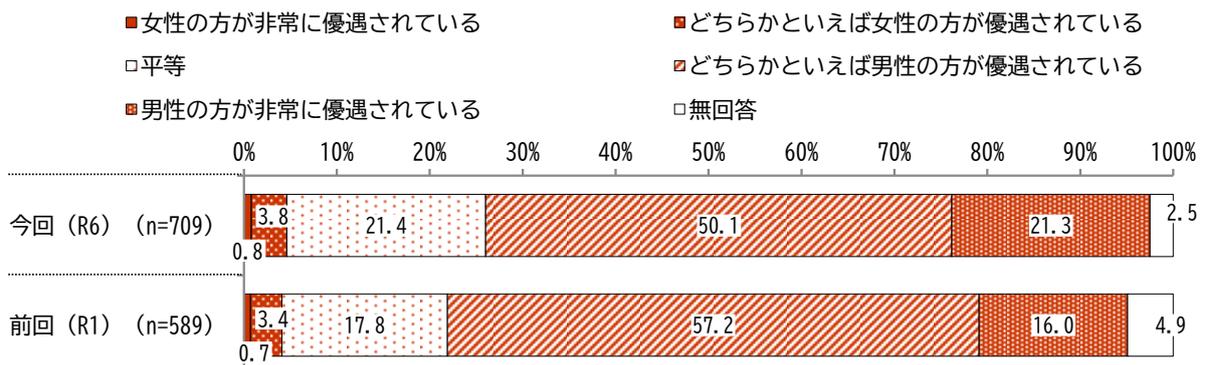
- ▶ 性別で見ると、男女共に『男性優遇』が最も多く、男性は63.0%、女性は78.1%と、女性が男性より15.1ポイント多い。
- ▶ 年代別で見ると、すべての年代で『男性優遇』が最も多く、特に40～60歳代では7割以上となっている。

図表 23 男女の地位⑥社会通念・慣習・しきたりなど（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

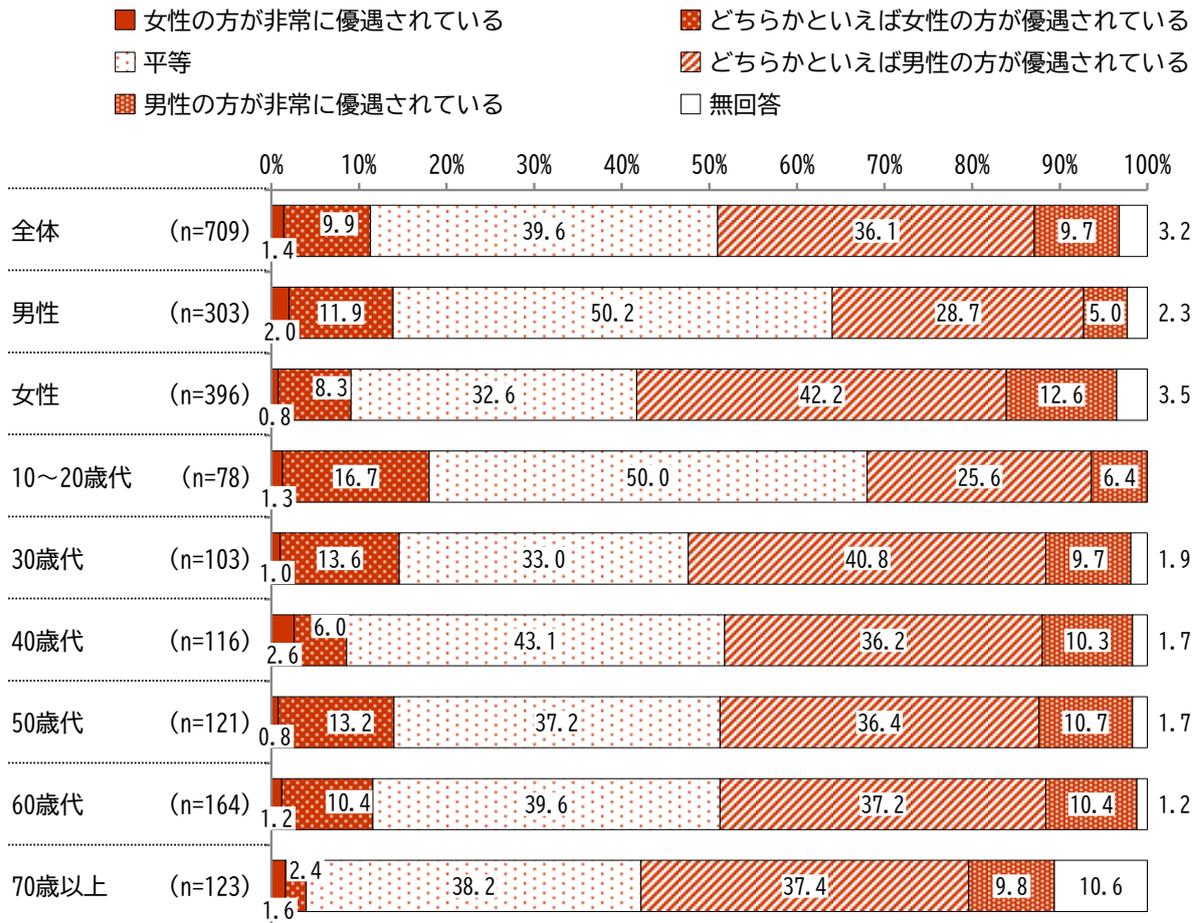
図表 24 男女の地位⑥社会通念・慣習・しきたりなど（経年比較）



⑦自治会やPTAなどの地域活動の場

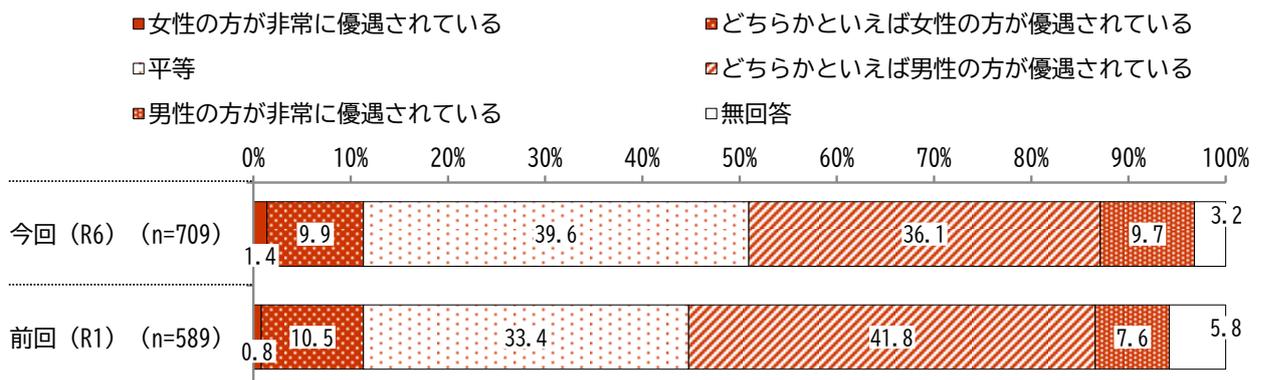
- ▶ 性別で見ると、『男性優遇』が男性は33.7%、女性は54.8%と、女性が男性より21.1ポイント多く、男女で自治会やPTAなどの地域活動の場での地位について感じ方に大きな差がみられる。
- ▶ 年代別で見ると、10～20歳代では「平等」が50.0%と最も多く、30～70歳以上では『男性優遇』が最も多い。

図表 25 男女の地位⑦自治会やPTAなどの地域活動の場（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

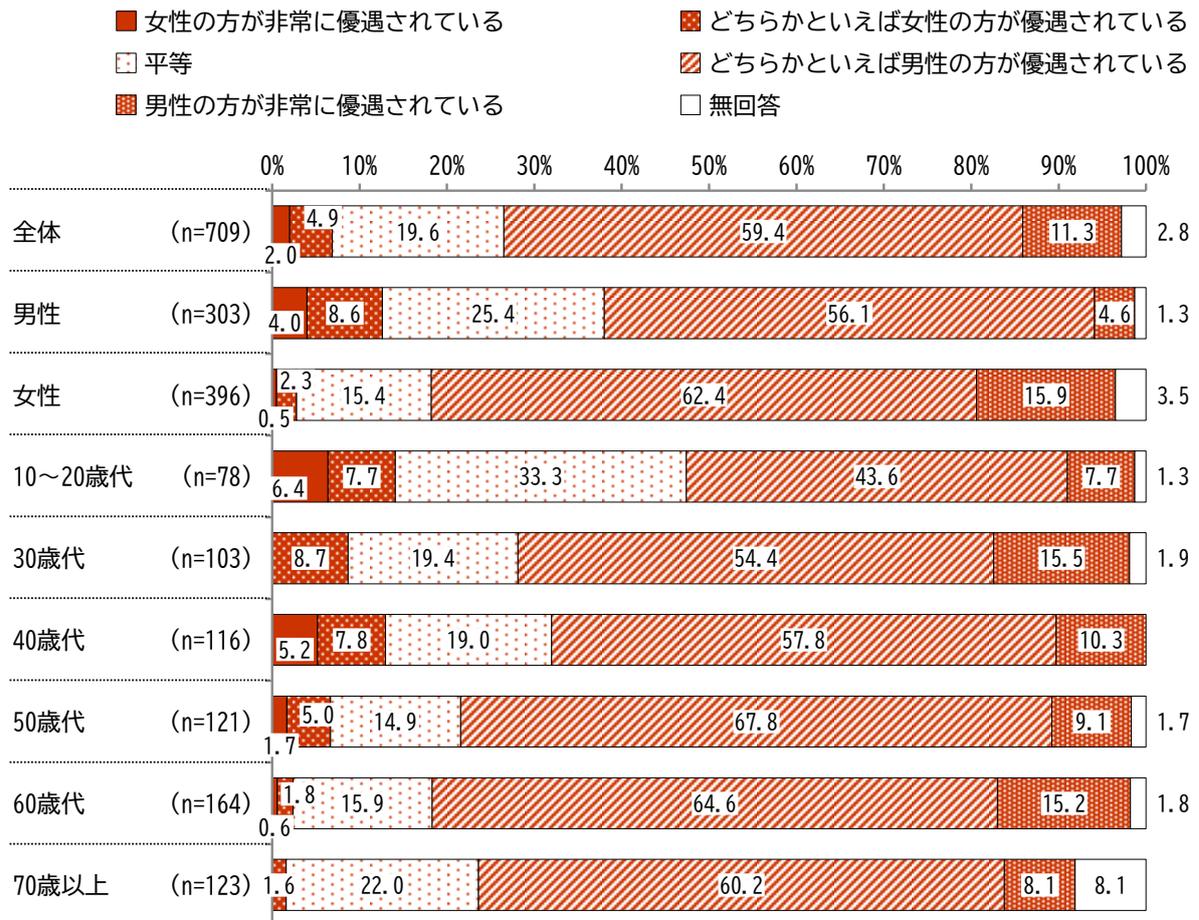
図表 26 男女の地位⑦自治会やPTAなどの地域活動の場（経年比較）



⑧社会全体

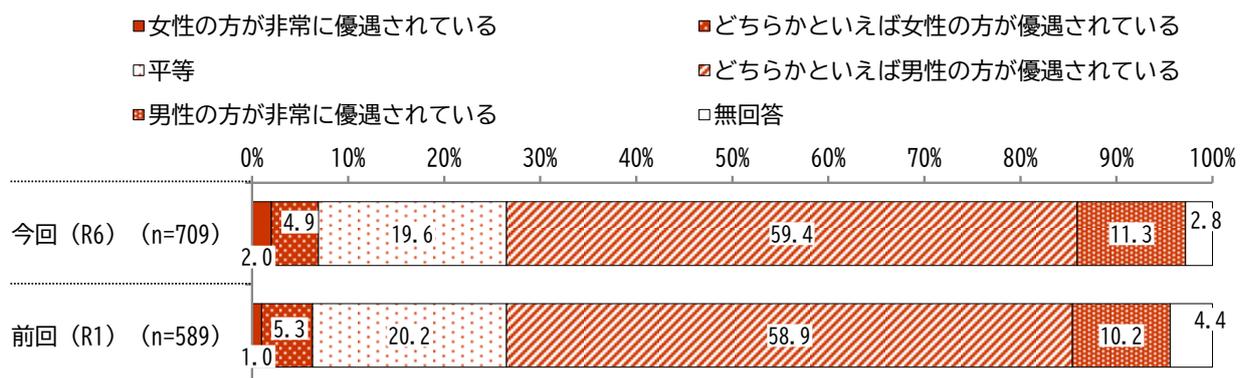
- ▶ 性別で見ると、『男性優遇』が男性は 60.7%、女性は 78.3%と、女性が男性より 17.6 ポイント多い。
- ▶ 年代別で見ると、すべての年代で『男性優遇』が最も多い。その一方で、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）は、年齢が低いほど多い傾向にある。また、10～20 歳代では「平等」が 33.3%とほかの年代に比べて多い。

図表 27 男女の地位⑧社会全体（性・年代別）



- ▶ 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

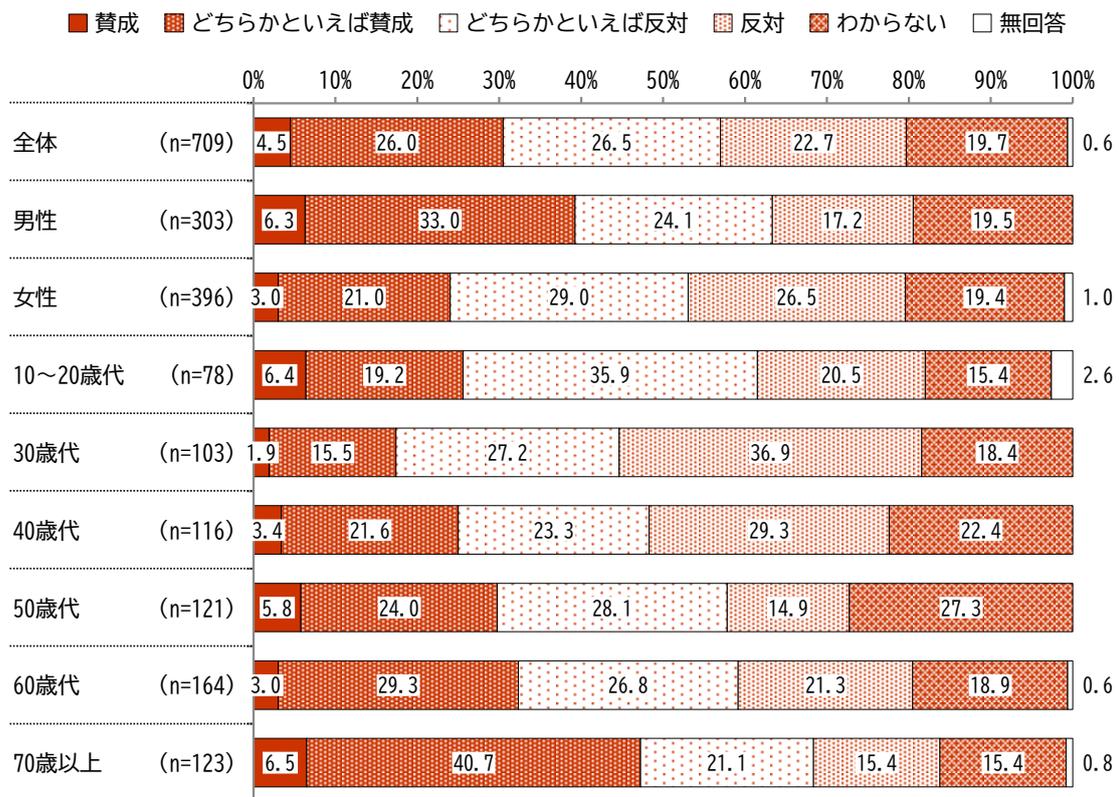
図表 28 男女の地位⑧社会全体（経年比較）



問11 「夫は家計を支え（働いて収入を得る）、妻は家庭を支える（家事・子育て・介護等を行う）べきである」という考え方について、どう思いますか。【〇は1つ】

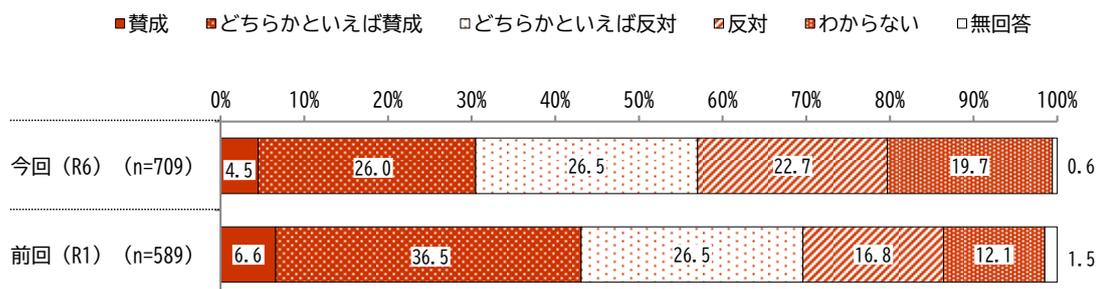
- 全体で見ると、『賛成派』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が30.5%、『反対派』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が49.2%と『反対派』が『賛成派』より18.7ポイント多い。
- 性別で見ると、『反対派』が男性で41.3%、女性で55.5%と、女性が男性より14.2ポイント多い。
- 年代別で見ると、70歳以上を除くすべての年代では『反対派』が最も多く、特に30歳代では64.1%となっている。一方で、70歳以上では『賛成派』が47.2%と半数を占めている。

図表 29 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について（性・年代別）



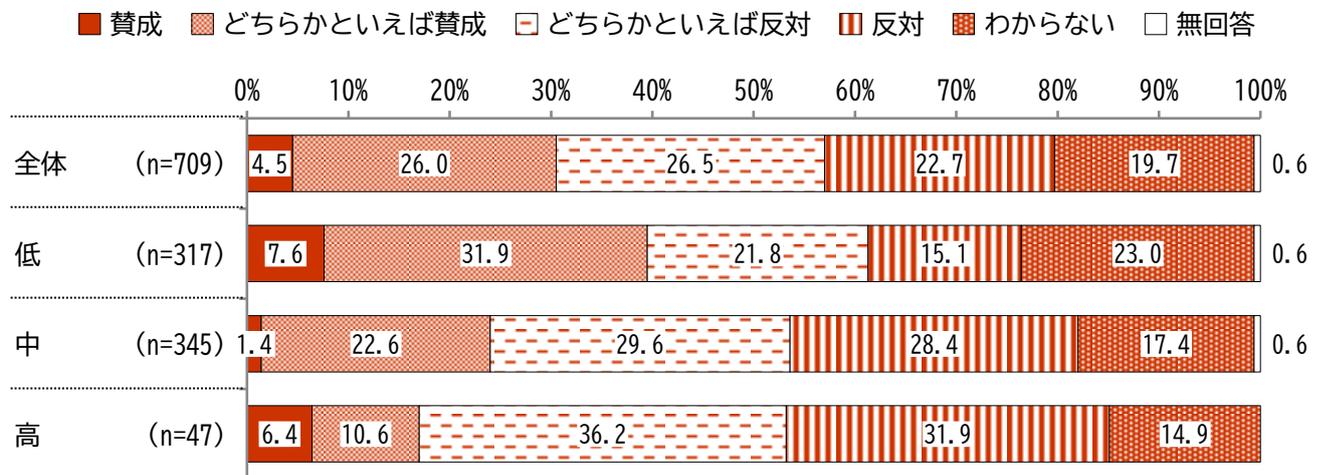
- 前回調査と比較してみると、『反対派』について、前회가43.3%、今回が49.2%と、今回が前回より5.9ポイント多くなっている。

図表 30 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について（経年比較）



➤ 「夫は家計を支え（働いて収入を得る）、妻は家庭を支える（家事・子育て・介護等を行う）べきである」という考え方について、言葉の理解度（問9）別で見ると、「低」では『賛成派』が39.5%となっており、理解度が高い層よりも多くなっている。

図表 31 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」（言葉の理解度（問9）別）

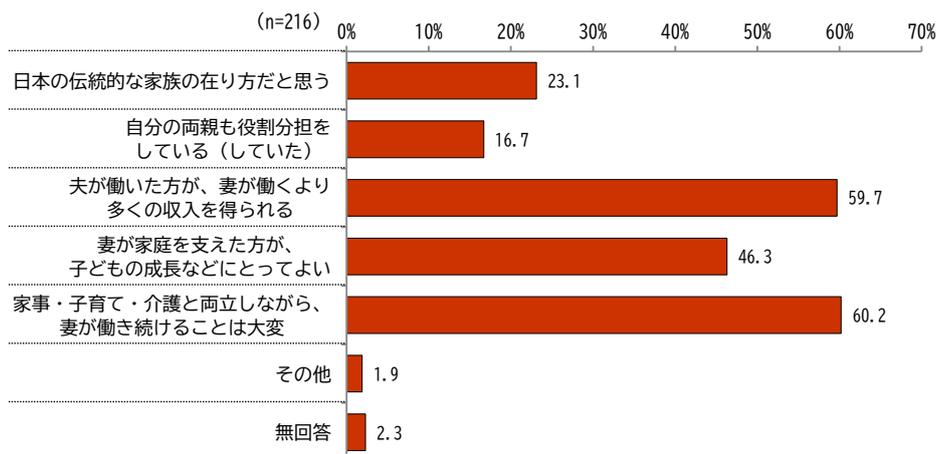


問 11 で「賛成」「どちらかといえば賛成」に○をつけた人にお聞きします。

問 11-1 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきである」という考え方に賛成の理由は何ですか。
【○はいくつでも】

- 『賛成派』の理由として、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変」が 60.2%と最も多く、次いで「夫が働いた方が、妻が働くより多くの収入を得られる」が 59.7%、「妻が家庭を支えた方が、子どもの成長などにとってよい」が 46.3%となっている。

図表 32 賛成派の理由（問 11 で『賛成派』の人）

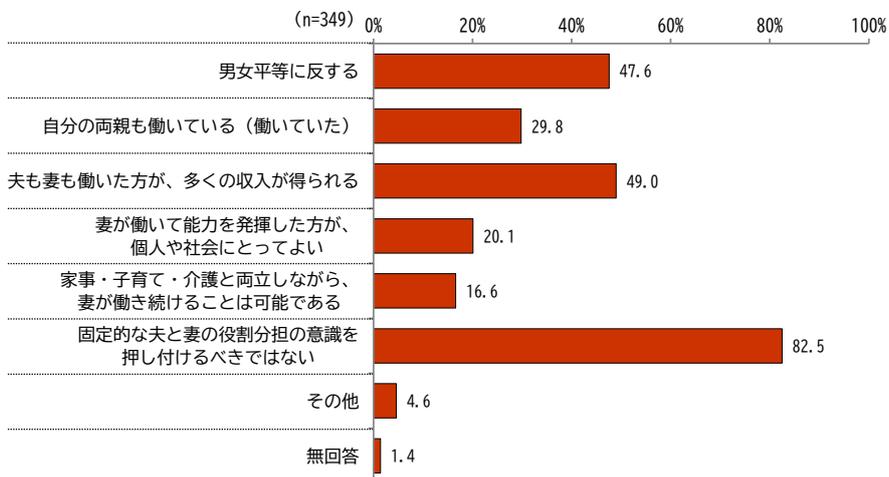


問 11 で「どちらかといえば反対」「反対」に○をつけた人にお聞きします。

問 11-1 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきである」という考え方に反対の理由は何ですか。
【○はいくつでも】

- 『反対派』の理由では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではない」が 82.5%と最も多く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られる」が 49.0%、「男女平等に反する」が 47.6%となっている。

図表 33 反対の理由（問 11 で『反対派』の人）

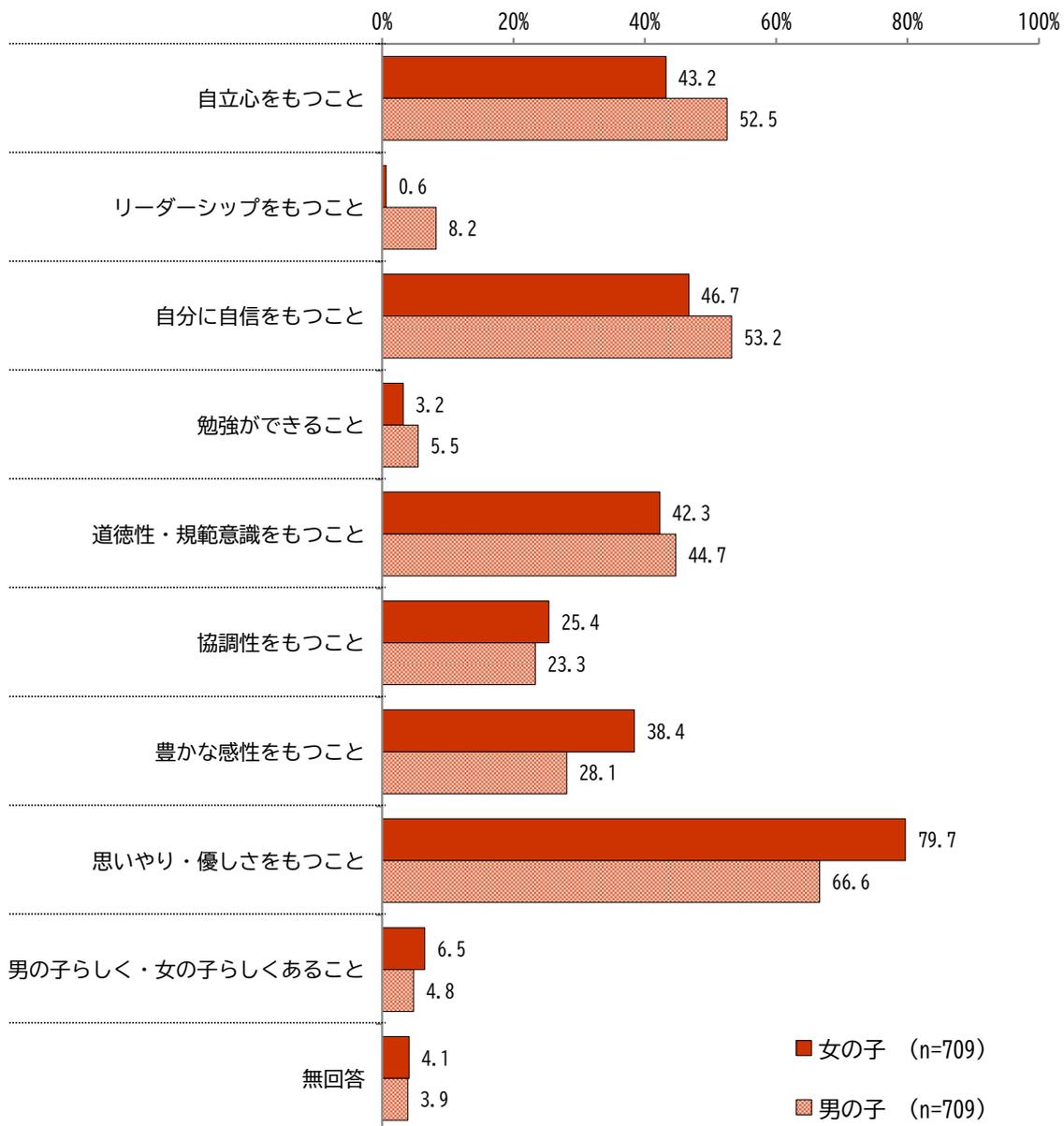


問 12 あなたが子どもに望むことは何ですか。太枠の中から該当する番号を選び、上位 3 つまでをそれぞれお答えください。(子どもがいない場合も、子どもがいると想定してお答えください)
【男の子、女の子についてそれぞれ上位 3 つを選択】

女の子に望むこと、男の子に望むこと【〇は 3 つまで】

- 女の子に望むことと男の子に望むことを比較すると、男女ともに「思いやり・優しさをもつこと」「自分に自信をもつこと」「自立心をもつこと」が望まれている。
- 「豊かな感性をもつこと」「思いやり・優しさをもつこと」は女の子が、「自立心をもつこと」「リーダーシップをもつこと」「自分に自信をもつこと」は男の子が、より望まれている傾向にある。

図表 34 子どもに望むこと

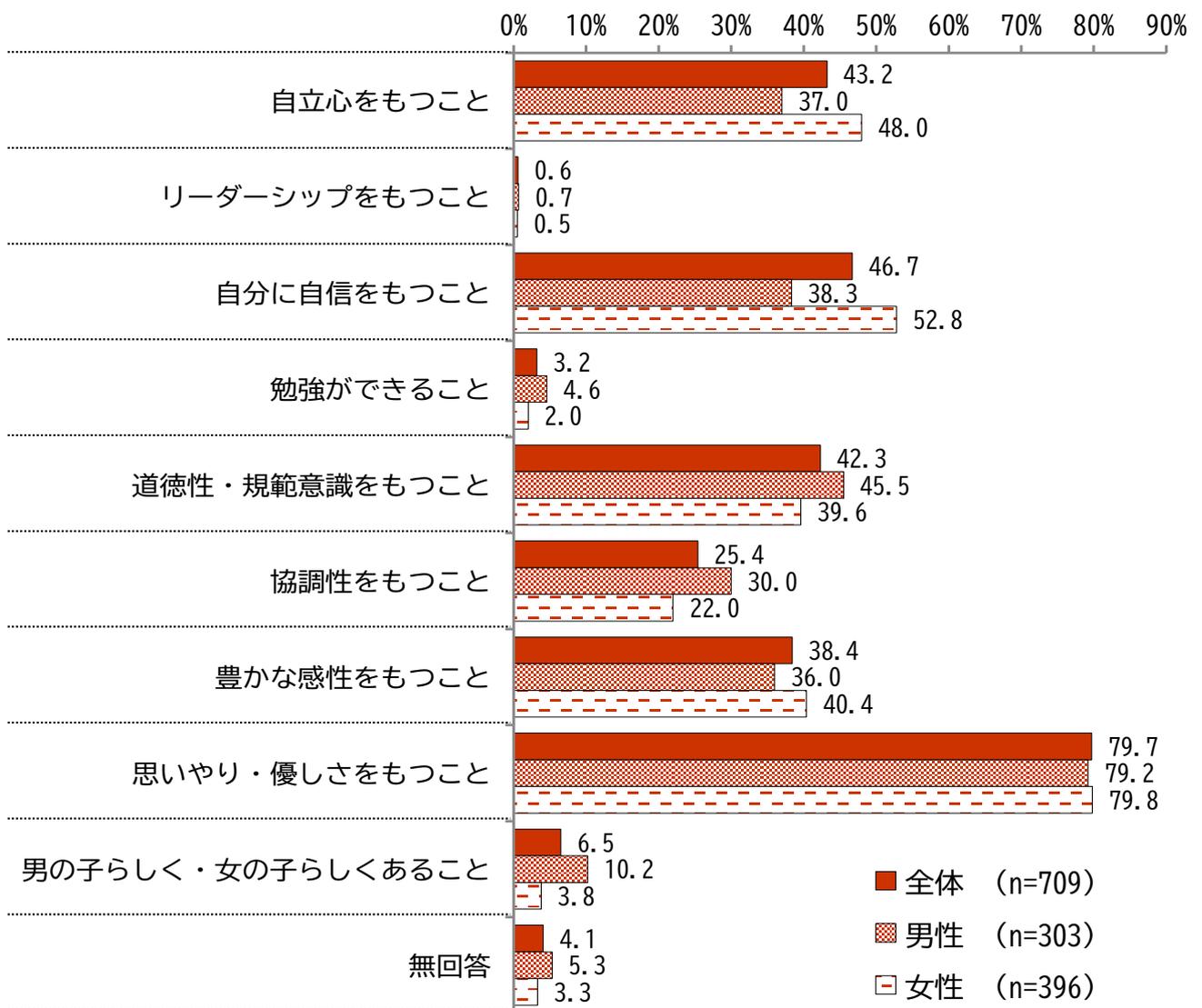


問 12 あなたが子どもに望むことは何ですか。太枠の中から該当する番号を選び、上位 3 つまでをそれぞれお答えください。(子どもがいない場合も、子どもがいると想定してお答えください)

女の子に望むこと【〇は3つまで】

- ▶ 女の子に望むことでは、全体で見ると、「思いやり・優しさをもつこと」が 79.7%と最も多く、次いで「自分に自信をもつこと」が 46.7%、「自立心をもつこと」が 43.2%となっている。
- ▶ 性別で見ると、女性では「自分に自信をもつこと」「自立心をもつこと」を女の子に望む割合が、男性より 10.0 ポイント以上多くなっている。

図表 35 女の子に望むこと（性別）



- ▶ 女の子に望むことを年代別で見ると、すべての年代で「思いやり・優しさをもつこと」が最も多い。次いで、10～50歳代では「自分に自信をもつこと」、60～70歳以上では「自立心をもつこと」が多い。

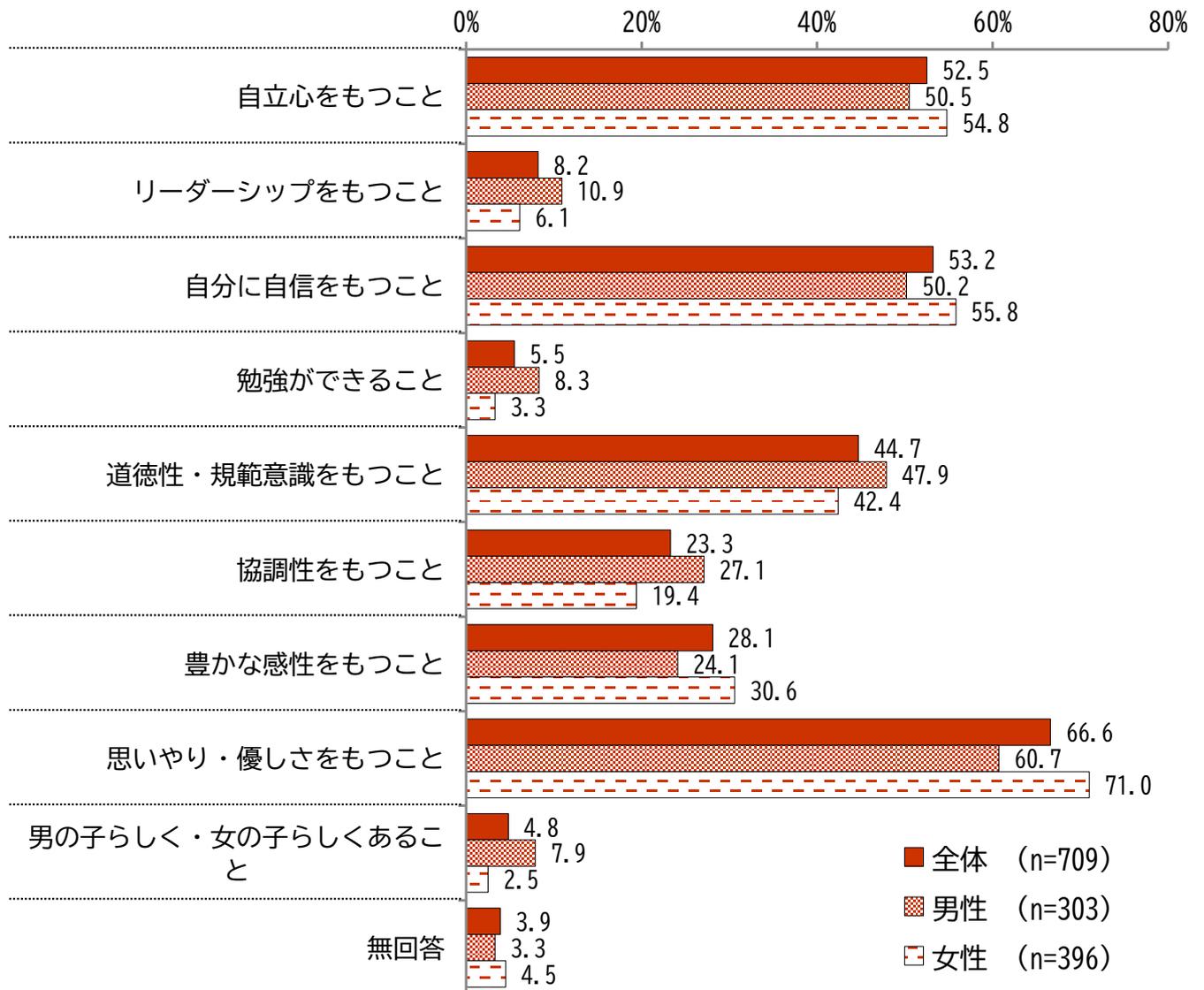
図表 36 女の子に望むこと（年代別）

	全体	自立心をもつこと	リーダーシップをもつこと	自分に自信をもつこと	勉強ができること	意徳性・規範意識をもつこと	協調性をもつこと	豊かな感性をもつこと	思いやり・優しさをもつこと	男の子らしく・女の子らしくあること	無回答	
全体	709 100.0	306 43.2	4 0.6	331 46.7	23 3.2	300 42.3	180 25.4	272 38.4	565 79.7	46 6.5	29 4.1	
年代別	10～20歳代	78 100.0	22 28.2	2 2.6	41 52.6	1 1.3	35 44.9	20 25.6	31 39.7	63 80.8	5 6.4	3 3.8
	30歳代	103 100.0	37 35.9	-	62 60.2	5 4.9	40 38.8	25 24.3	44 42.7	88 85.4	5 4.9	1 1.0
	40歳代	116 100.0	52 44.8	-	59 50.9	1 0.9	55 47.4	29 25.0	43 37.1	99 85.3	4 3.4	2 1.7
	50歳代	121 100.0	59 48.8	-	63 52.1	5 4.1	41 33.9	33 27.3	46 38.0	101 83.5	4 3.3	2 1.7
	60歳代	164 100.0	72 43.9	1 0.6	67 40.9	7 4.3	72 43.9	46 28.0	61 37.2	123 75.0	12 7.3	10 6.1
	70歳以上	123 100.0	61 49.6	1 0.8	37 30.1	4 3.3	54 43.9	26 21.1	47 38.2	88 71.5	16 13.0	11 8.9

男の子に望むこと【〇は3つまで】

- 男の子に望むことでは、全体で見ると、「思いやり・優しさをもつこと」が66.6%と最も多く、次いで「自分に自信をもつこと」が53.2%、「自立心を持つこと」が52.5%となっている。
- 性別で見ると、「思いやり・優しさをもつこと」は男性で60.7%、女性で71.0%と、男性より女性が10.3ポイント多い。また、「協調性をもつこと」は男性で27.1%、女性で19.4%と、女性より男性が7.7ポイント多い。

図表 37 男の子に望むこと（性別）



- ▶ 男の子に望むことを年代別で見ると、70歳以上以外のすべての年代で「思いやり・優しさをもつこと」が最も多く、年齢が低いほどその割合が多い傾向にある。

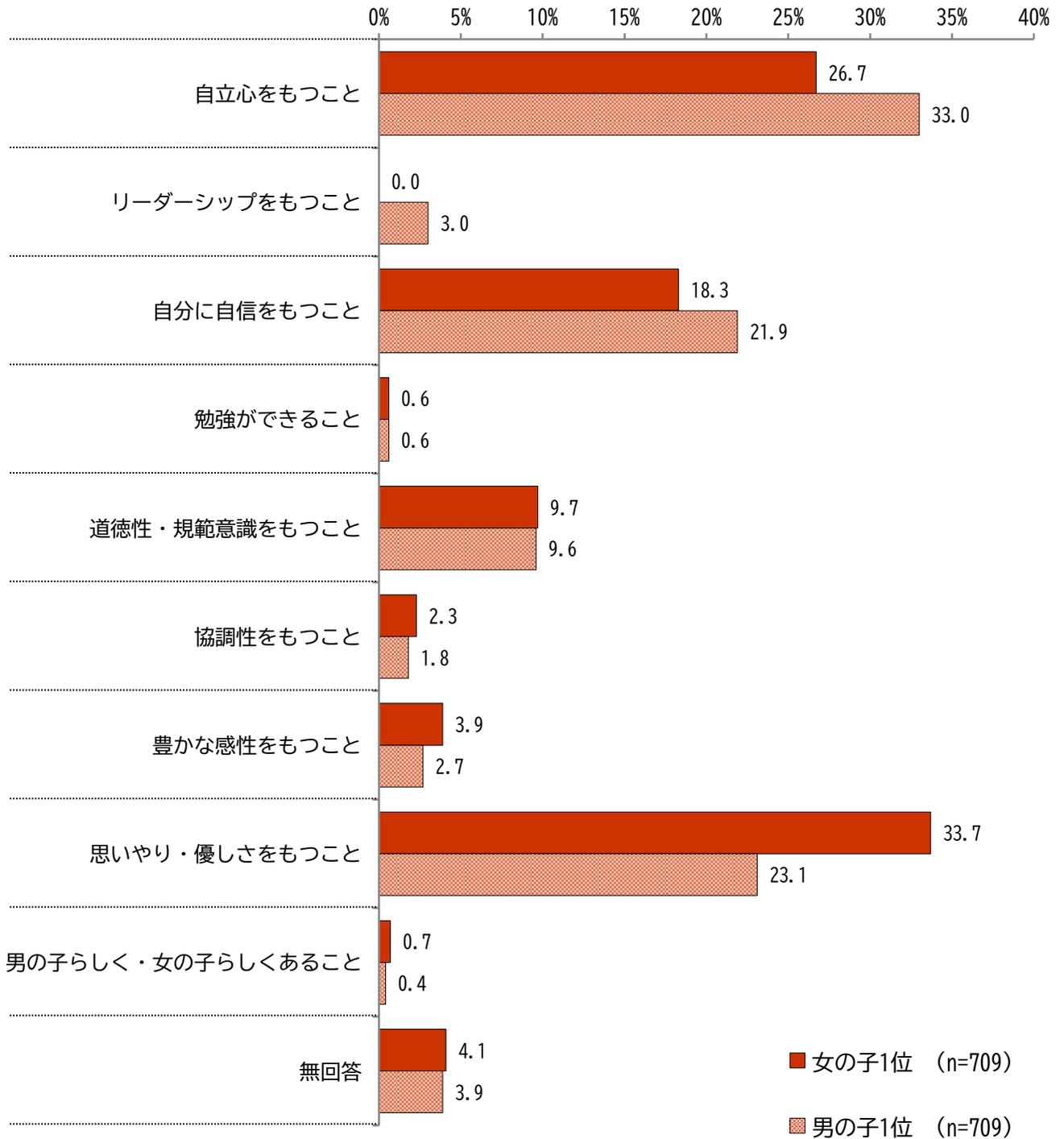
図表 38 男の子に望むこと（年代別）

	全体	自立心をもつこと	リーダーシップをもつこと	自分に自信をもつこと	勉強ができること	意徳性・規範意識をもつこと	協調性をもつこと	豊かな感性をもつこと	思いやり・優しさをもつこと	男の子らしく・女の子らしくあること	無回答	
全体	709 100.0	372 52.5	58 8.2	377 53.2	39 5.5	317 44.7	165 23.3	199 28.1	472 66.6	34 4.8	28 3.9	
年代別	10～20歳代	78 100.0	27 34.6	5 6.4	38 48.7	2 2.6	39 50.0	18 23.1	32 78.2	61 78.2	2 2.6	2 2.6
	30歳代	103 100.0	50 48.5	7 6.8	63 61.2	9 8.7	37 35.9	19 18.4	34 33.0	82 79.6	2 1.9	2 1.9
	40歳代	116 100.0	53 45.7	9 7.8	58 50.0	2 1.7	60 51.7	34 29.3	35 30.2	85 73.3	3 2.6	3 2.6
	50歳代	121 100.0	67 55.4	12 9.9	67 55.4	7 5.8	44 36.4	25 20.7	28 23.1	87 71.9	3 2.5	6 5.0
	60歳代	164 100.0	93 56.7	13 7.9	82 50.0	12 7.3	76 46.3	34 20.7	46 28.0	103 62.8	11 6.7	7 4.3
	70歳以上	123 100.0	81 65.9	12 9.8	68 55.3	7 5.7	59 48.0	33 26.8	23 18.7	52 42.3	13 10.6	7 5.7

女の子に最も望むこと、男の子に最も望むこと【〇はそれぞれ1つだけ】

- 女の子に最も望むことと男の子に最も望むことを比較すると、女の子は「思いやり・優しさをもつこと」が 33.7%と最も多い一方で、男の子は「自立心をもつこと」の 33.0%が最も多い。このことから、子どもに最も望むことは子どもの性別によって異なることがわかる。

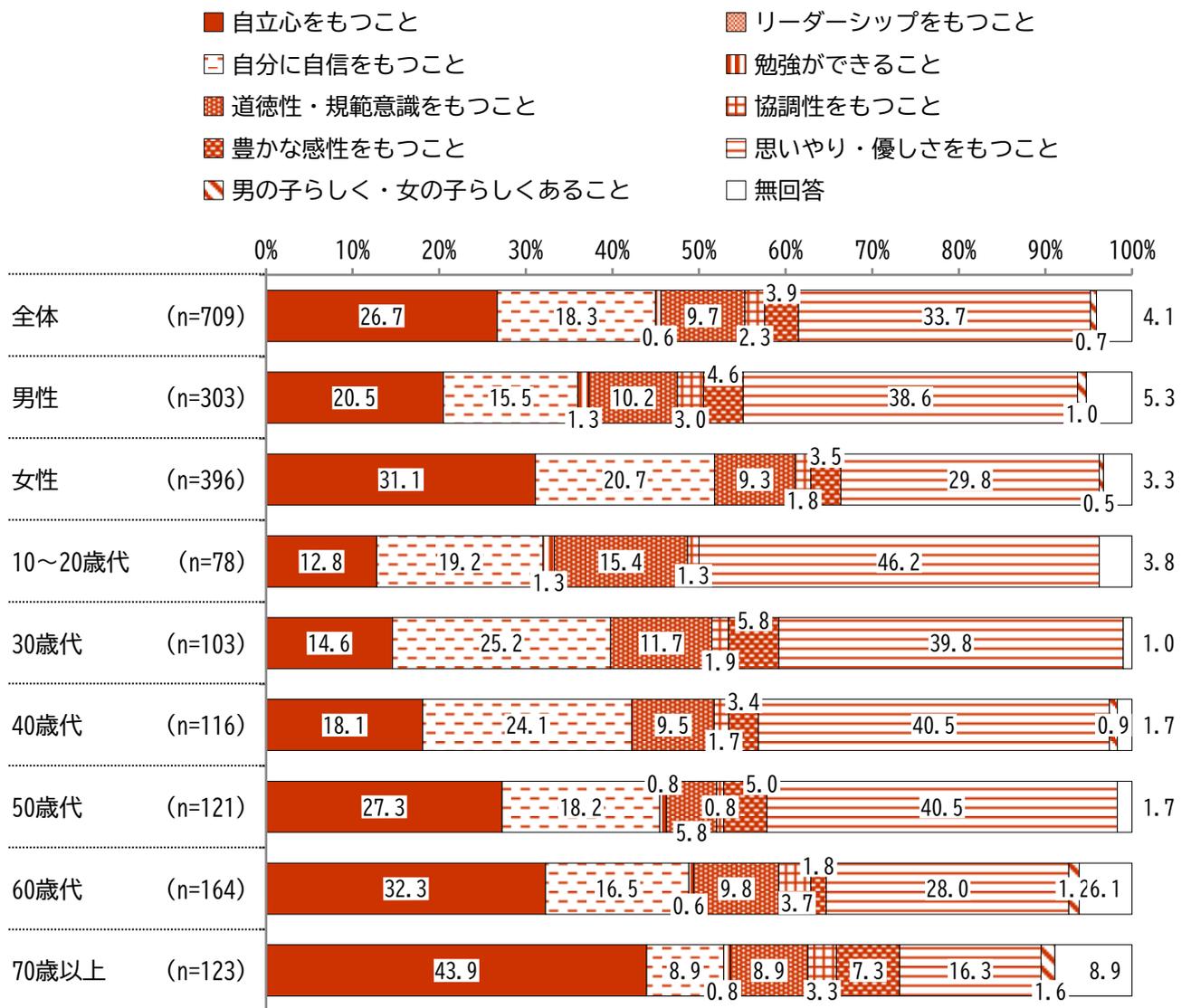
図表 39 子どもに最も望むこと



女の子に最も望むこと【〇は1つだけ】

- 女の子に最も望むことは、全体で見ると、「思いやり・優しさをもつこと」が33.7%と最も多く、次いで「自立心をもつこと」が26.7%、「自分に自信をもつこと」が18.3%となっている。
- 性別で見ると、男性は「思いやり・優しさをもつこと」が38.6%、女性は「自立心をもつこと」が31.1%と最も多く、男女で女の子に最も望むことに違いがある。
- 年代別で見ると、10～50歳代までは「思いやり・優しさをもつこと」が最も多いが、年齢が高いほど「自立心をもつこと」の割合が多くなる傾向にあり、60～70歳以上では最も多くなっている。

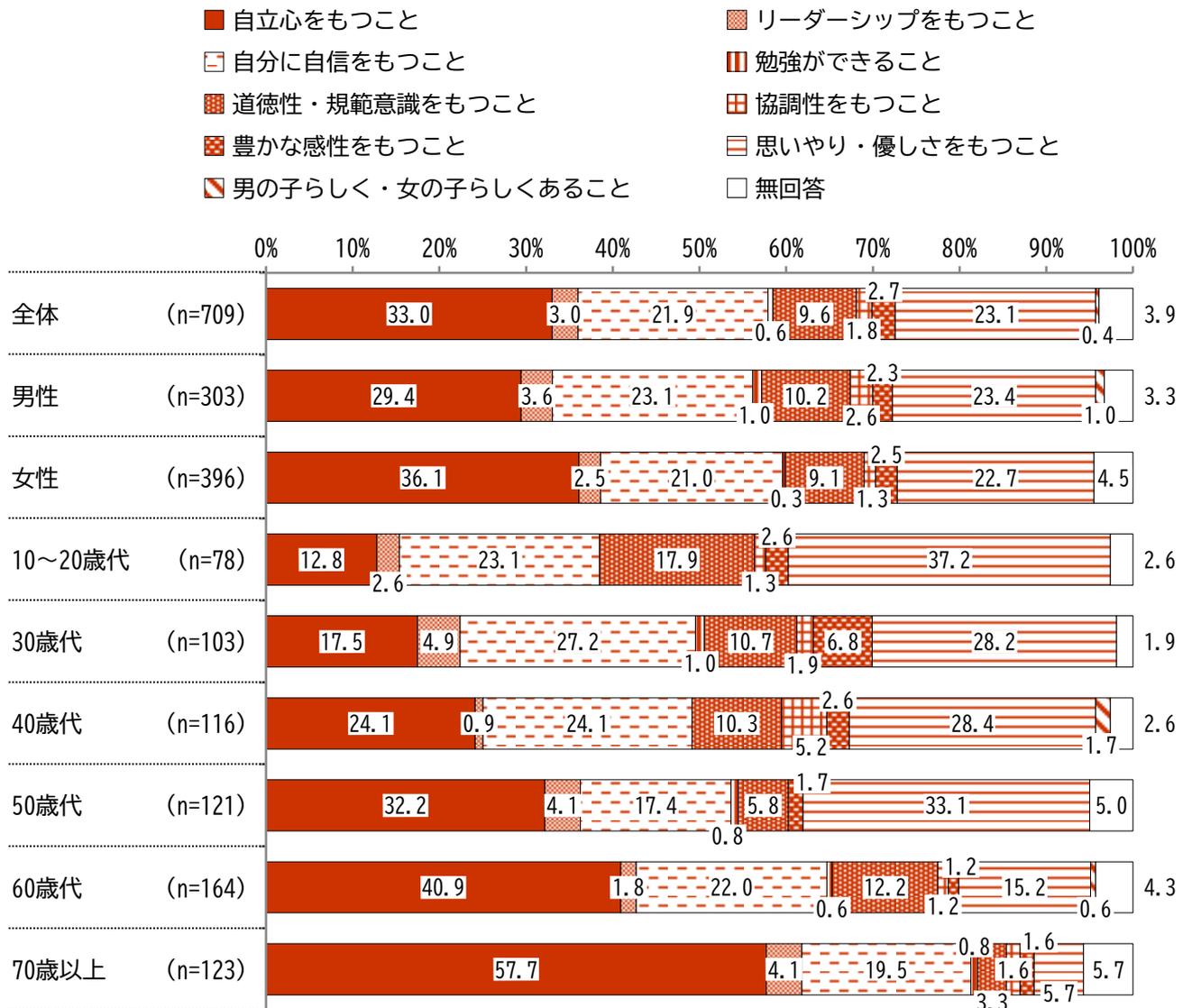
図表 40 女の子に最も望むこと（性・年代別）



男の子に最も望むこと【〇は1つだけ】

- ▶ 男の子に最も望むことは、全体で見ると、「自立心をもつこと」が33.0%と最も多く、次いで「思いやり・優しさをもつこと」が23.1%、「自分に自信をもつこと」が21.9%となっている。
- ▶ 性別で見ると、男女共に「自立心をもつこと」が女性は36.1%、男性は29.4%と最も多くなっており、男女で男の子に最も望むことに大きな差は見られない。
- ▶ 年代別で見ると10～50歳代までは「思いやり・優しさをもつこと」が最も多いが、年齢が高いほど「自立心をもつこと」の割合が多くなる傾向にあり、60～70歳以上では最も多くなっている。

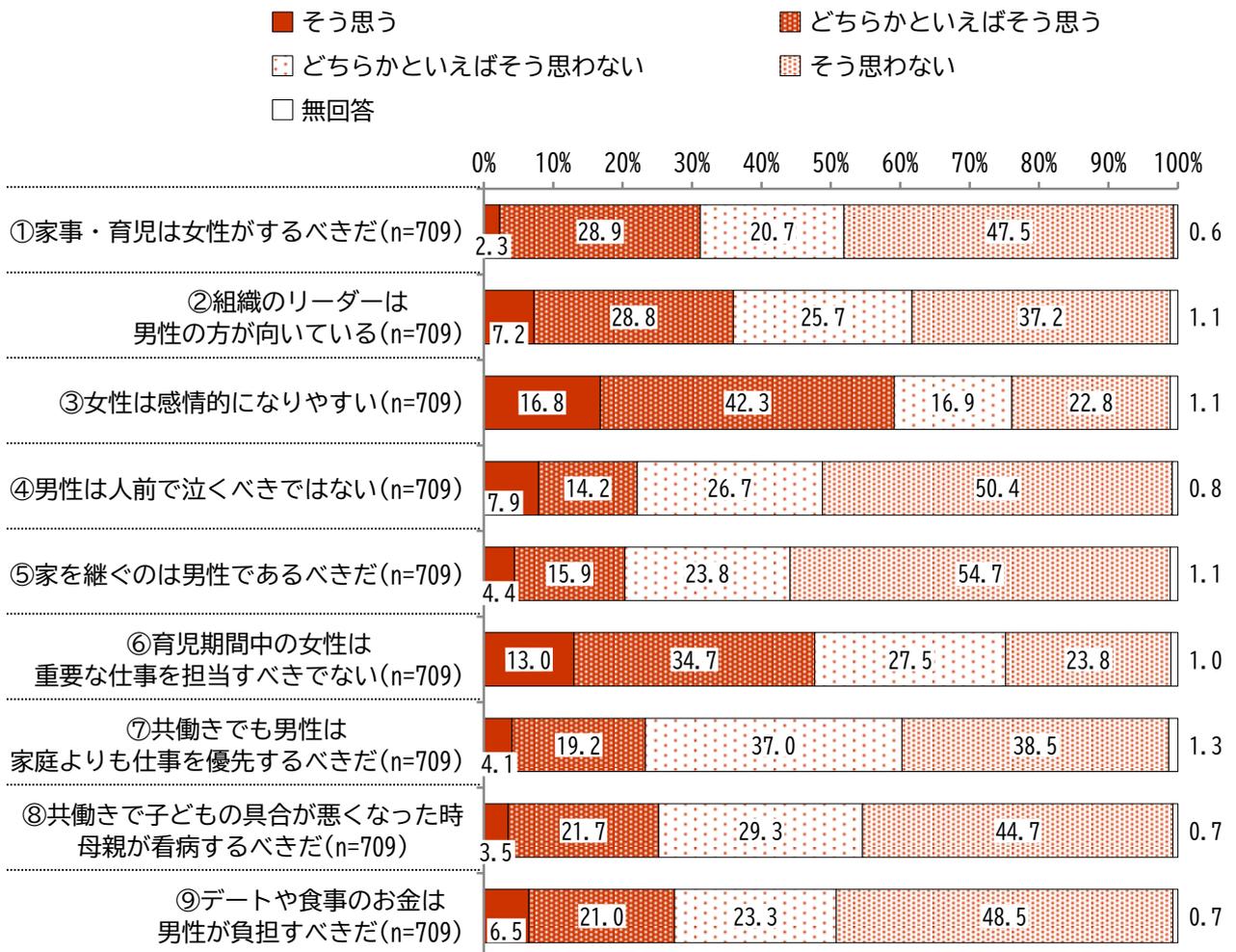
図表 41 男の子に最も望むこと（性・年代別）



問13 次のそれぞれについて、どのように思いますか。【①～⑨それぞれについて1つに○】

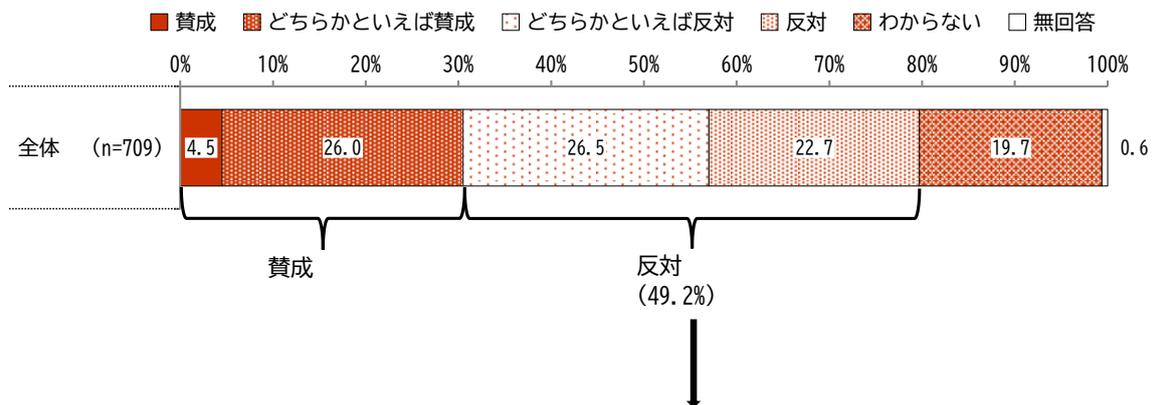
- 「③女性は感情的になりやすい」以外のすべての項目で、『思わない』（「どちらかといえばそう思わない」 + 「そう思わない」）が『思う』（「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」）より多くなっている。
- 「③女性は感情的になりやすい」では『思う』が 59.1%、「⑥育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」では 47.7%と、他の項目に比べて『思う』の割合が多くなっている。

図表 42 男女のイメージについて

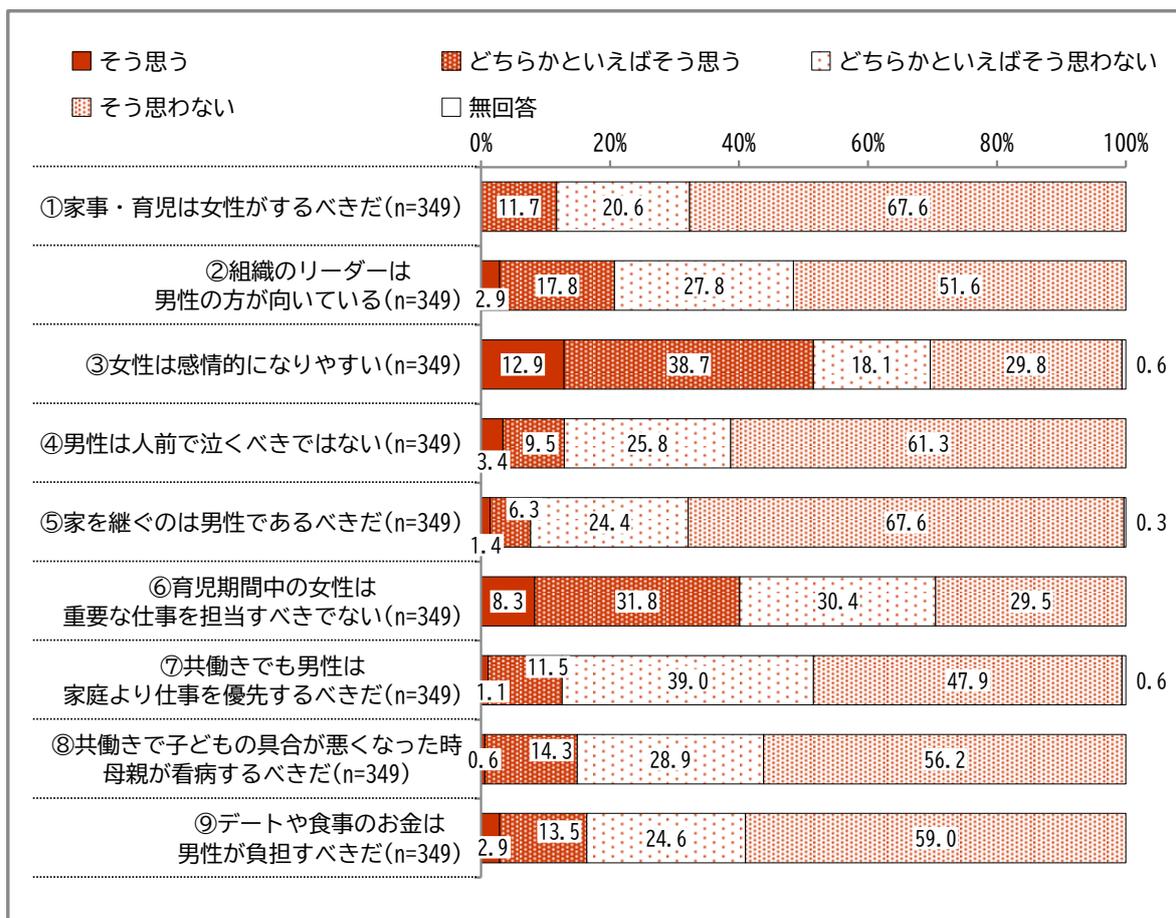


- ▶ 問 11 において、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に『反対』と回答した人に限定して問 13 の回答を見てみると、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に反対な人であっても、問 11 のすべての項目において『思う』と回答している人が一定数いることがわかる。
- ▶ 特に、「③女性は感情的になりやすい」について『思う』が 51.6%と多くなっている。

図表 43 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について（問 11）



図表 44 男女のイメージについて（問 11 で『反対派』の人のみ）

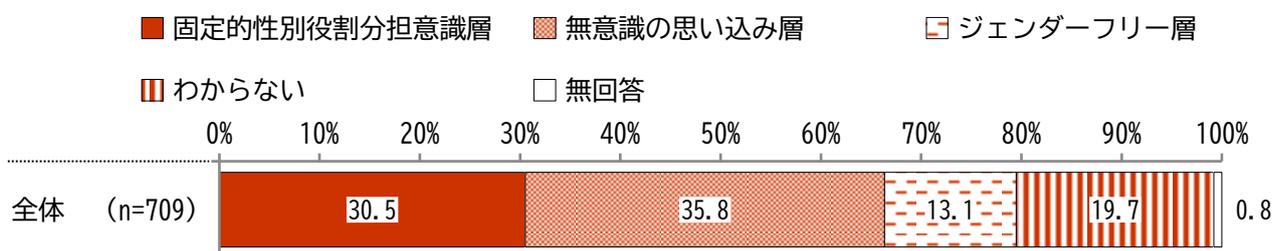


固定的性別役割分担意識についての分析

- 問11で「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に『賛成』と回答した人は、「固定的な性別役割分担意識が強い人」といえる。（＝固定的性別役割分担意識層）
- 問11で『反対』と回答しているが、問13の項目について1つでも『思う』と回答した人は、「無意識に性別役割分担意識を持っている人」といえる。（＝無意識の思い込み層）
- 問11で『反対』と回答したかつ問13ですべての項目に『思わない』と回答した人は、「性別による思い込みを持たない人」といえる。（＝ジェンダーフリー層）
- 問11で「わからない」と回答した人は、「性別役割分担意識について関心が低い人」といえる。（＝わからない）

➤ 「固定的性別役割分担意識層」が30.3%、「無意識の思い込み層」が35.8%となり、無意識を含めると66.1%の人が性別による思い込みを持っている。一方で、性別による思い込みを持たない「ジェンダーフリー層」が13.1%となっている。

図表 45 性別による思い込みについて



3. 家庭生活について

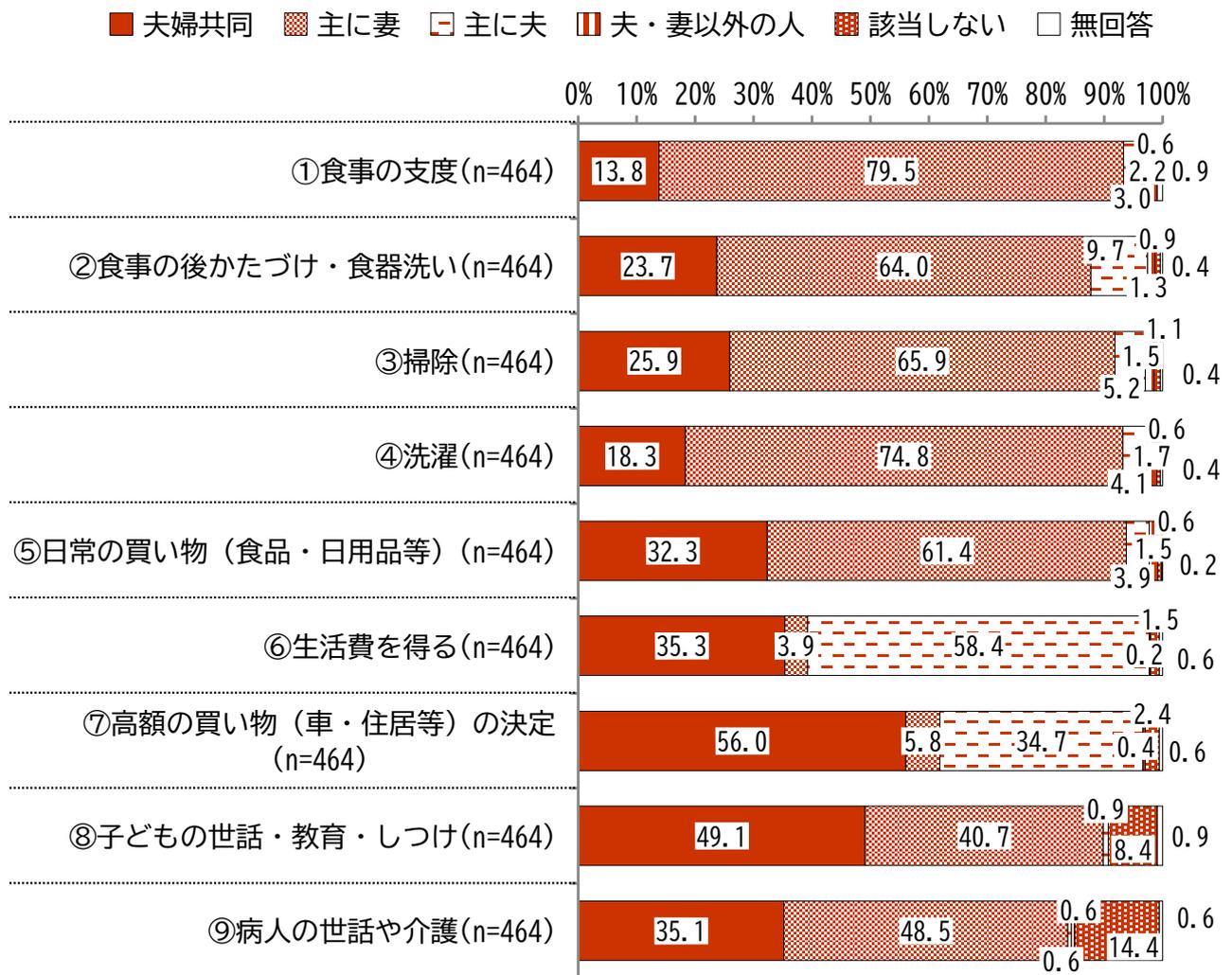
問 14 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

問 14 あなたの家庭では、次にあげることを主にどなたが行っていますか。

①～⑨のそれぞれについてお答えください。【①～⑨のそれぞれについて○は1つ】

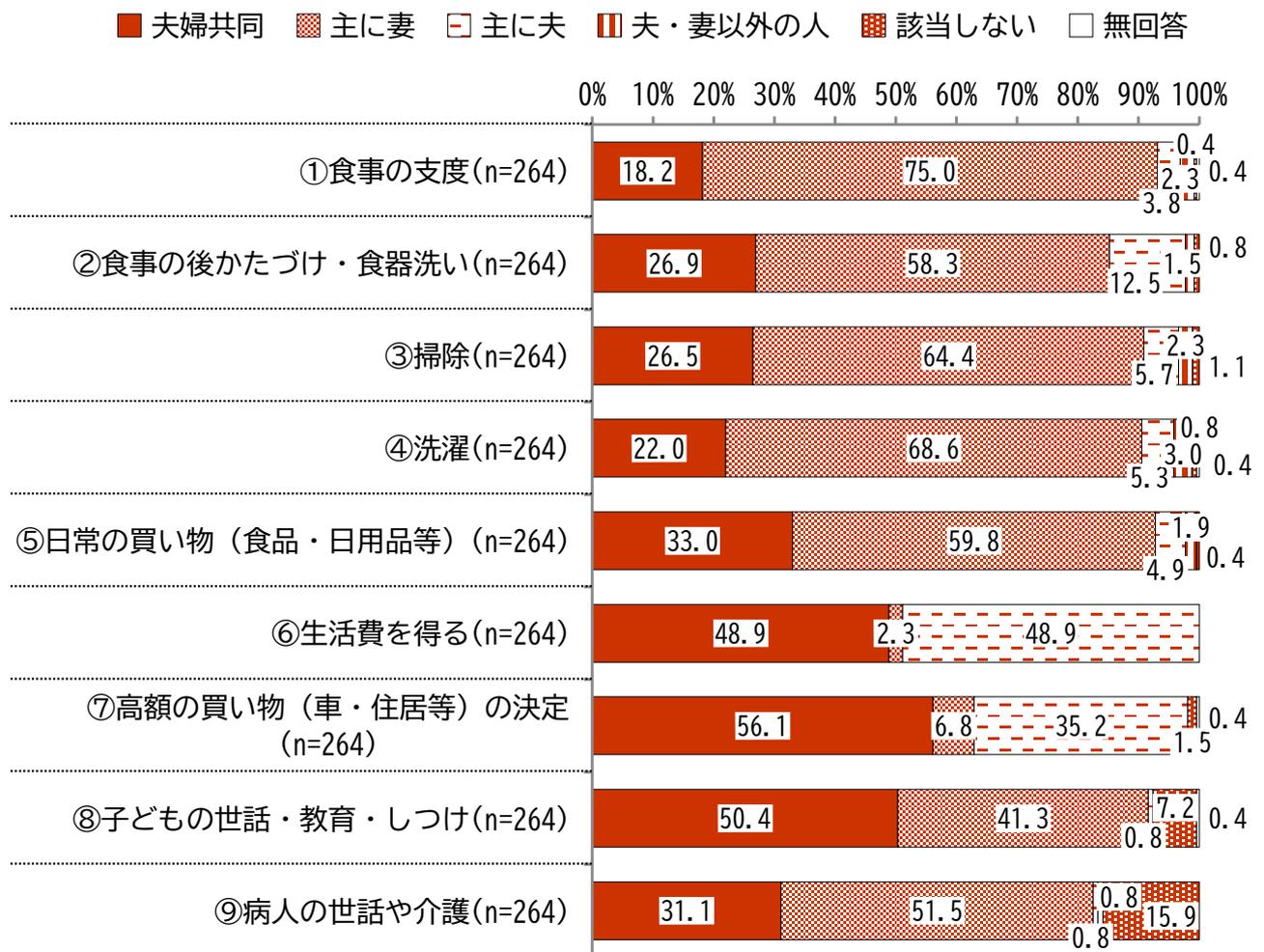
- 家庭での役割分担では、全体で見ると、「①食事の支度」「②食事の後かたづけ・食器洗い」「③掃除」「④洗濯」「⑤日常の買い物（食品・日用品等）」といった、家事に関する項目は「主に妻」が6割以上を占めており、特に「①食事の支度」では79.5%と非常に多くなっている。
- 「⑥生活費を得る」は「主に夫」が58.4%と多くなっている。

図表 46 家庭での役割分担（既婚者の人）



- 共働きの人でみると、「①食事の支度」「②食事の後かたづけ・食器洗い」「③掃除」「④洗濯」「⑤日常の買い物（食品・日用品等）」といった、家事に関する項目は「主に妻」が6割弱～7割半ばを占めている一方で、「⑥生活費を得る」については「主に夫」が48.9%と、「夫婦共同」に並んで多くなっている。
- 「⑦高額な買い物（車・住居等）の決定」「⑧子供の世話・教育・しつけについて」は「夫婦共同」が5割以上となっている。

図表 47 家庭での役割分担（共働きの人）



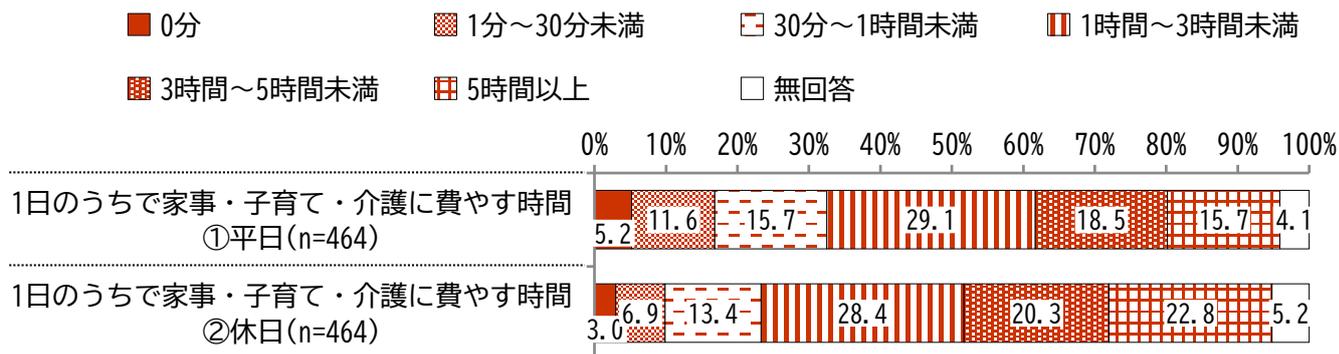
問 15 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

問 15 あなたが1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間はどのくらいですか。

①平日、②休日のそれぞれについてお答えください。【①②のそれぞれについて〇は1つ】

- 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間を平日と休日と比較すると、平日に比べて休日の方が家事・子育て・介護に費やす時間が長いということがわかる。

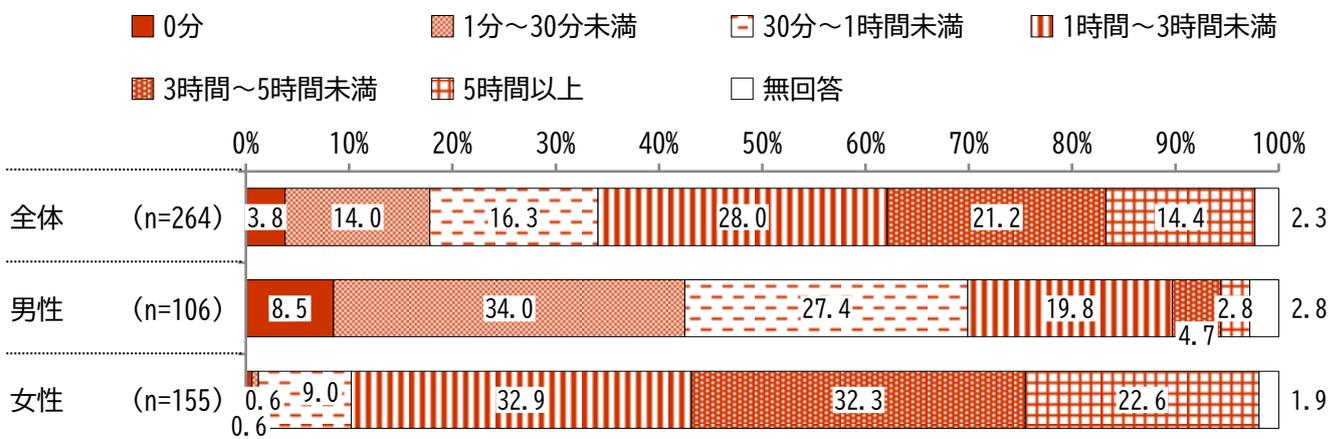
図表 48 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間（既婚者の人）



共働きの人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ①平日

- 共働きの人が家事等に費やす時間について、全体でみると、平日に『1時間以上』（「1時間～3時間未満」＋「3時間～5時間未満」＋「5時間以上」）費やしている割合は63.6%となっている。
- 性別でみると、平日に『1時間以上』費やしている割合は、男性で27.3%、女性で87.8%と、女性が男性より60.5ポイント多く、共働きの人において、平日に家事等に費やす時間は女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

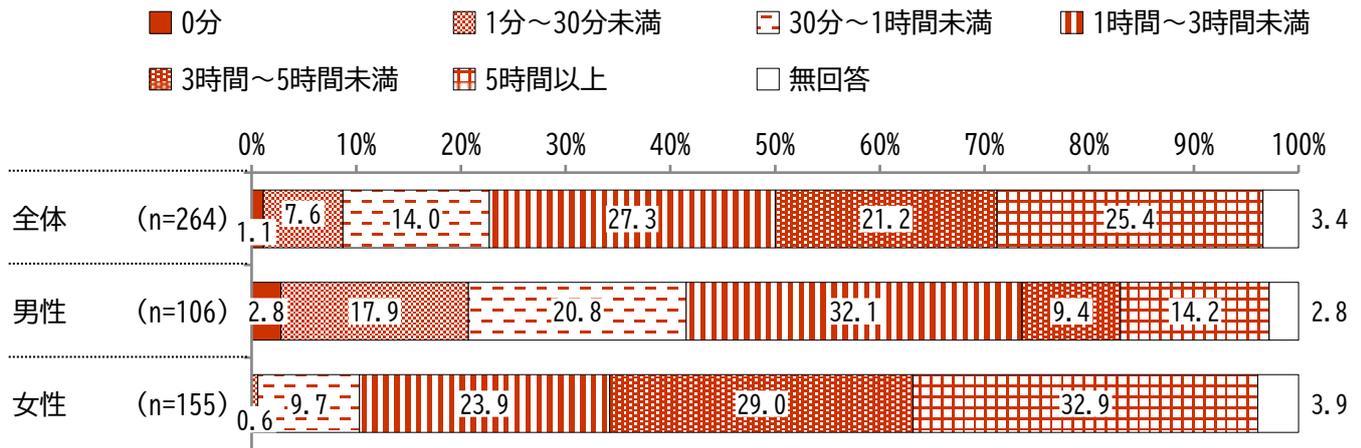
図表 49 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①平日（共働きの人/性別）



共働きの人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ②休日

- 共働きの人が家事等に費やす時間について、全体でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は73.9%となっている。
- 性別でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は、男性で55.7%、女性が85.8%と、女性が男性より25.3ポイント多く、共働きの人において、休日に家事等に費やす時間も女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

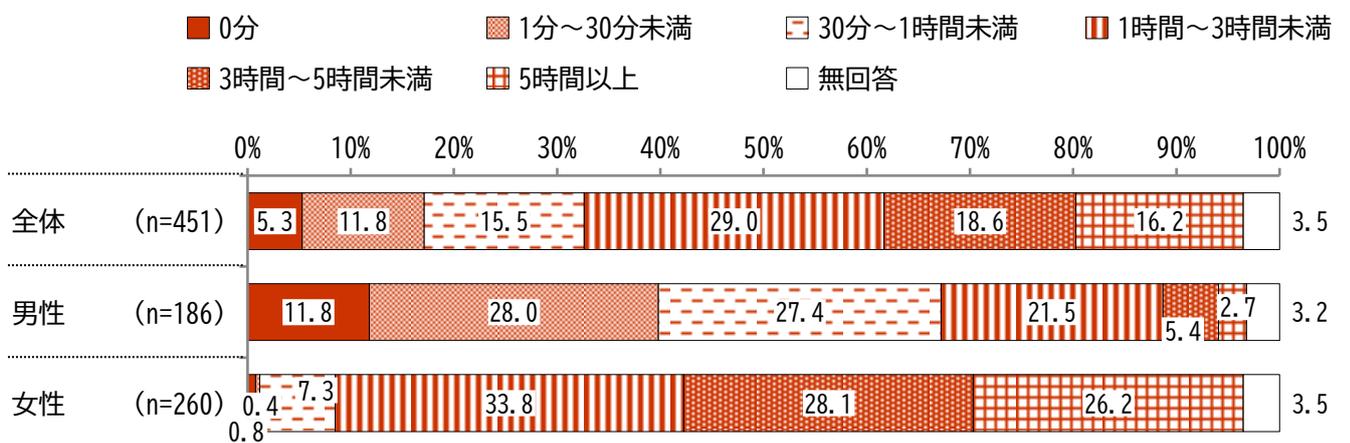
図表 50 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①休日（共働きの人/性別）



子どもがいる人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ①平日

- 子どもがいる人が家事等に費やす時間について、全体でみると、平日に『1時間以上』費やしている割合は63.8%となっている。
- 性別でみると、平日に『1時間以上』費やしている割合は男性で29.6%、女性で88.1%と、女性が男性より58.5ポイント多く、子どもがいる人において、平日に家事等に費やす時間は女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

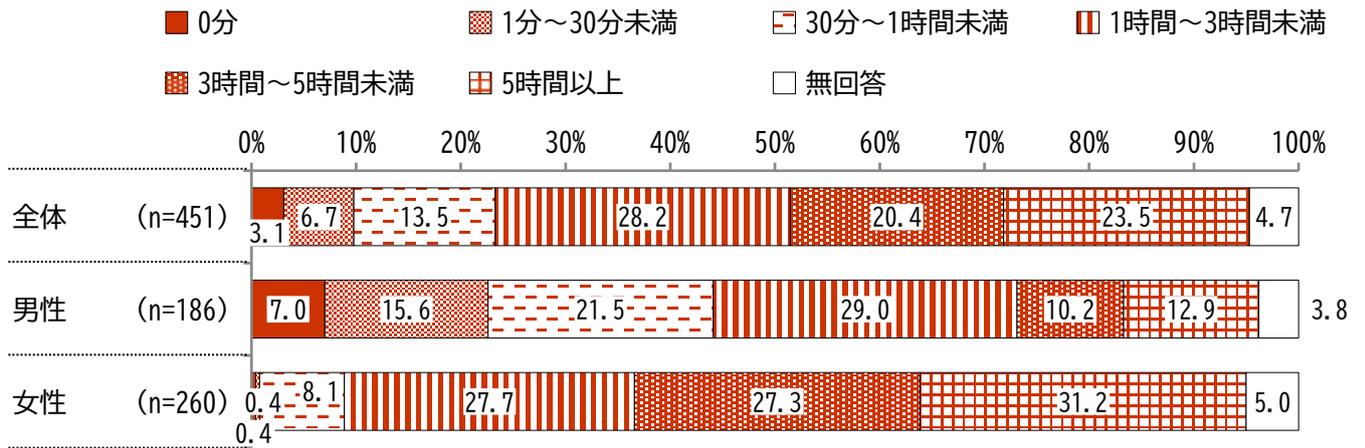
図表 51 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①平日（子どもがいる人/性別）



子どもがいる人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ②休日

- ▶ 子どもがいる人が家事・子育て・介護に費やす時間について、全体でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は72.1%となっている。
- ▶ 性別でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は、男性で52.1%、女性で86.2%と、女性が男性より34.1ポイント多く、子どもがいる人において、休日に家事等に費やす時間も女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

図表 52 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①休日（子どもがいる人/性別）

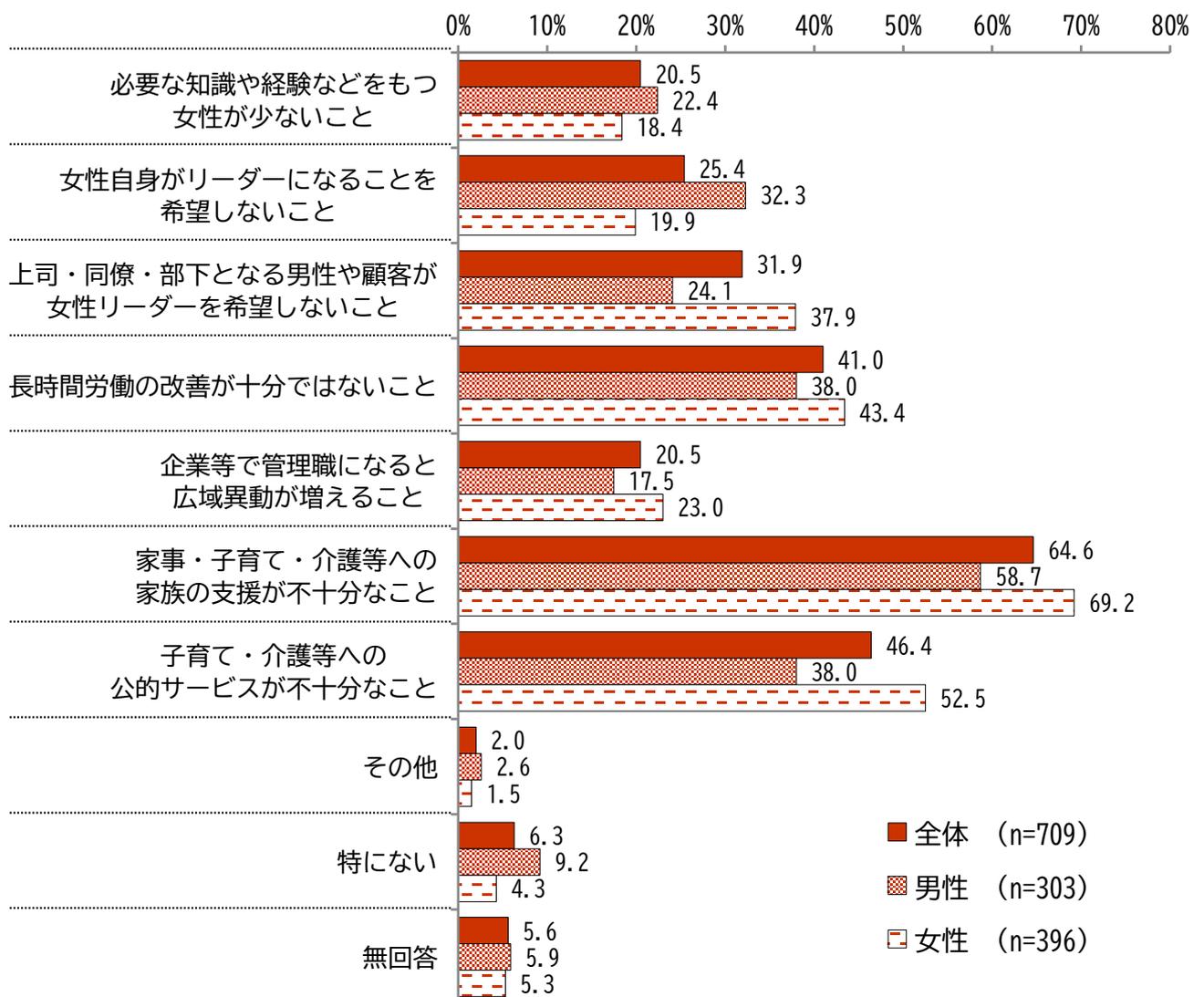


4. あなたの仕事の状況や女性の活躍に関することについて

問 16 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。【〇はいくつでも】

- ▶ 女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて、全体で見ると、「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が64.6%と最も多く、次いで「子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が46.4%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が41.0%となっている。
- ▶ 性別で見ると、男女共に「家事・子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が一番多いが、男性は58.7%、女性は69.2%と、女性が男性より10.5ポイント多くなっている。

図表 53 女性リーダーを増やすとき障害となるもの（性別）



▶ 年代別で見ると、すべての年代で「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が最も多く、特に30歳代と40歳代では7割以上と多くなっている。また、「子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が30歳代で66.0%と特に多くなっている。

図表 54 女性リーダーを増やすとき障害となるもの（年代別）

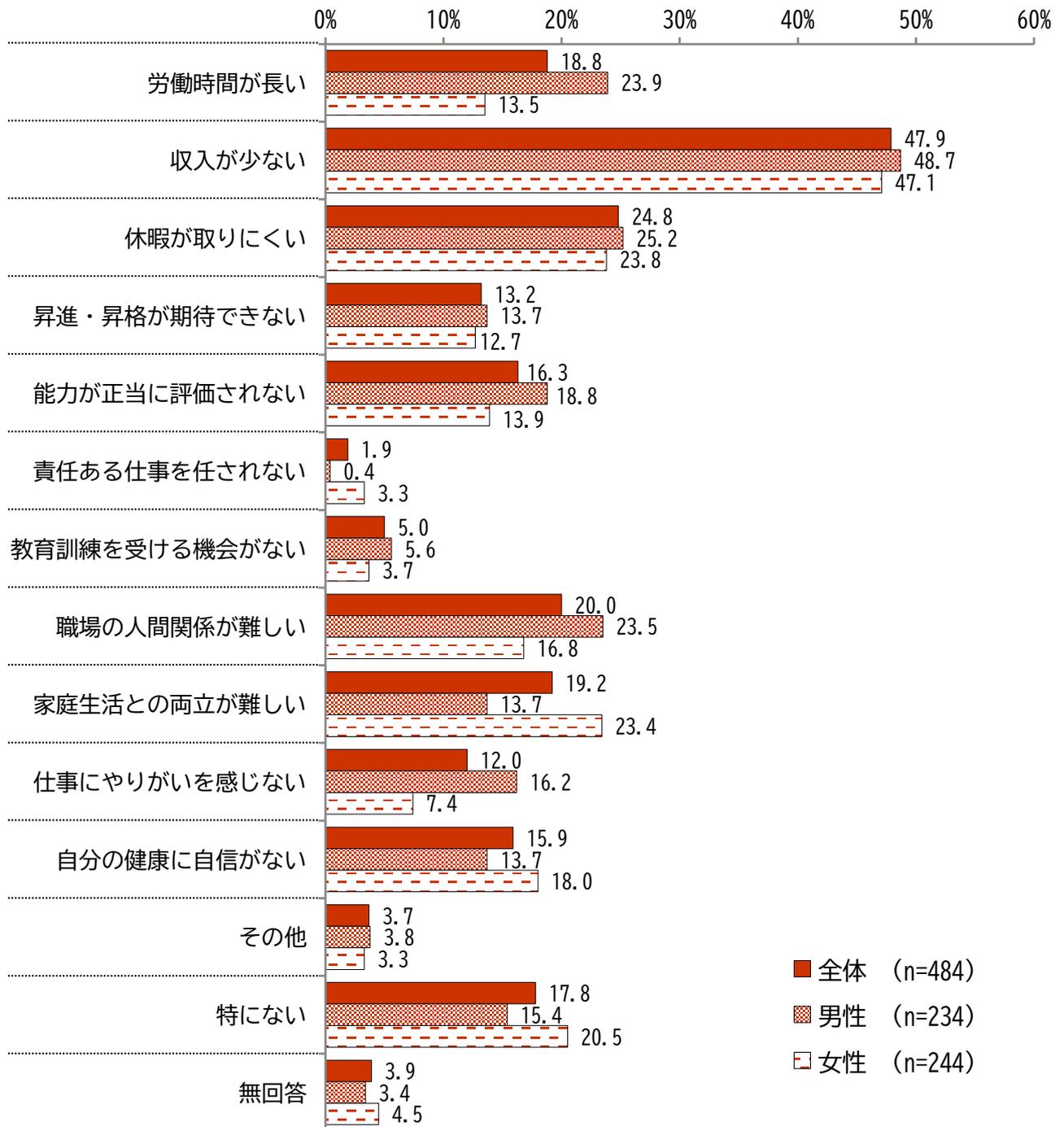
	全体	必要な知識や経験がないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分でないこと	企業等で管理職になることと広域異動が増えること	家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと	子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと	その他	特にない	無回答	
全体	709 100.0	145 20.5	180 25.4	226 31.9	291 41.0	145 20.5	458 64.6	329 46.4	14 2.0	45 6.3	40 5.6	
年代別	10～20歳代	78 100.0	14 17.9	20 25.6	34 43.6	28 35.9	50 64.1	36 46.2	2 2.6	3 3.8	2 2.6	
	30歳代	103 100.0	20 19.4	24 23.3	37 35.9	50 48.5	21 20.4	82 79.6	68 66.0	4 3.9	1 1.0	3 2.9
	40歳代	116 100.0	18 15.5	30 25.9	33 28.4	46 39.7	25 21.6	83 71.6	55 47.4	3 2.6	13 11.2	2 1.7
	50歳代	121 100.0	25 20.7	36 29.8	42 34.7	43 35.5	25 20.7	73 60.3	47 38.8	4 3.3	11 9.1	2 1.7
	60歳代	164 100.0	33 20.1	39 23.8	50 30.5	69 42.1	33 20.1	101 61.6	79 48.2	-	8 4.9	13 7.9
	70歳以上	123 100.0	33 26.8	29 23.6	27 22.0	53 43.1	27 22.0	68 55.3	43 35.0	1 0.8	9 7.3	17 13.8

現在働いている人にお聞きします。

問 17 仕事をするうえでの悩みは何ですか。【〇はいくつでも】

- 仕事をするうえでの悩みでは、全体で見ると、「収入が少ない」が 47.9%と最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が 24.8%、「職場の人間関係が難しい」が 20.0%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「収入が少ない」が最も多い。「労働時間が長い」は男性が女性より 10.4 ポイント、「家庭生活との両立が難しい」は女性が男性より 9.7 ポイント多くなっており、男女で仕事上での悩みに違いがあることがわかる。

図表 55 仕事をするうえでの悩み（現在就業中の人/性別）



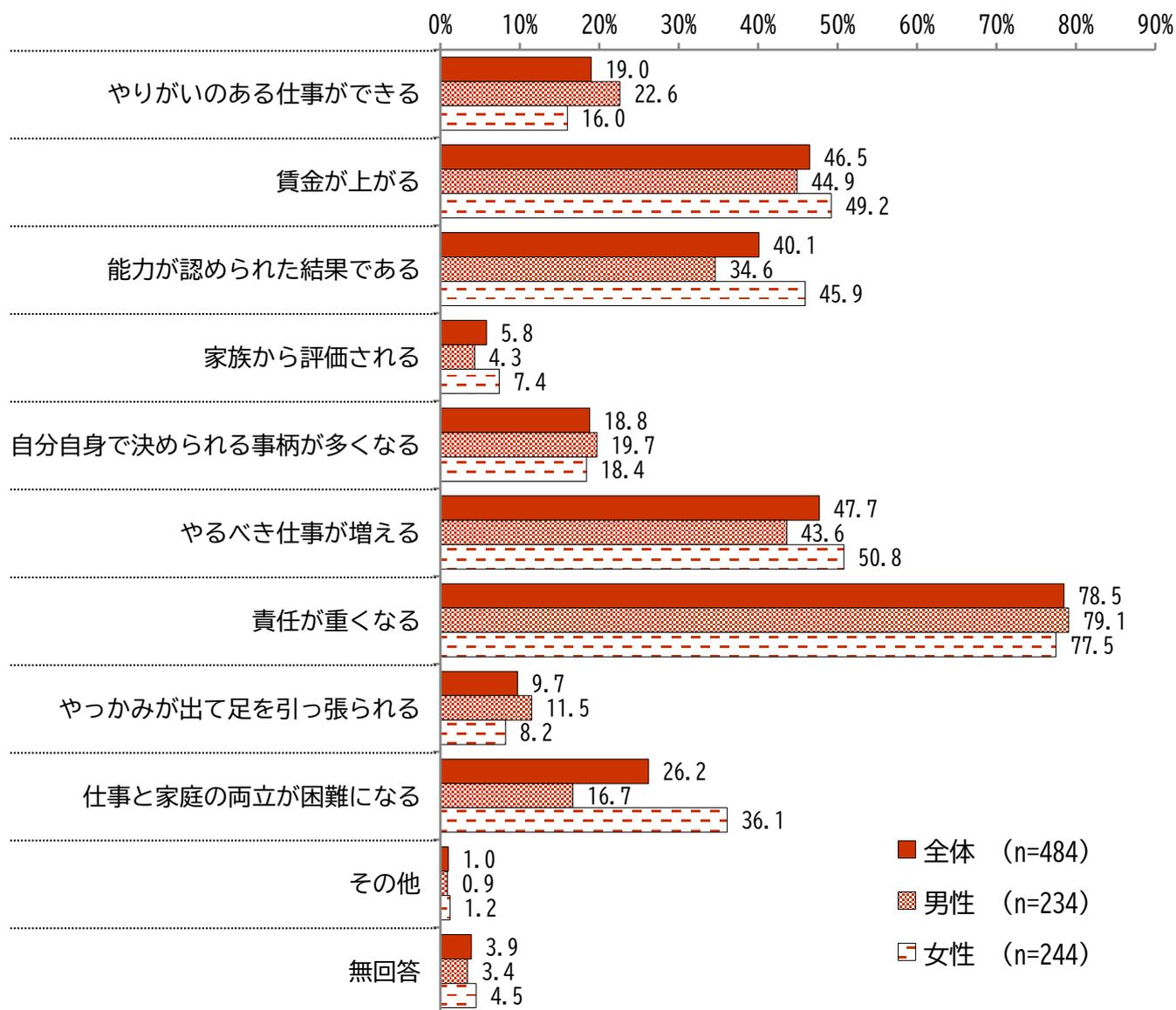
現在働いている人にお聞きします。

問 18 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。

【〇はいくつでも】

- ▶ 管理職以上に昇進することについて、全体でみると、「責任が重くなる」が 78.5%と最も多く、次いで「やるべき仕事が増える」が 47.7%、「賃金が上がる」が 46.5%となっている。
- ▶ 性別でみると、男女共に「責任が重くなる」が最も多い。「仕事と家庭の両立が困難になる」について女性が男性より 19.4 ポイント多く、女性管理職になることで家庭との両立への懸念を持つ傾向が強い。一方で、「能力が認められた結果である」が女性は 45.9%と男性より 11.3 ポイント多く、女性の中で管理職に対するポジティブなイメージも見られる。

図表 56 管理職以上に昇進することについてのイメージ（現在就業中の人/性別）



➤ 年代別でみると、すべての年代で「責任が重くなる」が最も多い。

図表 57 管理職以上に昇進することについてのイメージ（現在就業中の人/年代別）

	全体	やりがいのある仕事ができる	賃金上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	足を引っ張られる	やつかみが出て張り出	立仕事と家庭の両	その他	無回答
全体	484 100.0	92 19.0	225 46.5	194 40.1	28 5.8	91 18.8	231 47.7	380 78.5	47 9.7	127 26.2	5 1.0	19 3.9	
年代別	10~20歳代	49 100.0	7 14.3	26 53.1	24 49.0	8 16.3	16 32.7	26 53.1	48 98.0	8 16.3	11 22.4	1 2.0	-
	30歳代	88 100.0	10 11.4	53 60.2	29 33.0	2 2.3	9 10.2	48 54.5	69 78.4	11 12.5	33 37.5	2 2.3	2
	40歳代	108 100.0	20 18.5	50 46.3	46 42.6	5 4.6	17 15.7	65 60.2	90 83.3	10 9.3	35 32.4	1 0.9	-
	50歳代	98 100.0	15 15.3	42 42.9	44 44.9	9 9.2	21 21.4	41 41.8	73 74.5	8 8.2	18 18.4	1 1.0	2
	60歳代	104 100.0	34 32.7	41 39.4	41 39.4	2 1.9	26 25.0	43 41.3	81 77.9	7 6.7	21 20.2	-	6
	70歳以上	36 100.0	6 16.7	13 36.1	10 27.8	2 5.6	2 5.6	8 22.2	19 52.8	3 8.3	9 25.0	-	8

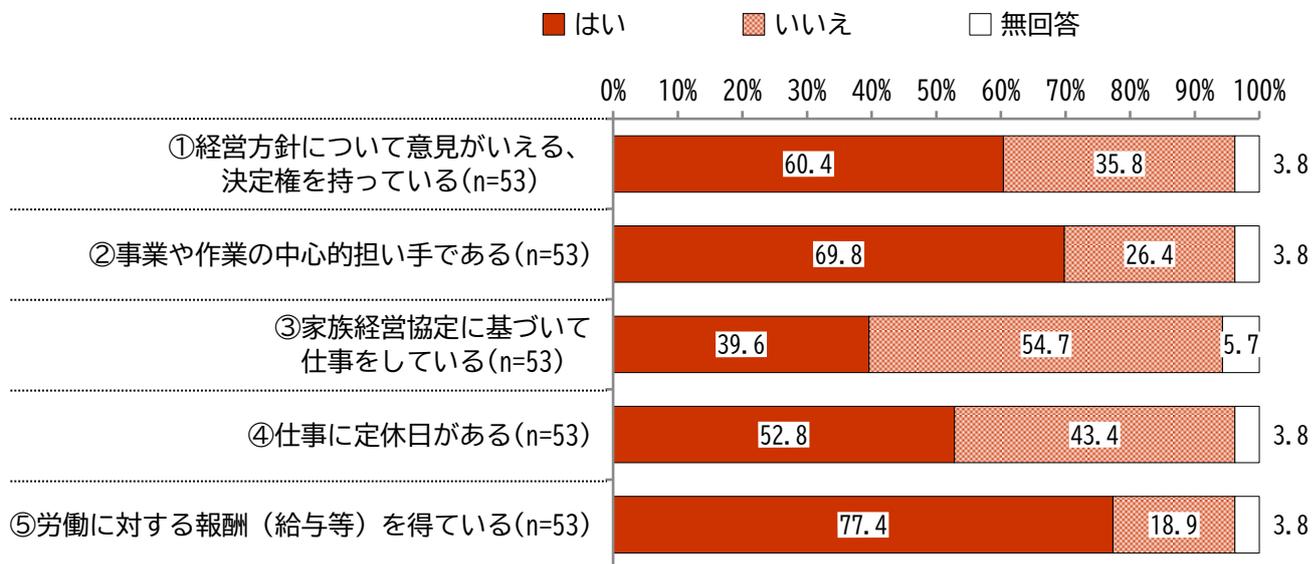
自営業の人にお聞きします。

問 19 あなたの立場、雇用の状況はどのようになっていますか。

①~⑤のそれぞれについてお答えください。【①~⑤のそれぞれについて○は1つ】

➤ 自営業の回答者の立場、雇用の状況では、「③家族経営協定に基づいて仕事をしている」のみ、「いいえ」が54.7%と半数を超えている。

図表 58 立場・雇用の状況（自営業の人）

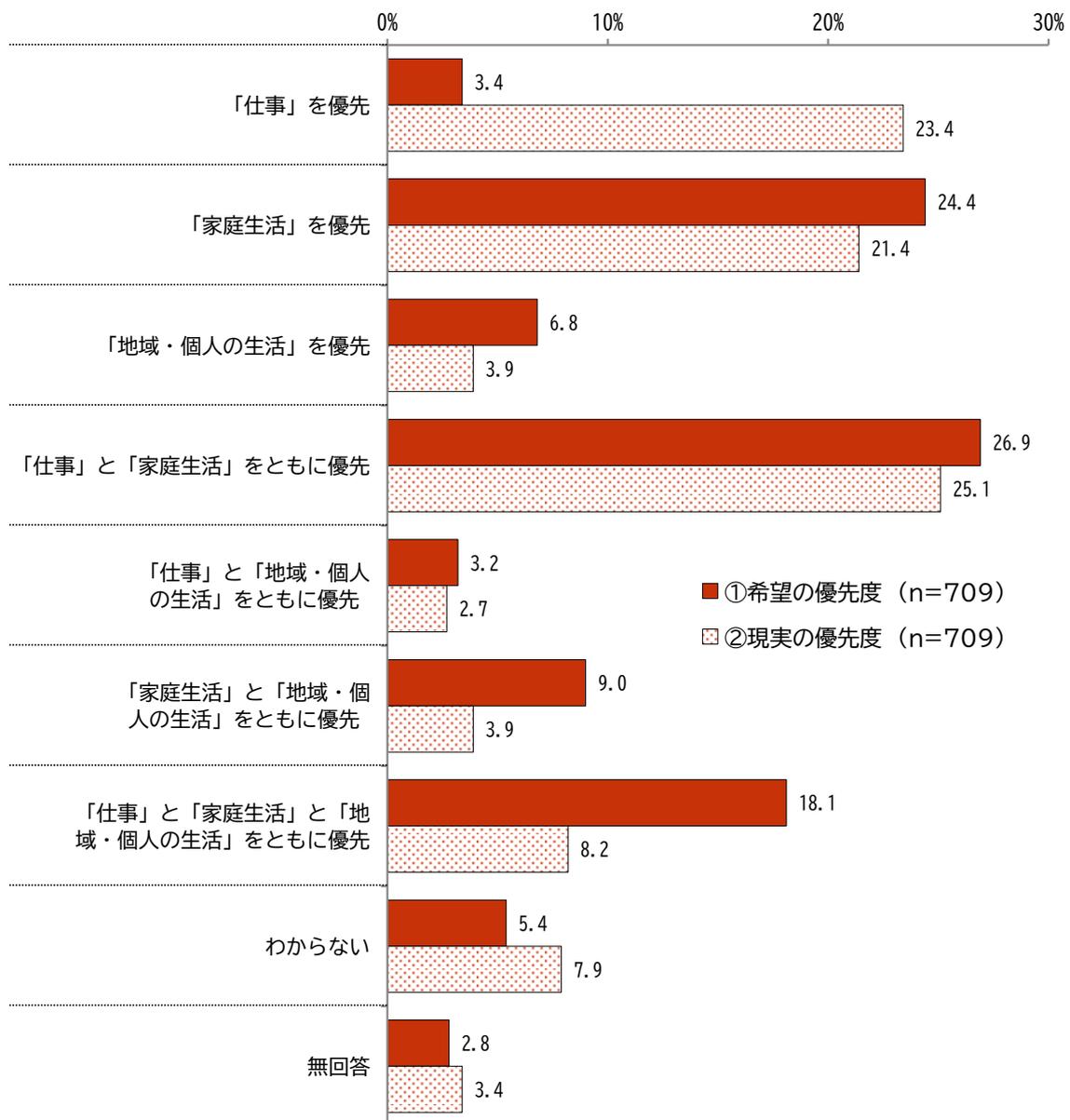


5. 仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について

問 20 生活の中で、「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のうち、どれを優先しますか。【①②のそれぞれについて〇は1つ】

- ▶ 全体で見ると、希望の優先度、現実の優先度の両方で「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が最も多く、仕事と家庭生活を両立できている人が2割半ばとなっている。
- ▶ 「「仕事」を優先」では、希望としては3.4%、現実では23.4%が優先していることから、現実では仕事を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。

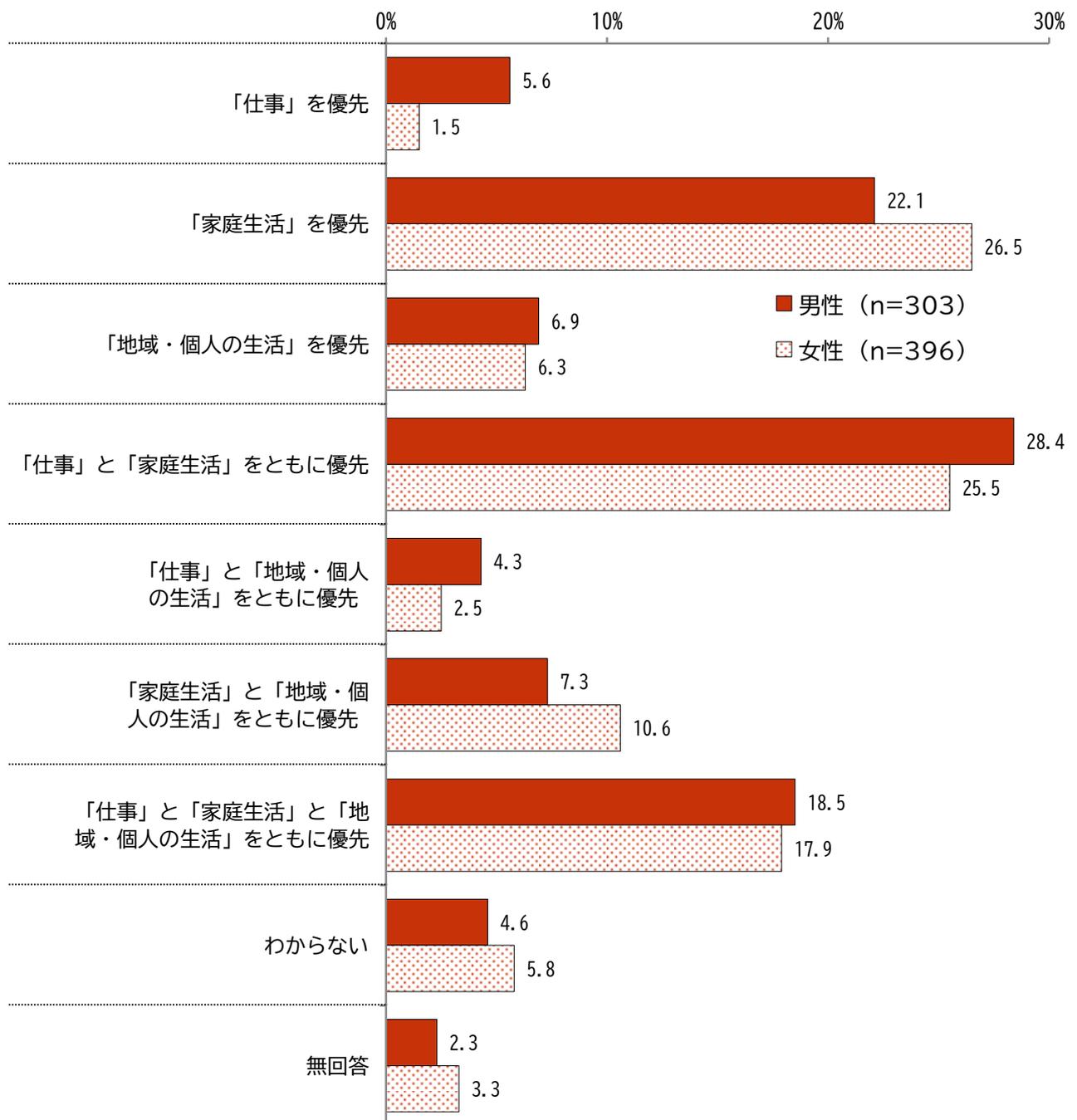
図表 59 生活の中での優先度（希望・現実）



①希望の優先度

- 希望の優先度について性別でみると、男性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 28.4%と最も多いが、女性では「家庭生活」を優先」が 26.5%と最も多くなっている。

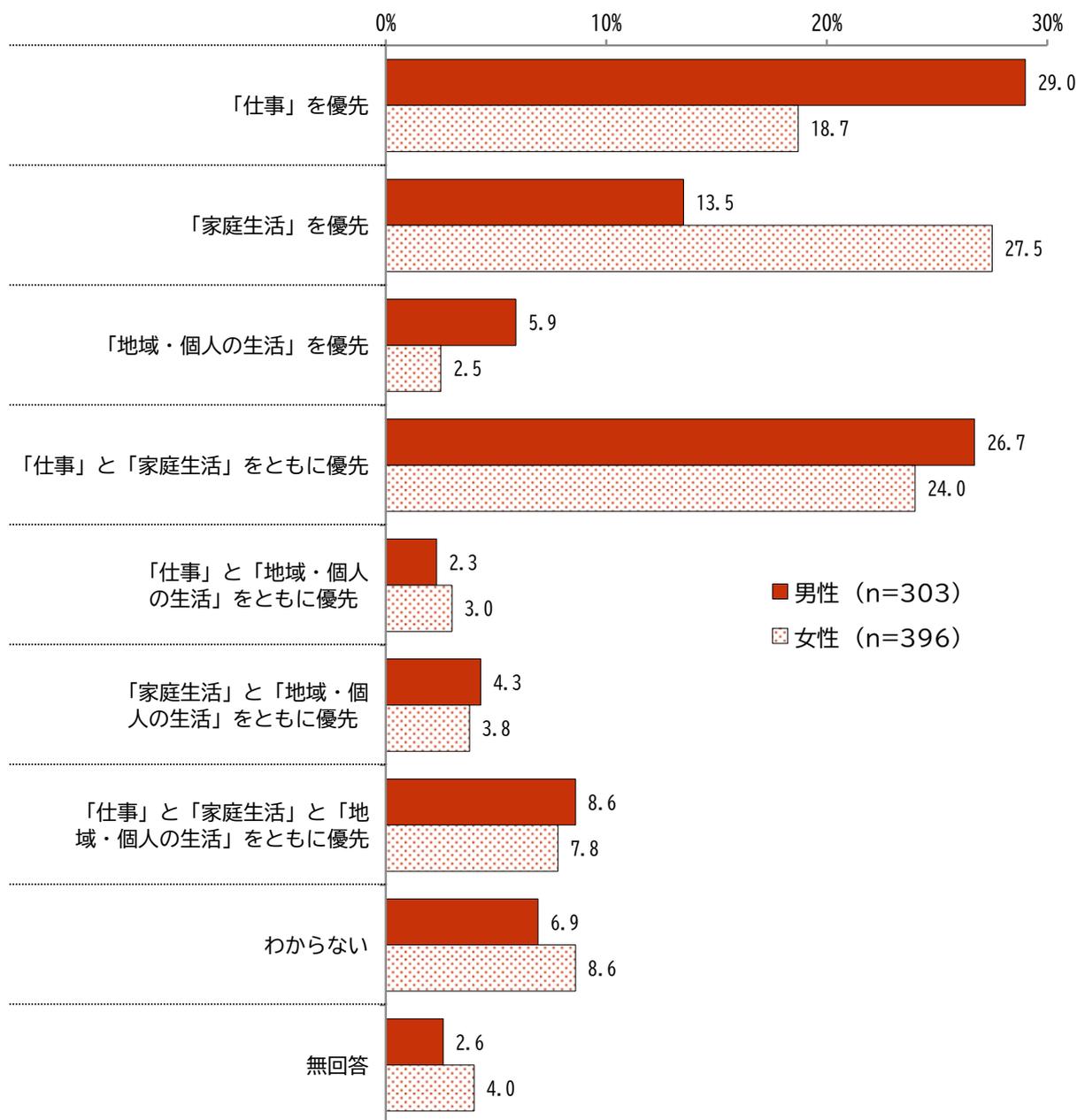
図表 60 希望の優先度（性別）



②現実の優先度

- 現実の優先度について性別で見ると、男性では「仕事」を優先が29.0%と最も多く、女性では「家庭生活」を優先が27.5%と最も多くなっている。
- ①希望の優先度と比較すると、男性は希望としては仕事と家庭生活を両立させたくとも、現実では仕事を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。

図表 61 現実の優先度（性別）

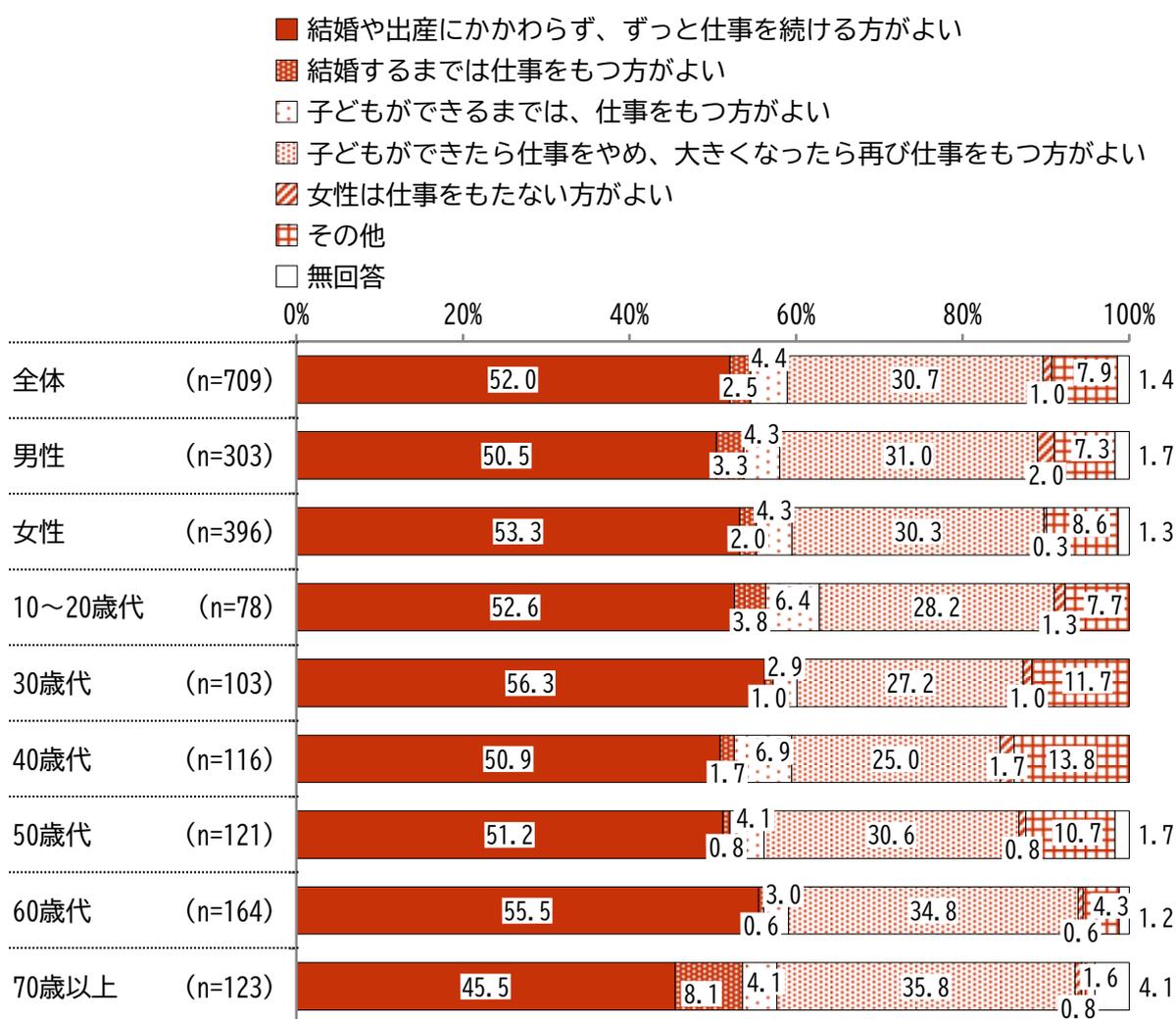


問 21 女性・男性が仕事をもつことについて、どのように考えていますか。

①女性が仕事をもつことについての考え【〇は1つ】

- ①女性が仕事をもつことについての考えでは、全体でみると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 52.0%と最も多く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 30.7%となっている。
- 性別でみると、男女で大きな差はみられない。
- 年代別でみると、70 歳以上で「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 45.5%と、ほかの年代より少なくなっている。

図表 62 ①女性が仕事をもつことについて（性・年代別）

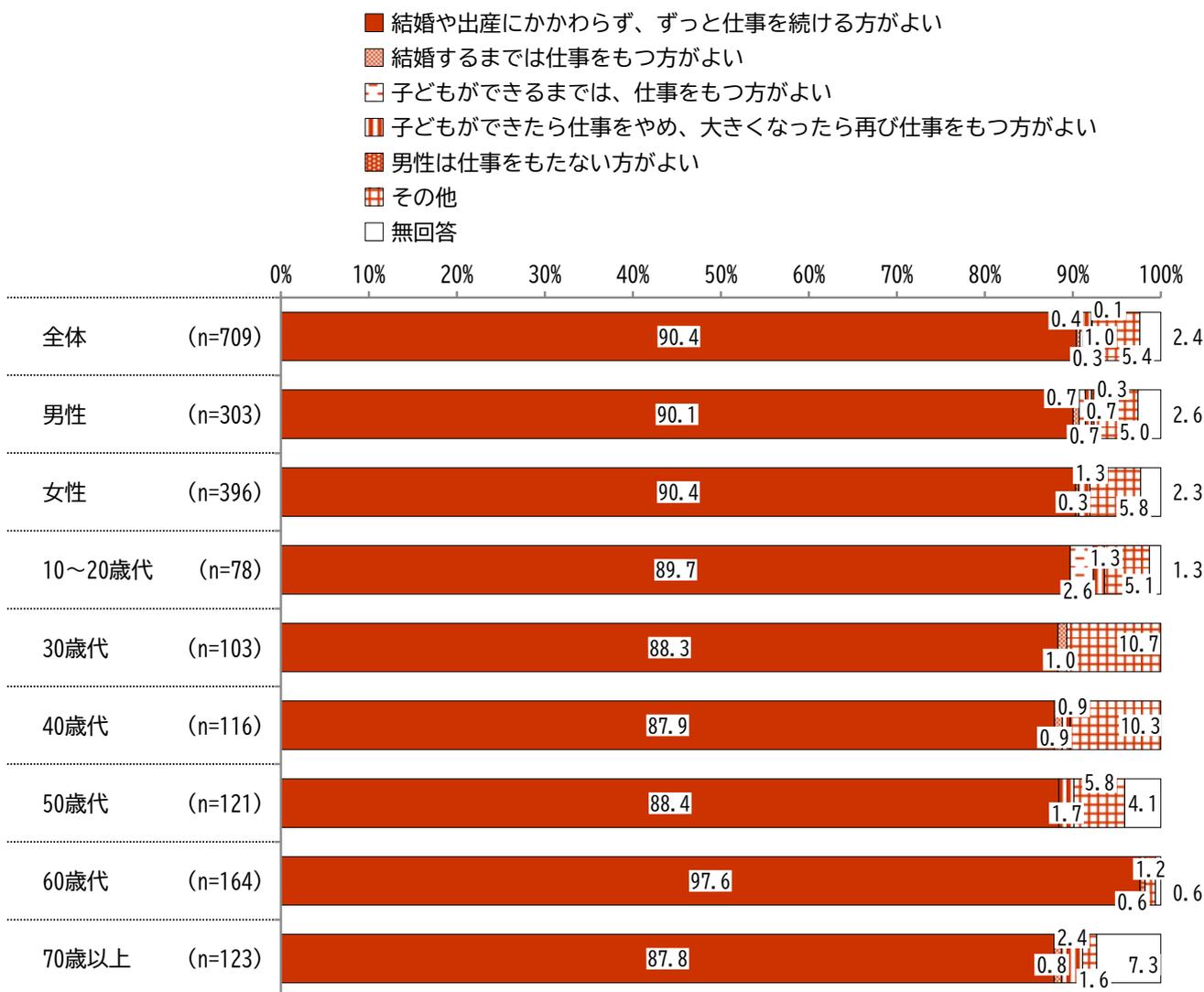


問 21 女性・男性が仕事をもつことについて、どのように考えていますか。

②男性が仕事をもつことについての考え【〇は1つ】

- ②男性が仕事をもつことについての考えでは、全体で見ると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が90.4%とほとんどを占めている。
- 性別で見ると、男女で大きな差はみられない。
- 年代別で見ると、すべての年代で「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が約9割を占め、特に60歳代では97.6%と多くなっている。

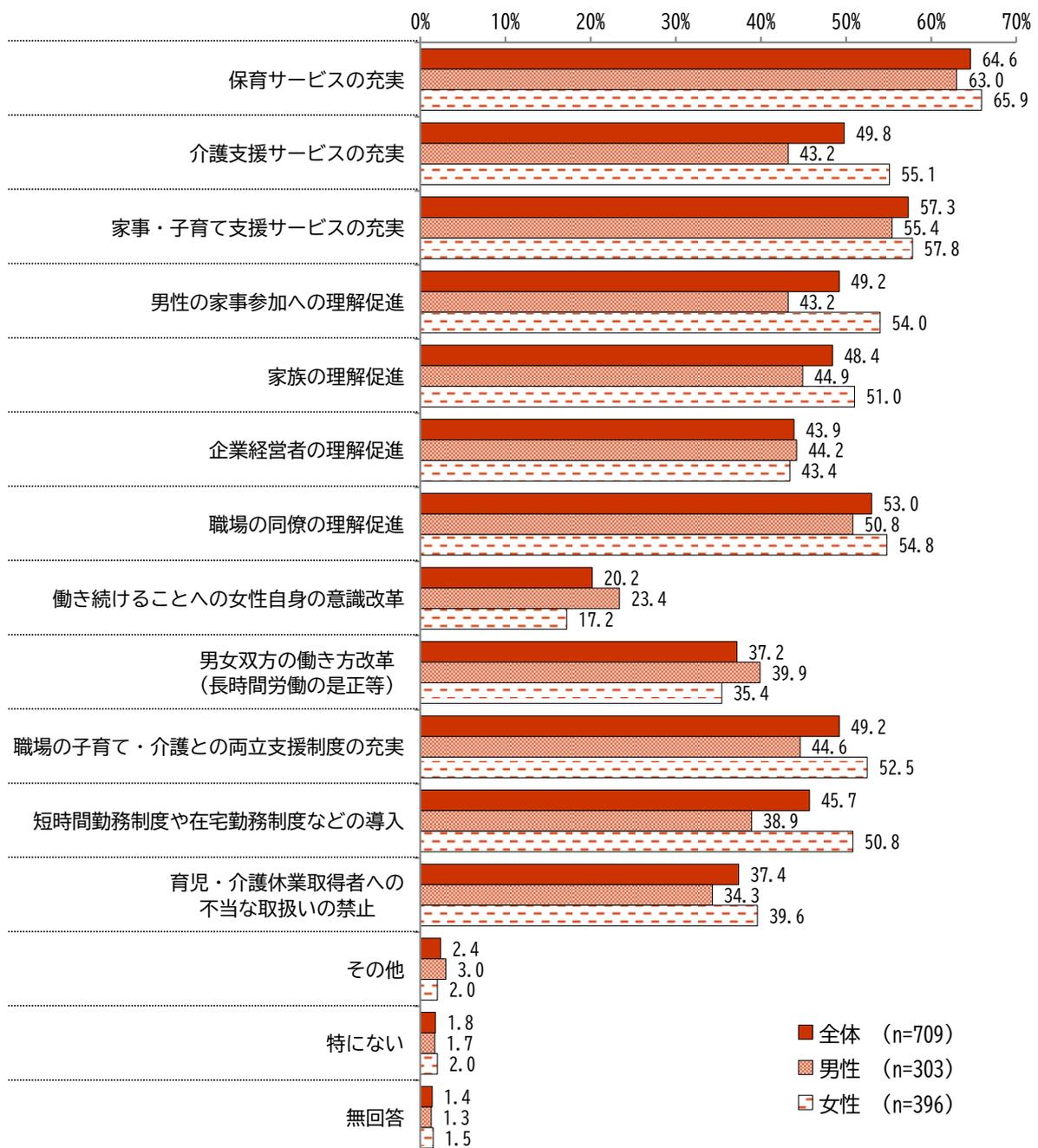
図表 63 ②男性が仕事をもつことについて（性・年代別）



問 22 女性が出産や介護などを機に離職せず、同じ職場で働き続けるために必要なことは何だと思えますか。【〇はいくつでも】

- 女性が同じ職場で働き続けるために必要なことでは、全体で見ると、「保育サービスの充実」が 64.6% と最も多く、次いで「家事・子育て支援サービスの充実」が 57.3%、「職場の同僚の理解促進」が 53.0% となっている。
- 性別で見ると、男女共に「保育サービスの充実」が 6 割強と最も多いが、「介護支援サービスの充実」「男性の家事参加への理解促進」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」で、女性が男性より 10.0 ポイント以上多く、男女で感じ方に差があることがわかる。

図表 64 女性が同じ職場で働き続けるために必要なこと（性別）



▶ 年代別では、すべての年代で「保育サービスの充実」が最も多く、特に30歳代で77.7%と多くなっている。また、10～50歳代では次いで「家事・子育てサービスの充実」が多いが、こちらも特に30歳代で73.8%と多くなっている。

図表 65 女性が同じ職場で働き続けるために必要なこと（年代別）

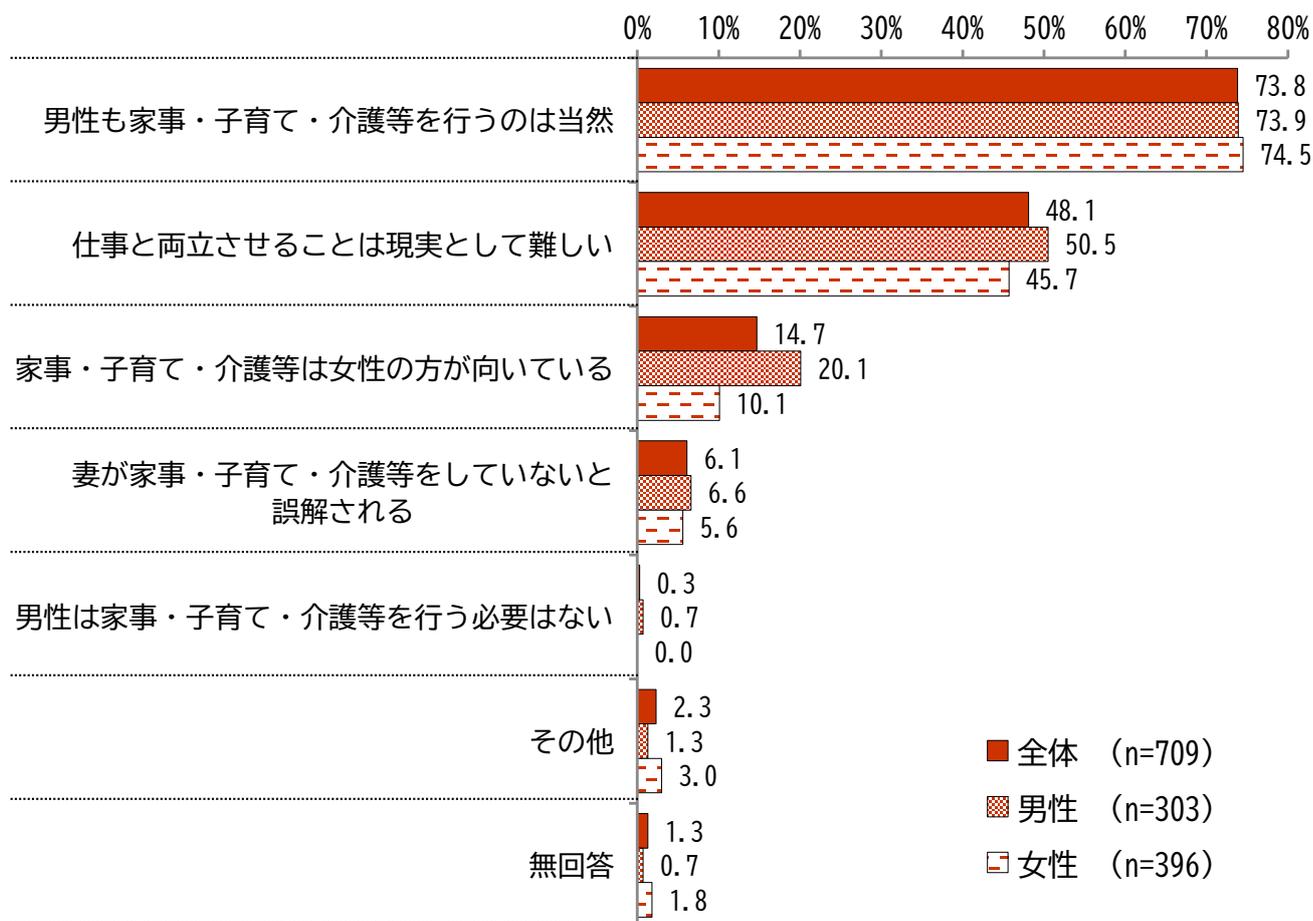
	全体	保育サービスの充実	介護支援サービスの充実	家事・子育て支援サービスの充実	男性の家事参加への理解促進	家族の理解促進	企業経営者の理解促進	職場の同僚の理解促進	働き続けることへの女性の自身の意識改革	男女双方の働き方改革（長時間労働の是正等）	職場の子育て・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児・介護休業取得者への不当な取扱いの禁止	その他	特になし	無回答	
		数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
全体	709	458	353	406	349	343	311	376	143	264	349	324	265	17	13	10	
	100.0	64.6	49.8	57.3	49.2	48.4	43.9	53.0	20.2	37.2	49.2	45.7	37.4	2.4	1.8	1.4	
年代別	10～20歳代	78	56	42	54	48	38	37	44	19	43	45	44	35	3	3	-
		100.0	71.8	53.8	69.2	61.5	48.7	47.4	56.4	24.4	55.1	57.7	56.4	44.9	3.8	3.8	-
	30歳代	103	80	51	76	69	52	53	70	24	51	59	63	48	4	-	-
		100.0	77.7	49.5	73.8	67.0	50.5	51.5	68.0	23.3	49.5	57.3	61.2	46.6	3.9	-	-
	40歳代	116	80	59	69	59	59	47	62	28	44	58	65	45	1	-	-
		100.0	69.0	50.9	59.5	50.9	50.9	40.5	53.4	24.1	37.9	50.0	56.0	38.8	0.9	-	-
	50歳代	121	81	57	61	56	49	55	60	23	37	57	42	39	6	3	3
100.0		66.9	47.1	50.4	46.3	40.5	45.5	49.6	19.0	30.6	47.1	34.7	32.2	5.0	2.5	2.5	
60歳代	164	95	93	92	69	85	64	82	29	54	82	70	57	3	2	1	
	100.0	57.9	56.7	56.1	42.1	51.8	39.0	50.0	17.7	32.9	50.0	42.7	34.8	1.8	1.2	0.6	
70歳以上	123	63	48	51	46	58	52	56	19	34	45	38	38	-	5	5	
	100.0	51.2	39.0	41.5	37.4	47.2	42.3	45.5	15.4	27.6	36.6	30.9	30.9	-	4.1	4.1	

問 23 男性が家事・子育て・介護等を行うことについて、どのように考えていますか。

【〇はいくつでも】

- 男性が家事等を行うことについては、全体で見ると、「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が73.8%と最も多く、次いで「仕事と両立させることは現実として難しい」が48.1%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が7割強と最も多い。一方で、「家事・子育て・介護等は女性の方が向いている」では、男性が20.1%、女性が10.1%と男性が女性より10.0ポイント多くなっている。

図表 66 男性が家事等を行うことについて（性別）



▶ 年代別では、すべての年代で「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が最も多く、年代で差はほとんどみられない。

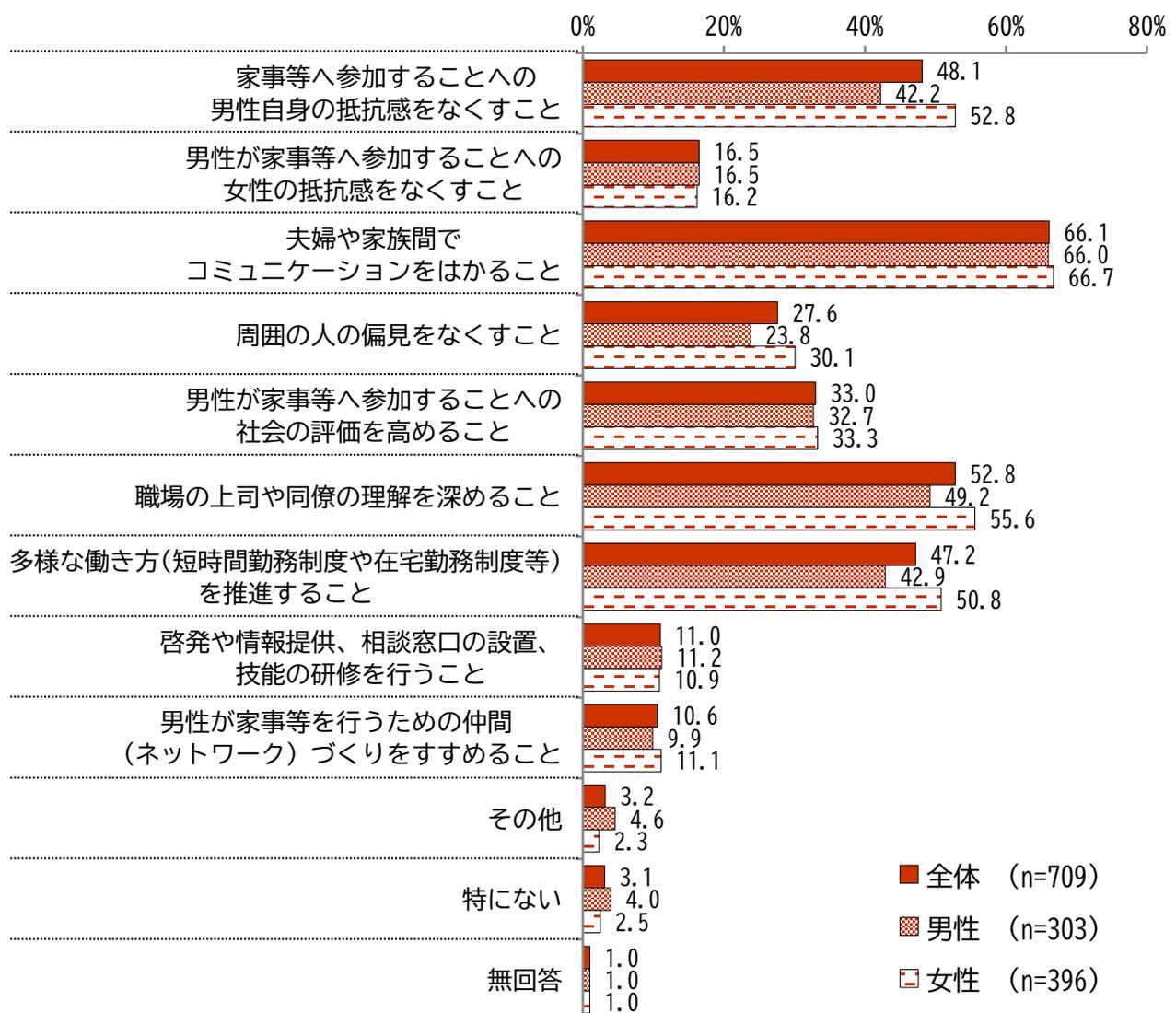
図表 67 男性が家事等を行うことについて（年代別）

		全体	男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然	仕事と両立させることは現実として難しい	家事・子育て・介護等は女性の方が向いている	妻が家事・子育て・介護等をしていないと誤解される	男性は家事・子育て・介護等を行う必要はない	その他	無回答
全体		709 100.0	523 73.8	341 48.1	104 14.7	43 6.1	2 0.3	16 2.3	9 1.3
年代別	10～20歳代	78 100.0	64 82.1	39 50.0	8 10.3	4 5.1	- -	- -	- -
	30歳代	103 100.0	79 76.7	53 51.5	9 8.7	10 9.7	- -	4 3.9	- -
	40歳代	116 100.0	92 79.3	51 44.0	15 12.9	5 4.3	1 0.9	3 2.6	- -
	50歳代	121 100.0	81 66.9	59 48.8	13 10.7	7 5.8	- -	6 5.0	2 1.7
	60歳代	164 100.0	112 68.3	83 50.6	32 19.5	9 5.5	1 0.6	3 1.8	1 0.6
	70歳以上	123 100.0	93 75.6	54 43.9	26 21.1	8 6.5	- -	- -	5 4.1

問 24 男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加していくために、必要なことは何だと思えますか。
【〇はいくつでも】

- 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なことでは、全体で見ると、「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 66.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解を深めること」が 52.8%、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が 48.1%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 7 割弱と最も多いが、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」では男性が 42.2%、女性が 52.8%と、女性が男性より 10.6 ポイント多くなっている。

図表 68 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと（性別）



- ▶ 年代別では、すべての年代で「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が最も多い。
- ▶ 70歳以上では、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が、他の年代より多くなっている。

図表 69 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと（年代別）

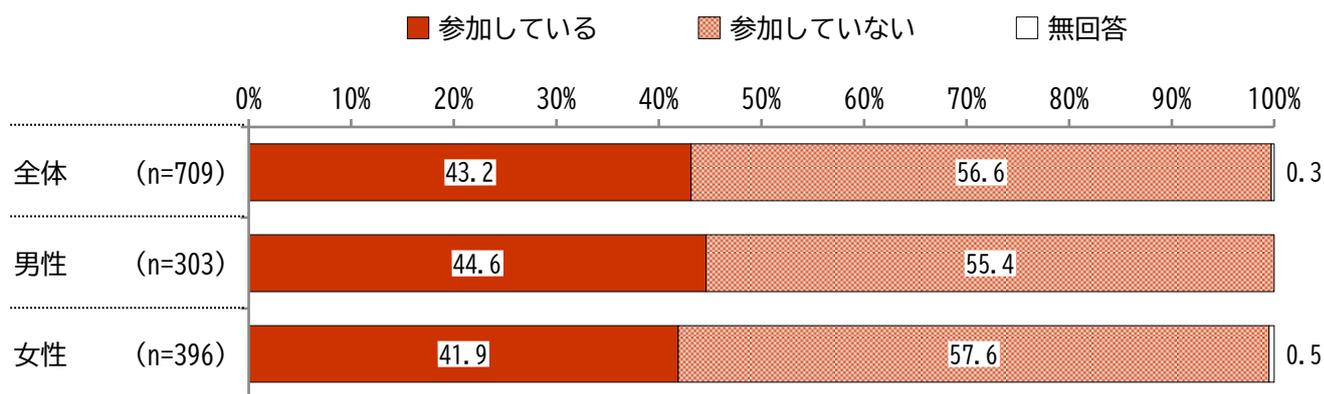
	全体	家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事等へ参加することへの女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること	周囲の人の偏見をなくすこと	男性が家事等へ参加することへの社会の評価を高めること	職場の上司や同僚の理解を深めること	勤務制度や在宅勤務制（多様な働き方）の推進すること	窓の設置、技能の研修を行うこと	啓発や情報提供、相談	男性が家事等を行うための仲間（ネットワー）づくりをすすめること	その他	特にな	無回答
全体	709 100.0	341 48.1	117 16.5	469 66.1	196 27.6	234 33.0	374 52.8	335 47.2	78 11.0	75 10.6	23 3.2	22 3.1	22 3.1	7 1.0
年代別	10～20歳代	78 100.0	35 44.9	14 17.9	60 76.9	27 34.6	46 59.0	43 55.1	9 11.5	14 17.9	2 2.6	3 3.8	3 3.8	-
	30歳代	103 100.0	52 50.5	22 21.4	82 79.6	41 39.8	45 43.7	59 57.3	62 60.2	10 9.7	12 11.7	3 2.9	1 1.0	-
	40歳代	116 100.0	57 49.1	16 13.8	75 64.7	30 25.9	37 31.9	63 54.3	59 50.9	15 12.9	14 12.1	2 1.7	6 5.2	-
	50歳代	121 100.0	53 43.8	24 19.8	66 54.5	37 30.6	38 31.4	66 54.5	58 47.9	10 8.3	13 10.7	8 6.6	3 2.5	2 1.7
	60歳代	164 100.0	75 45.7	21 12.8	115 70.1	43 26.2	54 32.9	84 51.2	76 46.3	22 13.4	16 9.8	2 1.2	3 1.8	1 0.6
	70歳以上	123 100.0	67 54.5	20 16.3	70 56.9	17 13.8	33 26.8	53 43.1	35 28.5	12 9.8	6 4.9	6 4.9	6 4.9	3 2.4

6. 地域活動・防災対策等について

問 25 あなたは、町内や地域の活動に参加していますか。【〇は1つ】

- 町内や地域の活動に参加しているかでは、全体で見ると、「参加していない」が56.6%、「参加している」が43.2%となっている。
- 性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

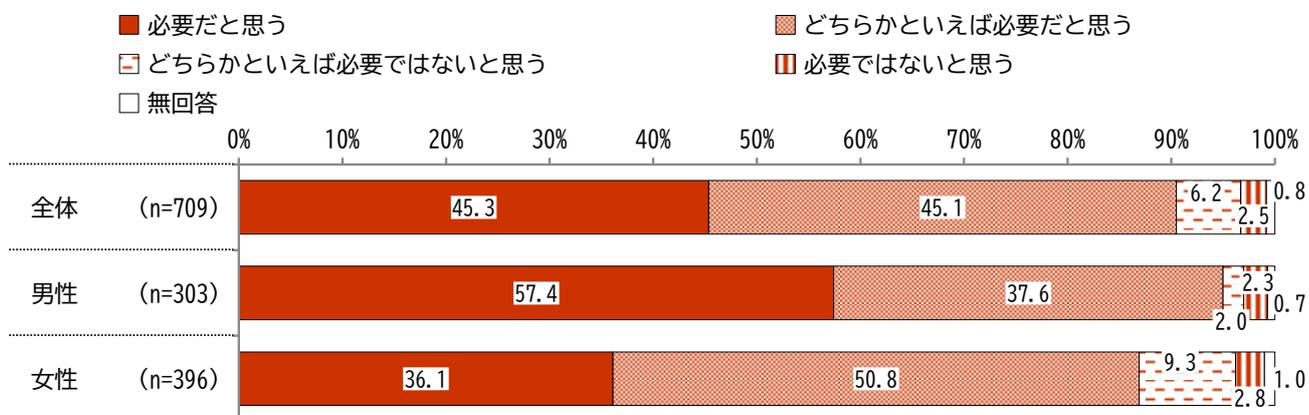
図表 70 町内や地域の活動に参加しているか（性別）



問 26 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについてどう思いますか。【〇は1つ】

- 地域の意志決定の場へ女性が参画することについては、全体で見ると、『必要派』（「必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）が90.1%、『不要派』（「必要ではないと思う」＋「どちらかといえば必要ではないと思う」）が8.7%となっている。
- 性別で見ると、『必要派』が男性では95.0%、女性では86.9%で男性が女性より8.1ポイント多い。

図表 71 地域の意志決定の場へ女性が参画することについて（性・年代別）

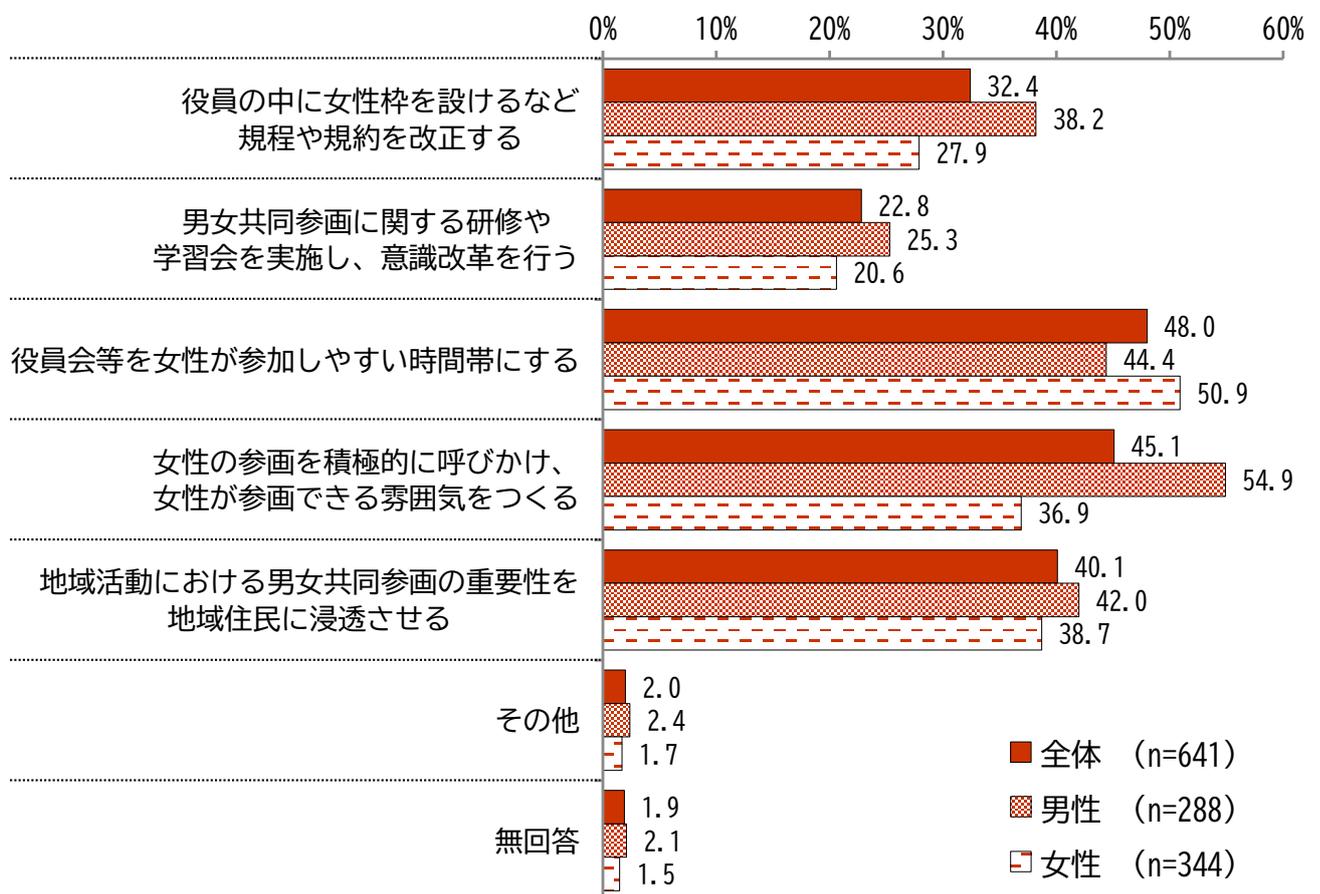


問 26 で「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-1 どのようにすれば女性が参画できると思いますか。【○はいくつでも】

- どのようにすれば女性が地域の意志決定の場へ参画できるかでは、全体で見ると、「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 48.0%と最も多く、次いで「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 45.1%、「地域活動における男女共同参画の重要性を地域住民に浸透させる」が 40.1%となっている。
- 性別で見ると、男性では「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 54.9%、女性では「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 50.9%と最も多く、男女で違いがみられた。「役員の中に女性枠を設けるなど規定や規約を改正する」では、男性が 38.2%、女性が 27.9%と男性が女性より 10.3 ポイント多くなっている。

図表 72 地域の意志決定の場へ女性が参画するために必要なこと（問 26 で「必要派」の人/性別）

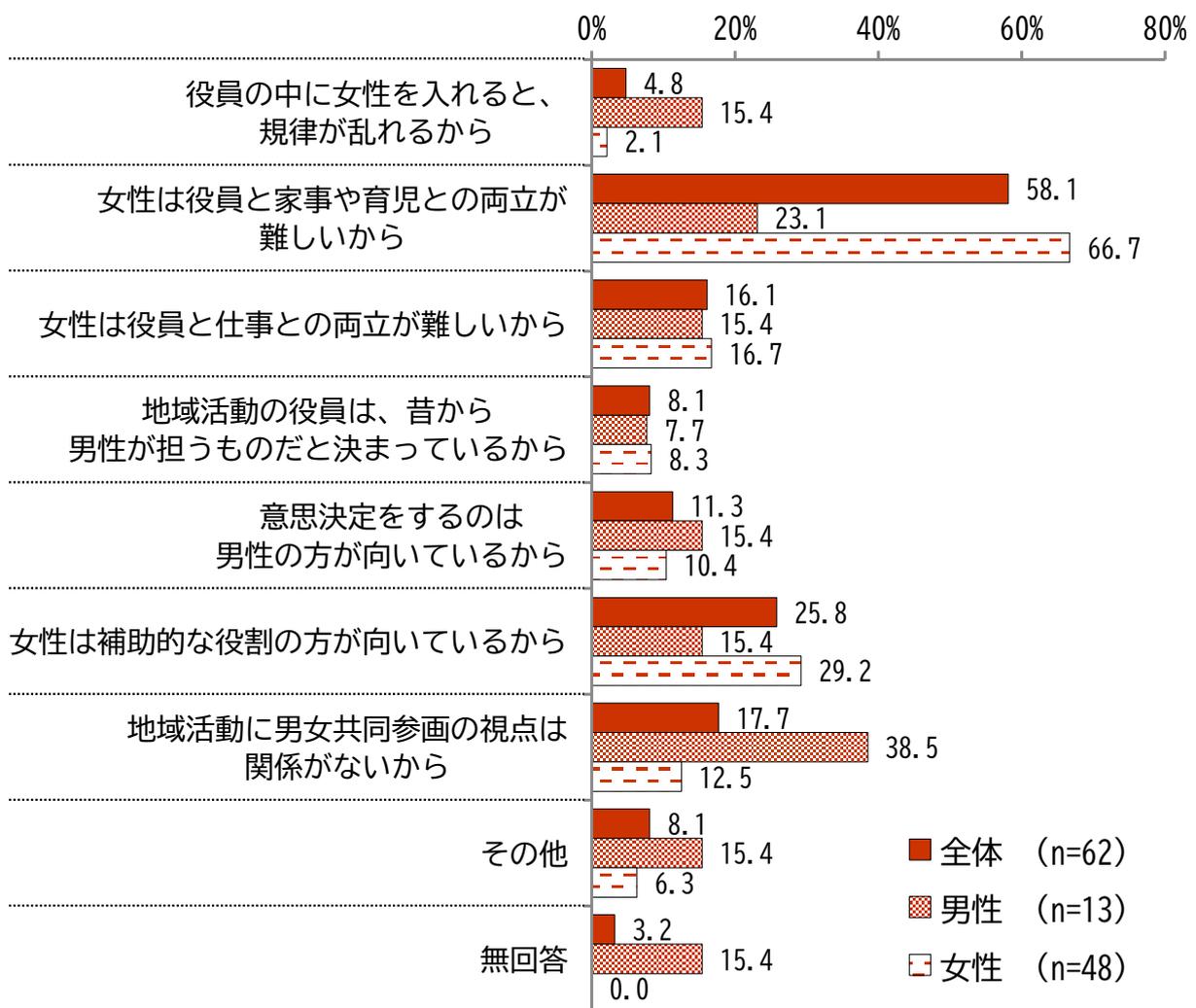


問 26 で「どちらかといえば必要ではないと思う」「必要ではないと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-2 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

- ▶ 地域の意志決定の場へ女性が参画する必要がないと思う理由では、全体で見ると、「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が 58.1%と最も多く、次いで「女性は補助的な役割の方が向いているから」が 25.8%、「地域活動に男女共同参画の視点は関係がないから」が 17.7%となっている。
- ▶ 性別で見ると、男性では「地域活動に男女共同参画の視点は関係がないから」が 38.5%、女性では「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が 66.7%と最も多く、男女で違いがみられる。

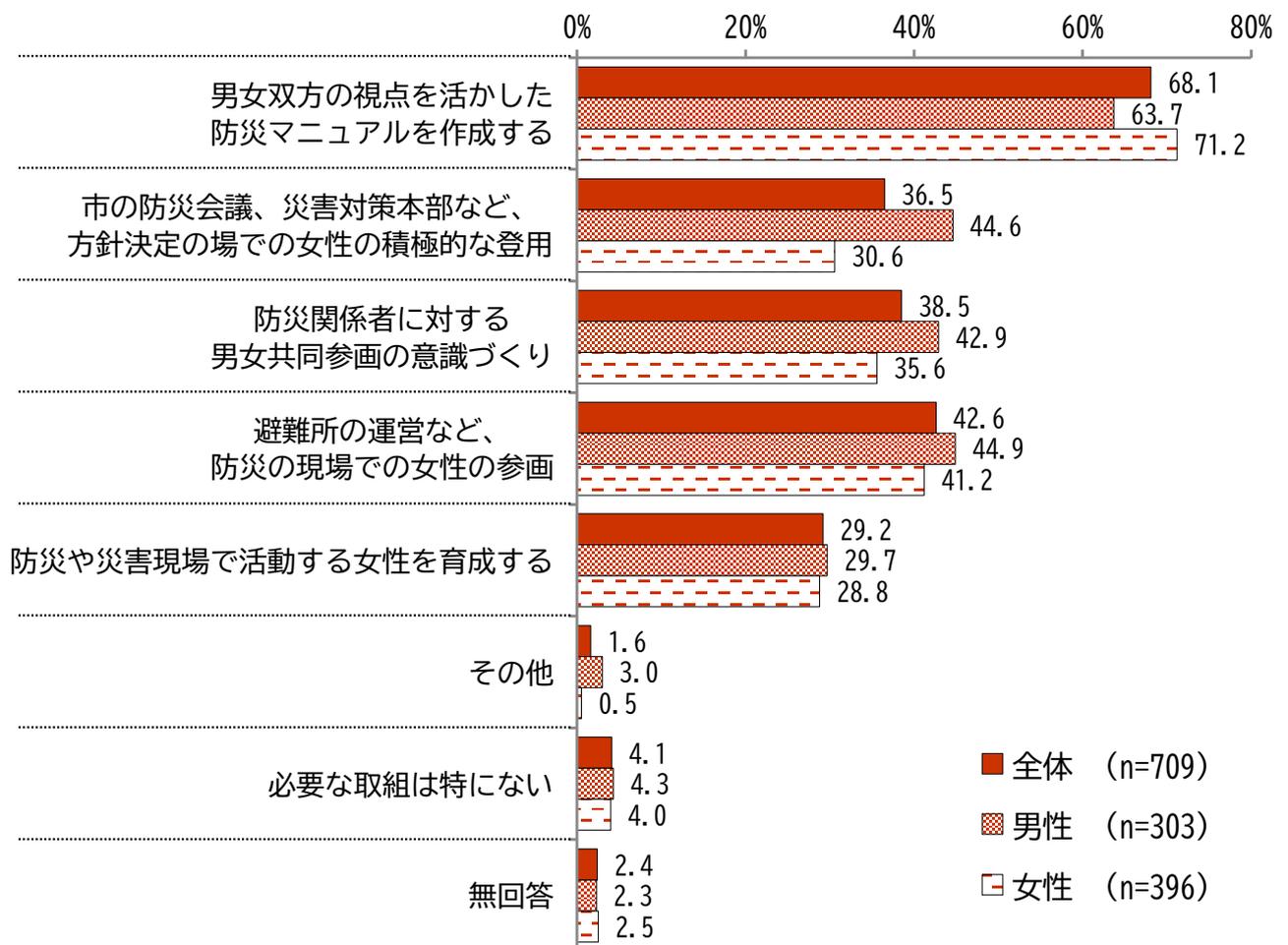
図表 73 地域の意志決定の場へ女性が参画する必要がないと思う理由(問 26 で『不要派』の人/性別)



問 27 地域において、男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思えますか。【〇はいくつでも】

- 地域で男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるために必要な取り組みでは、全体で見ると、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が 68.1%と最も多く、次いで「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」が 42.6%、「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」が 38.5%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が最も多い。「市の防災会議、災害対策本部など、方針決定の場での女性の積極的な登用」では男性が 44.6%、女性が 30.6%と男性が女性より 14.0 ポイント多くなっている。

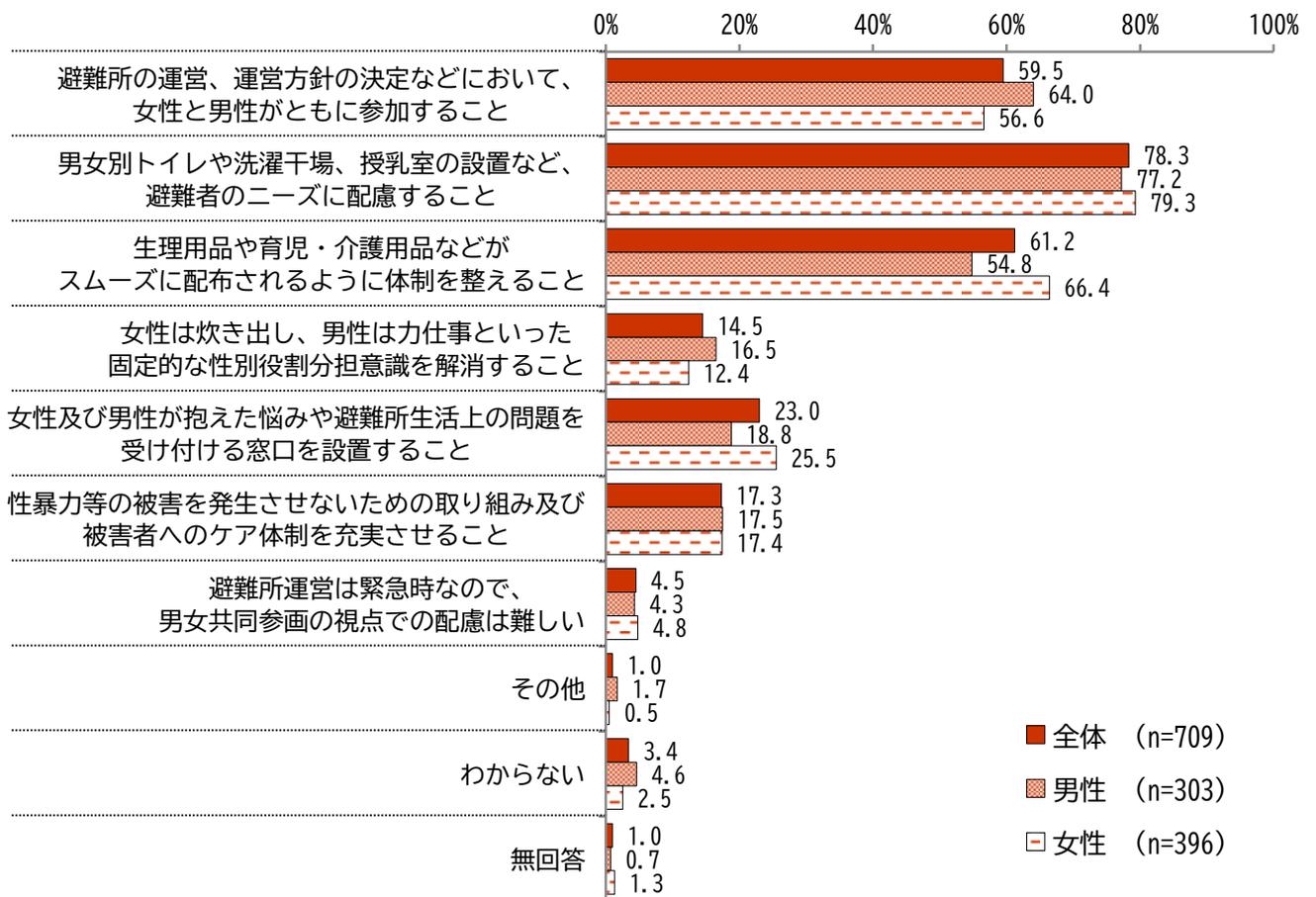
図表 74 地域で男女双方にとって安心安全な防災体制を整えるために必要な取り組み（性別）



問 28 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

- 災害時の避難所運営に必要だと思うことでは、全体で見ると、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が78.3%と最も多く、次いで「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が61.2%、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が59.5%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が8割弱と最も多い。「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」では、男性が54.8%、女性が66.4%と女性が男性より11.6ポイント多くなっている。

図表 75 災害時の避難所運営に必要だと思うこと（性別）



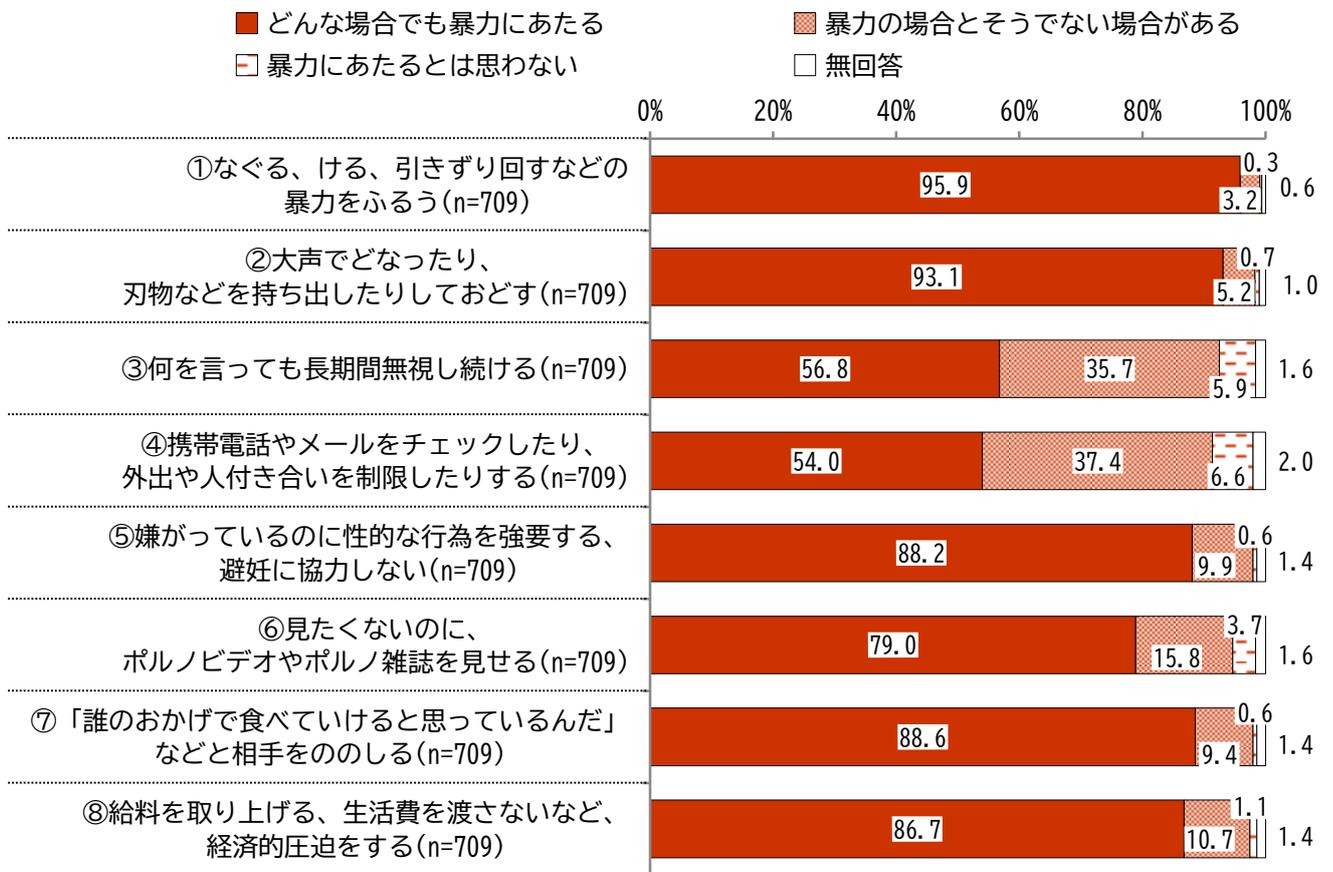
7. 男女の人権について

問 29 次のようなことが夫婦またはパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて○は1つ】

- ①～⑧の各項目について暴力だと思うかでは、全体で見ると、「③何を言っても長期間無視し続ける」と「④携帯電話やメールチェックしたり、外出や人付き合いを制限したりする」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が3割半ばを超えており、他の項目と比べると意見が分かれている。

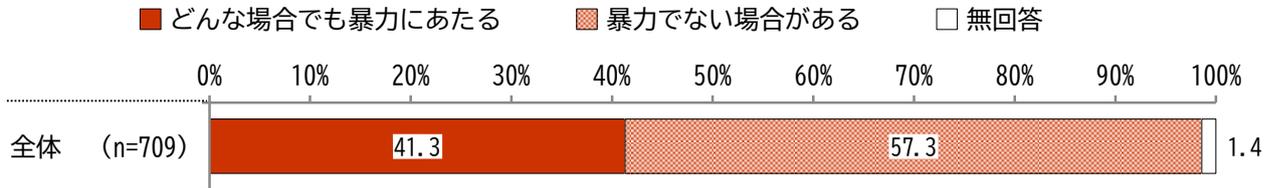
図表 76 暴力だと思うか



問 29 DV への認識について（問 29 で①～⑧をすべて「暴力」と答えている割合）

➤ ①～⑧のすべての項目において「どんな場合でも暴力にあたる」と認識している割合は 41.3%となっている。

図表 77 問 29 で①～⑧をすべて「暴力」と答えている割合

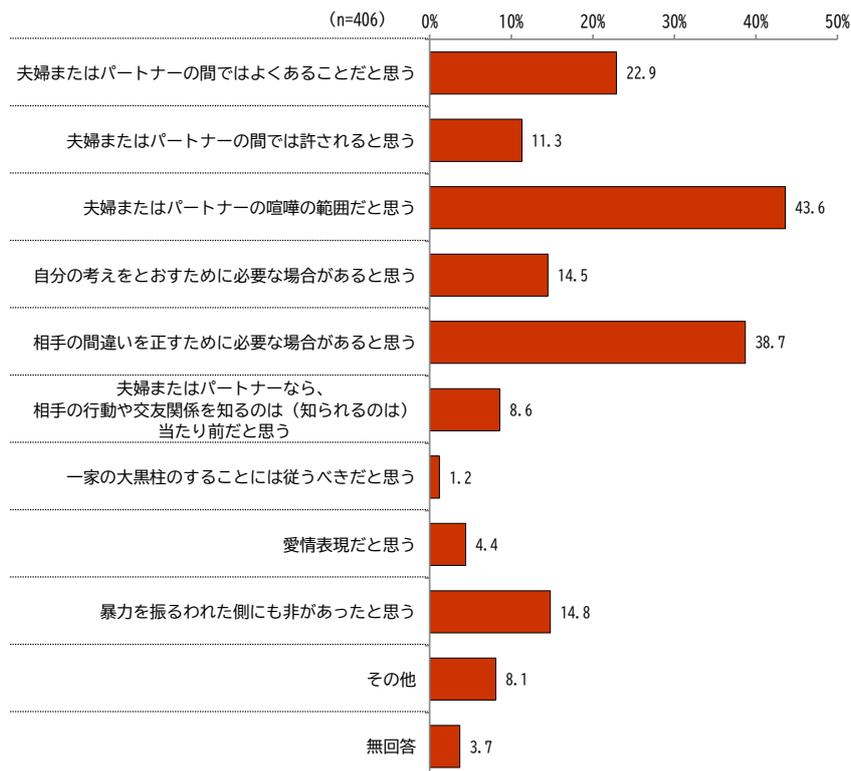


問 29 で1つでも「暴力の場合とそうでない場合がある」、「暴力にあたるとは思わない」に○を付けた人にお聞きします。

問 29-1 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

➤ 暴力ではないと思う理由では、「夫婦またはパートナーの喧嘩の範囲だと思う」が 43.6%と最も多く、次いで「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」が 38.7%、「夫婦またはパートナーの間ではよくあることだと思う」が 22.9%となっている。

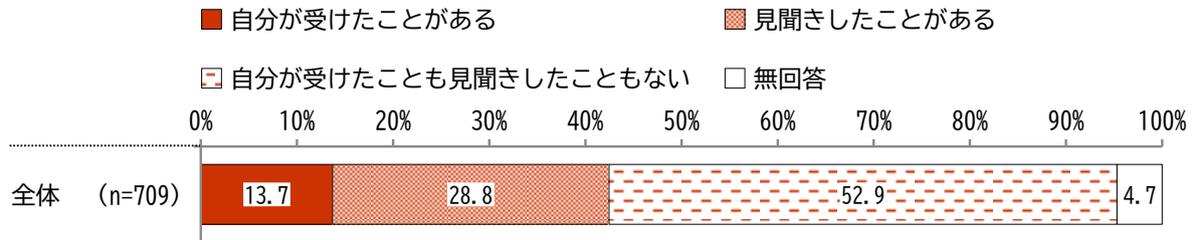
図表 78 暴力ではないと思う理由（問 29 で1つでも「暴力の場合とそうでない場合がある」「暴力にあたるとは思わない」と答えた人）



問 30 あなたはこれまで配偶者またはパートナー、交際相手から問 29 のような行為を一度でも受けたり、周りから見聞きした経験はありますか。【〇は 1 つ】

➤ 問 29 のような行為を「自分が受けたことがある」割合が 13.7%となっている。

図表 79 問 29 のような行為を受けたり見たりした経験があるか

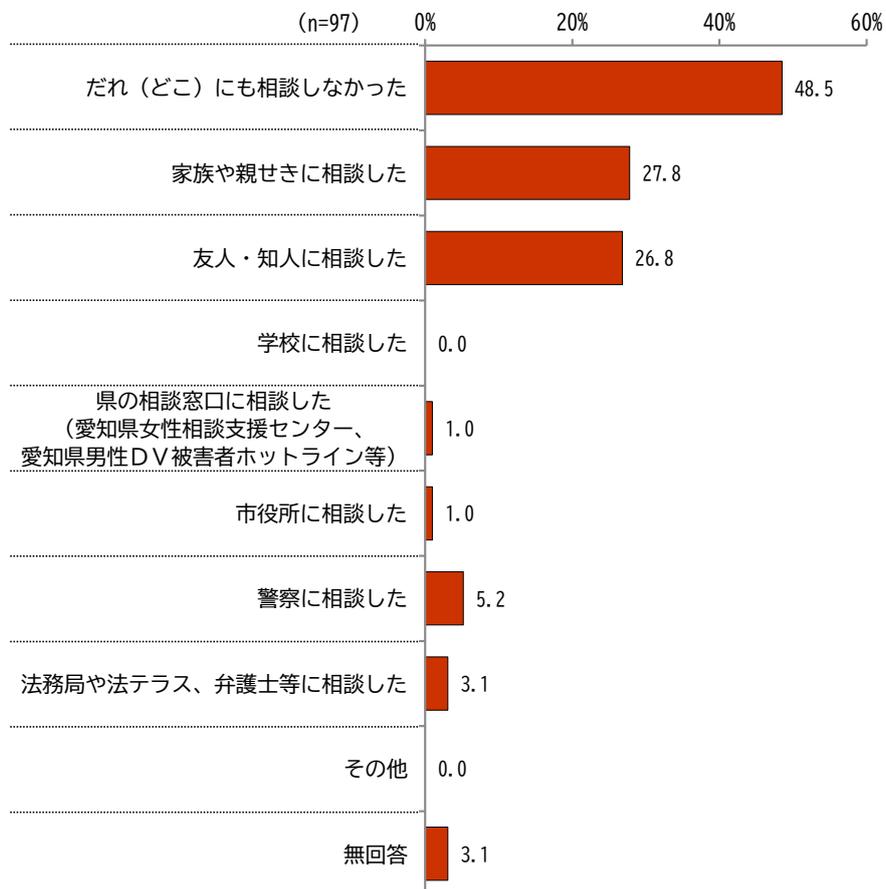


問 30 で「自分が受けたことがある」に〇をつけた人にお聞きします。

問 30-1 そのとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。【〇はいくつでも】

➤ だれかに打ち明けたり相談したりしたかでは、「だれ(どこ)にも相談しなかった」が 48.5%と最も多く、次いで「家族や親せきに相談した」が 27.8%、「友人・知人に相談した」が 26.8%となっている。

図表 80 だれかに相談したか (DV を「自分が受けたことがある」と答えた人)

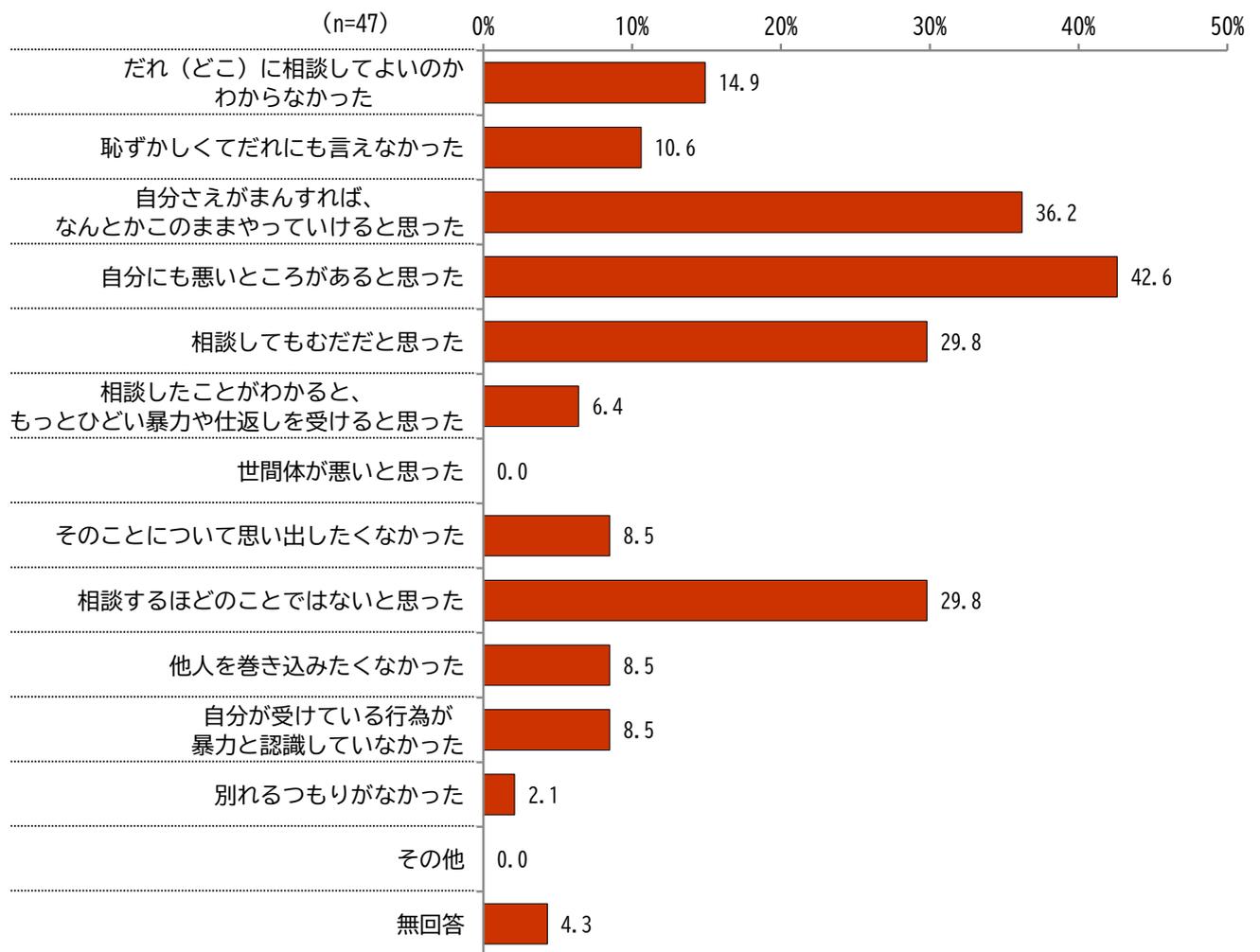


問 30-1 で「だれ（どこ）にも相談しなかった」に○をつけた人にお聞きします。

問 30-2 だれ（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。【○はいくつでも】

- だれ(どこ) にも相談しなかった理由では、「自分にも悪いところがあると思った」が 42.6%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 36.2%、「相談してもむだだと思った」「相談するほどのことではないと思った」が 29.8%となっている。

図表 81 だれ（どこ）にも相談しなかった理由（問 30-1 で「だれ（どこにも相談しなかった」と答えた人）

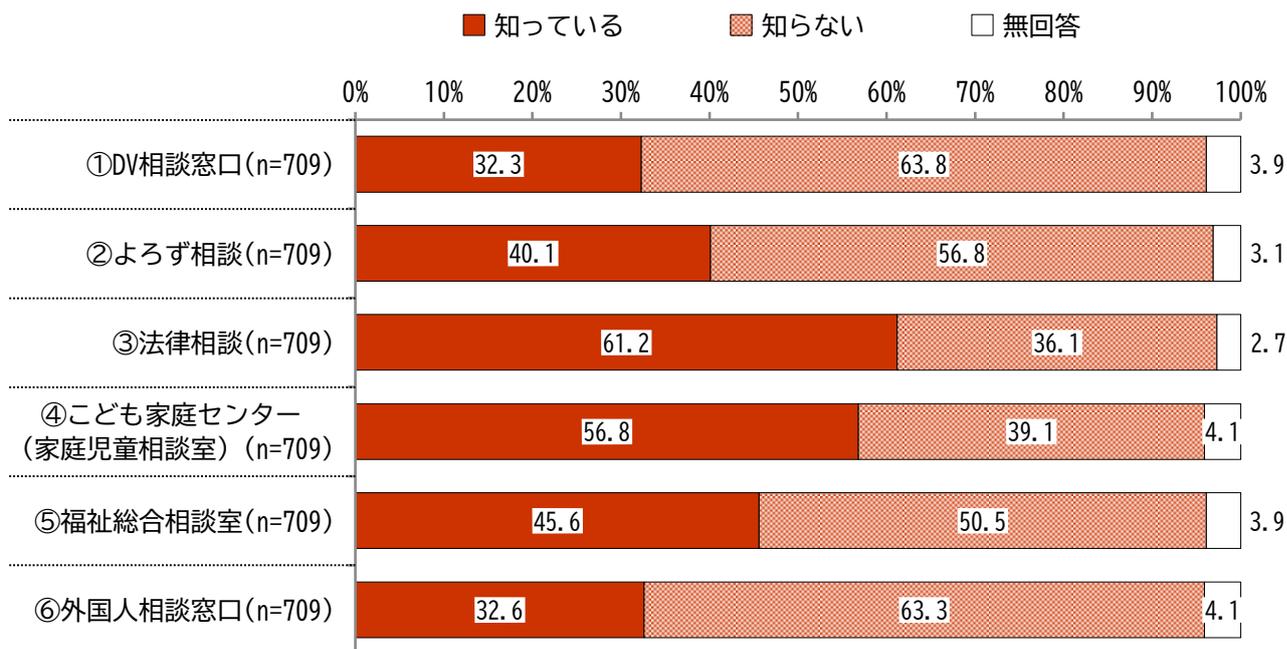


問 31 あなたは、蒲郡市に次の相談窓口があることを知っていますか。

【①～⑥それぞれについて○は1つ】

- 蒲郡市の相談窓口について、「③法律相談」「④子ども家庭センター」では「知っている」が5割半ばから約6割と多い一方で、「①DV相談窓口」「⑥外国人相談窓口」では「知っている」が3割強と、相談窓口の種類によって認知度に違いがみられた。

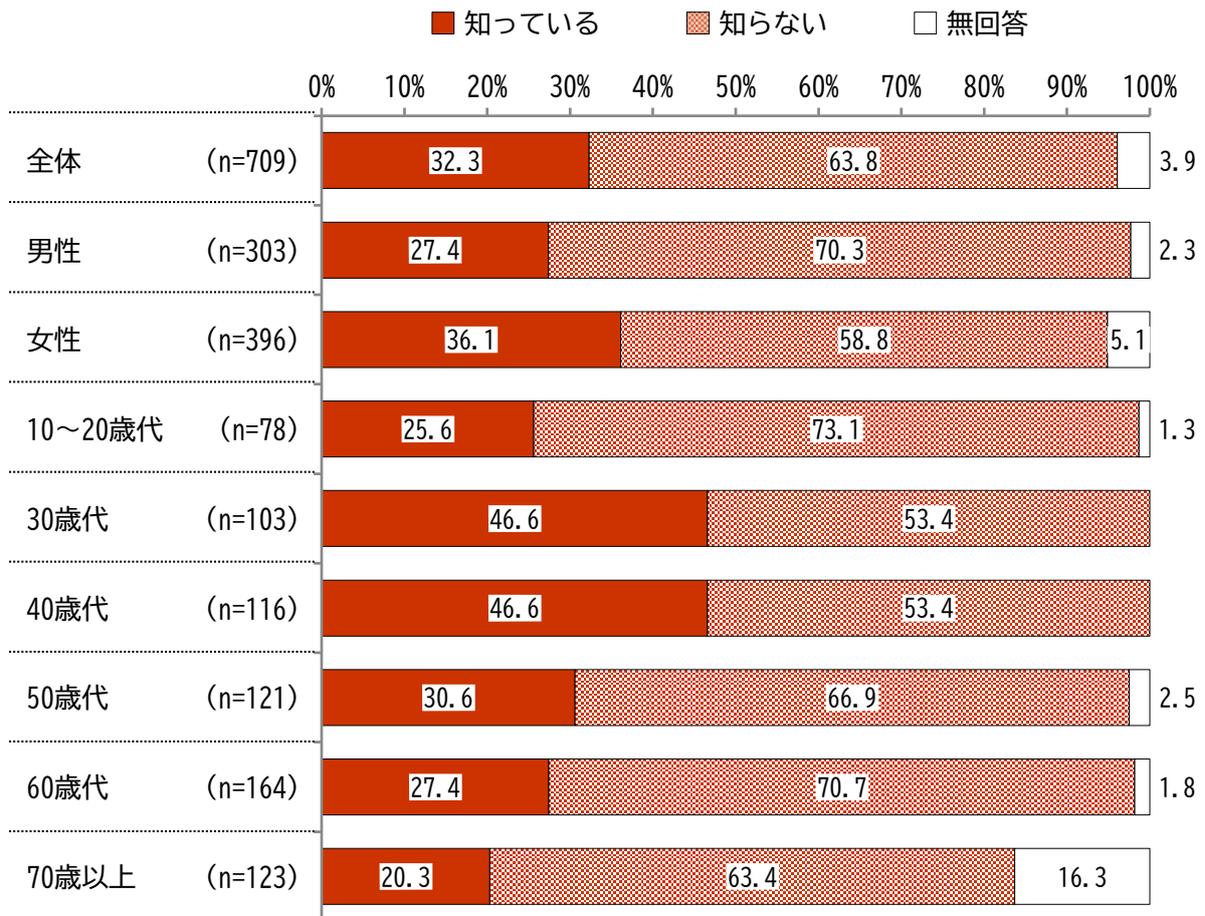
図表 82 蒲郡市にあることを知っているか



①DV 相談窓口

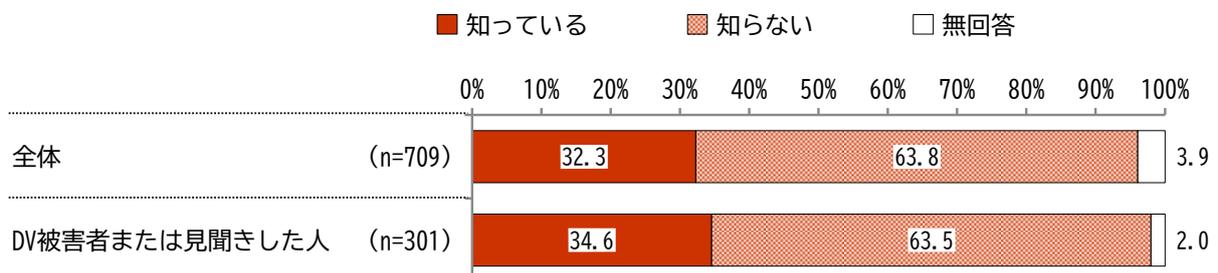
- 性別で見ると、「知っている」が男性で 27.4%、女性で 36.1%と、女性が男性より 8.7%多くなっている。
- 年代別で見ると、すべての年代で「知らない」が多いが、30～40 歳代では「知っている」が 46.6%と半数近くになっている。

図表 83 蒲郡市にあることを知っているか ①DV 相談窓口



- 問 30 で DV を「自分が受けたことがある」「見聞きしたことがある」と回答した人について①DV 相談窓口の認知度をみると、DV 被害者または見聞きした人であっても、DV 相談窓口を「知っている」割合は 34.6%にとどまっている。

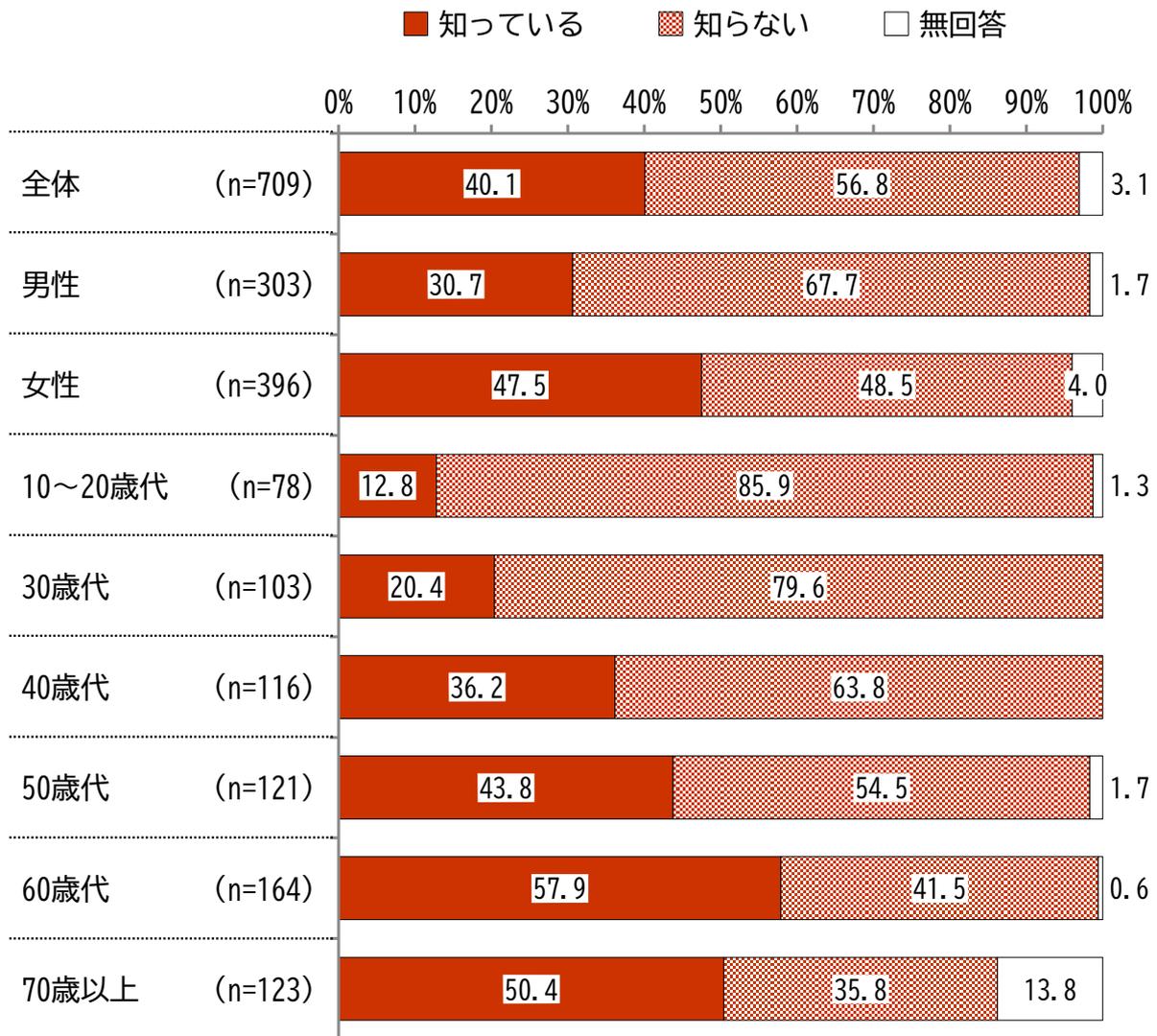
図表 84 ①DV 相談窓口 (DV 被害者または見聞きした人)



②よろず相談

- 性別で見ると、男性では「知っている」が30.7%、女性では47.5%と、女性が男性より20.0ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、60～70歳以上で「知っている」が5割以上と多くなっている。

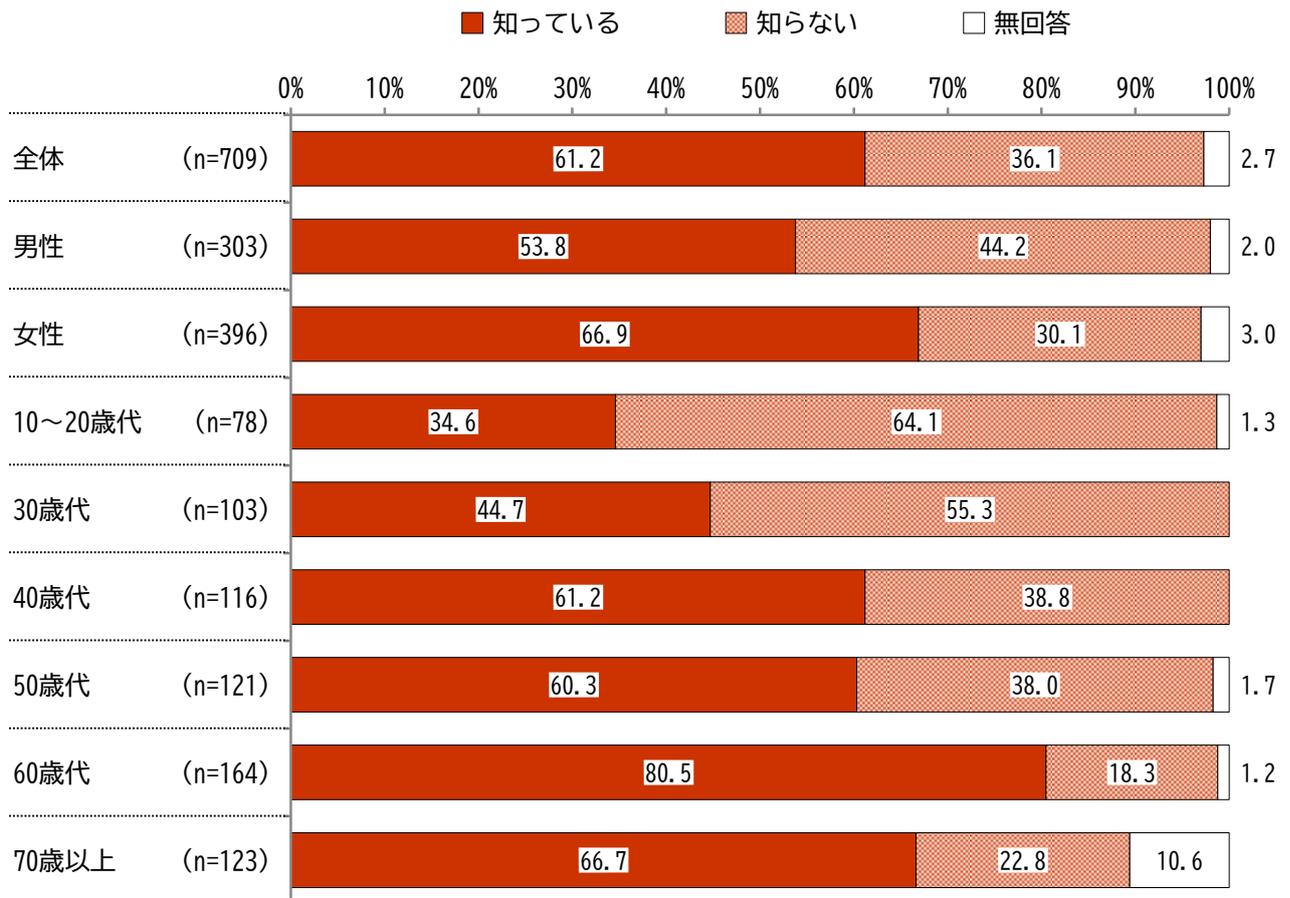
図表 85 蒲都市にあることを知っているか②よろず相談（性・年代別）



③法律相談

- 性別で見ると、「知っている」が男性で 53.8%、女性で 66.9%と、女性が男性より 13.1 ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、10～30 歳代では、「知らない」が 5 割以上を占めているが、40～70 歳以上では「知っている」が 6 割以上となっており、特に 60 歳代で 80.5%と非常に高くなっている。

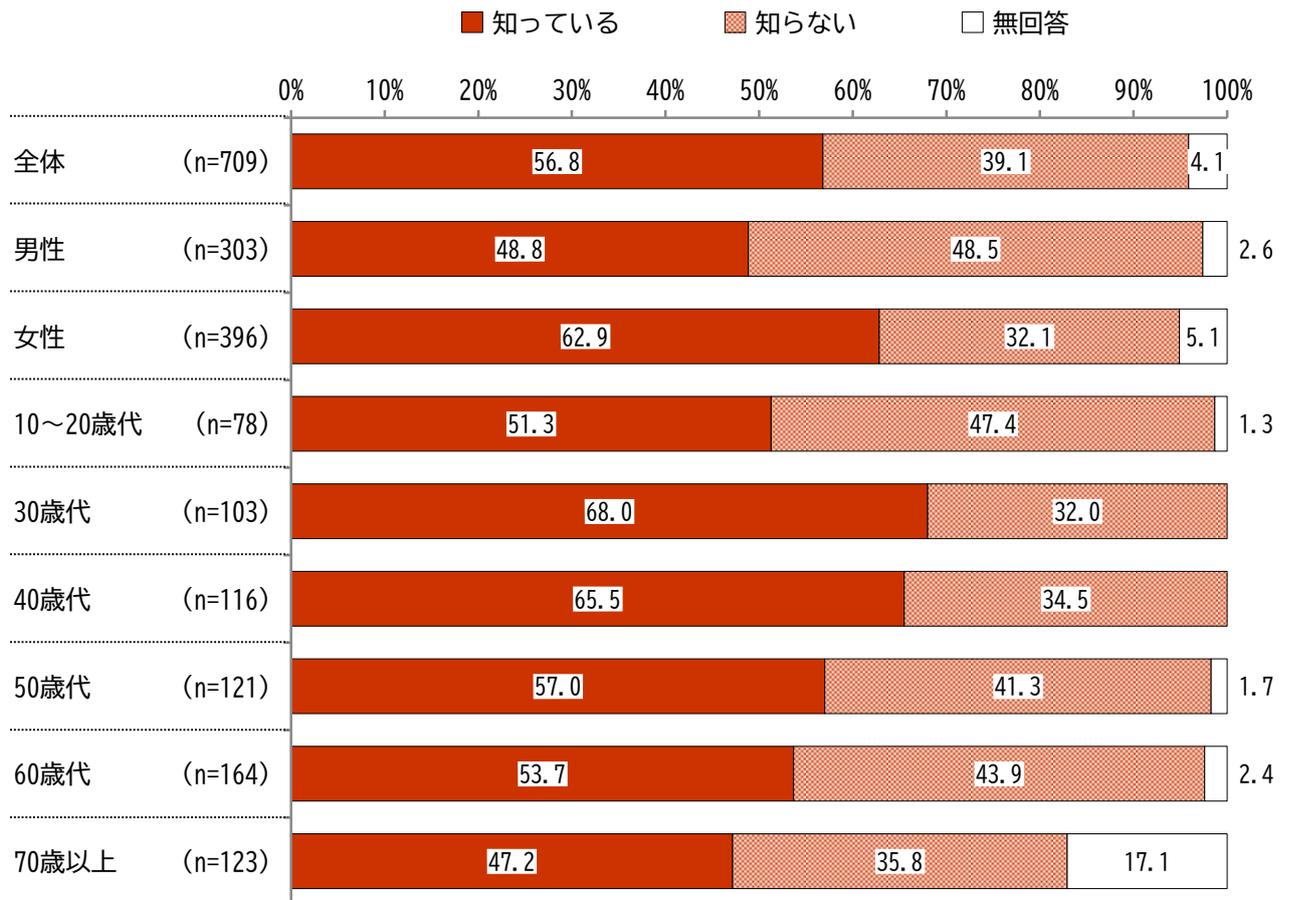
図表 86 蒲郡市にあることを知っているか③法律相談（性・年代別）



④こども家庭センター（家庭児童相談室）

- 性別で見ると、「知っている」が男性で 48.8%、女性で 62.9%と、女性が男性より 14.1 ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、「知っている」が 30 歳代で 68.0%と最も多く、30 歳代以上の年代では、年齢が高いほど「知っている」が少なくなる傾向にある。

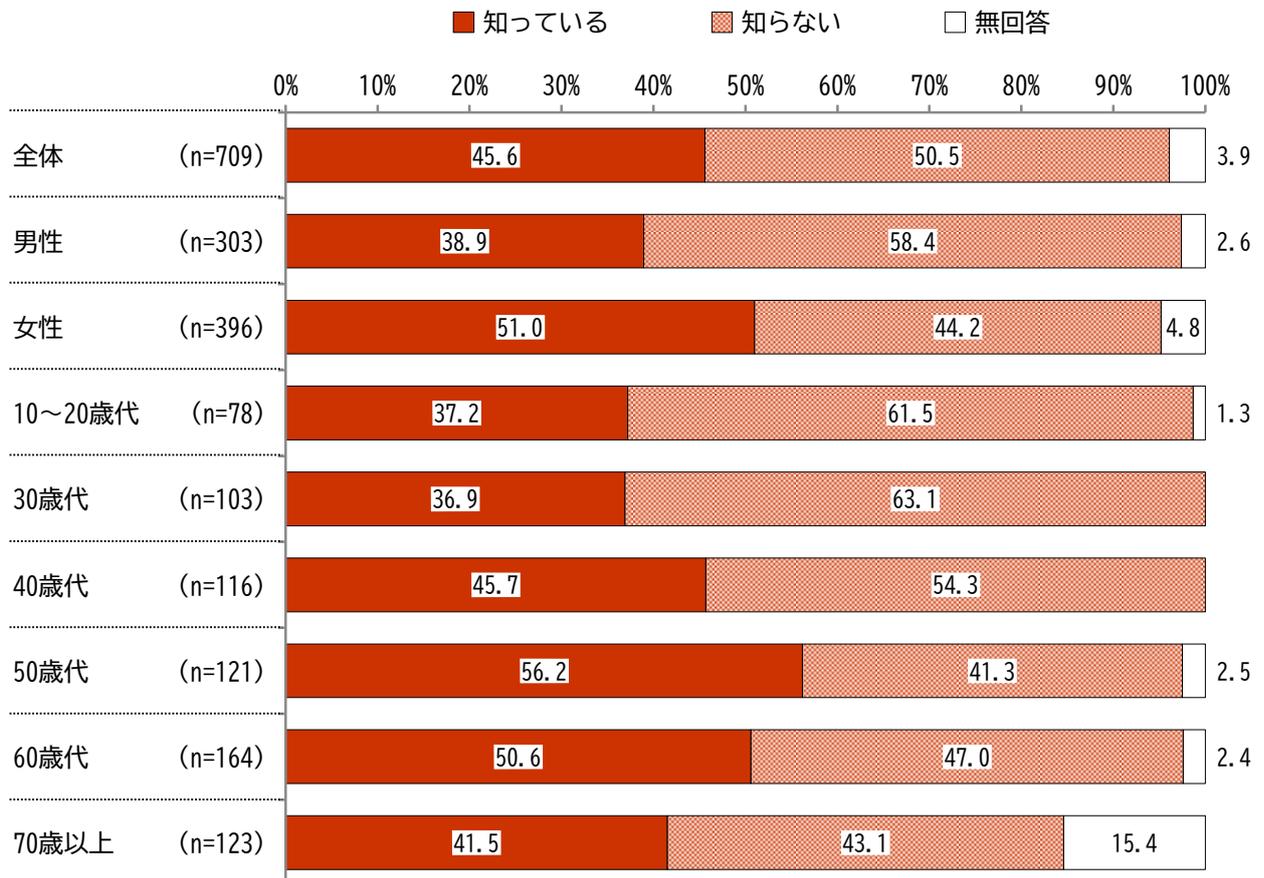
図表 87 蒲郡市にあることを知っているか④こども家庭センター（家庭児童相談室）（性・年代別）



⑤福祉総合相談室

- 性別で見ると、男性では「知っている」が38.9%、女性で51.0%と、女性が男性より12.1ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、50～60歳代のみ「知っている」が5割以上となっている。

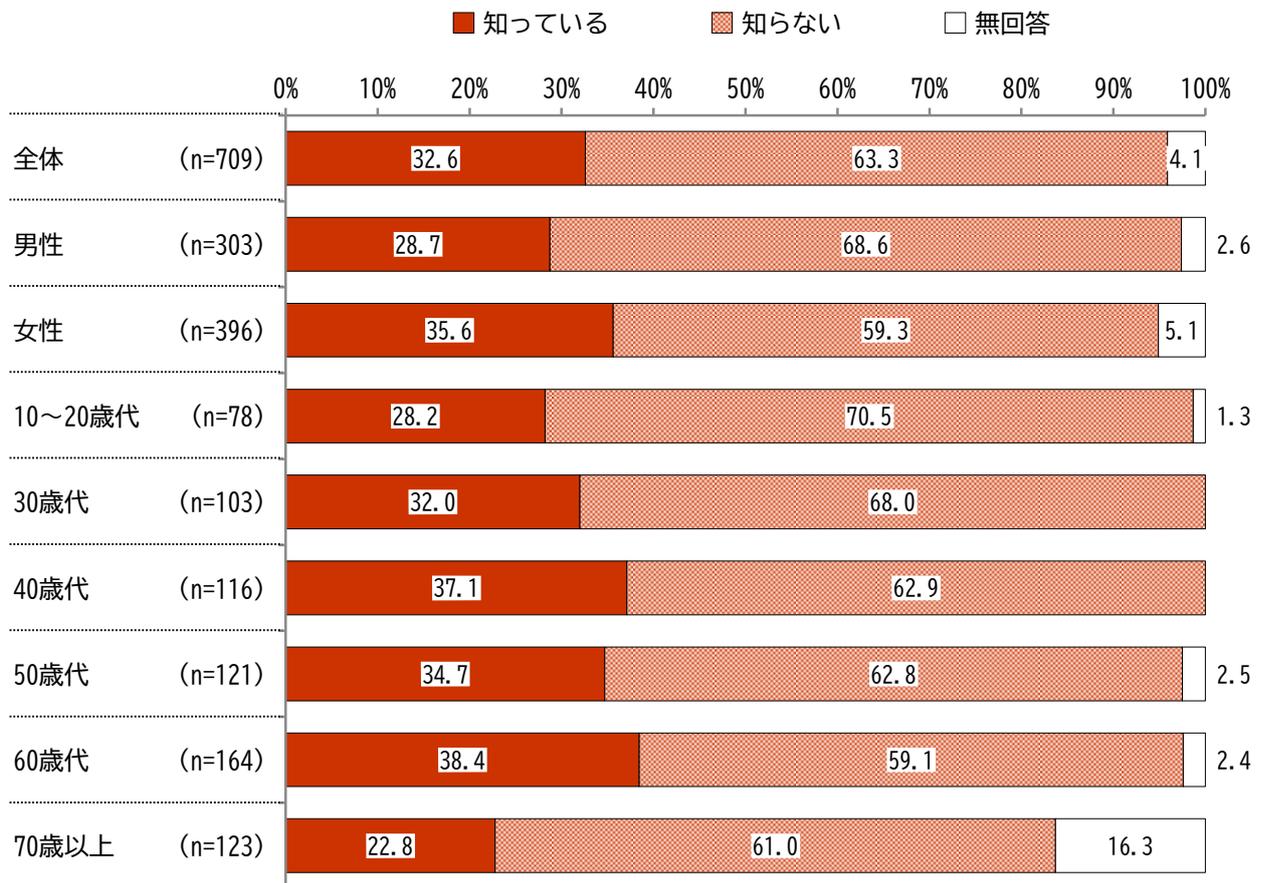
図表 88 蒲郡市にあることを知っているか⑤福祉総合相談室（性・年代別）



⑥外国人相談窓口

- 性別で見ると、男性では「知っている」が28.7%、女性で35.6%と、女性が男性より6.9ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、70歳以上では22.8%と他の年代より特に少なくなっている。

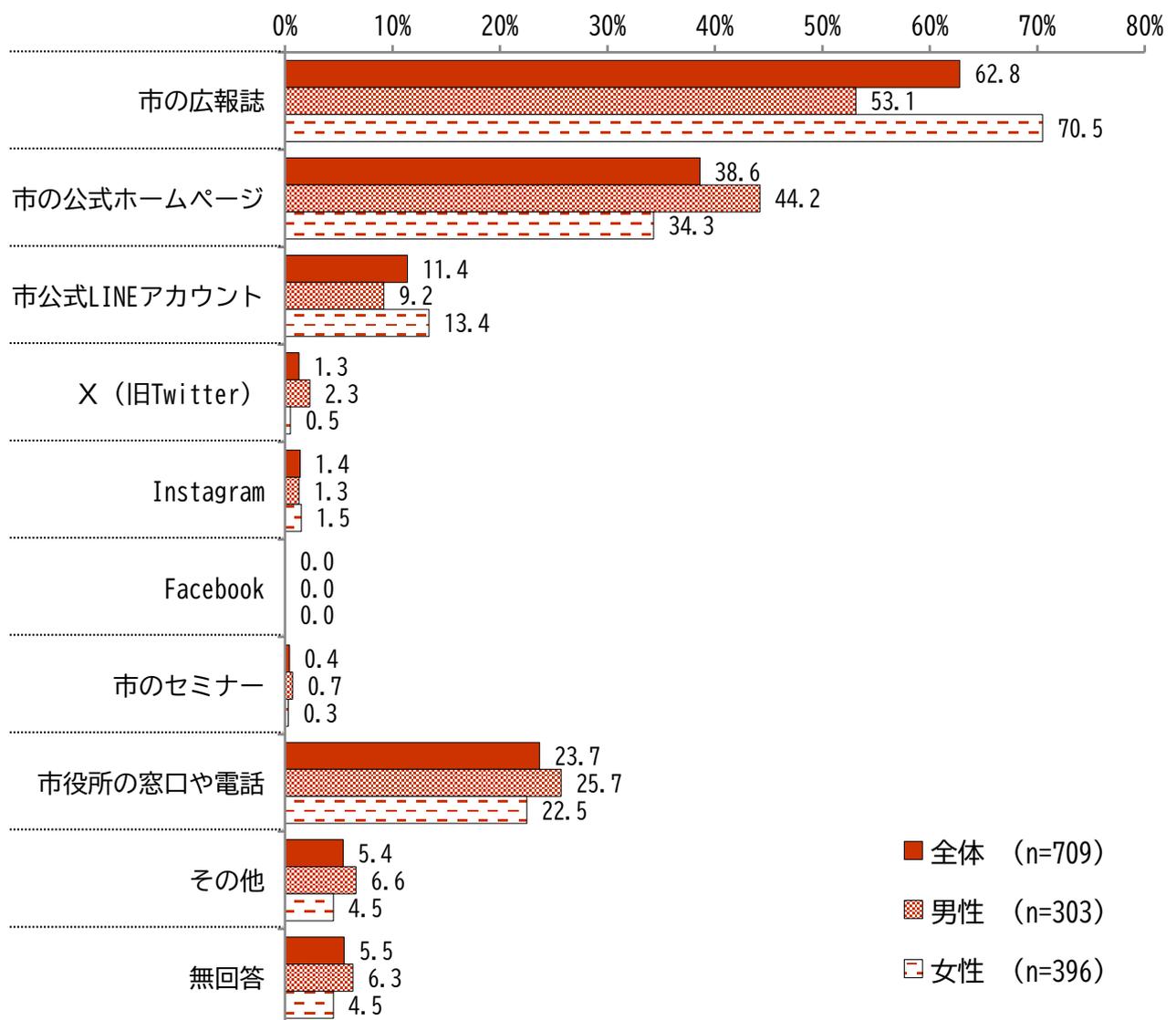
図表 89 蒲郡市にあることを知っているか⑥外国人相談窓口（性・年代別）



問 32 相談窓口を何から知りましたか。または、相談窓口を探すときに、何から情報を得ると思いますか。【〇はいくつでも】

- 相談窓口を何から知ったか、または何から情報を得るかでは、全体で見ると、「市の広報誌」が62.8%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が38.6%、「市役所の窓口や電話」が23.7%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「市の広報誌」が最も多いが、男性が53.1%、女性が70.5%と女性が男性より17.4ポイント多くなっている。また、「市の公式ホームページ」では男性が44.2%、女性が34.3%と男性が女性より9.9ポイント多くなっている。

図表 90 相談窓口を何から知った・情報を得るか（性別）



- ▶ 年代別で見ると、10～20 歳代以外では「市の広報誌」が最も多く、年齢が高いほど多くなっている。
「市の公式ホームページ」は 10～30 歳代、50 歳代で 4 割以上と多くなっているが、70 歳以上では 19.5%と少なくなっている。

図表 91 相談窓口を何から知った・情報を得るか（年代別）

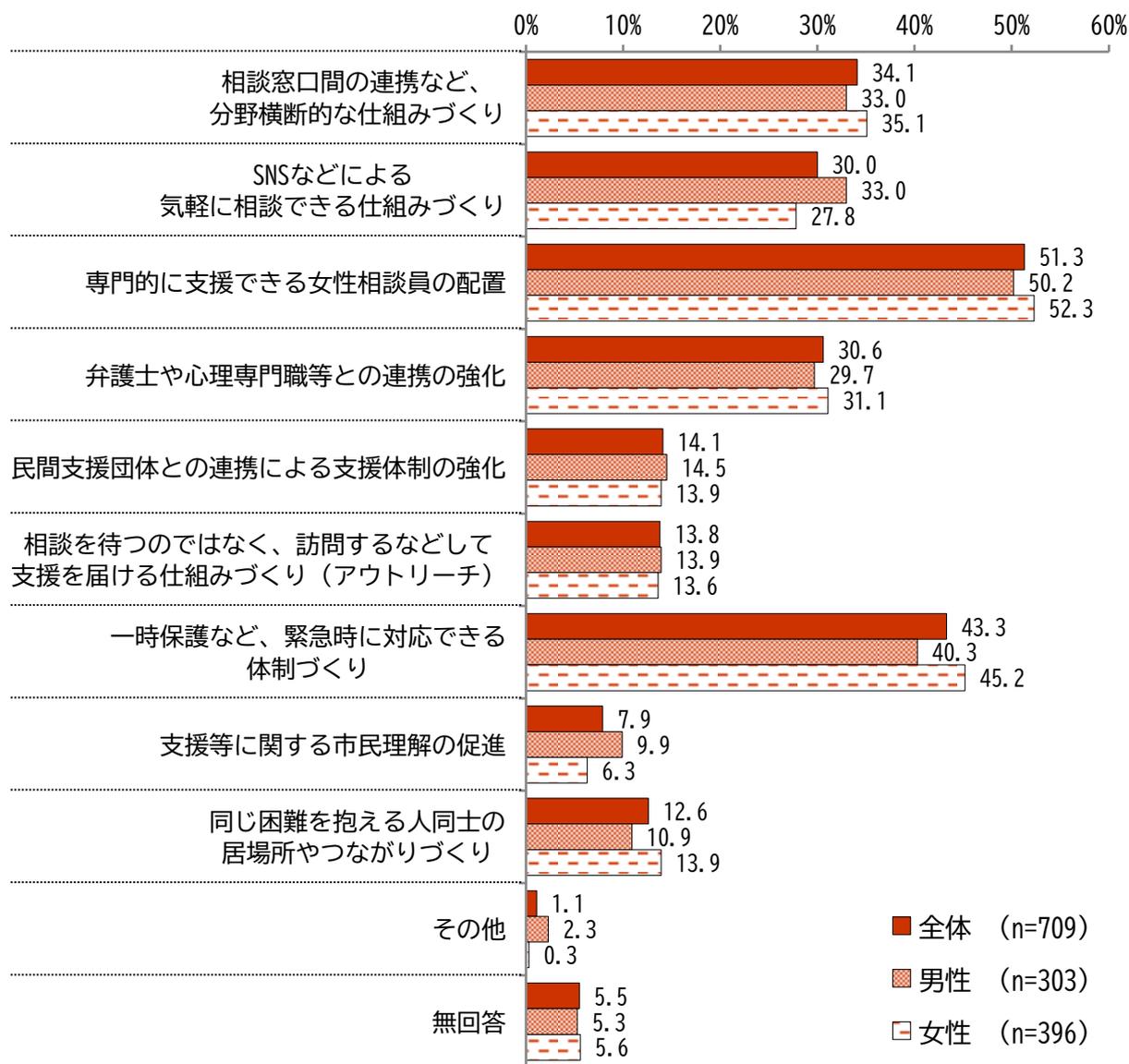
		全体	市の広報誌	市の公式ホームページ	市公式LINEアカウント	Twitter(旧)	Instagram	Facebook	市のセミナー	市役所の窓口や電話	その他	無回答
全体		709 100.0	445 62.8	274 38.6	81 11.4	9 1.3	10 1.4	-	3 0.4	168 23.7	38 5.4	39 5.5
年代別	10～20歳代	78 100.0	31 39.7	33 42.3	5 6.4	6 7.7	6 7.7	-	1 1.3	18 23.1	10 12.8	5 6.4
	30歳代	103 100.0	53 51.5	50 48.5	22 21.4	2 1.9	2 1.9	-	-	20 19.4	11 10.7	2 1.9
	40歳代	116 100.0	77 66.4	46 39.7	17 14.7	1 0.9	1 0.9	-	-	28 24.1	2 1.7	3 2.6
	50歳代	121 100.0	72 59.5	57 47.1	12 9.9	-	1 0.8	-	1 0.8	25 20.7	4 3.3	7 5.8
	60歳代	164 100.0	119 72.6	64 39.0	16 9.8	-	-	-	-	37 22.6	8 4.9	9 5.5
	70歳以上	123 100.0	90 73.2	24 19.5	9 7.3	-	-	-	1 0.8	39 31.7	3 2.4	12 9.8

問 33 貧困やDV、性暴力などに直面する女性への自立に向けて公的支援を強化していくため、令和6年4月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。このことについてあなたが特に蒲郡市で取り組む必要があると思うものを教えてください。

【〇は3つまで】

- 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に市が取り組む必要があると思うことでは、全体で見ると、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が51.3%と最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が43.3%、「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」が34.1%となっている。
- 性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

図表 92 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に市が取り組む必要があると思うこと (性別)



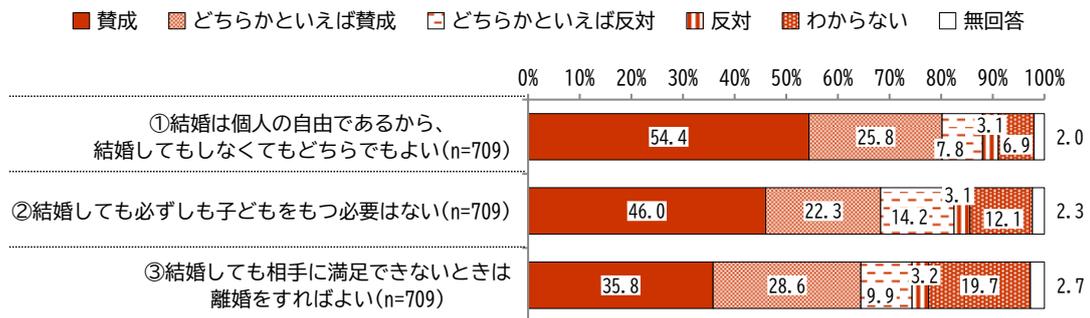
8. 多様性について

問 34 結婚、家庭、離婚について、どのように考えていますか。

①～③のそれぞれについてお答えください。【①～③のそれぞれについて○は1つ】

- ▶ 結婚、家庭、離婚についての考え方では、すべての項目で『賛成派』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が6割以上であり、特に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は8割以上と多くなっている。

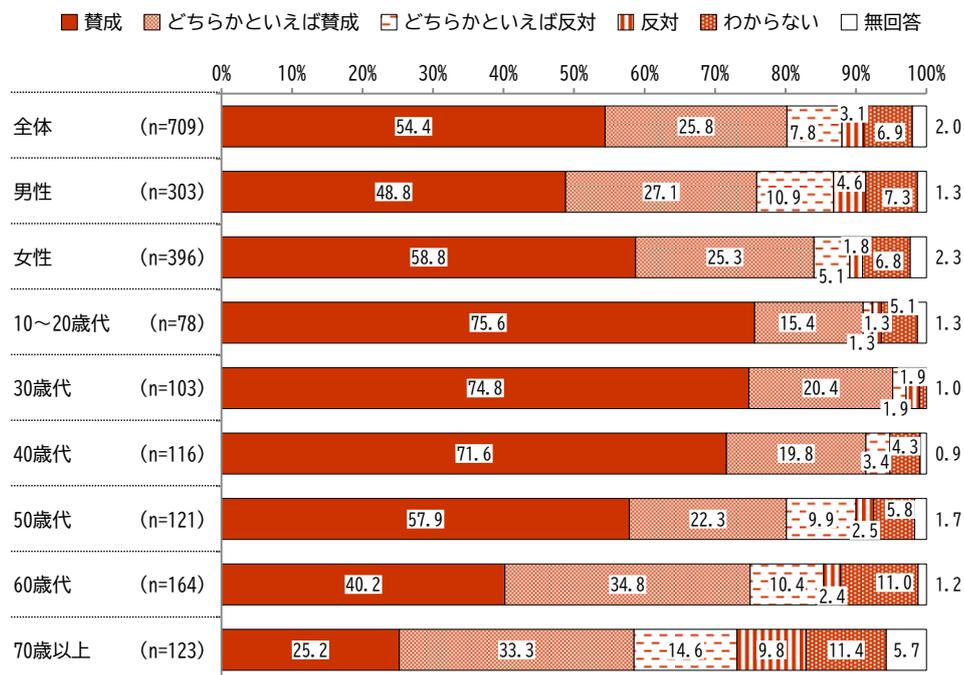
図表 93 結婚、家庭、離婚について



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい【○は1つ】

- ▶ 性別でみると、男女共に『賛成派』が多くなっているが、男性が75.9%、女性が84.1%と女性が男性より8.2ポイント多くなっている。
- ▶ 年代別でみると、すべての年代で『賛成派』が多いが、年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

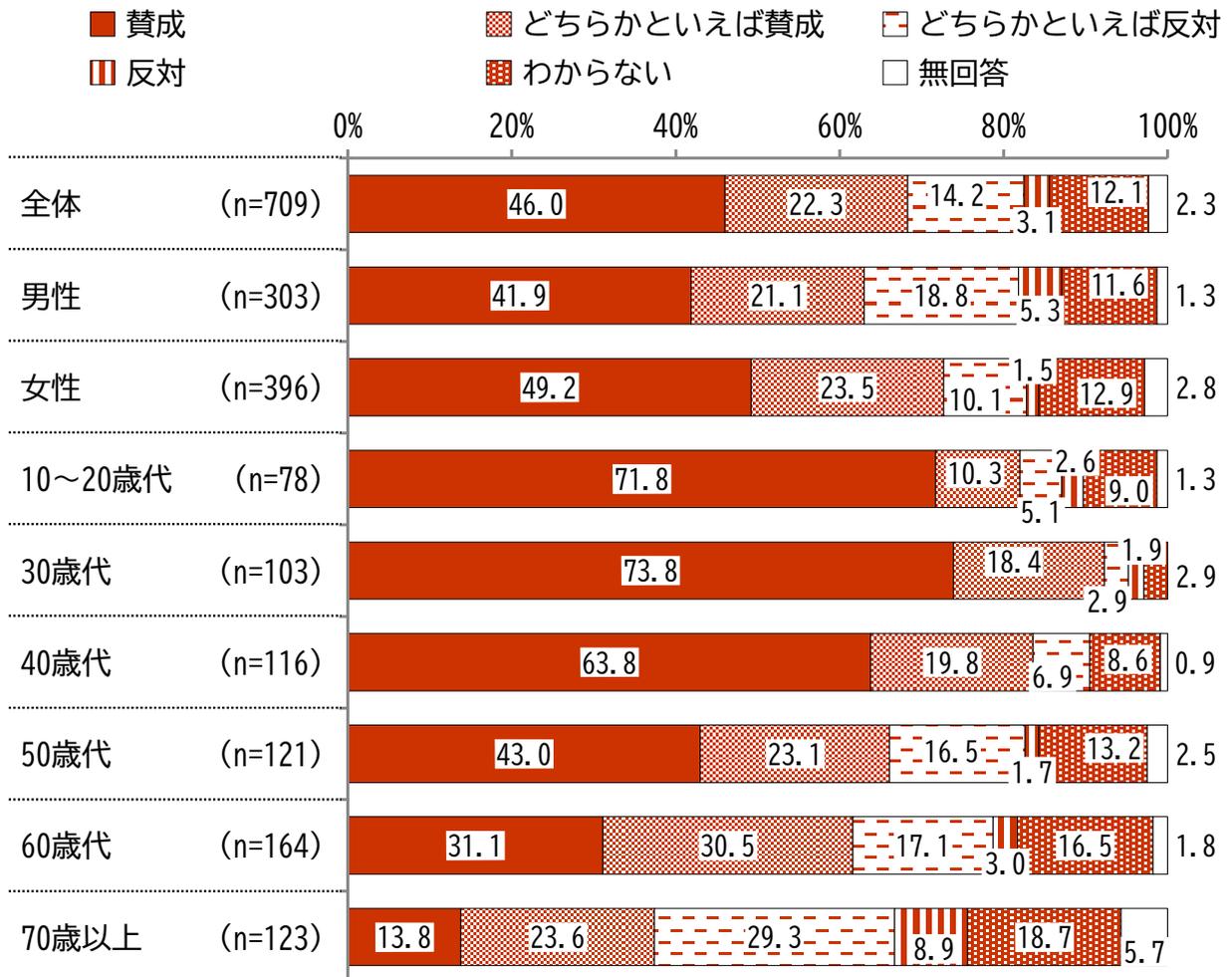
図表 94 ①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい（性・年代別）



②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない【〇は1つ】

- ▶ 性別で見ると、男女共に『賛成派』が最も多いが、『反対派』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）で見ると、男性が24.1%、女性が11.6%と、男性が女性より12.5ポイント多くなっている。
- ▶ 年代別で見ると、『賛成派』は年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にあり、特に70歳以上では37.4%にとどまっている。

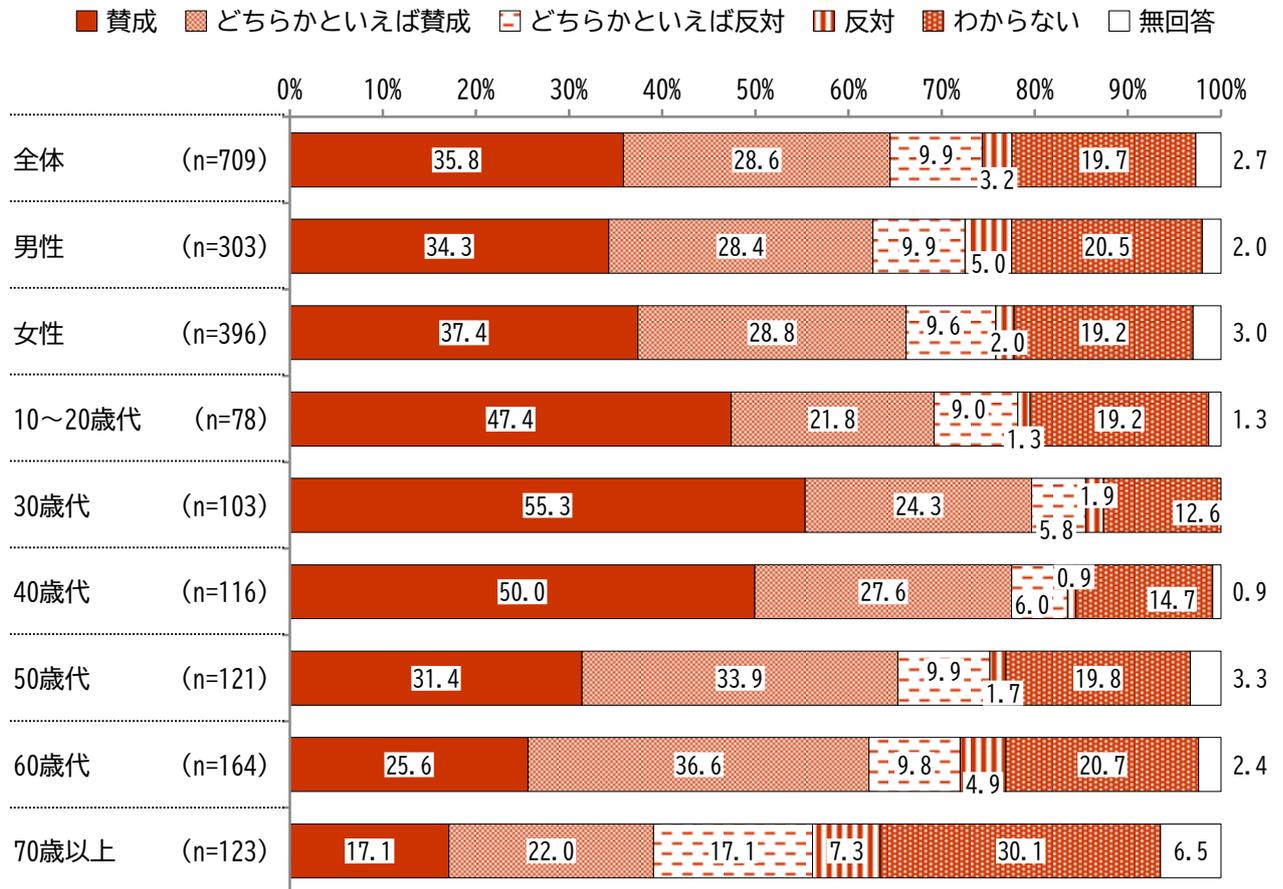
図表 95 ②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（性・年代別）



③結婚しても相手に満足できないときは離婚をすればよい【〇は1つ】

- 性別でみると、男女で大きな差は見られない。
- 年代別でみると、30歳代で79.6%と特に多く、年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

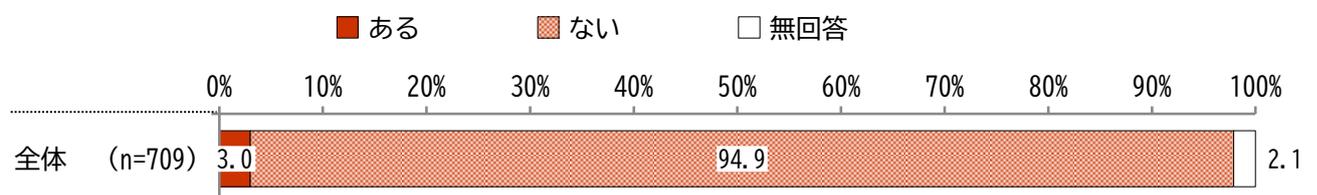
図表 96 ③結婚しても相手に満足できないときは離婚をすればよい（性・年代別）



問 35 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。【〇は1つ】

- 自分の身体や心の性や性的指向に悩んだことがあるかでは、「ない」が94.9%、「ある」が3.0%となっている。

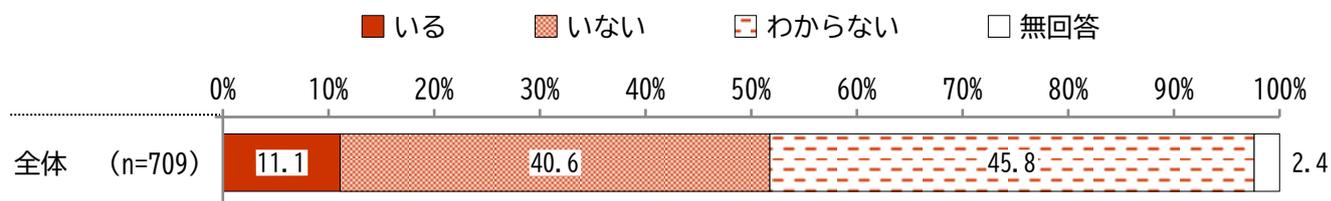
図表 97 自分の身体や心の性や性的指向に悩んだことがあるか



問 36 あなたの周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人はいますか。【〇は1つ】

➤ 周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人がいるかについて、「いる」が11.1%となっている。

図表 98 周りに性的マイノリティの人がいるか

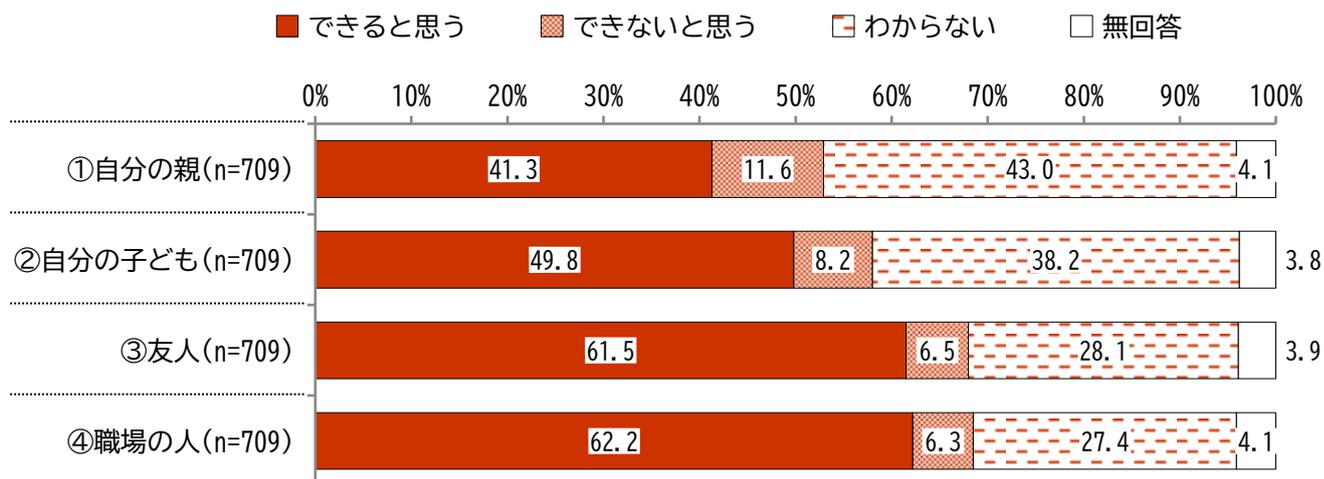


問 37 身近な人（家族、友人、職場の人）が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、これまでと変わらず接することができると思いますか。

①～④のそれぞれについてお答えください。【①～④のそれぞれについて〇は1つ】

➤ 身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、これまでと変わらず接することができるかでは、「自分の親」や「自分の子ども」といった血縁関係にある人では「できると思う」が約4～5割、「わからない」が約4割以上となっている。一方で、「友人」や「職場の人」では「できると思う」が6割以上となっている。

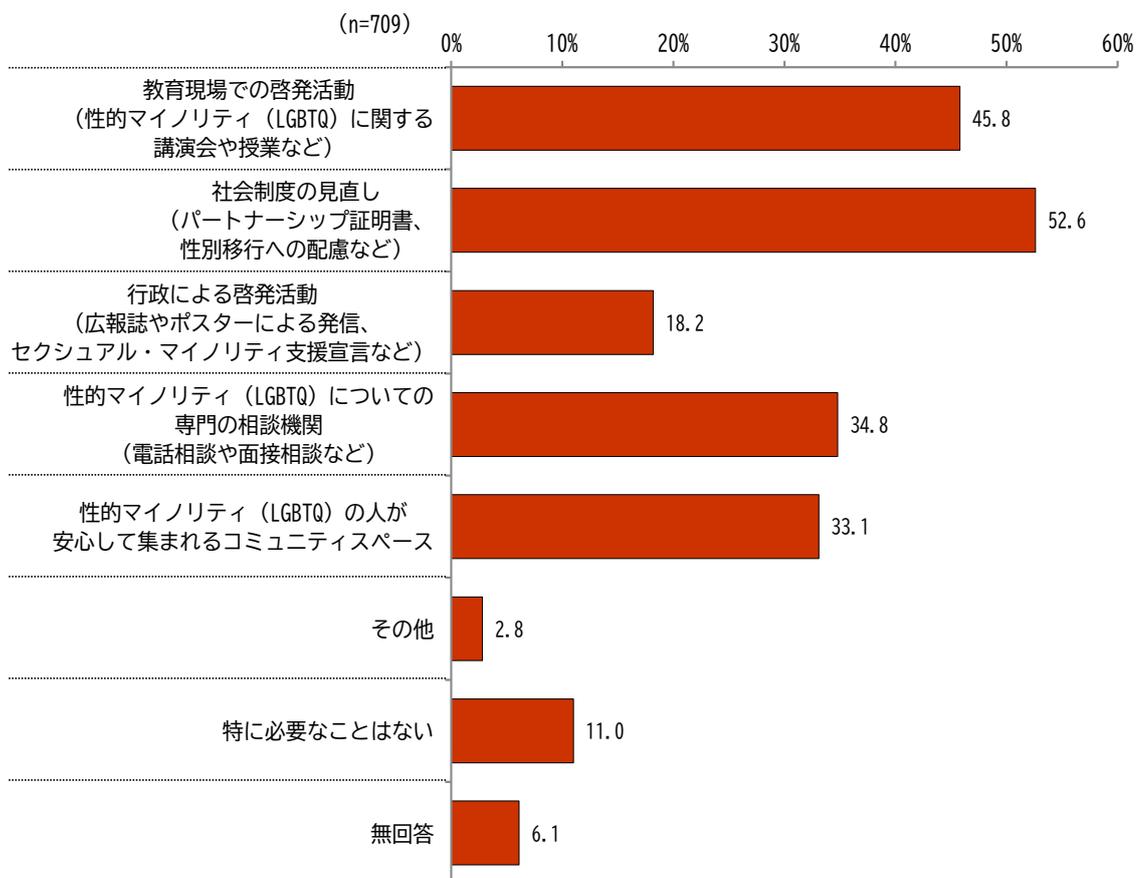
図表 99 身近な人が性的マイノリティだと分かった場合、これまでと変わらず接することができるか



問 38 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うことは何ですか【〇はいくつでも】

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うことでは、全体で見ると、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が 52.6%と最も多く、次いで「教育現場での啓発活動（性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など）」が 45.8%、「性的マイノリティ（LGBTQ）についての専門の相談機関（電話相談や面接相談など）」が 34.8%となっている。

図表 100 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うこと



▶ 年代別で見ると、すべての年代で、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が最も多く、年代が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

図表 101 性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うこと（年代別）

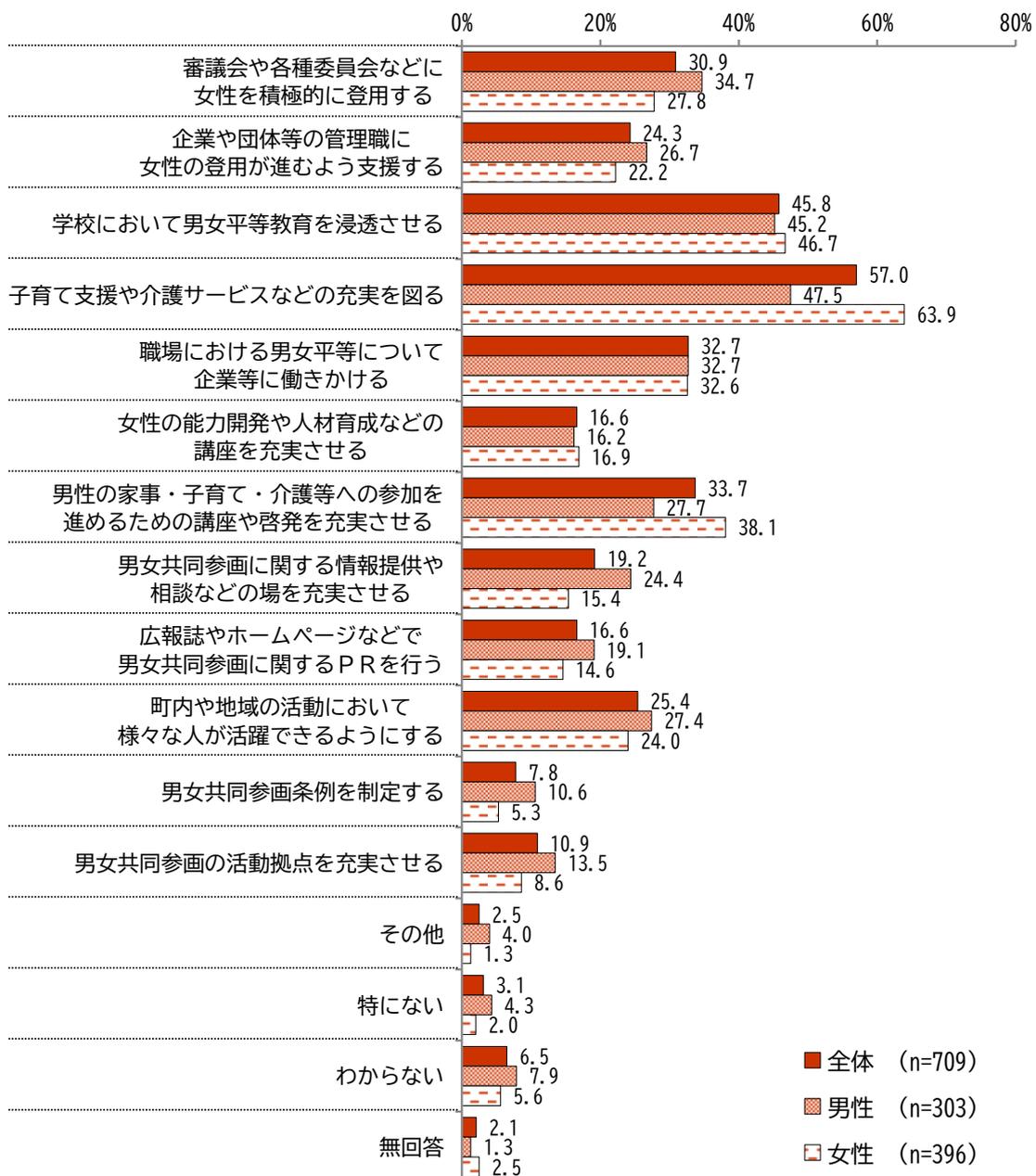
	全体	性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など	教育現場での啓発活動（性的マイノリティ）	社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）	行政による啓発活動（広報誌やポスターによる発信、セクシュアル・マイノリティ支援宣言など）	専門の相談機関（電話相談や面接相談など）	性的マイノリティ（LGBTQ）の人が安心して集まれるコミュニティスペース	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	709	325	373	129	247	235	20	78	43	
	100.0	45.8	52.6	18.2	34.8	33.1	2.8	11.0	6.1	
年代別	10～20歳代	78	35	41	15	23	30	5	12	2
		100.0	44.9	52.6	19.2	29.5	38.5	6.4	15.4	2.6
	30歳代	103	53	71	21	33	45	4	4	1
		100.0	51.5	68.9	20.4	32.0	43.7	3.9	3.9	1.0
	40歳代	116	66	67	23	38	49	1	11	1
		100.0	56.9	57.8	19.8	32.8	42.2	0.9	9.5	0.9
	50歳代	121	56	62	21	43	42	3	13	6
	100.0	46.3	51.2	17.4	35.5	34.7	2.5	10.7	5.0	
60歳代	164	78	90	36	69	43	4	17	8	
	100.0	47.6	54.9	22.0	42.1	26.2	2.4	10.4	4.9	
70歳以上	123	36	40	13	39	25	3	20	24	
	100.0	29.3	32.5	10.6	31.7	20.3	2.4	16.3	19.5	

9. 男女共同参画のまちづくりについて

問 39 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、蒲郡市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

- ▶ 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきことでは、全体で見ると、「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が 57.0%と最も多く、次いで「学校において男女平等教育を浸透させる」が 45.8%、「男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる」が 33.7%となっている。
- ▶ 性別で見ると、男女共に「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が最も多いが、男性で 47.5%、女性で 63.9%と、女性が男性より 16.4 ポイント多くなっている。

図表 102 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと（性別）



▶ 年代別で見ると、すべての年代で「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が最も多い。次いで、10～20歳代で「職場における男女平等について企業等に働きかける」、30歳代以上で「学校において男女平等教育を浸透させる」が多くなっている。

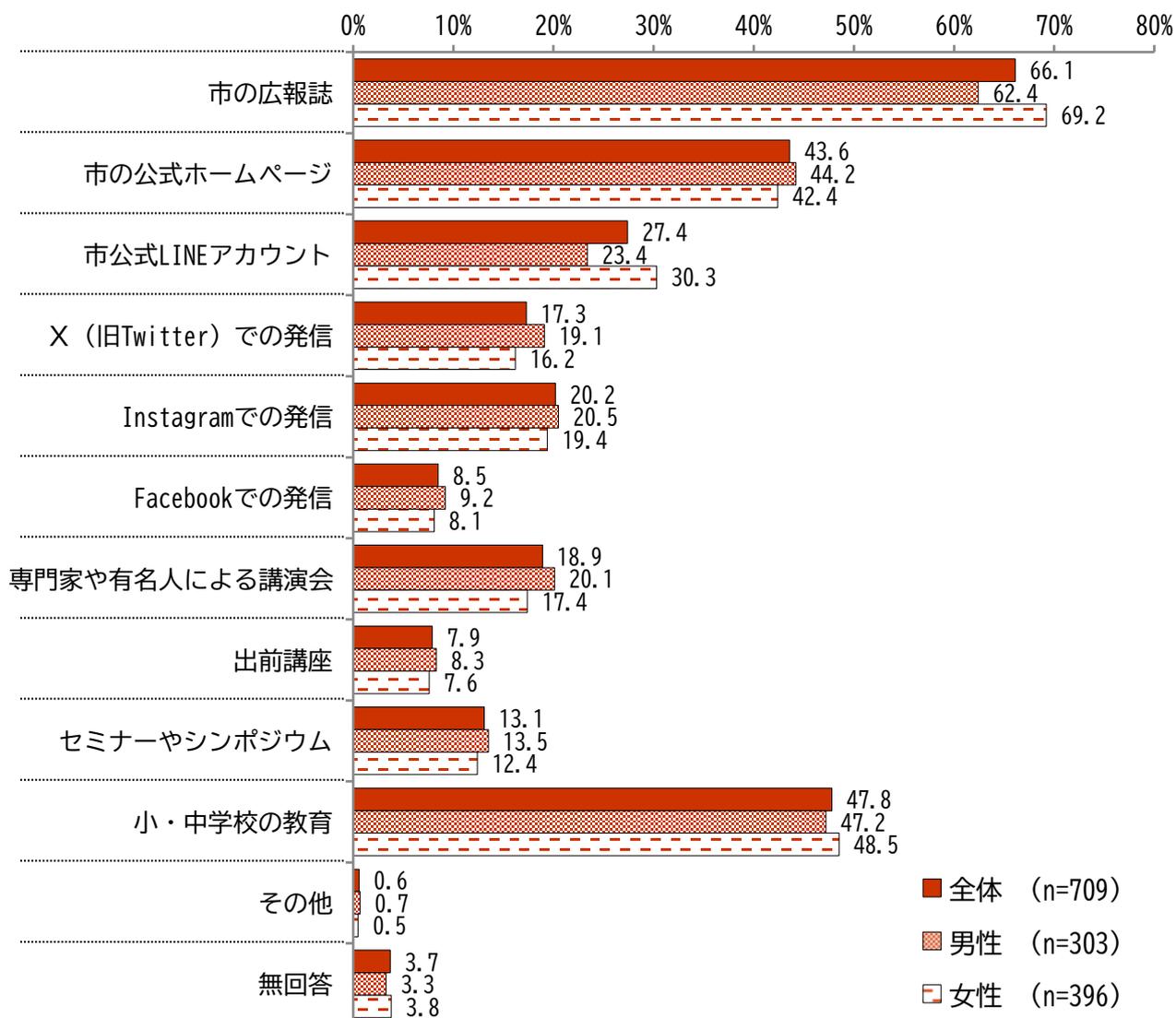
図表 103 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと（年代別）

	全体	審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する	企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	学校において男女平等教育を浸透させる	子育て支援や介護サービスなどの充実を図る	職場における男女平等について企業等に働きかける	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実させる	男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる	男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実させる	広報誌やホームページなどで男女共同参画に関するPRを行う	町内や地域の活動において様々な人が活躍できるようにする	男女共同参画条例を制定する	男女共同参画の活動拠点を充実させる	その他	特になし	わからない	無回答	
																		709
全体	100.0	30.9	24.3	45.8	57.0	32.7	16.6	33.7	19.2	16.6	25.4	7.8	10.9	2.5	3.1	6.5	2.1	
年代別	10～20歳代	78	14	21	31	43	36	13	34	12	11	21	8	14	3	2	8	1
		100.0	17.9	26.9	39.7	55.1	46.2	16.7	43.6	15.4	14.1	26.9	10.3	17.9	3.8	2.6	10.3	1.3
	30歳代	103	32	23	65	68	47	25	48	19	14	26	13	9	1	3	4	1
		100.0	31.1	22.3	63.1	66.0	45.6	24.3	46.6	18.4	13.6	25.2	12.6	8.7	1.0	2.9	3.9	1.0
	40歳代	116	39	23	51	67	35	20	42	20	16	31	8	17	2	5	6	-
		100.0	33.6	19.8	44.0	57.8	30.2	17.2	36.2	17.2	13.8	26.7	6.9	14.7	1.7	4.3	5.2	-
	50歳代	121	32	22	51	65	35	17	33	28	22	23	10	8	5	5	10	-
	100.0	26.4	18.2	42.1	53.7	28.9	14.0	27.3	23.1	18.2	19.0	8.3	6.6	4.1	4.1	8.3	-	
60歳代	164	55	47	77	105	40	28	51	38	31	39	7	14	3	6	9	3	
	100.0	33.5	28.7	47.0	64.0	24.4	17.1	31.1	23.2	18.9	23.8	4.3	8.5	1.8	3.7	5.5	1.8	
70歳以上	123	45	34	48	54	37	13	29	19	23	39	9	14	3	1	9	10	
	100.0	36.6	27.6	39.0	43.9	30.1	10.6	23.6	15.4	18.7	31.7	7.3	11.4	2.4	0.8	7.3	8.1	

問 40 男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。
【〇はいくつでも】

- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことでは、全体で見ると、「市の広報誌」が66.1%と最も多く、次いで「小・中学校の教育」が47.8%、「市の公式ホームページ」が43.6%となっている。
- 性別で見ると、「市の広報誌」と「市公式LINEアカウント」について男性より女性が約7.0ポイント多くなっている。

図表 104 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（性別）



▶ 年代別で見ると、10～20歳代以外では「市の広報誌」が最も多く、年代が高いほど割合が多くなる傾向にある。また、10～40歳代では「小・中学校の教育」の割合が5割以上と多くなっている。

図表 105 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（年代別）

		全体	市の広報誌	市の公式ホームページ	市公式LINEアカウント	Twitter(旧Twitter)での発信	Instagramでの発信	Facebookでの発信	専門家や有名人による講演会	出前講座	セミナーやシンポジウム	小・中学校の教育	その他	無回答
全体		709 100.0	469 66.1	309 43.6	194 27.4	123 17.3	143 20.2	60 8.5	134 18.9	56 7.9	93 13.1	339 47.8	4 0.6	26 3.7
年代別	10～20歳代	78 100.0	34 43.6	30 38.5	25 32.1	30 38.5	35 44.9	8 10.3	14 17.9	6 7.7	10 12.8	40 51.3	1 1.3	-
	30歳代	103 100.0	65 63.1	43 41.7	39 37.9	33 32.0	46 44.7	15 14.6	19 18.4	7 6.8	9 8.7	62 60.2	-	1 1.0
	40歳代	116 100.0	73 62.9	51 44.0	38 32.8	23 19.8	25 21.6	15 12.9	20 17.2	11 9.5	20 17.2	68 58.6	2 1.7	-
	50歳代	121 100.0	77 63.6	60 49.6	36 29.8	20 16.5	22 18.2	11 9.1	18 14.9	7 5.8	13 10.7	49 40.5	-	5 4.1
	60歳代	164 100.0	121 73.8	75 45.7	36 22.0	12 7.3	10 6.1	8 4.9	38 23.2	16 9.8	29 17.7	70 42.7	1 0.6	9 5.5
	70歳以上	123 100.0	95 77.2	49 39.8	19 15.4	5 4.1	5 4.1	3 2.4	24 19.5	9 7.3	12 9.8	46 37.4	-	11 8.9

▶ 言葉の理解度（問9）別に見ると、言葉の理解度が高い方がすべての項目において回答の割合が多くなっている。

図表 106 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（言葉の理解度（問9）別）

		全体	市の広報誌	市の公式ホームページ	市公式LINEアカウント	Twitter(旧Twitter)での発信	Instagramでの発信	Facebookでの発信	専門家や有名人による講演会	出前講座	セミナーやシンポジウム	小・中学校の教育	その他	無回答
全体		709 100.0	469 66.1	309 43.6	194 27.4	123 17.3	143 20.2	60 8.5	134 18.9	56 7.9	93 13.1	339 47.8	4 0.6	26 3.7
言葉の理解度	低	317 100.0	206 65.0	121 38.2	68 21.5	27 8.5	40 12.6	17 5.4	53 16.7	19 6.0	34 10.7	137 43.2	2 0.6	15 4.7
	中	345 100.0	228 66.1	162 47.0	110 31.9	81 23.5	88 25.5	37 10.7	69 20.0	33 9.6	51 14.8	174 50.4	2 0.6	10 2.9
	高	47 100.0	35 74.5	26 55.3	16 34.0	15 31.9	15 31.9	6 12.8	12 25.5	4 8.5	8 17.0	28 59.6	-	1 2.1

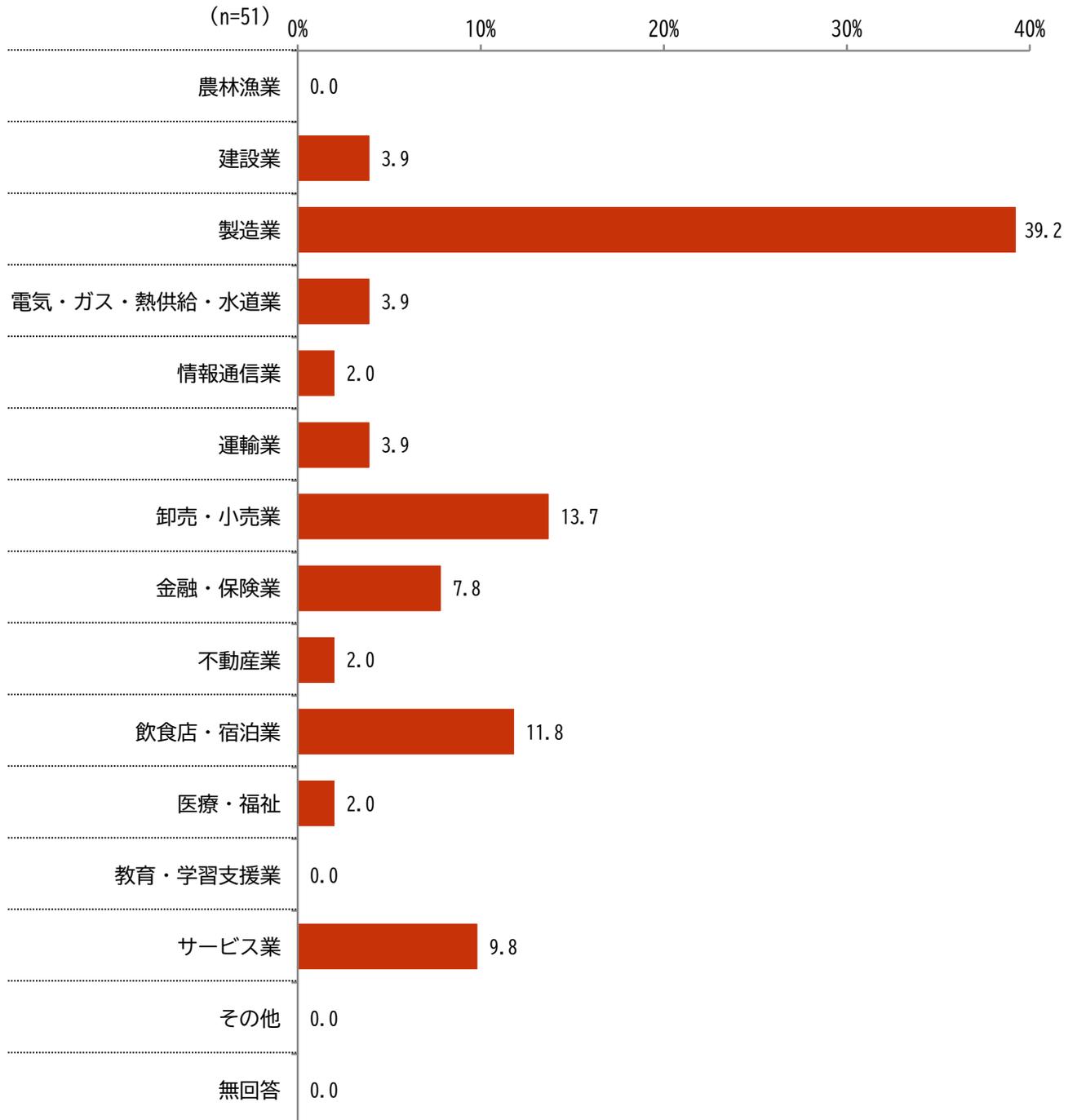
IV. 調査結果（事業所）

1. 貴事業所について

問1 貴事業所の業種についてお答えください。【〇は主なもの1つ】

➤ 業種では、「製造業」が39.2%と最も多く、次いで「卸売・小売業」が13.7%、「飲食店・宿泊業」が11.8%となっている。

図表 107 業種

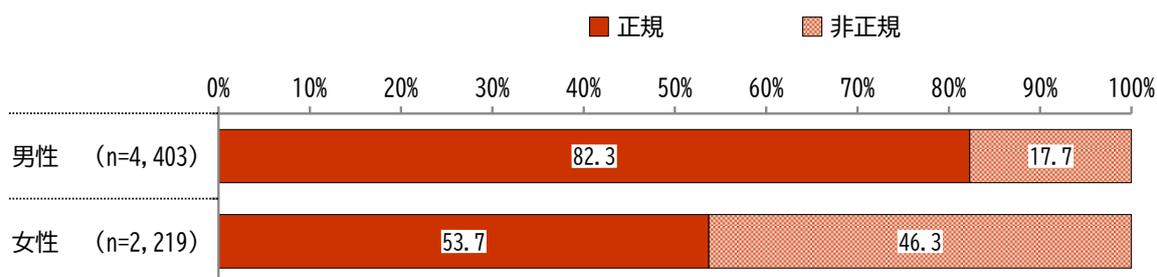


問2 貴事業所の従業員数についてお答えください。【数字を記入】

①正規・非正規雇用割合

- 事業所の従業員の正規・非正規雇用割合について、正規雇用の男性は 82.3%、女性は 53.7%となっており、女性従業員の非正規割合が多くなっている。

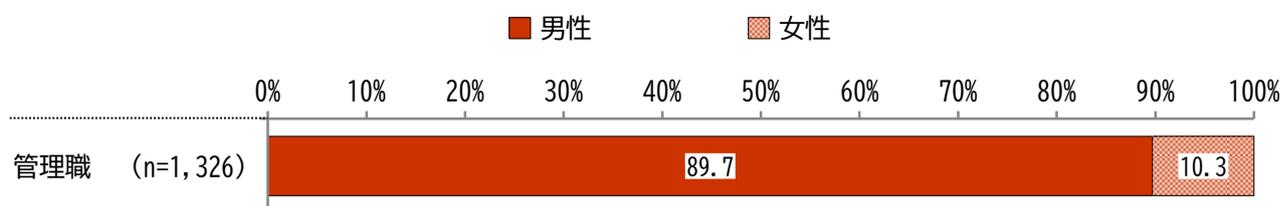
図表 108 正規・非正規雇用割合



②管理職に占める女性割合

- 管理職に占める「女性」の割合は、10.3%となっている。

図表 109 管理職に占める女性割合



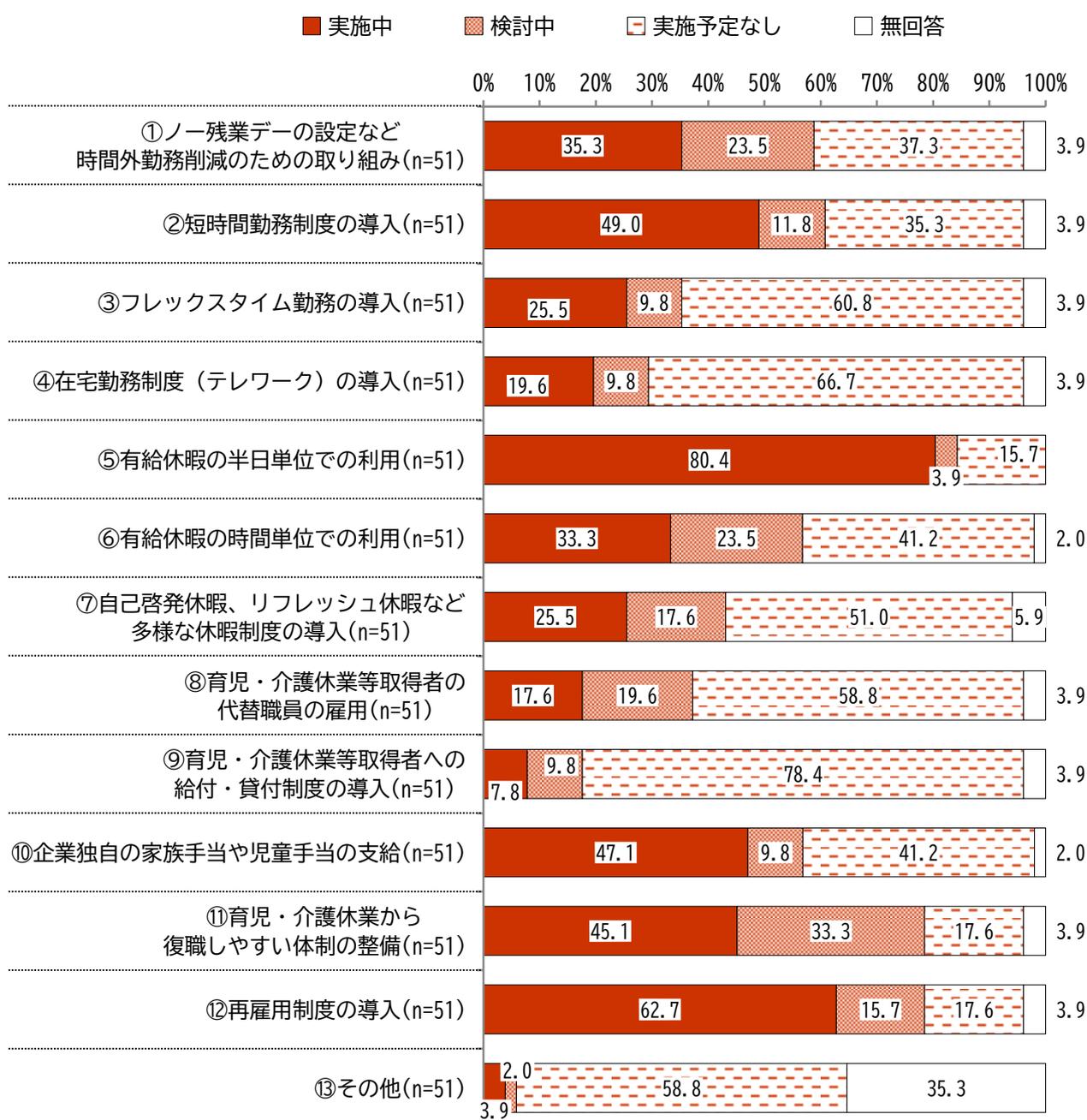
2. ワーク・ライフ・バランスについて

問3 事業所でのワーク・ライフ・バランス施策について、該当するものをお選びください。

【①～⑬のそれぞれについて○は1つ】

- ワーク・ライフ・バランス施策では、「⑤有給休暇の半日単位での利用」で「実施中」が80.4%と非常に多くなっている。
- 「実施予定なし」では、「③フレックスタイム勤務の導入」「④在宅勤務制度の導入」「⑦自己啓発休暇、リフレッシュ休暇など多様な休暇制度の導入」「⑧育児・介護休業等取得者の代替職員の雇用」「⑨育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入」で半数を超えている。

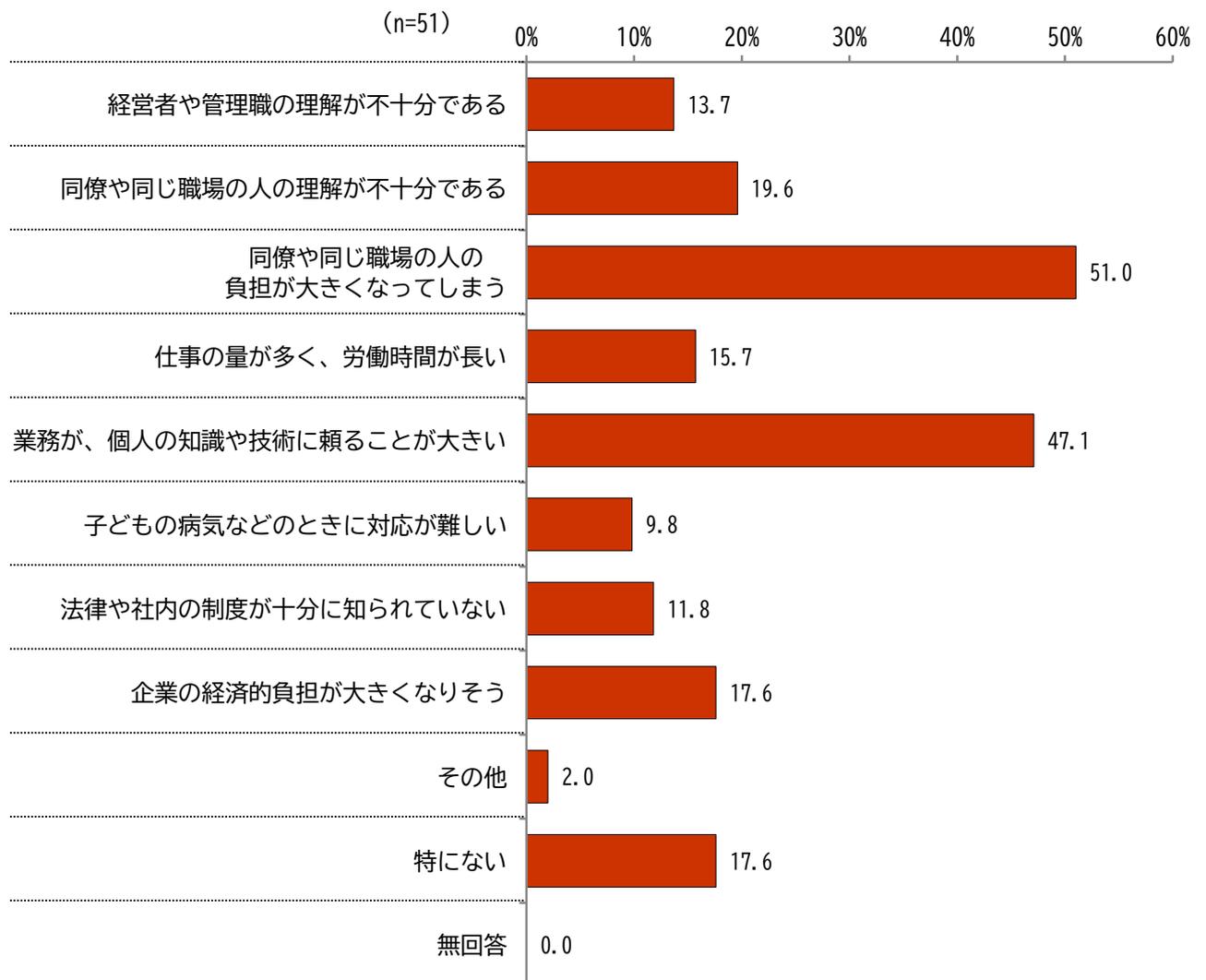
図表 110 ワーク・ライフ・バランス施策について



問 4 貴事業所で、「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上で、どのような課題がありますか。【〇はいくつでも】

- 「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上での課題では、「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまふ」が51.0%と最も多く、次いで「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が47.1%、「同僚や同じ職場の人の理解が不十分である」が19.6%となっている。

図表 111 「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上での課題



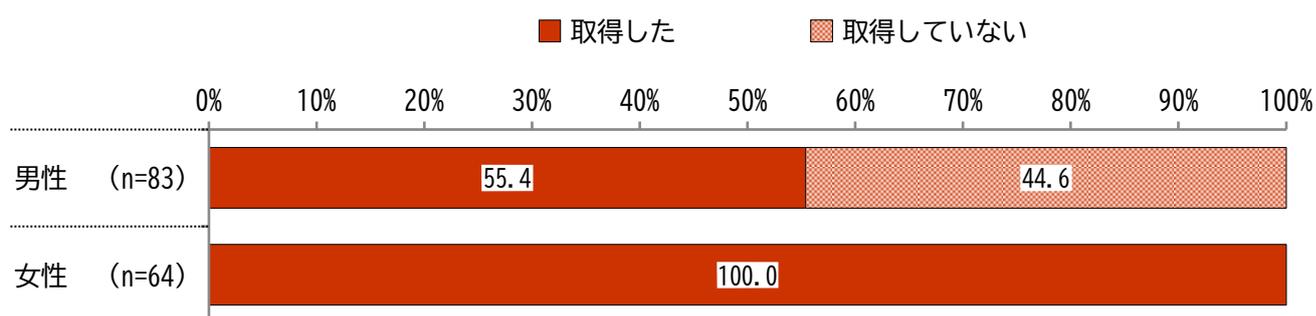
3. 育児・介護について

問5 貴事業所における令和5年度の育児・介護休業取得状況をお教えてください。【数字を記入】

①育児休業取得割合

- 育児休業取得割合では、性別で見ると、「取得した」が男性は55.4%と半数にとどまる一方で、女性は100.0%となっており、男女で大きな差がみられる。

図表 112 ①育児休業取得割合



②介護休業取得人数

- 回答事業所全51社中、令和5年度に介護休業を取得した男性従業員は0人、女性従業員は6人となった。

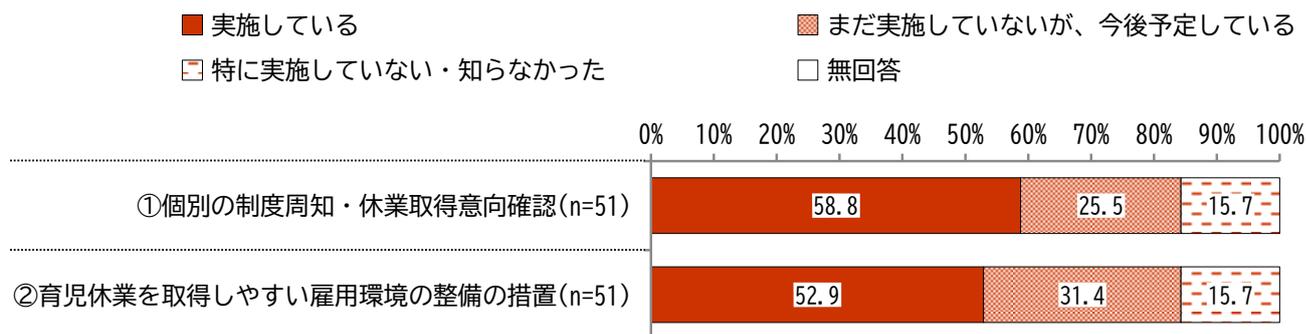
図表 113 ②介護休業取得人数

区分	介護休業取得者数
男性従業員	0人/51社
女性従業員	6人/51社

問6 令和4年4月から育児・介護休業法の改正に伴い、以下の対応が義務付けられました。貴事業所では次の取り組みを行っていますか。【①②それぞれについて〇は1つ】

- 「①個別の制度周知・休業取得意向確認」「②育児休業を取得しやすい雇用環境の整備の措置」について、どちらも『実施していない』（「まだ実施していないが、今後予定している」＋「特に実施していない・知らなかった」）が4割以上となっている。

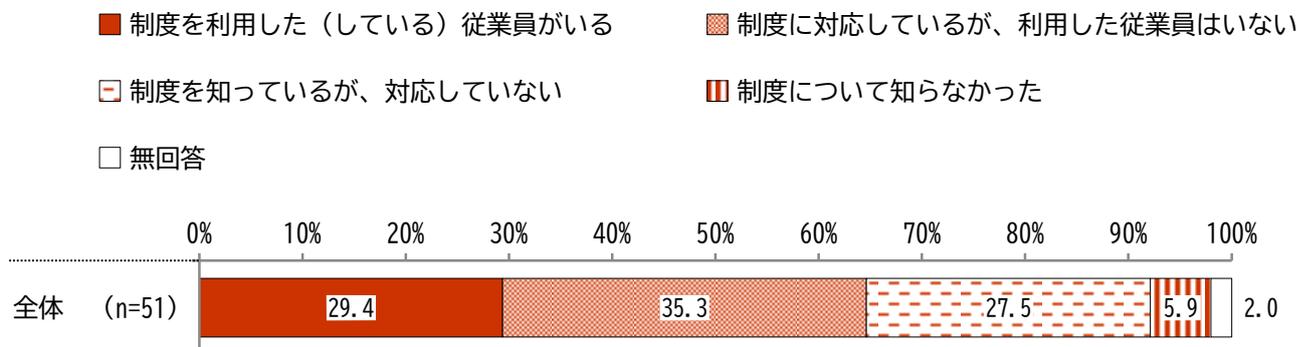
図表 114 育児・介護休業法の改正に対する取り組みを行っているか



問7 育児・介護休業法の改正により、令和4年10月から「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」が創設されました。制度についての貴事業所の状況についてお答えください。【〇は1つ】

- 産後パパ育休制度について、「制度に対応しているが、利用した従業員はいない」が35.3%と最も多く、次いで「制度を利用した（している）従業員がいる」が29.4%、「制度を知っているが、対応していない」が27.5%となっている。

図表 115 産後パパ育休（出生時育児休業）制度について

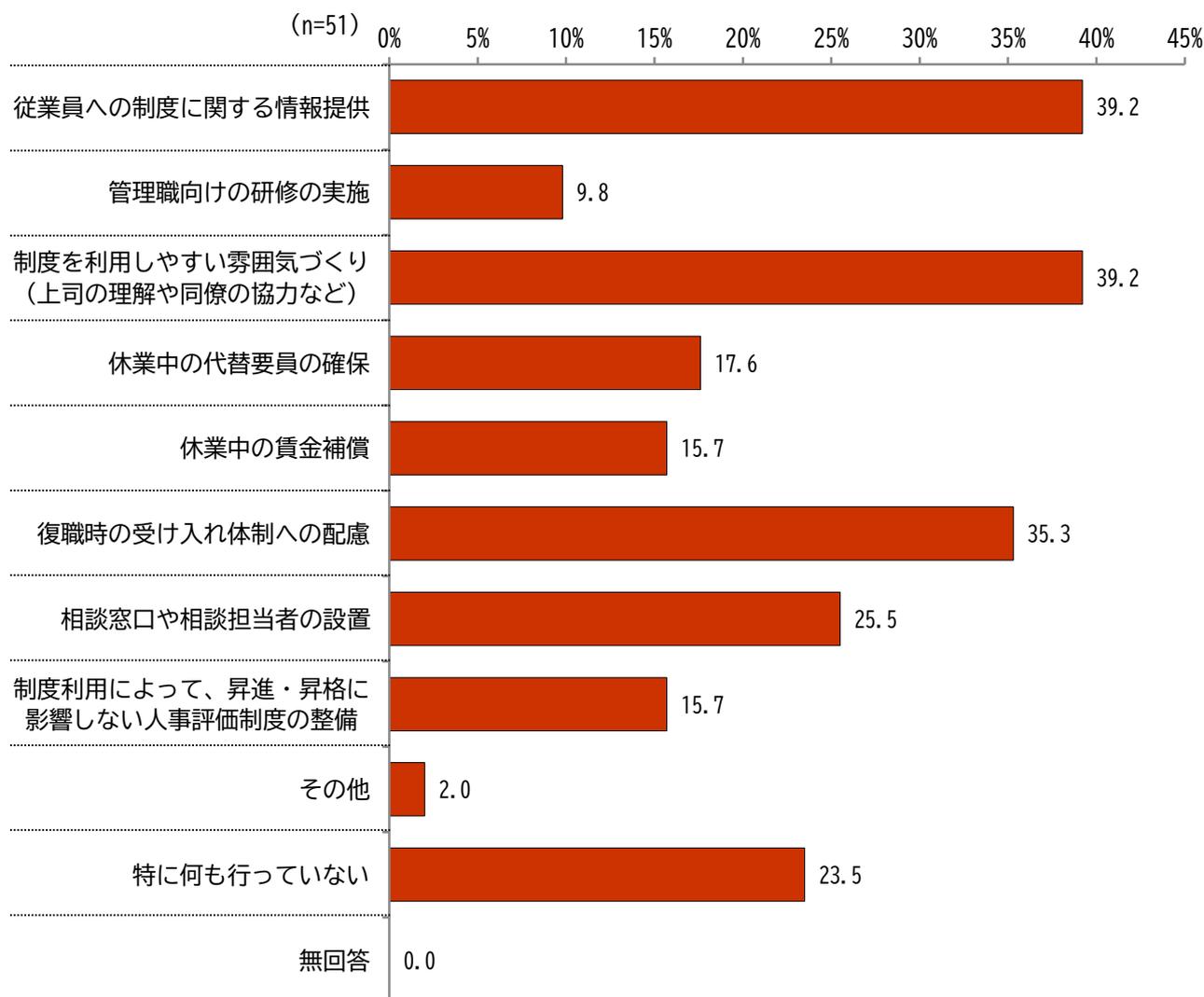


問8 貴事業所で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。

【〇はいくつでも】

- 育児・介護休業制度を定着させるために行っていることでは、「従業員への制度に関する情報提供」「制度を利用しやすい雰囲気づくり（上司の理解や同僚の協力など）」が39.2%と最も多く、次いで「復職時の受け入れ体制への配慮」が35.3%、「相談窓口や相談担当者の設置」が25.5%となっている。

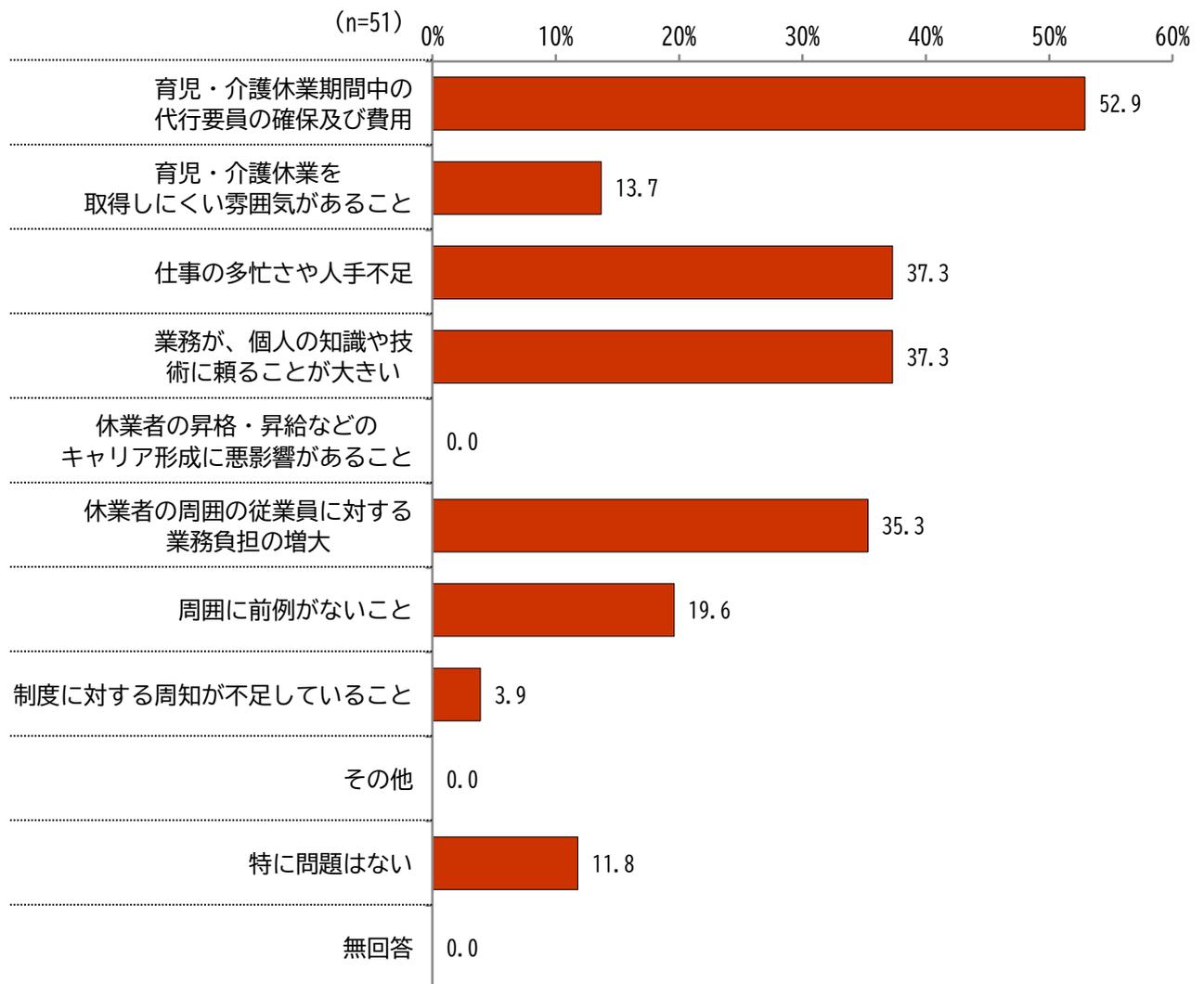
図表 116 育児・介護休業制度を定着させるために行っていること



問9 育児・介護休業制度の利用を進めていくうえで、貴事業所で課題となることはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

➤ 育児・介護休業制度の利用を進めるうえでの課題では、「育児・介護休業期間中の代行要員の確保及び費用」が52.9%と最も多く、次いで「仕事の多忙さや人手不足」「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が37.3%、「休業者の周囲の従業員に対する業務負担の増大」が35.3%となっている。

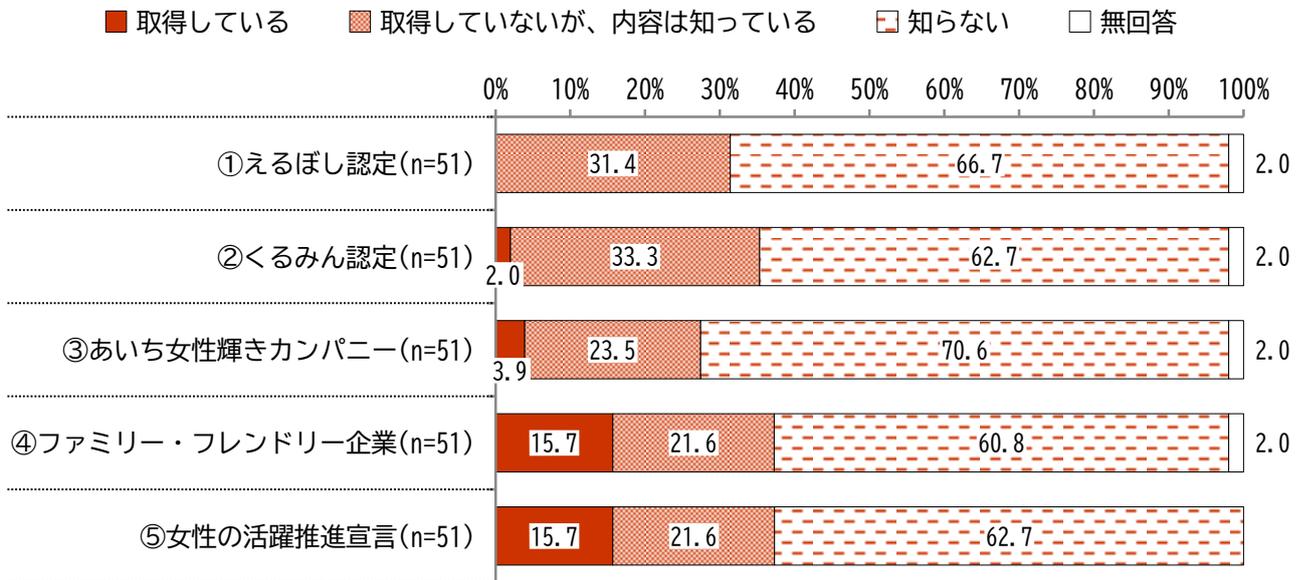
図表 117 育児・介護休業制度の利用を進めるうえでの課題



問 10 貴事業所では、国や県が定めている次の認証制度等を取得していますか。【〇は1つ】

➤ 認証制度等の取得については、全項目で「知らない」が約6~7割と多く、全項目で認知や取得が広まっていないことがわかる。

図表 118 認証制度の取得について



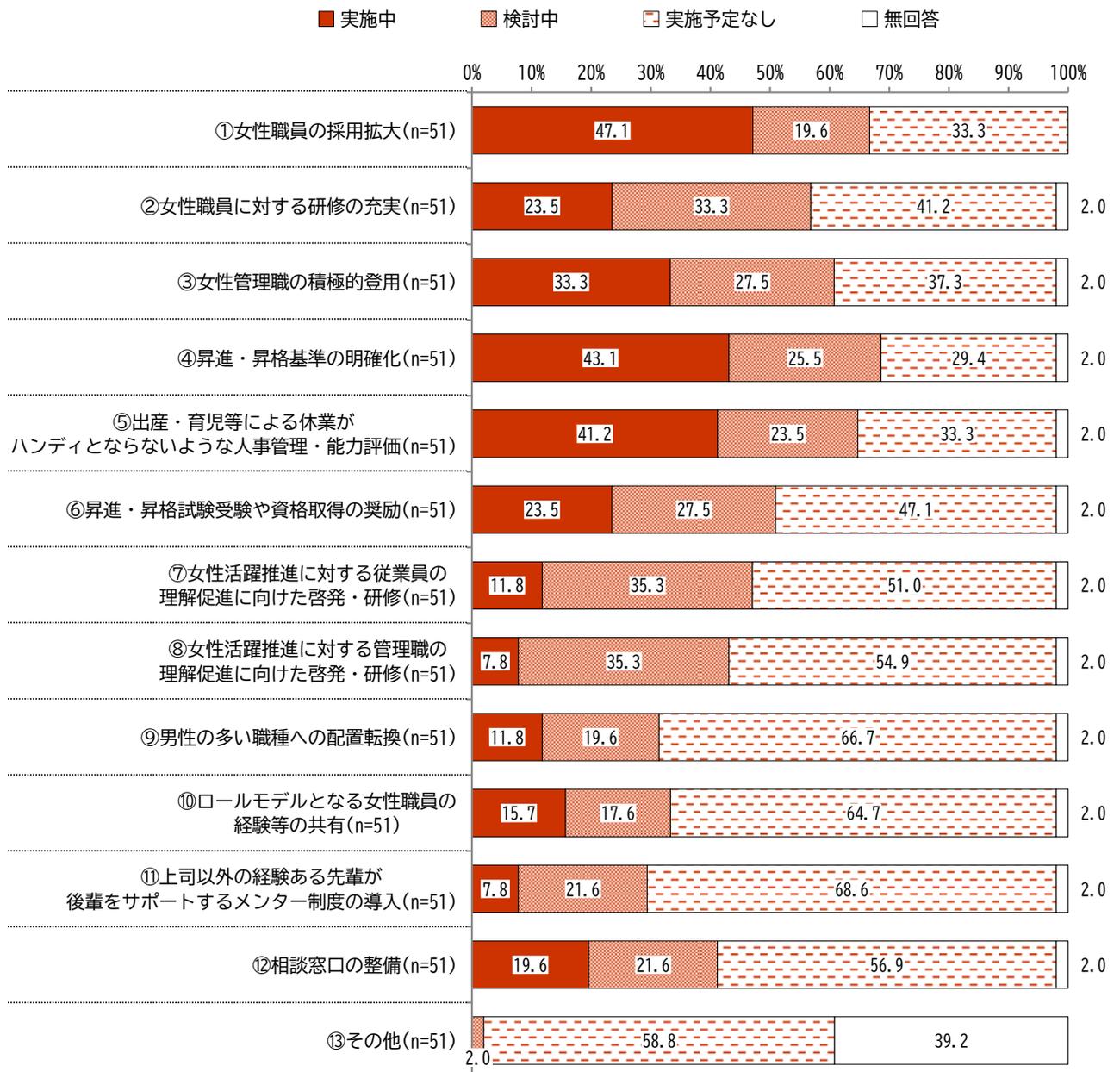
4. 女性の活躍推進について

問 11 女性の活躍推進への取り組み状況について、該当するものをお選びください。

【①～⑬のそれぞれについて〇は1つ】

- ▶ 女性の活躍推進への取り組み状況では、「①女性職員の採用拡大」、「④昇進・昇格基準の明確化」、「⑤出産・育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」で「実施中」が4割以上となっているが、そのほかの項目では「実施予定なし」が最も多くなっている。

図表 119 女性の活躍推進への取り組み状況

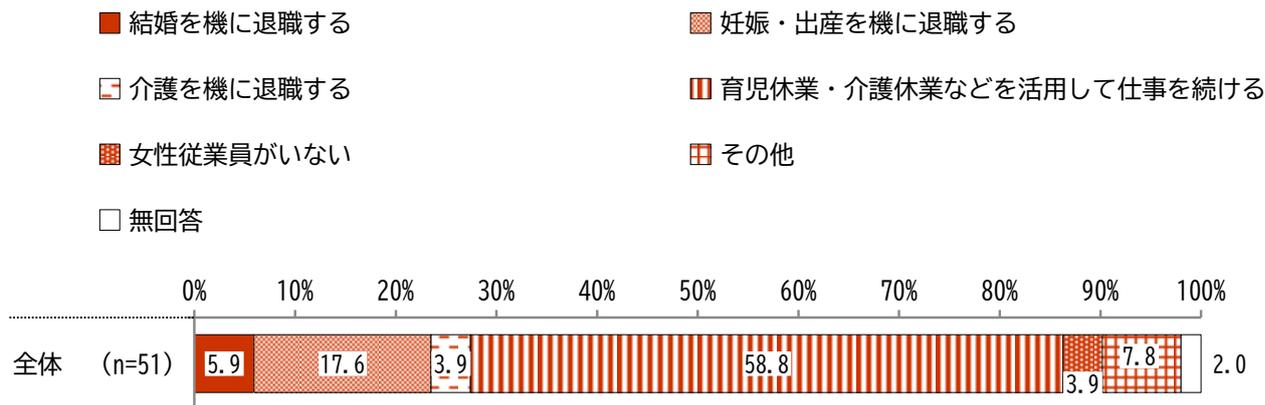


問 12 貴事業所の女性従業員はどのような働き方が多いですか。最も多いケースをお答えください。

【〇は1つ】

- 女性従業員の働き方では、「育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける」が 58.8%と最も多く、次いで「妊娠・出産を機に退職する」が 17.6%、「結婚を機に退職する」が 5.9%となっている。

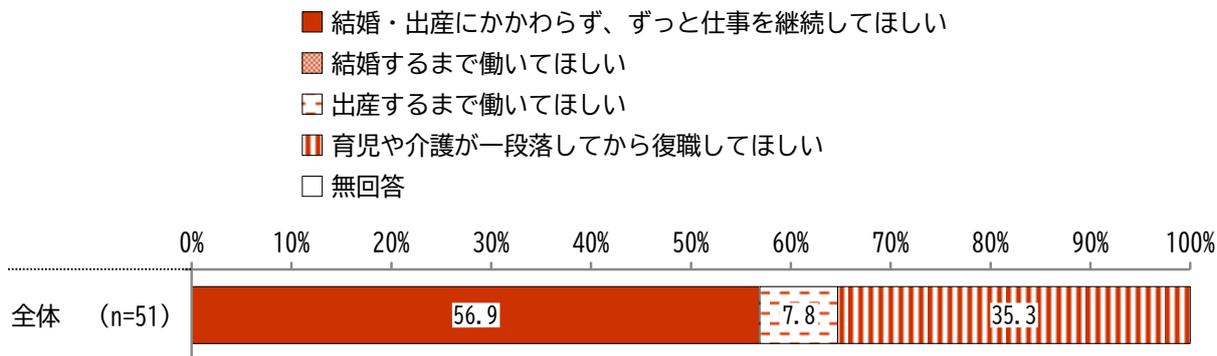
図表 120 女性従業員の働き方



問 13 女性従業員に対して、どのように働いてほしいと思いますか。【〇は1つ】

- 女性従業員にどのように働いてほしいかでは、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を継続してほしい」が 56.9%、「育児や介護が一段落してから復職してほしい」が 35.3%となっている。

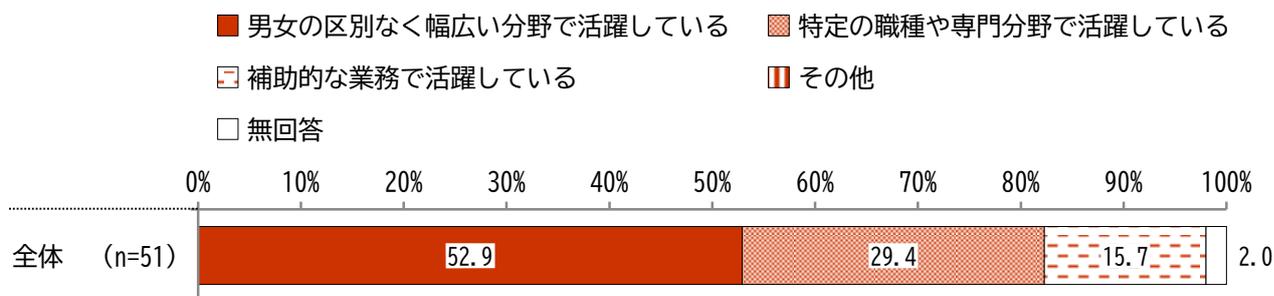
図表 121 女性従業員に対してどのように働いて欲しいと思うか



問 14 貴事業所では女性従業員がどのように活躍していますか。【〇は1つ】

- 女性従業員がどのように活躍しているかでは、「男女の区別なく幅広い分野で活躍している」が 52.9%と最も多く、次いで「特定の職種や専門分野で活躍している」が 29.4%、「補助的な業務で活躍している」が 15.7%となっている。

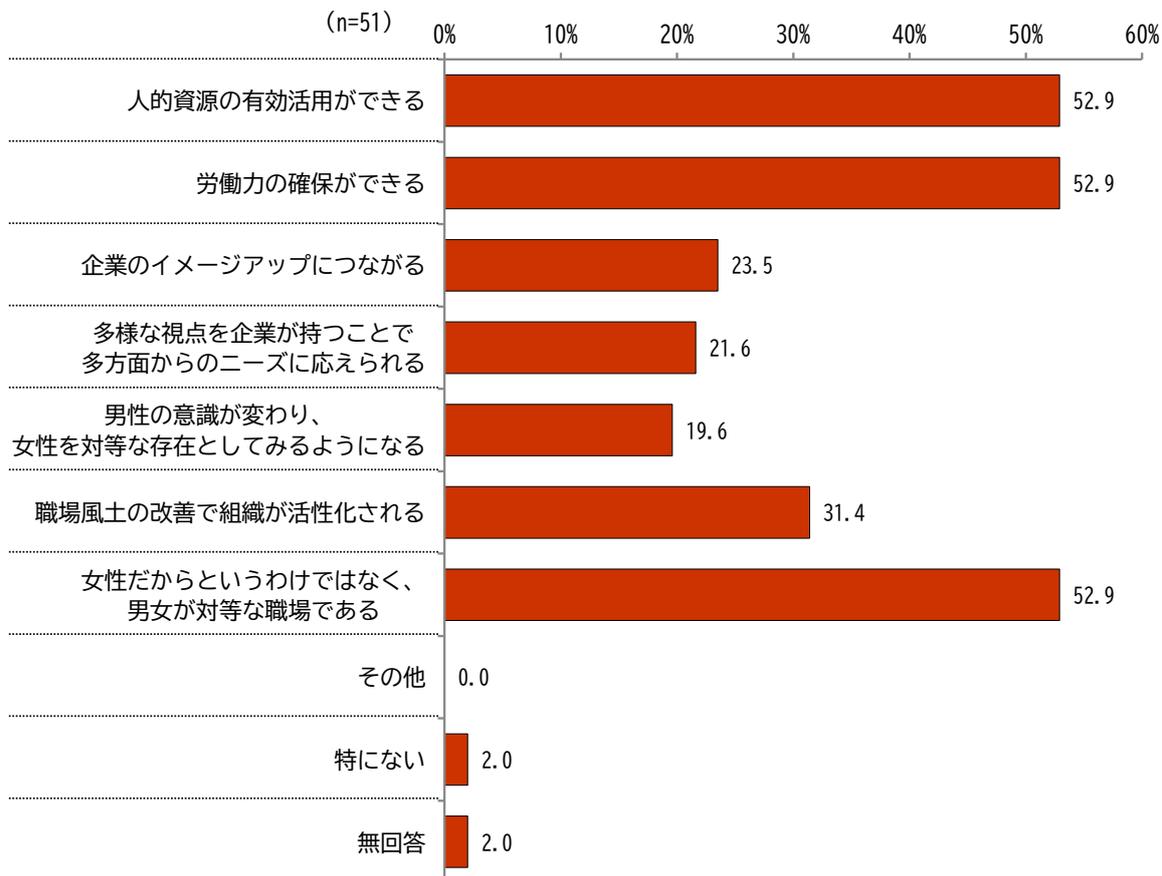
図表 122 女性従業員がどのように活躍しているか



問 15 女性従業員が活躍するメリットは何だと思えますか。【〇はいくつでも】

- 女性従業員が活躍するメリットでは、「人的資源の有効活用ができる」「労働力の確保ができる」「女性だからというわけではなく、男女が対等な職場である」が 52.9%と最も多くなっている。

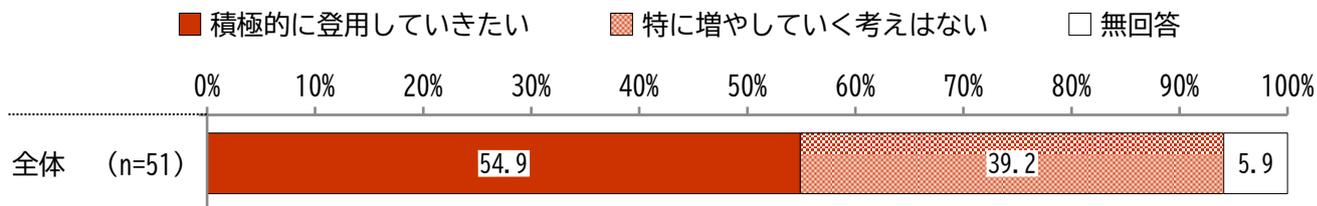
図表 123 女性従業員が活躍するメリット



問 16 今後、管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。【○は1つだけ】

➤ 今後、女性を管理職に積極的に登用しようと考えているかでは、「積極的に登用していきたい」が 54.9%、「特に増やしていく考えはない」が 39.2%となっている。

図表 124 今後、管理職雇用で女性を積極的に登用しようと考えているか

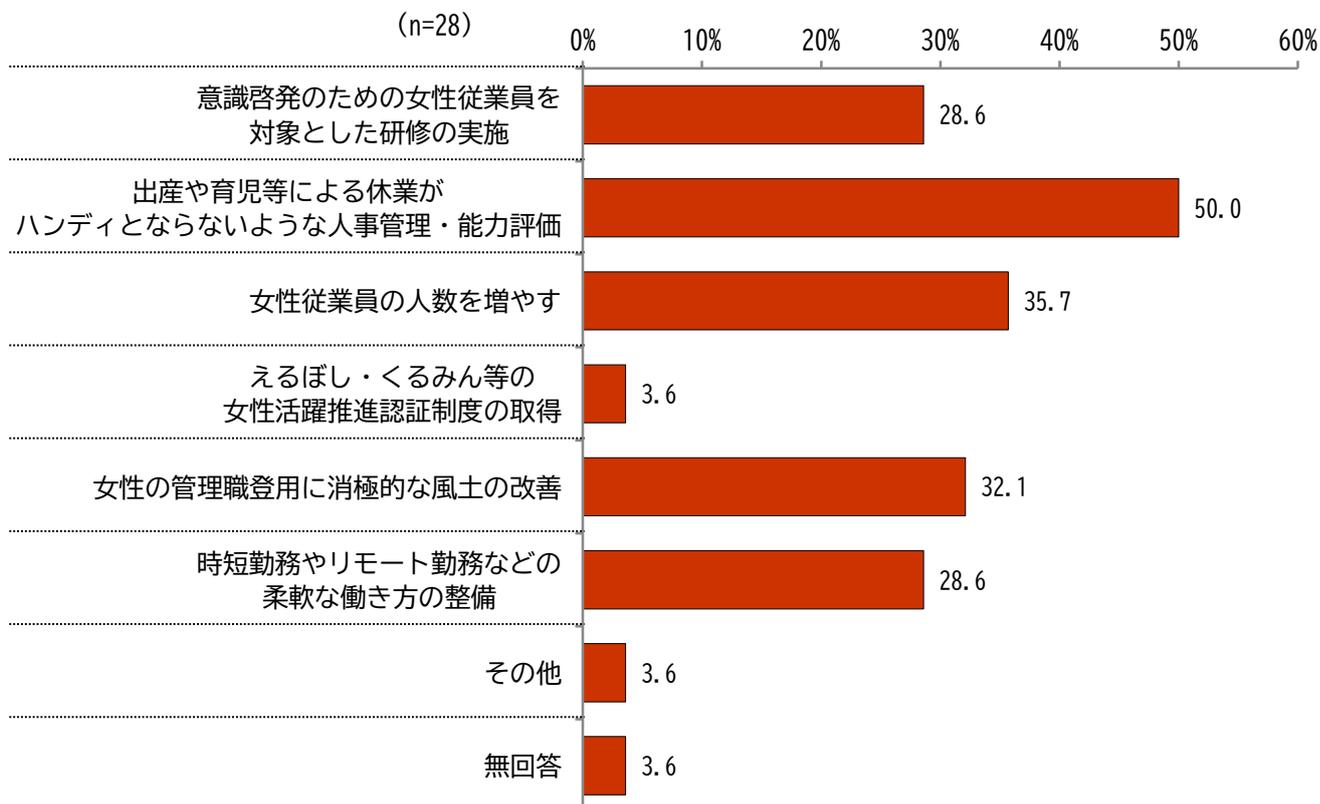


<問 16 で「1. 積極的に登用していきたい」と答えた方におたずねします。

問 16-1 女性の管理職を増やすためにどのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】

➤ 女性の管理職を増やすために必要だと思うことでは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が 50.0%と最も多く、次いで「女性従業員の人数を増やす」が 35.7%、「女性の管理職登用に消極的な風土の改善」が 32.1%となっている。

図表 125 女性の管理職を増やすために必要だと思うこと

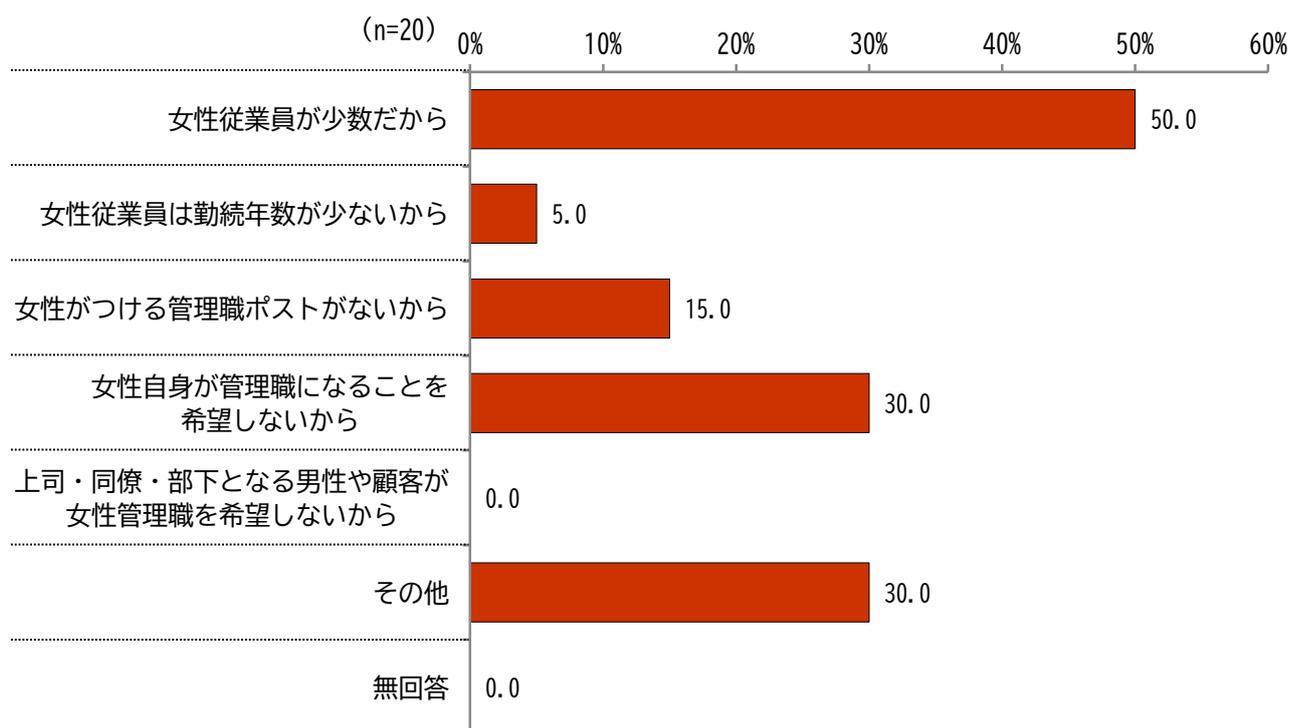


<問 16 で「2.特に増やしていく考えはない」と答えた方におたずねします。

問 16-2 その理由は何ですか。【〇はいくつでも】

- 今後、管理職雇用で女性を増やしていく考えがない理由では、「女性従業員が少数だから」が 50.0%と最も多く、次いで「女性自身が管理職になることを希望しないから」が 30.0%、「女性がつける管理職ポストがないから」が 15.0%となっている。

図表 126 今後、管理職雇用で女性を増やしていく考えがない理由

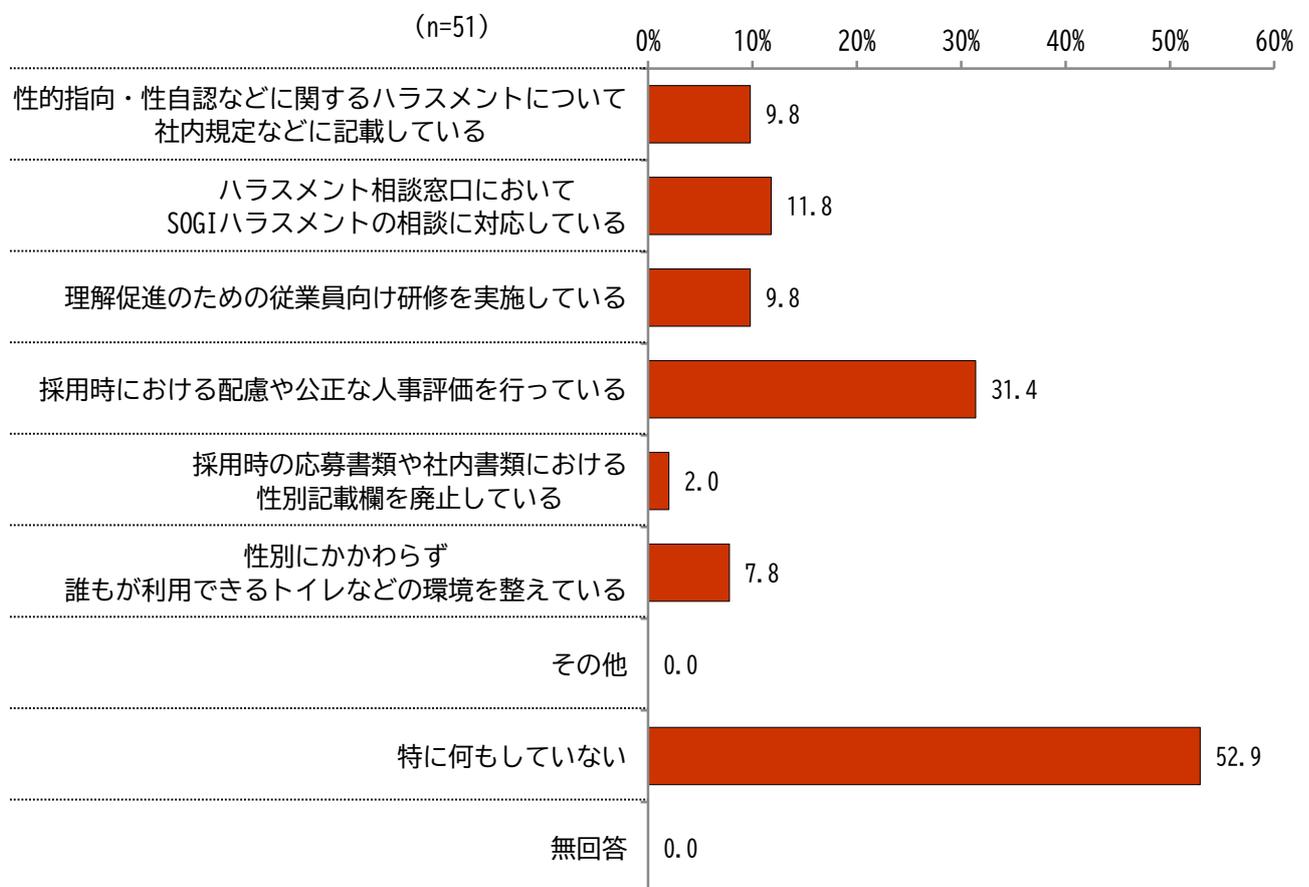


5. 多様性について

問 17 性的マイノリティ (LGBTQ) の従業員への配慮について、貴事業所の取組状況を教えてください。
【あてはまるものすべてに○】

- 性的マイノリティ (LGBTQ) の従業員への取組状況では、「特に何もしていない」が 52.9%と最も多く、次いで「採用時における配慮や公正な人事評価を行っている」が 31.4%、「ハラスメント相談窓口において SOGI ハラスメントの相談に対応している」が 11.8%となっている。

図表 127 性的マイノリティ (LGBTQ) の従業員への配慮についての取組状況



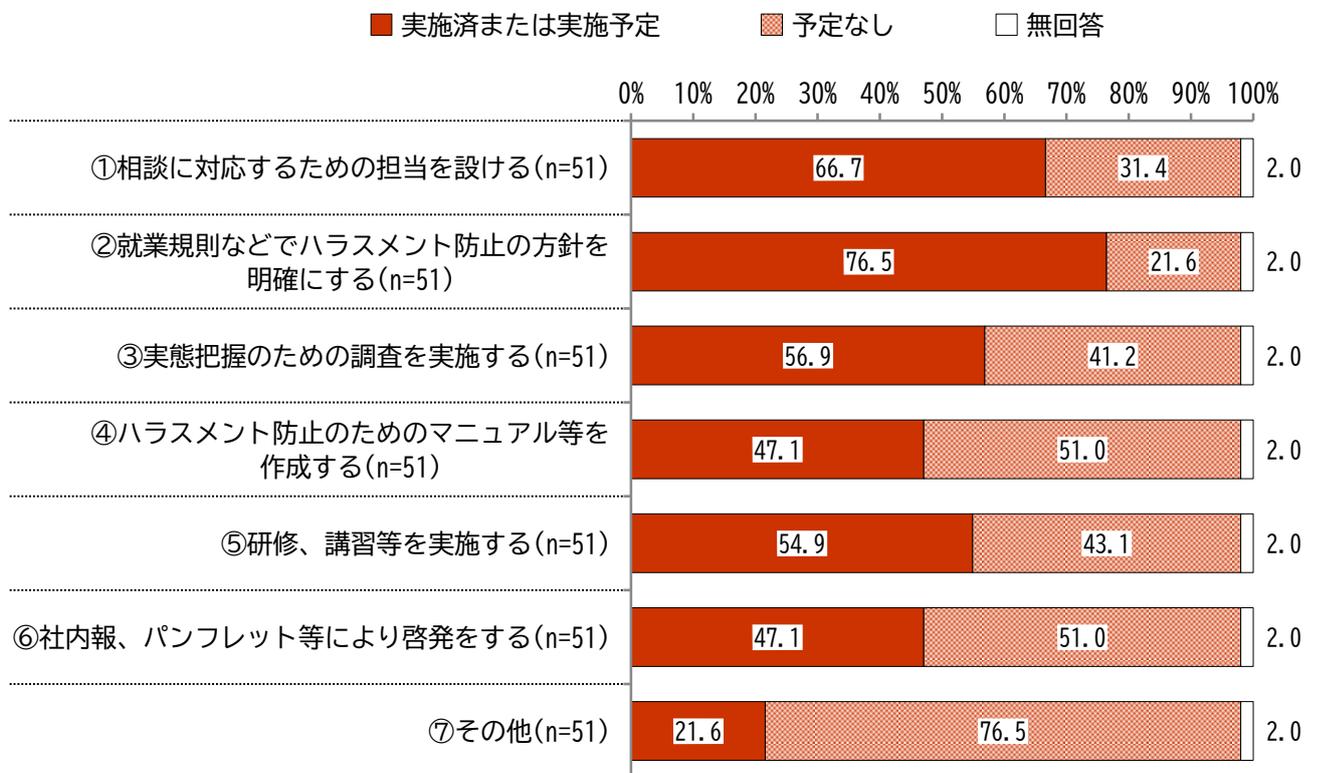
6. ハラスメント対策について

問 18 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント(職務上の地位を利用した、いじめや嫌がらせ)についてどのような取り組みを行っていますか(または実施予定ですか)。
①~⑦の取り組みについて、該当するものをそれぞれ1つずつ選んでください。

セクシャル・ハラスメント

➤ セクシュアル・ハラスメント対策では、「実施済または実施予定」について、②就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にする」が76.5%、「①相談に対応するための担当を設ける」が66.7%と多くなっている。

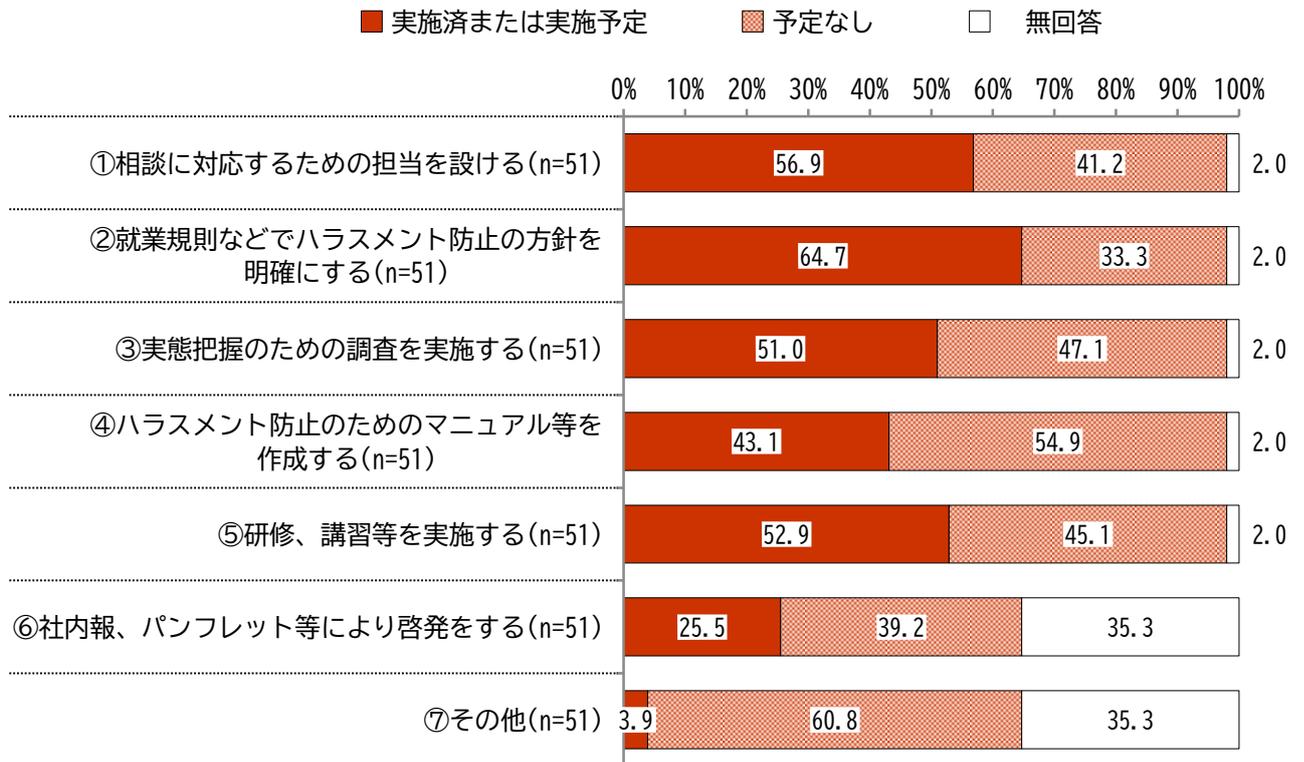
図表 128 セクシュアル・ハラスメントについて行っている取り組み



パワー・ハラスメント

- パワー・ハラスメント対策では、「実施済または実施予定」について、「②就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にする」が 64.7%、「①相談に対応するための担当を設ける」が 56.9%と多くなっている。

図表 129 パワー・ハラスメントについて行っている取り組み

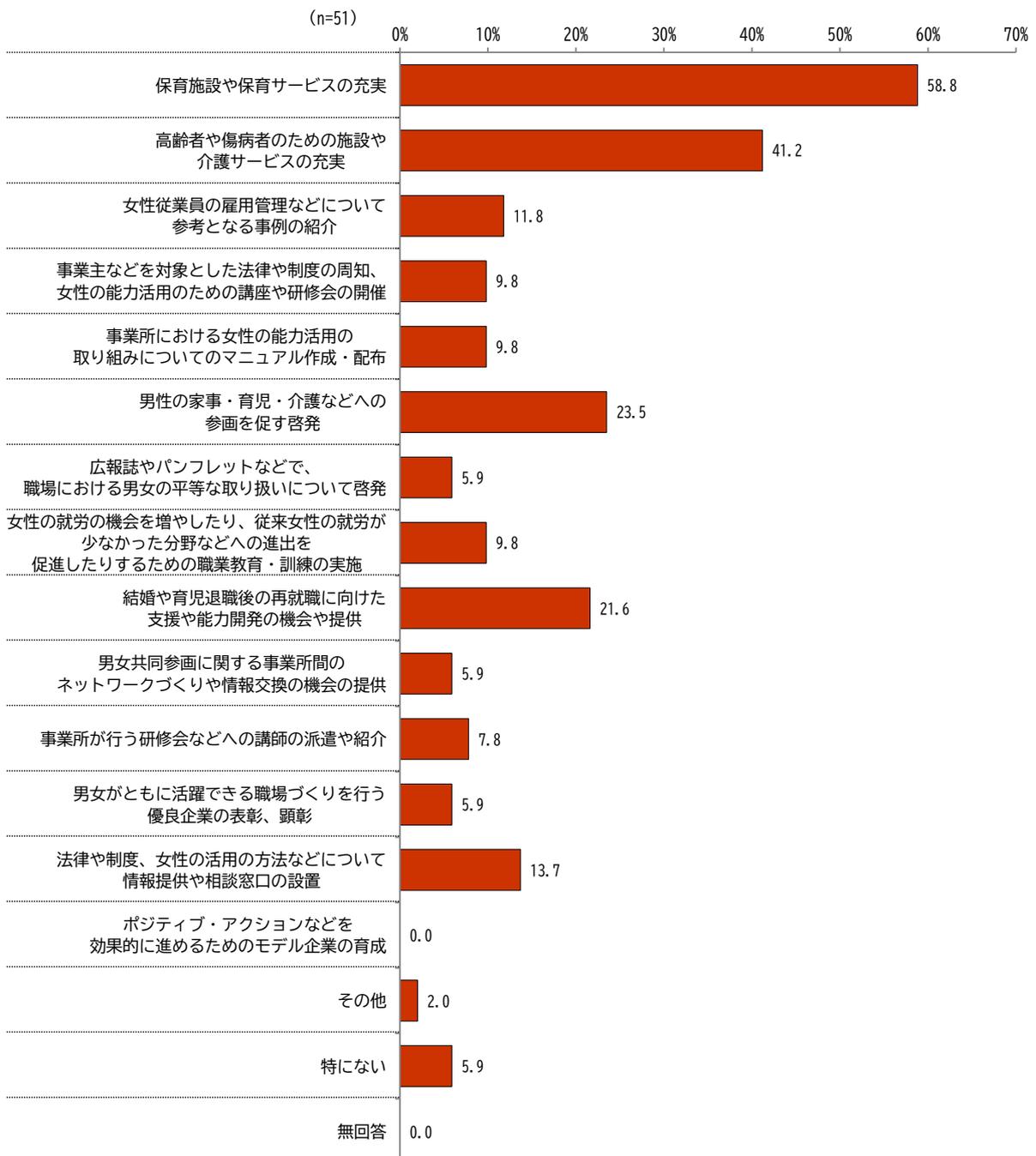


7. 男女共同参画全体について

問 19 貴事業所において男女共同参画を進めるにあたって、今後、蒲郡市はどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。【〇は3つまで】

- 男女共同参画を進めるために市で力を入れていくべきことについて、「保育施設や保育サービスの充実」が58.8%と最も多く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」が41.2%、「男性の家事・育児・介護などへの参画を促す啓発」が23.5%となっている。

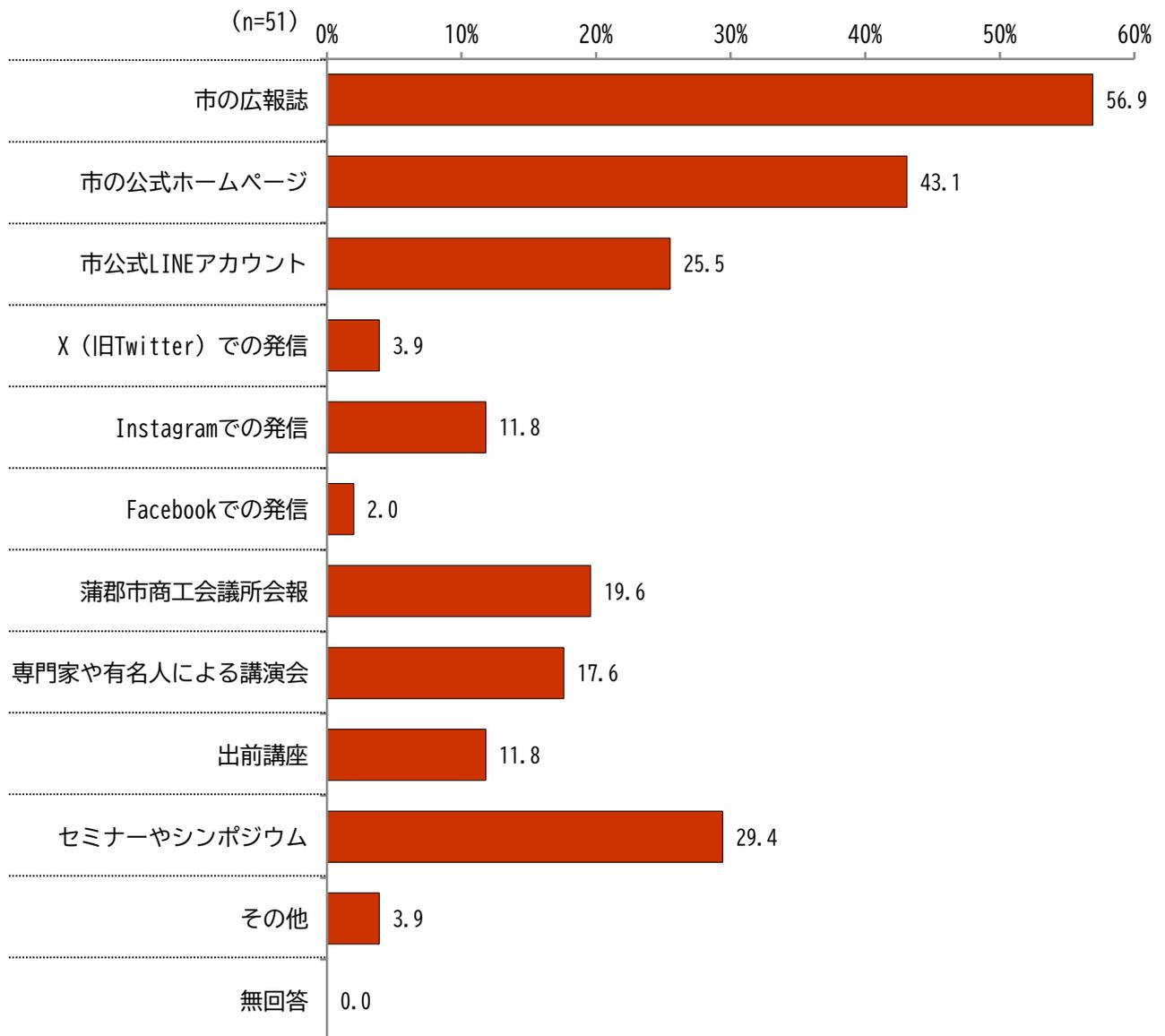
図表 130 男女共同参画を進めるために市で力を入れていけばよいと思うこと



問 20 事業所に対する男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。【〇はいくつでも】

➤ 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うものでは、「市の広報誌」が 56.9%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が 43.1%、「セミナーやシンポジウム」が 29.4%となっている。

図表 131 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うもの



V. 自由意見集

(市民調査) 問 41 男女共同参画に関することについて、ご意見・ご要望があればご記入ください。

男女共同参画に関する意見として、71 件の回答が得られた。

分類	件数
男女共同参画に対する考え	33 件
固定的役割分担意識について	2 件
家庭における男女共同参画について	2 件
地域活動における男女共同参画について	3 件
女性の活躍推進について	7 件
ワーク・ライフ・バランスについて	3 件
LGBTQ への理解促進について	2 件
行政への要望等	10 件
アンケートについて	6 件
その他	3 件
総意見数	71 件

【主な意見】

男女共同参画に対する考え

女性	60 歳代	少しずつ前に進んでいると思います。これからも多くの人に、自然に浸透する といいと思います。
女性	40 歳代	人それぞれ。自分の意見や考え方を相手に押し付けない事が大切だと思いま す。
女性	40 歳代	「男女共同参画」とうたっている時点で、セグリゲートしているのでは??呼 び方を変える所から始めた方が良くと思います。
女性	40 歳代	「その方がより豊かになる」というイメージが持てるようになるといいと思 います。伝えていく・変えていくのはむずかしいときもあると思いますが、頑張 って下さい。
女性	60 歳代	年を重ねて、男女は平等であるべきだし、平等だと強く思います。結婚した頃 の自分に“あなたの人生それで良いの?”と言いたい。男と女である前にすべ ての人は人間です。
女性	70 歳以上	「男女共同参画」という言葉でなく、もう少しやわらかい言葉だとなじみやす いと思いますが。高齢者は特に。
-	-	やりたい人がやればよい
女性	20 歳代	まず、政治家たちが、積極的に「男女共同参画」をやれば良いと思う。上が変 われば、自ずと下も変わるでしょう。
女性	30 歳代	物価の高騰、たくさん働いても引かれる税金、金銭的余裕などないに等しいの で、自分以外のことに対して強く当たってしまう人が多くなっていると思いま す。男女どころか人と人が繋がること（結婚や出産）ができなくなってしまう と思います。みんな自分のことで精一杯で思いやれないです。
女性	50 歳代	男女共同という事よりも、個人としての考え方、意見ではないかと思っています 。ただ「声の大きい方」が強い同調圧力な地域なので、なかなか大変なのが 現実です。
女性	30 歳代	男女平等と、ジェンダーと、生き方、働き方と。ごちゃまぜに考えるのはなぜ か。次元がちがう話同士だと思う。
女性	40 歳代	男女は常に平等であるべきです。能力は個人の力であって、性別によって分か れるものではありません。
女性	70 歳以上	いまの後期高齢者は男尊女卑の時代に育てられたため、それが身に付いてい て自分の子どもにもそのような育て方をしていたが、現在では世の中がずいぶん 変わり、男女間の格差がなくなってきたように思う。
男性	50 歳代	本人の意思

男性	30 歳代	実際は男だから女だからという理由ではなく今の自身の保身のために新たな人材や考えを受けつけない、重用しない現象が起きているだけでは？食事代は男性が出して当たり前と言う人が男女不平等を言っていたりするし、自分の都合の良ように男女不平等を利用しているだけでそんなもの存在しないのでは？
女性	40 歳代	基本的に性別ではなく、個人が主体的に動きたい人か受け身的な人か、という問題だと思うので（どんな事も）、やる気のある人がその熱意を持ち続けて活躍できる場、場面を提供できる環境を整えて頂くことが良いのかな（…抽象的すぎますよね。）
女性	50 歳代	個々の能力を発揮し、共に幸せになる為にどうする事が最善であるか考えられるようになれば自然と男女共同参画になるのではないかと思います。与える者は驕らず、与えられる者は求めず、共に感謝できる人になるようになれば良いですね。
女性	40 歳代	差別と区別をまちがえないようにしてほしい。平等が必ずしもうまくいくわけではないし、少数派のために多数派が合わせる事が良い行いになるわけではないと思う。理想と現実をきちんと見極めてほしい。
男性	40 歳代	本当の意味での男女平等はありえない。男性、女性の得意・不得意を補い合える社会を目指すべき。女性が社会的弱者であるという決めつけがそもそもの間違いであり、やりたければやればいい。男性も「女の仕事だ」とか言う奴は頭が悪い。互いに自立するべき。
男性	50 歳代	男女共同参画ははっきりいって不要です。こんな訳もわからない政策に 10.4 兆円/年間も血税を使う意味はあるのでしょうか？内容を確認するとほとんどが左翼活動家の資金源になっているのが現状です。こんなにお金があるなら、これを消費減税に使った方が購買力も国の収益も上がり国民にとってとても良いと思います。付帯効果で少子化にも多少かもしれませんが貢献できると思います。仮に男女共同参画を進めたいなら各団体の精査をしっかりと行い、無駄のない税金の使い方を検討することをオススメします。
男性	20 歳代	女性最賃にならないようにする。
女性	20 歳代	知らない間に考えが固まってしまい、男女平等にならないことがあると感じます。多様な考え方に触れ、常にアンテナを立てながら生活していけるような取り組みが必要だと思います。
男性	60 歳代	男女共同参画事業に予算をつぎ込みすぎでないか。
男性	50 歳代	学校や企業に対する啓発活動では効果を得られないと思うので、SNS や HP などを中心とした市民に直接発信していく活動に注力するべきだと思います。

男性	20 歳代	男女の身体的な差異が事実として存在する以上、理想通りの男女共同参画は無理だと思う。女性の社会進出を進めるだけでなく、男性の家庭進出も行う必要がある。そのために、女性が黒柱を担うこと、男性が家事育児の中心を担うことについて男女の意識改革が求められる。
女性	20 歳代	各人の価値観も様々だと思います。ただ、それを少しでもおかしいと感じたときに声をあげられる環境が整っていることが大切だと感じます。また、そうしてあがった声に対してどれだけ国や自治体、事業所が真摯に向き合ってくれるのか、安心して頼ってもいいのかと不安に感じてしまうこともあります。
女性	30 歳代	ただ単に法律やルールを変えるのではなく、男性側の意識改革が必要だと感じます。
女性	30 歳代	価値観などを決めつけず、認め合うことが大事だと思うけれど、なかなか簡単なことではないのかなと思います。
男性	70 歳以上	子どもの頃から教育しないとなかなか変わらないのではないかな。
男性	20 歳代	差別と区別の違いをはっきりさせ、そこを正しく理解できなければ、話をきいても意味がないと思う。
女性	70 歳以上	男女共同参画については、蒲郡市でも女性団体等によりフォーラム等開催した時代がありました。しかし中途半端な感じで今でも残念に思います。まだまだ封建的な考えを持った人が（中年層）多いように思います。
女性	60 歳代	根強い心の“男尊女卑”があるため、これからの子ども達への教育が必要だと思う。学校生活のあり方、勉強ではなく生活の上で平等をあたり前にし、体力面での差をきちんと自覚させ、支え合っていくべきだと思います。
女性	30 歳代	人口減の中、男女が高度経済成長期の固定観念にとらわれず、社会で、家庭で、地域で活躍することが求められると思います。ただし、無理をしない範囲で。肉体的な性別の違いや特性を無視してはならない。その上で互いに尊敬、尊重しあえると良いと思います。

固定的性別役割分担意識について

男性	60 歳代	昭和の頃の古い日本の方がよいと思う。女の人はやさしく家庭を守り、男は外で一生懸命に働く、昔の日本が好きだ。
男性	20 歳代	「男が獲物を獲りに行って、女は集落で子育てや採集をする」生活様式を 2000 万年以上続けて本能に刻まれたものを、数百年の文明の変化でその役割分担まで変えようとしても無理だと思っている。

家庭における男女共同参画について

女性	60 歳代	乳幼児（2歳くらいまで）はなるべく父母が面倒をみて育てられる環境を作った方が良いと思う。早くから預けて乳幼児に寂しい思いをさせたくない。仕事して収入を得ることよりも大切だと思う。父親や祖父母も協力し、子育てが楽しめる社会にしてほしい、子ども手当はとても助かっているし、ありがたい。
女性	40 歳代	男性の家事・子育て・介護等への参加がもっと進んでほしい。

地域活動における男女共同参画について

男性	60 歳代	町内の活動において、多くの実務が「女性部会」に割り当てられている気がします。
男性	40 歳代	例えば PTA 会長は男性にやってほしいと女性の意見があり、男女どちらでも対応できる環境の構築と意識改革が必要かもしれない。
女性	40 歳代	職場では男女平等文化が浸透しているが、地域のコミュニティは全く理解されていない。セクハラはあるし、女性は食事を作って振る舞うよう言われるため、地域の行事には参加したくありません。地域の理解が深まるよう働きかけをお願いします。

女性の活躍推進について

男性	70 歳以上	諸外国と比べて女性登用が少ないという数字に振り回されている気がする。与えられたものには責任が足りない。能力や責任感があればだれでも登用すればいい。頑張っている人を登用し、高賃金を与えればよい。男だ女だと言っている場合ではない。
男性	60 歳代	女性の積極的な社会活動を希望します。
女性	50 歳代	優れた力を持っている方なら、男女は関係ないと思います。逆に、共同参画だからといって、実力など伴わないのに女性だからと登用するのも、何か違うと思います。
男性	70 歳以上	男性、女性だけの問題ではないと思う。女性はもっと多く出てもらおう。
男性	60 歳代	全ては、その人（女性）の意志を認めて進める。周囲の人は、協力すること。他人の考え方を十分に聞くこと。（ディスカッションを十分に）
男性	30 歳代	会議や役員への女性の積極的な登用の流れが強くなり、女性や組織への負担が大きくなっていると思う。「男性が登用されるべきだ」等の偏った考え方があれば正すべきだが、基本的には個人の自由意志に基づいて進められるべきだと思う。

男性	50 歳代	女性が主導するべき。困っていない男性が多いチームでは、本当にやりたい事は出来ないと思う。女性の社会進出を考えるのであれば、自ら進んで参加してくれる女性を、多数登用するべきです。
----	-------	--

ワーク・ライフ・バランスについて

女性	70 歳以上	女性が活躍できるようにするため、保育園の延長保育、小学生の学童保育など、安心して女性が働けるよう、充実をお願いしたい。
女性	30 歳代	私は未就学年齢の子どもを預けて働きたいわけではない。働かないとお金がないから、子どもを預けて働くしかないだけ。子ども達を長時間預けられてしまう環境が、逆に子ども達のメンタルを削っています。女性が働くための保育環境を整えるのではなく、企業側の理解を促進させ、短時間労働でも手取り収入が増えるよう、未就学児を子育て中の女性に税金を還付するなどの特別措置がほしい。
女性	30 歳代	女性が妊娠、出産で仕事を辞めた場合、子育てをしながら仕事復帰できる場が本当に少ないと思います。保育園に預けられない場合の託児所等を増やし、子育てをしながら自宅でできる仕事を増やすべきであると考えます。

LGBTQ への理解促進について

男性	40 歳代	LGBTQ 法案によって、自称女性や自称男性がトイレ、更衣室、浴場などに入ったる事で、性被害が増えるのではと不安に感じます。安心して利用できるよう願います。
女性	60 歳代	急にあれこれやろうとするとギクシャクするので、ゆるやかに変化するべき。公衆トイレの女性側に自称「女性」という男性が入るなどもってのほかだ。

行政への要望等

女性	60 歳代	意見を取り上げてくれる座長などをもっと育ててほしい。
女性	-	男、女、人権どちらをとっても人生生きていく上で差別などの人間関係は大変だし、自分の気持ちの中で乗り越えなければいけない問題です。市役所等が手助けして頂けるなら市民は心強いと思います。

女性	20 歳代	私自身、将来について何度も考えました。転職も経験し、働き方も変えましたが正規だろうと非正規だろうと、結局会社の待遇や人間関係によると思います。今は、何かを得るには何かを捨てなければならないという考えに至りました。令和はもっと自由に生きていけると思っていました。日本人はルールに厳しいのか？法やルールはすぐには変わらない。会社も同じ。政治も会社も期待しなくなりました。上に立つ人間の意識が変わって、行動していかないと手遅れになります。幸運なことにアンケートが手元に届いたのでまずは蒲郡市に頑張ってください！勤め先の会社が蒲郡市でないのが残念です…。
女性	30 歳代	言葉選びに困ることが増えます。どんな声掛けが○で、×なのか、わかりやすい表などがあると助かります。わかれば広報に載せていただきたいです。
女性	30 歳代	男女だけでなく、子どもも含め考えてほしい。子どもの気持ちが抜けている。男女が平等になることで被害を受ける（マイナスになる）のが子どもになってはいけないので、その点を考えて蒲郡が突出して活動したら良い市に、子育てしやすい、子供に優しい市で有名になると思います。保育士をしているので、子どもを間近に見て、感じたことを含め書かせてもらいました。
女性	50 歳代	参考になるような話を聞いてみたいです。講演会があったら、ぜひ参加してみたいと思います。
男性	40 歳代	情報発信をどんどん進めて下さい。
男性	40 歳代	日本では、すでに女性も参画し活躍している。既得権益者を守るための偽善はやめていただきたい。日本の未来を思う行政職員さん達の奮闘を願います。
女性	30 歳代	6 月ごろ、約 10 年前の蒲郡市職員採用で女性受験者を減点していたのでは、という内容の記事を読んだ。実際に行われていたかどうかはともかくとして、公的な機関にこのような疑惑があるというのは、やはり不安になる。蒲郡市がそんなことをするはずがない、と思えるような施策を期待する。
男性	50 歳代	具体的に男女共同参画で何を取り決め実行されるのか。現状 職場、団体の男女比率や男に決定権がある場合の弊害など提示頂ければと思います。行政機関の重要ポストに多くの女性を登用して頂く事で今後の展開が見えて来るのではと思います。

アンケートについて

男性	60 歳代	このアンケートについて。世代的に行うと、もっと現実的な解答が得られるのでは。私の世代（60代）では答えるのがむずかしいものや、ぼやけた解答になってしまうものがかなりあった。
男性	60 歳代	普段あまり考えていない問題で、回答がむずかしい。
女性	40 歳代	こんなことに税金を使わないでもらいたい。

男性	20 歳代	男女共同参画を知らない私には回答できるアンケートではない。
男性	30 歳代	選ばれたから回答しましたが、はっきり言ってかなり時間取られるし意味あるのかなと思う。謝礼とかもraitたいレベルにきつい。子供がいる家庭にこんな物に答える時間がないことがわからないこと自体がそもそもわかってない。回答は真剣に答えました。
男性	40 歳代	アンケート内容が作った人の意思が強かったり、選択肢も手抜きを感じる部分があったり、作り手がこういう世界から抜け出せてないのでは？と思った。早くこういう運動が古臭いと思うくらいの世の中にならないかなと思いました。

その他

男性	70 歳以上	分かりやすくとても良く作成できています。ガンバって下さい。
女性	40 歳代	男女共同も大事ですが、福祉サービスの充実もしっかりしてほしいです。障がい者のいる家庭では、まず障がい者がメインになり、男女平等の土俵に立つこともままならないです。昔からのやり方を見直してくれる方を選べるともっというんな事が良くなると感じます。
女性	60 歳代	なぜ？夫、妻のことばかり…。弟のためにどれほど苦労したかあなたたちにわかりますか？（二人暮らしだった）今は一人暮らし。男女平等ではない！！色々相談したが、たらい回し。警察もたらい回し。

VI. 調查票

蒲郡市 男女共同参画に関する市民意識調査

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

男女共同参画は、性別や年齢にかかわらず、あらゆる人が個性を發揮し、「自分らしく」生きるためのもので、活気と個性に満ちた蒲郡市を築いていくためにとても大切な視点です。本調査は、市民の皆さまの現状や率直なご意見をお聞きし、「第4次蒲郡市男女共同参画プラン」の策定に活かすことを目的として実施するものです。

つきましては、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に1,500人を選ばせていただき、調査票を送らせていただきました。

この調査は、行政上の基礎資料として活用することを目的としており、他の目的に使用することは決してありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

令和6年10月
蒲郡市長 鈴木 寿明

回答にあたってのお願い

- 回答は無記名です。調査の結果は、統計的な集計・分析だけに用いられるので、お答えの内容が外部に漏れることは一切ございません。
- 調査票の宛名のご本人のお考えでお答えください。
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人と相談の上、代理の方がご記入ください。
- 回答にあたっては、自分の考えに最も近い番号に○をつけてお答えください。
設問によっては、該当する番号を枠内に記入する場合があります。
- 選択肢「その他」を選ばれた場合は（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

回答期限 令和6年11月15日（金）

〈回答方法① 郵送での回答の場合〉

- ・ 回答後の調査票を同封の返信用封筒に入れ、
回答期限までにポストに投函ください（切手は不要です）。

〈回答方法② WEBでの回答の場合〉

- ・ この調査はパソコンやスマートフォンでも回答することができます。
- ・ URLまたは二次元コードからWEBページにアクセスしてください。
- ・ 下記IDとパスワードを入力し、**回答期限までに**ご回答ください。

URL：<https://src.webcas.net/form/pub/src/23214a>

ID		パスワード	
----	--	-------	--



※IDとパスワードは、WEBページにログインするために必要なものであり、個人を特定するものではありません。

【お問い合わせ先】蒲郡市市民生活部協働まちづくり課
TEL:0533-66-1179

【調査委託先(返送先)】株式会社 サーベイリサーチセンター
名古屋市中村区名駅南1丁目12番9号

あなた自身に関することについて、お聞きします。

問1 性別 【○は1つ】	1. 男性 2. 女性 3. その他	{ どちらともいえない わからない 答えたくない 等 }
問2 年齢 ※10月1日現在 【○は1つ】	1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上	
問3 お住まいの 小学校区 【○は1つ】	1. 大塚小学校 2. 三谷東小学校 3. 三谷小学校 4. 蒲郡東部小学校 5. 竹島小学校 6. 蒲郡南部小学校 7. 蒲郡北部小学校 8. 蒲郡西部小学校 9. 中央小学校 10. 塩津小学校 11. 形原北小学校 12. 形原小学校 13. 西浦小学校 14. わからない(町名:)	
問4 婚姻状況 【○は1つ】	1. 既婚(事実婚含む) ●-----→	問4-1 共働きの有無【○は1つ】
	2. 離別・死別 3. 未婚	1. 共働きをしている 2. 共働きでない
問5 結婚の希望 (未婚の方のみ) 【○は1つ】	1. 結婚したい 2. 結婚するつもりはない 3. 今は考えていない	
問6 世帯構成 【○は1つ】	1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 4. 三世帯同居 5. その他()	
問7 子どもの有無 【○はいくつでも】	1. 小学校就学前の子どもがいる 2. 小学生の子どもがいる 3. 中学生～18歳未満の子どもがいる 4. 18歳以上の子どもがいる 5. 同居している子どもはいない	
問8 就労状況 【○は1つ】	1. 自営業 ^{※1} (農林漁業) 2. 自営業 ^{※1} (商工サービス業) 3. 自由業(医師・弁護士・会計士・作家・芸術家など) 4. 勤め人(正規雇用 ^{※2}) ※役員を含む 5. 勤め人(非正規雇用 ^{※3}) ※役員を含む 6. 専業主婦・主夫 7. 学生 8. 無職(失業中・求職中を含む)	
※1 自営業:家族従事者(自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に従事している人)を含む ※2 正規雇用:期間を定めない雇用者。いわゆる正社員 ※3 非正規雇用:正規雇用以外の有期雇用臨時社員。派遣社員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイトなど		

男女平等に関する意識について、お聞きします。

問9 次にあげる①から⑨までの言葉について、それぞれ該当する番号を選んでください。
【①～⑨のそれぞれについて○は1つ】

	内容を 知っている	内容は知らな かったが聞いたこ とはある	知らない
① 男女共同参画	1	2	3
② ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
③ アンコンシャス・バイアス	1	2	3
④ 選択的夫婦別氏(姓)制度	1	2	3
⑤ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
⑥ 性的マイノリティ (LGBTQ)	1	2	3
⑦ アウティング	1	2	3
⑧ アライ	1	2	3
⑨ SOGI	1	2	3

問10 次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて○は1つ】

	女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかとい えば女性 の方が優遇 されている	平等	どちらかとい えば男性 の方が優遇 されている	男性の方が 非常に優遇 されている
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5
④ 政治の場	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・ しきたりなど	1	2	3	4	5
⑦ 自治会やPTAなど の地域活動の場	1	2	3	4	5
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5

問 11 「夫は家計を支え（働いて収入を得る）、妻は家庭を支える（家事・子育て・介護等を行う）べきである」という考え方について、どう思いますか。【○は1つ】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |
| | 5. わからない |

問 11 で「1.」～「4.」に○をつけた人にお聞きします。

問 11-1 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきである」という考え方に賛成、または反対の理由は何ですか。【○はいくつでも】

問 11 で「1.」～「2.」に○をつけた人 賛成の理由【○はいくつでも】	問 11 で「3.」～「4.」に○をつけた人 反対の理由【○はいくつでも】
1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思う 2. 自分の両親も役割分担をしている（していた） 3. 夫が働いた方が、妻が働くより多くの収入を得られる 4. 妻が家庭を支えた方が、子どもの成長などにとってよい 5. 家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変 6. その他（ ）	1. 男女平等に反する 2. 自分の両親も働いている（働いていた） 3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られる 4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよい 5. 家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能である 6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではない 7. その他（ ）

問 12 あなたが子どもに望むことは何ですか。太枠の中から該当する番号を選び、上位3つまでをそれぞれお答えください。（子どもがいない場合も、子どもがいると想定してお答えください）

↓左から重視する順に3つ記入

女の子

--	--	--

↓左から重視する順に3つ記入

男の子

--	--	--

- | | | |
|---------------|------------------|----------------------|
| 1. 自立心をもつこと | 2. リーダーシップをもつこと | 3. 自分に自信をもつこと |
| 4. 勉強ができること | 5. 道徳性・規範意識をもつこと | 6. 協調性をもつこと |
| 7. 豊かな感性をもつこと | 8. 思いやり・優しさをもつこと | 9. 男の子らしく・女の子らしくあること |

問 13 次のそれぞれについて、どのように思いますか。【①～⑨それぞれについて1つに○】

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 家事・育児は女性がすべきだ	1	2	3	4
② 組織のリーダーは男性の方が向いている	1	2	3	4
③ 女性は感情的になりやすい	1	2	3	4
④ 男性は人前で泣くべきではない	1	2	3	4
⑤ 家を継ぐのは男性であるべきだ	1	2	3	4
⑥ 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	1	2	3	4
⑦ 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	1	2	3	4
⑧ 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	1	2	3	4
⑨ デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	1	2	3	4

家庭生活について、お聞きします。

問 14 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

問 14 あなたのご家庭では、次にあげることを主にどなたが行っていますか。

①～⑨のそれぞれについてお答えください。【①～⑨のそれぞれについて○は1つ】

	夫婦共同	主に妻	主に夫	夫・妻 以外の人	該当しない
① 食事の支度	1	2	3	4	5
② 食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5
③ 掃除	1	2	3	4	5
④ 洗濯	1	2	3	4	5
⑤ 日常の買い物（食品・日用品等）	1	2	3	4	5
⑥ 生活費を得る	1	2	3	4	5
⑦ 高額買い物（車・住居等）の決定	1	2	3	4	5
⑧ 子どもの世話・教育・しつけ	1	2	3	4	5
⑨ 病人の世話や介護	1	2	3	4	5

問 15 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

問 15 あなたが1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間はどのくらいですか。

①平日、②休日のそれぞれについてお答えください。【①②のそれぞれについて○は1つ】

	0分	1分～ 30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 3時間未満	3時間～ 5時間未満	5時間以上
① 平日	1	2	3	4	5	6
② 休日	1	2	3	4	5	6

あなたの仕事の状況や女性の活躍に関することについて、お聞きします。

問 16 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思
いますか。【○はいくつでも】

1. 必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業等で管理職になると広域異動が増えること
6. 家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと
7. 子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと
8. その他（)
9. 特にない

問 17、問 18 は現在働いている人にお聞きします。

問 17 仕事をするうえでの悩みは何ですか。【〇はいくつでも】

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 労働時間が長い | 2. 収入が少ない | 3. 休暇が取りにくい |
| 4. 昇進・昇格が期待できない | 5. 能力が正當に評価されない | 6. 責任ある仕事を任されない |
| 7. 教育訓練を受ける機会がない | 8. 職場の人間関係が難しい | 9. 家庭生活との両立が難しい |
| 10. 仕事にやりがいを感じない | 11. 自分の健康に自信がない | 12. その他 () |
| 13. 特にない | | |

問 18 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。

【〇はいくつでも】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. やりがいのある仕事ができる | 2. 賃金が上がる |
| 3. 能力が認められた結果である | 4. 家族から評価される |
| 5. 自分自身で決められる事柄が多くなる | 6. やるべき仕事が増える |
| 7. 責任が重くなる | 8. やっかみが出て足を引っ張られる |
| 9. 仕事と家庭の両立が困難になる | 10. その他 () |

自営業の人にお聞きします。

問 19 あなたの立場、雇用の状況はどのようになっていますか。

①～⑤のそれぞれについてお答えください【①～⑤のそれぞれについて〇は1つ】

	はい	いいえ
① 経営方針について意見が言える、決定権を持っている	1	2
② 事業や作業の中心的担い手である	1	2
③ 家族経営協定※ ¹ に基づいて仕事をしている	1	2
④ 仕事に定休日がある	1	2
⑤ 労働に対する報酬（給与等）を得ている	1	2

※1 家族経営協定：報酬や労働時間、休日等について、家族間のルールを文書化し、家族それぞれの署名捺印により締結されるもの。

仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について、お聞きします。

問 20 生活の中で、「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のうち、どれを優先しますか。【①②のそれぞれについて○は1つ】

① 希望の優先度【○は1つ】	② 現実の優先度【○は1つ】
1. 「仕事」を優先	1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先	2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先	3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない	8. わからない

問 21 女性・男性が仕事をもつことについて、どのように考えていますか。
【①②のそれぞれについて○は1つ】

① 女性が仕事をもつことについての考え【○は1つ】	② 男性が仕事をもつことについての考え【○は1つ】
1. 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい	1. 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい
2. 結婚するまでは仕事をもつ方がよい	2. 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
4. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	4. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
5. 女性は仕事をもたない方がよい	5. 男性は仕事をもたない方がよい
6. その他（ ）	6. その他（ ）

地域活動・防災対策等について、お聞きします。

問 25 あなたは、町内や地域の活動に参加していますか。【○は1つ】

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない |
|-----------|------------|

問 26 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについて、どう思いますか。【○は1つ】

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかといえば必要だと思う |
| 3. どちらかといえば必要ではないと思う | 4. 必要ではないと思う |

問 26 で「1. 必要だと思う」「2. どちらかといえば必要だと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-1 どのようにすれば女性が参画できると思いますか。【○はいくつでも】

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 役員の中に女性枠を設けるなど規程や規約を改正する |
| 2. 男女共同参画に関する研修や学習会を実施し、意識改革を行う |
| 3. 役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする |
| 4. 女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる |
| 5. 地域活動における男女共同参画の重要性を地域住民に浸透させる |
| 6. その他 () |

問 26 で「3. どちらかといえば必要ではないと思う」「4. 必要ではないと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-2 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

- | |
|----------------------------------|
| 1. 役員の中に女性を入れると、規律が乱れるから |
| 2. 女性は役員と家事や育児との両立が難しいから |
| 3. 女性は役員と仕事との両立が難しいから |
| 4. 地域活動の役員は、昔から男性が担うものだと決まっているから |
| 5. 意思決定をするのは男性の方が向いているから |
| 6. 女性は補助的な役割の方が向いているから |
| 7. 地域活動に男女共同参画の視点は関係がないから |
| 8. その他 () |

問 27 地域において、男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

1. 男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する
2. 市の防災会議、災害対策本部など、方針決定の場での女性の積極的な登用
3. 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
4. 避難所の運営など、防災の現場での女性の参画
5. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
6. その他 ()
7. 必要な取組は特にない

問 28 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

1. 避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること
2. 男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること
3. 生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること
4. 女性は炊き出し、男性は力仕事といった固定的な性別役割分担意識を解消すること
5. 女性及び男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口を設置すること
6. 性暴力等の被害を発生させないための取り組み及び被害者へのケア体制を充実させること
7. 避難所運営は緊急時なので、男女共同参画の視点での配慮は難しい
8. その他 ()
9. わからない

男女の人権について、お聞きします。

問 29 次のようなことが夫婦またはパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて○は1つ】

(①～⑧のそれぞれについて、○は1つずつ)	どんな場合でも 暴力にあたる	暴力の場合と そうでない場合 がある	暴力にあたると思わない
① ながる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう	1	2	3
② 大声でどなったり、刃物などを持ち出したりしておどす	1	2	3
③ 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
④ 携帯電話やメールをチェックしたり、外出や人付き合いを制限したりする	1	2	3
⑤ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない	1	2	3
⑥ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑦ 「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性（かいしょう）なし」「おまえはバカだ」などと相手をのりする	1	2	3
⑧ 給料を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的圧迫をする	1	2	3

問 29 で1つでも「2. 暴力の場合とそうでない場合がある」、「3. 暴力にあたると思わない」に○をつけた人にお聞きします。

問 29-1 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

- | |
|---|
| 1. 夫婦またはパートナーの間ではよくあることだと思う
2. 夫婦またはパートナーの間では許されると思う
3. 夫婦またはパートナーの喧嘩の範囲だと思う
4. 自分の考えをとおすために必要な場合があると思う
5. 相手の間違いを正すために必要な場合があると思う
6. 夫婦またはパートナーなら、相手の行動や交友関係を知るのは（知られるのは）当たり前だと思う
7. 一家の大黒柱のすることには従うべきだと思う
8. 愛情表現だと思う
9. 暴力を振るわれた側にも非があったと思う
10. その他（ ） |
|---|

問 30 あなたはこれまで配偶者またはパートナー、交際相手から問 29 のような行為を一度でも受
けたり、周りから見聞きしたりした経験はありますか。【○は1つ】

- 1. 自分が受けたことがある
- 2. 見聞きしたことがある
- 3. 自分が受けたことも見聞きしたこともない

問 30 で「1. 自分が受けたことがある」に○をつけた人にお聞きします。

問 30-1 そのとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。【○はいくつでも】

- 1. だれ（どこ）にも相談しなかった
- 2. 家族や親せきに相談した
- 3. 友人・知人に相談した
- 4. 学校に相談した
- 5. 県の相談窓口相談した（愛知県女性相談支援センター、愛知県男性DV被害者ホットライ
ン等）
- 6. 市役所に相談した
- 7. 警察に相談した
- 8. 法務局や法テラス、弁護士等に相談した
- 9. その他（)

問 30-1 で「1. だれ（どこ）にも相談しなかった」に○をつけた人にお聞きします。

問 30-2 だれ（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。【○はいくつでも】

- 1. だれ（どこ）に相談してよいのかわからなかった
- 2. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
- 3. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
- 4. 自分にも悪いところがあると思った
- 5. 相談してもむだだと思った
- 6. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力や仕返しを受けると思った
- 7. 世間体が悪いと思った
- 8. そのことについて思い出したくなかった
- 9. 相談するほどのことではないと思った
- 10. 他人を巻き込みたくなかった
- 11. 自分が受けている行為が暴力と認識していなかった
- 12. 別れるつもりがなかった
- 13. その他（)

問 31 あなたは、蒲郡市に次の相談窓口があることを知っていますか。

【①～⑥それぞれについて○は1つ】

	知っている	知らない
①DV 相談窓口	1	2
②よろず相談	1	2
③法律相談	1	2
④こども家庭センター（家庭児童相談室）	1	2
⑤福祉総合相談室	1	2
⑥外国人相談窓口	1	2

問 32 相談窓口を何から知りましたか。または、相談窓口を探すときに、何から情報を得ると思いますか。【○はいくつでも】

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 市の広報誌 | 2. 市の公式ホームページ |
| 3. 市公式 LINE アカウント | 4. X（旧 Twitter） |
| 5. Instagram | 6. Facebook |
| 7. 市のセミナー | 8. 市役所の窓口や電話 |
| 9. その他（ | ） |

問 33 貧困や DV、性暴力などに直面する女性への自立に向けて公的支援を強化していくため、令和 6 年 4 月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。このことについてあなたが特に蒲郡市で取り組む必要があると思うものを教えてください。

【○は3つまで】

- | |
|--|
| 1. 相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり |
| 2. SNS などによる気軽に相談できる仕組みづくり |
| 3. 専門的に支援できる女性相談員の配置 |
| 4. 弁護士や心理専門職等との連携の強化 |
| 5. 民間支援団体との連携による支援体制の強化 |
| 6. 相談を待つのではなく、訪問するなどして支援を届ける仕組みづくり（アウトリーチ） |
| 7. 一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり |
| 8. 支援等に関する市民理解の促進 |
| 9. 同じ困難を抱える人同士の居場所やつながりづくり |
| 10. その他（ |
| ） |

男女共同参画のまちづくりについて、お聞きします。

問 39 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、蒲郡市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

1. 審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する
2. 企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
3. 学校において男女平等教育を浸透させる
4. 子育て支援や介護サービスなどの充実を図る
5. 職場における男女平等について企業等に働きかける
6. 女性の能力開発や人材育成などの講座を充実させる
7. 男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる
8. 男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実させる
9. 広報誌やホームページなどで男女共同参画に関するPRを行う
10. 町内や地域の活動において様々な人が活躍できるようにする
11. 男女共同参画条例を制定する
12. 男女共同参画の活動拠点を充実させる
13. その他 ()
14. 特にない
15. わからない

問 40 男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。【〇はいくつでも】

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 市の広報誌 | 2. 市の公式ホームページ |
| 3. 市公式 LINE アカウント | 4. X (旧 Twitter) での発信 |
| 5. Instagram での発信 | 6. Facebook での発信 |
| 7. 専門家や有名人による講演会 | 8. 出前講座 |
| 9. セミナーやシンポジウム | 10. 小・中学校の教育 |
| 11. その他 () | |

問 41 男女共同参画に関することについて、ご意見・ご要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。11月15日(金)までにポストにご投函ください。

蒲郡市 男女共同参画に関する市内事業所実態調査

日頃は市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、ご記入をお願いいたします調査は、「第4次蒲郡市男女共同参画プラン」の策定において、市内事業所の男女共同参画に関する取り組み状況や課題などを把握し、プランに反映することを目的として実施するものです。

この調査は、行政上の基礎資料として活用することを目的としており、他の目的に使用することは決してありません。

大変お忙しい中、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年10月
蒲郡市長 鈴木 寿明

記入にあたってのお願い

- ご記入は経営者（代表者）または人事担当責任者でお願いします。
- 回答は無記名です。調査の結果は、統計的な集計・分析だけに用いられるので、お答えの内容が外部に漏れることは一切ございません。
- 回答は、蒲郡市内の事業所についての内容をご記入ください。（令和6年10月1日現在）
- 選択肢「その他」を選ばれた場合は（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

回答期限 令和6年11月15日（金）

〈回答方法① 郵送での回答の場合〉

- ・ 回答後の調査票を同封の返信用封筒に入れ、
回答期限までにポストに投函ください（切手は不要です）。

〈回答方法② WEBでの回答の場合〉

- ・ この調査はパソコンやスマートフォンでも回答することができます。
- ・ 以下のURL または二次元コードからWEBページにアクセスしてください。
- ・ 下記ID とパスワードを入力し、**回答期限までに**ご回答ください。

URL : <https://src.webcas.net/form/pub/src/23214b>

ID		パスワード	
----	--	-------	--



※ID とパスワードは、WEB ページにログインするために必要なものであり、事業所を特定するものではありません。

【お問い合わせ先】蒲郡市市民生活部協働まちづくり課
TEL:0533-66-1179

【調査委託先(返送先)】株式会社 サーベイリサーチセンター
名古屋市中村区名駅南1丁目12番9号

貴事業所についてお伺いします。

問1 貴事業所の業種についてお答えください。(○は主なもの1つ)

- | | | |
|------------------|----------------------|--------------|
| 1. 農林漁業 | 2. 建設業 | 3. 製造業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 5. 情報通信業 | 6. 運輸業 |
| 7. 卸売・小売業 | 8. 金融・保険業 | 9. 不動産業 |
| 10. 飲食店・宿泊業 | 11. 医療・福祉 | 12. 教育・学習支援業 |
| 13. サービス業 | 14. その他（具体的に： _____） | |

問2 貴事業所の従業員数についてお答えください。(数字を記入)

◆従業員数（令和6年10月1日現在）

正規雇用： 男性（ ）名女性（ ）名	非正規雇用： 男性（ ）名女性（ ）名
※正規雇用：期間を定めない雇用者。いわゆる正社員	※非正規雇用：アルバイト、パート・契約社員・派遣社員など

◆管理職数（令和6年10月1日現在）

係長相当職： 男性（ ）名女性（ ）名	課長相当職： 男性（ ）名女性（ ）名
部長相当職： 男性（ ）名女性（ ）名	役員相当職： 男性（ ）名女性（ ）名

ワーク・ライフ・バランスについてお伺いします。

問3 事業所でのワーク・ライフ・バランス施策について、該当するものをお選びください。
(①～⑬のそれぞれについて○は1つ)

	実施中	検討中	実施予定なし
① ノー残業デーの設定など時間外勤務削減のための取り組み	1	2	3
② 短時間勤務制度の導入	1	2	3
③ フレックスタイム勤務の導入	1	2	3
④ 在宅勤務制度（テレワーク）の導入	1	2	3
⑤ 有給休暇の半日単位での利用	1	2	3
⑥ 有給休暇の時間単位での利用	1	2	3
⑦ 自己啓発休暇、リフレッシュ休暇など多様な休暇制度の導入	1	2	3
⑧ 育児・介護休業等取得者の代替職員の雇用	1	2	3
⑨ 育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入	1	2	3
⑩ 企業独自の家族手当や児童手当の支給	1	2	3
⑪ 育児・介護休業から復職しやすい体制の整備	1	2	3
⑫ 再雇用制度の導入	1	2	3
⑬ その他（ _____ ）	1	2	3

問4 貴事業所で、「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上で、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 経営者や管理職の理解が不十分である
2. 同僚や同じ職場の人の理解が不十分である
3. 同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまう
4. 仕事の量が多く、労働時間が長い
5. 業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい
6. 子どもの病気などのときに対応が難しい
7. 法律や社内の制度が十分に知られていない
8. 企業の経済的負担が大きくなりそう
9. その他 ()
10. 特にない

育児・介護についてお伺いします。

問5 貴事業所における令和5年度の育児・介護休業取得状況をお教えてください。(数字を記入)

	育児休業		介護休業
	対象者数の合計	取得者数の合計	取得者数の合計
男性	人	人	人
女性	人	人	人

※育児休業の対象者は、本人、もしくは配偶者が出産した人

問6 令和4年4月から育児・介護休業法の改正に伴い、以下の対応が義務付けられました。貴事業所では次の取り組みを行っていますか。(①②それぞれについて〇は1つ)

取り組み内容	実施している	まだ実施していないが、今後予定している	まだ実施しなかった	特に実施していない・知らな
① 個別の制度周知・休業取得意向確認（本人または配偶者の妊娠・出産の申し出をした労働者に対して制度の周知と休業取得意向の確認）	1	2	3	
② 育児休業を取得しやすい雇用環境の整備の措置⇒次の4つのうち、いずれか（研修の実施/相談窓口の設置/自社内の取得事例の収集・提供/制度と育休取得促進に関する方針の周知）	1	2	3	

問7 育児・介護休業法の改正により、令和4年10月から「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」が創設されました。制度についての貴事業所の状況についてお答えください。(〇は1つ)

1. 制度を利用した（している）従業員がいる
2. 制度に対応しているが、利用した従業員はいない
3. 制度を知っているが、対応していない
4. 制度について知らなかった

問8 貴事業所で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。
(○はいくつでも)

1. 従業員への制度に関する情報提供
2. 管理職向けの研修の実施
3. 制度を利用しやすい雰囲気づくり（上司の理解や同僚の協力など）
4. 休業中の代替要員の確保
5. 休業中の賃金補償
6. 復職時の受け入れ体制への配慮
7. 相談窓口や相談担当者の設置
8. 制度利用によって、昇進・昇格に影響しない人事評価制度の整備
9. その他（)
10. 特に何も行っていない

問9 育児・介護休業制度の利用を進めていくうえで、貴事業所で課題となることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

1. 育児・介護休業期間中の代行要員の確保及び費用
2. 育児・介護休業を取得しにくい雰囲気があること
3. 仕事の多忙さや人手不足
4. 業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい
5. 休業者の昇給・昇格などのキャリア形成に悪影響があること
6. 休業者の周囲の従業員に対する業務負担の増大
7. 周囲に前例がないこと
8. 制度に対する周知が不足していること
9. その他（)
10. 特に問題はない

問10 貴事業所では、国や県が定めている次の認証制度等を取得していますか。(○は1つ)

	取得している	取得していないが、内容は知っている	知らない
① えるぼし認定	1	2	3
② くるみん認定	1	2	3
③ あいち女性輝きカンパニー	1	2	3
④ ファミリー・フレンドリー企業	1	2	3
⑤ 女性の活躍推進宣言	1	2	3

女性の活躍推進についてお伺いします。

問 11 女性の活躍推進への取り組み状況について、該当するものをお選びください。

(①～⑬のそれぞれについて○は1つ)

	実施中	検討中	実施予定なし
① 女性職員の採用拡大	1	2	3
② 女性職員に対する研修の充実	1	2	3
③ 女性管理職の積極的登用	1	2	3
④ 昇進・昇格基準の明確化	1	2	3
⑤ 出産・育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価	1	2	3
⑥ 昇進・昇格試験受験や資格取得の奨励	1	2	3
⑦ 女性活躍推進に対する従業員の理解促進に向けた啓発・研修	1	2	3
⑧ 女性活躍推進に対する管理職の理解促進に向けた啓発・研修	1	2	3
⑨ 男性の多い職種への配置転換	1	2	3
⑩ ロールモデルとなる女性職員の経験等の共有	1	2	3
⑪ 上司以外の経験ある先輩が後輩をサポートするメンター制度の導入	1	2	3
⑫ 相談窓口の整備	1	2	3
⑬ その他 ()	1	2	3

問 12 貴事業所の女性従業員はどのような働き方が多いですか。最も多いケースをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. 結婚を機に退職する | 2. 妊娠・出産を機に退職する |
| 3. 介護を機に退職する | 4. 育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける |
| 5. 女性従業員がいない | 6. その他 () |

問 13 女性従業員に対して、どのように働いてほしいと思いますか。(○は1つ)

1. 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を継続してほしい
2. 結婚するまで働いてほしい
3. 出産するまで働いてほしい
4. 育児や介護が一段落してから復職してほしい

問 14 貴事業所では女性従業員がどのように活躍していますか。(○は1つ)

1. 男女の区別なく幅広い分野で活躍している
2. 特定の職種や専門分野で活躍している
3. 補助的な業務で活躍している
4. その他 ()

問 15 女性従業員が活躍するメリットは何だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 人的資源の有効活用ができる
2. 労働力の確保ができる
3. 企業のイメージアップにつながる
4. 多様な視点を企業が持つことで多方面からのニーズに応えられる
5. 男性の意識が変わり、女性を対等な存在としてみるようになる
6. 職場風土の改善で組織が活性化される
7. 女性だからというわけではなく、男女が対等な職場である
8. その他 ()
9. 特にない

問 16 今後、管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。
(○は1つだけ)

1. 積極的に登用していきたい
2. 特に増やしていく考えはない

<問 16 で「1. 積極的に登用していきたい」と答えた方におたずねします。>

問 16-1 女性の管理職を増やすためにどのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 意識啓発のための女性従業員を対象とした研修の実施
2. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価
3. 女性従業員の人数を増やす
4. えるぼし・くるみん等の女性活躍推進認証制度の取得
5. 女性の管理職登用に消極的な風土の改善
6. 時短勤務やリモート勤務などの柔軟な働き方の整備
7. その他 ()

> <問 16 で「2. 特に増やしていく考えはない」と答えた方におたずねします。>

問 16-2 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 女性従業員が少数だから
2. 女性従業員は勤続年数が少ないから
3. 女性がつける管理職ポストがないから
4. 女性自身が管理職になることを希望しないから
5. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性管理職を希望しないから
6. その他 ()

多様性についてお伺いします。

問 17 性的マイノリティ(LGBTQ)の従業員への配慮について、貴事業所の取組状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 性的指向・性自認などに関するハラスメントについて社内規程などに記載している
2. ハラスメント相談窓口において SOGI ハラスメントの相談に対応している
3. 理解促進のための従業員向け研修を実施している
4. 採用時における配慮や公正な人事評価を行っている
5. 採用時の応募書類や社内書類における性別記載欄を廃止している
6. 性別にかかわらず誰もが利用できるトイレなどの環境を整えている
7. その他()
8. 特に何もしていない

ハラスメント対策についてお伺いします。

問 18 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント（職務上の地位を利用した、いじめや嫌がらせ）についてどのような取り組みを行っていますか（または実施予定ですか）。
①～⑦の取り組みについて、該当するものをそれぞれ1つずつ選んでください。

取り組み内容	セクシュアル・ハラスメント		パワー・ハラスメント	
	実施済または 実施予定	予定なし	実施済または 実施予定	予定なし
① 相談に対応するための担当を設ける	1	2	1	2
② 就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にする	1	2	1	2
③ 実態把握のための調査を実施する	1	2	1	2
④ ハラスメント防止のためのマニュアル等を作成する	1	2	1	2
⑤ 研修、講習等を実施する	1	2	1	2
⑥ 社内報、パンフレット等により啓発をする	1	2	1	2
⑦ その他()	1	2	1	2

男女共同参画全体についてお伺いします。

問 19 貴事業所において男女共同参画を進めるにあたって、今後、蒲郡市はどのようなことに力をいれていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

1. 保育施設や保育サービスの充実
2. 高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実
3. 女性従業員の雇用管理などについて参考となる事例の紹介
4. 事業主などを対象とした法律や制度の周知、女性の能力活用のための講座や研修会の開催
5. 事業所における女性の能力活用の取り組みについてのマニュアル作成・配布
6. 男性の家事・育児・介護などへの参画を促す啓発
7. 広報紙やパンフレットなどで、職場における男女の平等な取り扱いについて啓発
8. 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの進出を促進したりするための職業教育・訓練の実施
9. 結婚や育児退職後の再就職に向けた支援や能力開発の機会や提供
10. 男女共同参画に関する事業所間のネットワークづくりや情報交換の機会の提供
11. 事業所が行う研修会などへの講師の派遣や紹介
12. 男女がともに活躍できる職場づくりを行う優良企業の表彰、顕彰
13. 法律や制度、女性の活用の方法などについて情報提供や相談窓口の設置
14. ポジティブ・アクションなどを効果的に進めるためのモデル企業の育成
15. その他 ()
16. 特にない

問 20 事業所に対する男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 市の広報誌 | 2. 市の公式ホームページ |
| 3. 市公式LINEアカウント | 4. X (旧 Twitter) での発信 |
| 5. Instagram での発信 | 6. Facebook での発信 |
| 7. 蒲郡市商工会議所会報 | 8. 専門家や有名人による講演会 |
| 9. 出前講座 | 10. セミナーやシンポジウム |
| 11. その他 () | |

ご協力ありがとうございました。ご記入後は、11月15日(金)までにポストにご投函ください。